

**米子市文化財保存活用地域計画
(資料編)**

1 米子市文化財保存活用地域計画検討協議会

米子市文化財保存活用地域計画検討協議会委員名簿

	氏名	所属等	備考
座長	和田嘉宥	米子工業高等専門学校名誉教授	建築史
副座長	小原貴樹	米子市立福市考古資料館館長	文化財施設指定管理者
委員	奥田晃巳	淀江さんこ節保存会事務局長	文化財保存団体
〃	川越博行	米子観光まちづくり公社理事長	観光・まちづくり
〃	木下俊哉	NPO 法人夢蔵プロジェクト理事	建築士・まちづくり
〃	来海邦彦	貴布禰神社宮司	文化財所有者
〃	田中秀明	米子市文化財保護審議会	文化財全般
〃	長尾かおり	鳥取県立むきばんだ史跡公園	考古学・活用
〃	中森祥	鳥取県文化財局副局長兼とっとり弥生の王国推進課長	文化財行政（県大綱）
〃	長谷川晋也	よなごの宝88選実行委員会副代表、鳥取県文化財保護指導委員	地域史
〃	深田龍	米子市経済部文化観光局長	文化・観光行政
〃	山本恭子	米子市立山陰歴史館副館長	学芸員（民俗学）

任期 令和3年7月1日～令和5年3月31日（約2年間）

※長谷川委員は前任者残任期 令和3年10月1日～令和5年3月31日

※深田委員は前任者残任期 令和4年5月1日～令和5年3月31日

※奥田委員の任期 令和4年5月1日～令和5年3月31日

期日	項目	内容
2021年8月25日	第1回地域計画検討協議会	座長・副座長選出、文化財保存活用地域計画の概要、構成案と素案見本等、今後のスケジュール
2021年11月11日	第2回地域計画検討協議会	鳥取県文化財保存活用大綱概要、地域計画素案検討
2022年3月3日	第3回地域計画検討協議会	関連文化財群の検討、文化財リストの検討
2022年3月30日	第4回地域計画検討協議会	地域計画構成案の変更、地域計画素案の検討
2022年5月31日	第5回地域計画検討協議会	地域計画素案（措置）の検討
2023年3月30日	第6回地域計画検討協議会	地域計画原案（全体）の検討、計画認定スケジュールの変更、地域計画協議会の概要

2. 米子市歴史文化遺産リスト (地区別)

啓成地区

No.	名称	指定等	区分			年代	所在地	所有者	概要
			分類1	分類2	分類3				
指定等文化財									
1	米子盆踊り	県	民俗文化財	無形民俗文化財	民俗芸能	江戸時代～現代	富士見町二丁目	米子盆踊保存会	「富士見盆踊り」と呼ばれ、江戸時代から信仰につながる念仏踊りが盆を迎えるたびに、先祖の供養として夜更けまで踊りあかされていた。昭和42年に「米子盆踊り」と名称変更し、米子市公会堂前を会場とした。振りの異なる「たいしょう踊り」、「こだいじ踊り」、「さいご踊り」の三つの踊りがあり、これに素朴な唄とハヤシと太鼓で構成される。庶民的で素朴な踊だが、古い形と格調の高い盆踊り。
2	荒尾家墓所 附荒尾家位牌	市	記念物	史跡	墳墓	江戸時代	博労町二丁目	個人、了春寺	了春寺は黄檗宗で、鳥取藩主家老であった米子荒尾氏の菩提寺。寺の裏側に、荒尾家歴代の墓と家臣の献灯がある。2代～9代、11代～13代の墓碑が建ち並ぶ。
3	水管橋(糺町橋)	市	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	大正15年	糺町二丁目と糺町一丁目との町境	米子市水道局	米子町は市制施行を目指して、大正15年3月に上水道施設完成。創設時の水管橋(地上に設置された水道管の橋)14箇所の内、2箇所が残る。糺町橋水管橋は長さ8・3m。現在給水していないが、市の水道の歴史において貴重。
未指定文化財									
1	光西寺本堂・山門	未指定	有形文化財	建造物	建造物	未調査	博労町一丁目	光西寺	浄土宗、心光寺末。江戸時代初期、黒坂城下に創建し、城主改易(元和3年)後、米子(灘町)に移され、その後法勝寺町に移された。元禄3年の火事により翌年現在地に移されたといわれる。木造本堂未調査。木造四脚門未調査。
2	勝田神社本殿	未指定	有形文化財	建造物	建造物	大正3年	博労町二丁目	勝田神社	流造 9尺1寸x7尺6寸、大正3年建立。創立年代不詳。米子城主2代加藤貞泰は、米子城の鬼門守護の神社として現在地に社殿を造営。木造社殿未調査
3	蟬丸神社社殿	未指定	有形文化財	建造物	建造物	未調査	博労町三丁目	蟬丸神社	歌舞音曲の神を勧請した神社。文化14年の手水鉢あり。木造社殿未調査。
4	稻荷神社社殿(法城寺)	未指定	有形文化財	建造物	建造物	大正年代(移築)	博労町二丁目	法城寺	東福原の前地地区にあった福原神社(前地の荒神)の社殿だった。大正5年に、福原神社が勝田神社に合祀されたために移設された。木造社殿未調査
5	米子市公会堂	未指定	有形文化財	建造物	建造物	昭和33年	角盤町二丁目	米子市	大ホールは鉄骨併用鉄筋コンクリート建て地上4階、地下1階。オーケストラボックスを備える。外観はグランドピアノを模し、村野藤吾の設計。昭和33年、財政難の中、市民の1世帯1日1円を目標とする募金運動の協力を得て誕生した。
6	JR西日本後藤総合車両所(事務所1・2号、職場2・9・12・19号)	未指定	有形文化財	建造物	建造物	昭和10年代	日ノ出町二丁目	西日本旅客鉄道株式会社	①事務所1号・2号(木造平屋建・切妻造・瓦葺鉄板葺)～昭和13年建築、当時の様子をよくとどめている。②職場2号・9号・12号・19号(鉄骨造平屋建・切妻造・鉄板葺)～昭和10年代の鉄骨トラスの形態を知る格好の材料
7	天理教米府分教会	未指定	有形文化財	建造物	建造物	昭和24年	富士見町	天理教米府分教会	木造平屋建、入母屋造、棧瓦葺(黒) 神殿内部に四十畳半の大広間をもつ。内陣は格天井。広間、内陣脇、内々陣と段階的に床高が上がる。正面中央に玄関が張り出す。
8	真言宗醍醐派米子教会	未指定	有形文化財	建造物	建造物	未調査	角盤町一丁目	真言宗醍醐派米子教会	木造平屋建物未調査。
9	松浦家住宅	未指定	有形文化財	建造物	建造物	大正4年(棟札)、同10年増築	博労町一丁目	個人	町家(二階建て)二戸一戸。主屋(間口4間×奥行6間半)と間口2間の建物が合わさっている。一階に吹抜けがない総二階で、神棚は二階にあるのが特徴。もと醸造業を営んだ商家。
10	旧銭屋旅館(旧坂本家住宅)	未指定	有形文化財	建造物	建造物	明治20年(台帳)	朝日町	個人	町家(二階建て)。中庭を口の字型で囲うように主屋と別棟(いずれも2階建て)を廊下が結び、11の客室があった。大正15年増築。もと料亭の「琴風亭」で、昭和6年～56年に旅館業を営む。
11	旧田村写真館	未指定	有形文化財	建造物	建造物	不詳	朝日町	個人	内部は木造町家の、洋館風看板建築。アーチ型の窓、歯状の軒裏飾りがされている。朝日町の繁華街に位置し、写真館を営み、2階を写真スタジオに利用していた。建造物未調査。
12	名島家住宅	未指定	有形文化財	建造物	建造物	明治元年(台帳)	博労町一丁目	個人	木造平屋建、切妻造、瓦葺 酒蔵あり
13	後藤総合車両所内鑄鉄柱	未指定	有形文化財	建造物	構造物	大正7年以前	日ノ出町二丁目	西日本旅客鉄道株式会社	大正7年に工場が米子駅構内から西部鉄道局後藤工場として、現地に移転。その際、工場建築資材に日本鉄道創設期の英国製の鑄鉄柱が使用され、現在も20本が工場のメインストリートを中心に蒸気パイプの支柱として使われている。
14	公会堂前庭のブロンズ像「無題」(辻晋堂作)	未指定	有形文化財	美術工芸品	彫刻	昭和37年	角盤町二丁目	米子市	当地方出身の著名な彫刻家辻晋堂の作品。高さ1.63m、幅77cm。昭和37年に公会堂を建設した際、前庭に噴水「平和の泉」が寄贈されてその中央に建っていた。その後、公会堂改修で、「平和の泉」はなくなった。
15	米子組土野村道休より野村甚助への伝書	未指定	有形文化財	美術工芸品	古文書	享保17年	博労町二丁目	個人	享保17年奥書あり。
16	澤家文書(澤九之平関係)	未指定	有形文化財	美術工芸品	古文書	文政年間ほか	角盤町二丁目	個人	米子組土沢家5代九之平の記録。「江戸詰中心覚」(文政3年)、「御城番覚書」(文政13年)、「勤中御天守御用日記抄」(慶応元年、同2年)
17	勝田神社所蔵文書	未指定	有形文化財	美術工芸品	古文書	天保年間ほか	博労町二丁目	勝田神社	「米子神社御改帳」(勝田神社宮司佐々木出羽守執筆、弘化・嘉永期の作成と推定)。「勝田神社造営遷宮諸事覚」(天保6年火災焼失後の再建の記録)。「勝田神社神主天保八年凶歳日記」
18	佐々木一雄氏所蔵文書	未指定	有形文化財	美術工芸品	古文書	弘化2年	博労町	個人	「会見郡浜ノ目酒屋酒交易の儀につき願書」。弘化2年、深田喜左衛門宛。
19	禅源寺の寺号額	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	江戸期	博労町二丁目	了春寺	本堂に掲げる「萬徳尊」の扁額裏に「禅源寺」と彫る。禅源寺は了春寺の旧寺号で、揮毫は中国から隠元禪師とともに日本に渡来して黄檗宗を広めた木庵禪師。亀島に寺のあった際の寺号額を再利用したもの。
20	生田春月「詩墓碑」	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	昭和5年	博労町二丁目	法城寺	「生田春月之墓」として、小説「相寄る魂」で有名な米子出身の詩人・文学者の春月の詩が刻まれる。
21	除雪車(キ100型182号)	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	昭和14年	日ノ出町二丁目	西日本旅客鉄道株式会社	鉄道省の工場で製造された単線用ラッセル式除雪車で、機関車推進式雪かき車の最終形。その前頭形状や除雪機構はディーゼル式機関車に引き継がれている。屋外展示。

2. 米子市歴史文化遺産リスト（地区別）

22	榎地蔵(榎檀の木地蔵)	未指定	民俗文化財	有形民俗 文化財	信仰	不詳	糺町二丁目		加茂川沿いで一番上流にある地蔵2体。堂に安置。加茂川の川船の終着の荷揚場(「いとば」)だった。地蔵堂の裏通りに小路沿いに、榎(あるいはセンダン)の木があったという。光明祈願。
23	子安地蔵(糺町西地蔵)	未指定	民俗文化財	有形民俗 文化財	信仰	昭和31年	糺町二丁目		糺町橋たもとの荷揚場の石段を上った道路脇に地蔵堂が建つ。一石二体の地蔵尊。事故により亡くなった二人の幼児の供養として建立。仲良し祈願など。
24	了春寺地蔵	未指定	民俗文化財	有形民俗 文化財	信仰	不詳	博労町二丁目	了春寺	もとの寺から移築した水難者供養の了春寺地蔵。高さ2.26mで来待石製の地蔵菩薩。亀趺(亀の形をした台座)の上に立ち、米子城を預る荒尾家の菩提寺としての存在感を示す。首のない五百羅漢(総数335体)が、その周りにある。
25	勝田の供養塔(勝田浜五輪塔とは別)	未指定	民俗文化財	有形民俗 文化財	信仰	不詳	勝田町		「南無法蓮華經」と彫られた、供養塔の石塔2基。1基は、高さ2mあまりの前面全面に彫る。1基は、下部に2人の戒名と享保8年、元禄3年を彫る。勝田土手の延長の丘の上にあったが、土手が崩され勝田遊園地の下階に安置。
26	勝田浜の五輪塔(勝田観音堂)	未指定	民俗文化財	有形民俗 文化財	信仰	不詳	勝田町		観音堂の片隅に、五輪塔の残欠である水輪・火輪などの散片が集積していたが、平成7年に勝田共同墓地総代により一部復元された。同一形式の墓標は、伯耆で多くみられ、いずれも厄子・毛利の合戦に関連した地であり、この地「勝田浜」での合戦に関わる者の供養のためと思われる。
27	富士見町の衣那荒神	未指定	民俗文化財	有形民俗 文化財	信仰	不詳	富士見町二丁目		地縁神に属する。安産と子供の成長を祈願したもの。
28	荒尾家重臣の墓(了春寺)	未指定	記念物	史跡	墳墓	江戸期	博労町二丁目	了春寺	荒尾氏歴代墓所の墓のほか、墓域に重臣日置氏・村河氏らの墓がある。重臣で藩経営に手腕を発揮し、藩の尊王派の中心人物でもあった「村河直方」の墓や清洞寺を江尾(江府町)から移した「村河直好」の五輪塔がある。
29	勝田土手跡	未指定	記念物	史跡	治水	享保の頃	勝田町・車尾一丁目		江戸時代、日野川が氾濫した際に洪水が米子の町へ入るのを防ぐために築かれた堤防(長さ約160m、高さ約3m)の一部が残る。米子城下町の防災施設として貴重な遺構である。別名「新土手」。
30	本源寺跡	未指定	記念物	史跡	寺社跡	宝永7年	博労町三丁目		本源寺は荒尾成倫(荒尾氏4代)の菩提寺であり、宝永7年に開創したが、廃寺となった。祠堂内に、「南無阿弥陀仏」と彫られた石塔(元禄12年3月銘)がある。石塔はその寺跡をしのぼせる。地元では、本源寺跡を「じぞさん」と呼び、地蔵盆にお供えをする。
31	防空壕跡(勝田山裏山)	未指定	記念物	史跡	戦跡	昭和前期	博労町二丁目		太平洋戦争の記憶を伝える横穴式防空壕で、かすかに残る。平成8年に東側出入口は削り取られた。小高い丘陵地を利用して、博労町から勝田山周辺に作られた防空壕の一部。
32	榎檀の木小路	未指定	記念物	史跡	交通	江戸期以降	糺町二丁目		延命院通りから加茂川沿いの東側に架かる小さい橋を渡ると右側に榎地蔵がある。橋のたもとから北へ向かう20mほどの小路。小路沿いにセンダンの木があり、地蔵を「せんだんの木地蔵」とも呼んだことに因む。
33	糺町境東小路	未指定	記念物	史跡	交通	江戸期以降	糺町二丁目・博労町一丁目		糺町と博労町との境にある小路。長さ27間。出雲街道の東側にあつたが、拡張されて国道181号の一部になっている。この小路に沿って、安政2年創業の醸造場があつたが、移転した。
34	博労町境小路	未指定	記念物	史跡	交通	江戸期以降	博労町一丁目・糺町二丁目		博労町と糺町との境にある小路。長さ45間。出雲街道の西側にあつたが、拡張されて国道181号の一部になっている。昭和30年代から国道の180号(当時)と9号をつなぐ道路計画が進められた。
35	名島(なじま)小路	未指定	記念物	史跡	交通	江戸期以降	博労町一丁目		名島家の屋敷に沿って東に向かう小路。小路の南側に名島家がある。名島家は、居宅と5棟の蔵と黒塀の重厚な景観が老舗を偲ばせる。
36	虎屋小路	未指定	記念物	史跡	交通	江戸期以降	博労町一丁目		因幡往来から小路に入る角に、「虎屋」があつたことに因む。虎屋は、大正時代に糺町から移ってきた。長い尻尾のトラの看板を掲げ、素朴な饅頭が米子界隈で評判だった。
37	光西寺前通り	未指定	記念物	史跡	交通	江戸期以降	博労町一丁目		光西寺の前を通る小道で、称名寺縄手道につながる。
38	新借家小路	未指定	記念物	史跡	交通	江戸期以降	博労町一丁目・富士見町一丁目		かつて、糺町2丁目辺りから博労町1丁目に通じる長い小路があり、その一部。「四十曲り」と呼ばれるほど曲がっていたという。後藤家の借家に対して、新しく作られた船越家(大寺屋)の借家を「新借家」と呼んだと思われる。
39	法城寺小路	未指定	記念物	史跡	交通	江戸期以降	博労町二丁目		因幡往来から、法城寺に通じる小路。
40	朝日座前通り	未指定	記念物	史跡	交通	江戸期以降	朝日町・尾高町・角盤町二丁目		繁華街の北部を東西に通る道で、朝日町表通りと直交する。称名寺縄手の一部。中ほど北側に、明治、大正、昭和の80年に渡って親しまれた劇場「朝日座」(当初芝居小屋、後に映画館)の名に因む。
41	朝日町表通り	未指定	記念物	史跡	交通	明治45年以降	西倉吉町・朝日町・角盤町二丁目		明治45年に開かれた全国特産博覧会会場までの通り道として、加茂川の覚証院橋から主会場の県立米子高等女学校までできた。大正6年に、角盤町通まで幅4.5mに整備された。その後、大正初期から昭和初期にかけて娯楽場、小売店、飲食店が建ち並び、昭和30～40年代には、山陰屈指の娯楽街となった。
42	森山小路	未指定	記念物	史跡	交通	江戸期以降	朝日町		西倉吉町から、もとあつた朝日座方面に向かう小路。朝日座を運営していた森山興行の森山清太郎の屋敷があつたことに因む。安来節の初代渡部お糸を見出して座を組織し、日本中に広めた。
43	朝日町西裏通り	未指定	記念物	史跡	交通	江戸期以降	朝日町		朝日町表通りと森山小路や尾高町をつなぐバイパス。
44	朝日町横丁通り	未指定	記念物	史跡	交通	江戸期以降	朝日町		朝日町表通りと森山小路をつなぐバイパス。
45	連理の井戸(高砂連理水)	未指定	記念物	名勝	井泉	江戸期以降	博労町二丁目		水道が普及するまで木製のタンクで水売りをしていた井戸。屋根付き鉄骨柱にコンクリートで2方向を囲う。今でも、水が湧く。法城寺の敷地内とは、道を挟む。

明道地区

No.	名称	指定等	区分			年代	所在地	所有者	概要
			分類1	分類2	分類3				
指定等文化財									

2. 米子市歴史文化遺産リスト（地区別）

1	旧日ノ丸自動車法勝寺電車車両 附関連資料一括	県	有形文化財	美術工芸 品	歴史資料	大正11年	道笑町一丁 目	米子市	フ50形フ50号付随客車は、明治20年のイギリス・パーミン ガム工場製の日本国内に現存する最古の四輪木製三等 客車。座席の車体改造がされているが、当初の外観をよく 留め、室内には屋根のアーチ桁行がそのままの状態で 残り、車体構造面からみても貴重。
2	水管橋(靴町)	市	有形文化財	美術工芸 品	歴史資料	大正15年	靴町一丁目と 靴町二丁目と の町境	米子市水道局	米子町は市制施行を目指して、大正15年3月に上水道施 設完成。創設時の水管橋(地上に設置された水道管の 橋)14箇所の内、2箇所が残る。靴町橋水管橋は長さ8・ 3m。現在給水していないが、市の水道の歴史において貴 重。
3	石賀本店土蔵	国登録	有形文化財	建造物	建造物	明治24年	法勝寺町	個人	土蔵造り2階建、桁行20m、梁間6m。正面北側に庇が付き、 赤瓦を葺く。西から塗物蔵、米蔵、陶器蔵と連なり、東 側は荷揚げ場と倉庫になっていた。米子城の外堀に面して いたため、往時の外堀沿いの風情をよく伝える。通称 「善五郎蔵」。
4	米子専門大店	国登録	有形文化財	建造物	建造物	大正13年ごろ	道笑町二丁 目	個人	本館(鉄筋コンクリート造3階建・陸屋根)設計:原八十 吉、大正13年ごろに建てた米子初の貸しビル。上部に菱 形の浮き彫りをつけたつけ柱を持つ石造風の外壁。1階 の角地に楕円形アーチの玄関を設け、山形の手すり壁、 のこぎり型の歯飾り、幾何学的渦巻模様などの装飾的な 特徴がある。通称「米子大店ビル」。
未指定文化財									
1	西念寺本堂	未指定	有形文化財	建造物	建造物	明治17年(再 建)	法勝寺町	西念寺	真宗大谷派の寺。文禄2年に尾高に建立後、米子城主中 村一忠の帰依を受け、米子の城下町造成に際し、慶長年 間に現在地に移転。木造本堂未調査
2	坂本神社本殿	未指定	有形文化財	建造物	建造物	明治期	長砂町	坂本神社	大社造変形。創立年代不詳。長砂郷7ヶ村(長砂、観音 寺、兼久、車尾、中島、海池、上福原)の氏神として、妙 剣大明神と称した。明治初年坂本神社と改称。現在地に 移転。木造社殿未調査
3	石賀家住宅(石賀本店店舗)	未指定	有形文化財	建造物	建造物	明治12年(棟 札)	法勝寺町	個人	木造二階建、切妻造、棧瓦葺(黒)。隣接した2軒を後に 1軒とする。店舗部分小屋組。蔵が残る。座敷は近年の 改変。正面は改造大。主屋は町家を看板建築とし、正面 看板の内側に下見板や格子窓が残る。
4	旧山陰電気米子変電所	未指定	有形文化財	建造物	建造物	大正7年	道笑町三丁 目	個人	本館(レンガ造2階建・洋小屋・半切妻造・棧瓦葺)、規模 ～桁行15.5m×梁間9.5m。レンガ積みは、長手と小口を 相互に積み重ねるイギリス式。山陰電気株の創業当初 の変電所。変電所は移転し、昭和18年住宅に改造される が、躯体・外観は変電所当時の姿をよくとどめている。県 民の建物100選の一つ。
5	平野家住宅(平野屋呉服店)	未指定	有形文化財	建造物	建造物	文政5年	法勝寺町	個人	主屋(木造二階建・切妻造・銅板葺)、通り土間を持つ町 家の平面を継承する。凝った意匠と造作、華やかで上質 な座敷構えを持つ。江戸後期の町家を明治に大改造して おり、町家の近代的展開を知ることができる。
6	平野屋玉樹庵	未指定	有形文化財	建造物	建造物	江戸期	法勝寺町	個人	江戸時代中期に建てられた町家の2階の奥を改造した、 10畳の客座敷と6畳の茶室。呉服の商い上、店から2階 の茶室に客を招き入れることを考えて新たに設けられた 近代的な茶室。1階の奥座敷の上にあたるため、茶室は 客座敷より床が高く、天井はつし2階風に低く趣がある。
7	大寺屋船越家住宅	未指定	有形文化財	建造物	建造物	江戸末期～ 明治初期	紺屋町	個人	近代和風建築の豪華な町家。表通りに、西棟、東棟の二 つの主屋を並べ、その東側に腰高まで海鼠壁とした切妻 造の土蔵が接していて、見事な表構え。東棟は江戸後期 の建築と伝えられる。外に面した窓には格子があり、玄 関、中の間、庭、裏口と土間でつながっている。中央の吹 抜けが見事。
8	野波家住宅	未指定	有形文化財	建造物	建造物	主屋:明治18 年(棟札)	法勝寺町	個人	間口6間×奥行7間半、間口が2間の建物が3軒合わさ る。左側座敷は明治中期に増設。中央の2階はつし2階、 左側2階は床の間のある座敷で、建築年代の違いが表れ る。古くは紺屋、その後醤油醸造業を営んだ商家。
9	旧田中屋正札店	未指定	有形文化財	建造物	建造物	明治40年(台 帳)	法勝寺町	個人	間口4間半×奥行7間。ミセは広い土間に改造されてい るが、ミセ空間が主屋1階の3分の2を占める。表側の2階は 片折れ天井の2階座敷で、少し新しい時期の町家の特 徴。看板建築の内側に、下見張りに出格子窓がつく町家 の外壁が残る。
10	川口商店	未指定	有形文化財	建造物	建造物	天保5年(棟 札)	四日市町	個人	もとは間口2間と3間の建物が合わさった2軒家。2階は旧 状をよく留めていて、床の間と天井を持つ座敷がある。2 階に座敷がある早い事例。米子の古い町家の一つで、棟 札に「町御会所」とあり、町政を司る重要な建物であ った。
11	藤谷家住宅	未指定	有形文化財	建造物	建造物	明治9年(台 帳)	日野町	個人	間口2間半×奥行17間ほどある典型的な細長い町家。2 階の吹抜けが狭く、2階に床や天井を持つ座敷が2室ある のが特徴。2階の吹抜けがなくなり総二階になる直前の 過渡期の町家。
12	旧大塚乾物店(大塚家)	未指定	有形文化財	建造物	建造物	不詳	日野町	個人	町家(厨子二階建て)看板建築。正面看板の内側に下見 板や格子窓が残っている。
13	益尾地所	未指定	有形文化財	建造物	建造物	江戸後期(推 定)	道笑町一丁 目	個人	古いつし二階の町家(大型建物)。数少ない江戸後期の 町家。
14	旧矢野乾物店	未指定	有形文化財	建造物	建造物	明治前期(推 定)	道笑町一丁 目	個人	町家(二階建て)看板建築。中の間吹抜け。大梁が米子 城の廃材の可能性がある。
15	高橋茶舗	未指定	有形文化財	建造物	建造物	不詳	道笑町一丁 目	個人	町家(二階建て)。看板建築。
16	わだや小路(建物)	未指定	有形文化財	建造物	建造物	明治8年以前 (台帳)	靴町一丁目	個人	中央に吹抜けがあり、つし二階建ての特徴を持つ大型町 家。元菓子製造販売店であったが、多様な交流の場(施 設)としてリノベーションし、平成28年にオープンした。
17	旧鳥取銀行米子本通り支店(Qビ ル)	未指定	有形文化財	建造物	建造物	昭和27年	四日市町	個人	鉄筋コンクリート造り。昭和27年に富士銀行米子支店と して建てられた銀行建築で、戦後のモダニズム建築で装飾 の少ないモダンな外観。銀行移転後、銀行の営業室だ った広い吹抜けをそのまま飲食店に改装した。
18	旧山陰合同銀行米子東支店 (DARAZ CREATE BOX)	未指定	有形文化財	建造物	建造物	昭和34年	法勝寺町	個人	地下1階地上2階建て、鉄筋コンクリート造り。昭和34年 に建てられた銀行建築。その後、改装されて様々な用途に 活用された。現在は、DARAZ CREATE BOXとしてコ ミュニティFMのほかインキュベーションスペースに利用 されている。
19	道笑町観音地藏堂	未指定	有形文化財	建造物	建造物	平成12年(再 建)	道笑町二丁 目	地元自治会	米子に地藏36番を造った彦祖の時代(1770年代)に建立 と伝わる。平成12年5月再建。お堂の中に、観世音菩薩 (西国33か所)、地藏菩薩、弘法大師が祀られ、深く信仰 されている。

2. 米子市歴史文化遺産リスト（地区別）

20	ゆうが堂(ゆうがさん)	未指定	有形文化財	建造物	建造物	昭和33年	紺屋町	地元自治会	昭和33年現在の堂建立。文化年間に紺屋町の人が児島の「瑜伽大権現」にお参りし、その境内の木で作った仏像を持ち帰り祀った。阿弥陀如来、薬師如来、不動明王、稲荷も合祀。
21	津山街道踏切(道笑町踏切)	未指定	有形文化財	建造物	構造物	明治35年	道笑町二丁目・道笑町三丁目	西日本旅客鉄道株式会社	明治35年に鉄道が境一御来屋間に開通した際に設けられた踏切で、通称「津山街道」を横切る。「開かずの踏切」と通称される。地下道を持つ。
22	米子駅1号ホーム上屋	未指定	有形文化財	建造物	構造物	明治35年ほか	弥生町	西日本旅客鉄道株式会社	昭和3年にホーム上屋を新設する際、支柱の一部に明治3年英国製の双頭レールを用いたもので、現在0番乗場、1番乗場に18対現存している。登録鉄道文化財。
23	後藤総合車両所扇型車庫・転車台	未指定	有形文化財	建造物	構造物	昭和30年改築	弥生町	西日本旅客鉄道株式会社	平屋建陸屋根鉄骨造り。明治35年山陰鉄道開業時に米子機関区初代車庫として建設。昭和30年に扇型車庫として改築され現在に至る。建設当時の姿をほぼ保っている。
24	益尾忠蔵家文書	未指定	有形文化財	美術工芸品	古文書	天保3年、嘉永5年	道笑町一丁目	個人	質屋唐櫛屋の貸金に関する大福帳(天保3年、嘉永5年各1冊)。町内の商人や武士のほか、日野川をはさんで、川東・川西地域の農民に対する貸し付けが多い。
25	野坂享蔵家文書	未指定	有形文化財	美術工芸品	古文書	天保年間	法勝寺町	個人	「油屋吉次郎古手座株記録控」「油屋吉次郎日記」。天保7年～同11年にかけての、商売(古手商)の記録。
26	野波富美枝家文書	未指定	有形文化財	美術工芸品	古文書	慶応3年、明治2年	法勝寺町	個人	「法勝寺町宗門御改血判帳(慶応3年)」。法勝寺町裏通家持借家根帳(明治2年)。
27	田蓑の日記	未指定	有形文化財	美術工芸品	古文書	文政期	四日市町	個人	衣川長秋の、文政元年秋の出雲大社への紀行文。衣川長秋は、伊勢の歌人、国学者で、寛政12年に、鳥取に来遊し20年近く門下に教えた。
28	米子神社由来記	未指定	有形文化財	美術工芸品	古文書	安政7年	法勝寺町	個人	「米府神社由来記(筆者:田守静六)」の改訂版にあたる。前書に20社、後書に30社を記す。
29	西念寺御寺国法宗門出入万日記	未指定	有形文化財	美術工芸品	古文書	江戸末期～明治初期	法勝寺町	西念寺	明治2年、神仏分離令に直面した米子の1寺院の動静を伝える。文久2年、元治元年の資料もあり。
30	坂本神社棟札	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	天元4年	長砂町	坂本神社	「奉建立妙見大明神…」の棟札(天元4年)が残る。現在残る文字そのものは後世の上書きとされる。
31	後藤工場発祥之地碑	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	昭和31年	弥生町	西日本旅客鉄道株式会社	鉄道車両修理の鉄道作業局米子出張所所属仮工場が置かれた場所。大正時代に、工場業務増大に伴って工場の拡大が必要となり、現在地(日ノ出町)に移転。明治の鉄道遺産を示す記念碑。
32	大東亜戦争大詔喚発記念碑	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料		糺町一丁目	地元自治会	糺町一丁目町内会で建立(大東亜戦争開戦記念日建立)、町内会有志の心意気が伝わる。
33	延命院地藏(糺町橋地藏、糺町1丁目地藏)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	昭和9年(再建)	糺町一丁目		祠堂に、3体の地藏尊を安置。中央は、硬質の黒凝灰岩で、加茂川沿いの地藏尊の中でも屈指の石仏で気品がある。「建立文政六年 再建昭和九年」。延命祈願。
34	瓢箪小路(ひょうたん)地藏	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰		道笑町二丁目		瓦葺きの祠堂(観音地藏堂)に安置。子安・安全祈願。堂の本尊は観音像。
35	法勝寺町橋地藏(法勝寺町地藏)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰		法勝寺町		小さい橋の横の祠堂に2体の地藏を安置。御影石の自然石と座像の地藏尊。開眼祈願。
36	土橋地藏	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	明治27年	法勝寺町		旧土橋(昭和5年2月竣工)のたもとの祠堂に、2体の石仏を安置。円形の自然石と角形の地藏尊。地藏尊は舟形光背を背にした気品の高い姿。この横に以前井戸があり、「地藏井戸」と呼ばれていた。「明治27年8月建立」、橋渡し祈願。
37	瑜伽堂地藏(瑜伽堂橋地藏、ゆうがさん)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰		紺屋町		瑜伽堂の境内に安置されている。瑜伽堂は、文化年間に地元の人たちが備前児島から勧請し、近在の信仰を集めた。空き巣除け祈願。
38	善光院橋地藏(善光院地藏、四日市町の地藏)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰		四日市町		コンクリートの祠に祀る。この辺りに、京都の醍醐三寶院に属する修験宗当山派の「善光院」があったことに因む。善行祈願。
39	回国塔(長砂)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	安永7年	長砂町		石塔、高さ(台座含む)146.0cm。「奉納大乗妙典六十六部日本回国」。安永7年、当村の行者願主と他地区の行者が協力して建立。
40	百万遍(道笑町観音地藏堂)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	民俗	安政2年?	道笑町二丁目	地元自治会	8月23日の地藏盆の宵祭りに、大きな数珠(約5m)を回して、お経を唱える伝統の「百万遍」を子供会で行い、こどもたちの悪疫退散と安泰を祈る。念仏を数えるための木札(安政5年)が残る。
41	増屋(ますや)の角	未指定	記念物	史跡	交通	明治・大正期	法勝寺町・道笑町一丁目		十字路の角に立地していた増屋(高橋家)は薬屋で神霊丹が有名であり、この店の名に因む。明治・大正時代を通じて、交通の分岐点として周知され、周辺は米子(町)の商店街の中心であった。
42	ヤミ市通り	未指定	記念物	史跡	交通	昭和20年以降25年ごろまで	法勝寺町		昭和20年7月、8月に建物強制疎開により建物が取り壊されて生まれた広い通りで、かつてこの名称が使われていた。戦後すぐに、この通りで、人々が取り締まりの目を逃れて戸板の上で品物を売り買いしたことに因む。昭和25年ごろ、道路整備された。
43	荒神小路	未指定	記念物	史跡	交通	不詳	日野町(・茶町)		茶町と日野町との境の小路で、荒神宮があったことに因む。長さ69間。荒神宮は、茶町の有力商人だった持田氏が小社を勧請して祀り、後に畑の中に400坪余の社地に遷座。明治元年に萬能社と改められたが昭和32年に焼失した。旧社地に記念碑が建つ。
44	福蔵院小路	未指定	記念物	史跡	交通	不詳	日野町(・茶町)		茶町と日野町との境の小路で、外堀に架かる橋の辺りに福蔵院があったことに因む。長さ69間。福蔵院は、慶長15年に建立したが、外堀が広げられ境内が狭くなったので、延宝2年に寺町に移されたと伝わる。
45	日野町裏通り	未指定	記念物	史跡	交通	不詳	日野町		出雲街道と並行する裏側(東側)の通り。北側で、道笑町との町境を通る「唐物屋小路」に突き当たる。通りに面して商家の蔵が残る。
46	唐物屋(からものや)小路	未指定	記念物	史跡	交通	不詳	日野町・道笑町一丁目・万能町		日野町と道笑町との境にあり、幕末から明治前半まで、新出雲街道(上方往来)として瓢箪小路とともに交通の要衝であった。小路の南側に長崎方面の通商で財を成した唐物屋竹内氏の広大な屋敷があったことに因む。
47	瓢箪(ひょうたん)小路	未指定	記念物	史跡	交通	不詳	道笑町一丁目・道笑町二丁目		幕末から明治前半まで、新出雲街道(上方往来)として唐物屋小路とともに交通の要衝であった。日野町の願いにより、慶応元年に拡幅された。

2. 米子市歴史文化遺産リスト（地区別）

48	道笑町新道	未指定	記念物	史跡	交通	不詳	道笑町一丁目・道笑町二丁目・道笑町三丁目		明治18年に、出雲街道から灘町に向かって西側に伸びる道（現：本通り商店街など）とは反対側（東側）に通じる道ができて四ツ角（十字路）となり、同24年には、延伸して瓢箪小路とつながった。明治35年に鉄道が開通すると米子駅に近いこの周辺は、次第に、米子で一番の繁華街となった。
49	赤らんかん小路	未指定	記念物	史跡	交通	不詳	道笑町一丁目・法勝寺町		小路の中ほど北側に、かつて小料理屋の店の前の赤い欄干があり、これに因む。小路に面して平野屋呉服店の土蔵（3棟）が立つ。倉庫の家並みと高低大小の屋根の庇の諧調がよい。
50	道笑町1丁目東裏通り	未指定	記念物	史跡	交通	不詳	道笑町一丁目・道笑町二丁目		道笑町新道の中途からほぼ北方向に進み、景山屋小路に突き当たる小路。出雲街道の東側の裏道に当たり、条里制の名残がある小路の1つ。
51	益尾小路	未指定	記念物	史跡	交通	不詳	道笑町二丁目		道笑町新道の中途から、かつてあった分家益尾氏の醸造場（酒・醤油）に通じる道。条里制の名残がある小路の1つ。
52	景山屋小路	未指定	記念物	史跡	交通	不詳	糺町一丁目・道笑町一丁目・道笑町二丁目		道笑町と糺町との境にある小路。江戸時代から続く、麴や醤油の製造販売をした景山屋があったことにちなむ。景山屋は、幕末には馬子方支配役を務めるほど、人馬の出入りが多かった。
53	榎小路	未指定	記念物	史跡	交通	不詳	糺町一丁目		出雲街道から景山屋小路を東に入り、途中で北に折れる小路。条里制の名残がある小路の1つ。
54	糺町1丁目東裏通り	未指定	記念物	史跡	交通	不詳	糺町一丁目		出雲街道の東側の裏通りで、加茂川沿いの延命院通りに突き当たる。加茂川べりに延命院地蔵が祀られている。「お地蔵さん通り」として地域のひとびとに親しまれている。通りの片側に、麴製造の蔵がある。条里制の名残がある小路の1つ。
55	糺町1丁目西裏通り	未指定	記念物	史跡	交通	不詳	糺町一丁目		出雲街道の西側の裏通り。加茂川から出雲街道沿いに建つ「わたや小路」（町家を改修）の裏口を通る。
56	延命院通り	未指定	記念物	史跡	交通	不詳	糺町一丁目		糺町橋から加茂川を上流に向かって並木橋までの小道。中途に建つ延命院地蔵堂の右前方にかつてあった、延命院に因む。延命院は、米子城主中村一忠の帰依を受け内町に草創された後、米子荒尾氏により当地に移されたといわれる。
57	西念寺小路	未指定	記念物	史跡	交通	不詳	法勝寺町		中筋（本通り）から西念寺に向かう小路で、長さ34間。西福原方面から城下町へ通じる道の出入口で、年貢を運ぶためにも利用された。
58	寺小路	未指定	記念物	史跡	交通	不詳	法勝寺町		西念寺小路と西福原村道とをつなぐ小路。旧土橋までの小路で、津出し道（西福原村道）につながる重要な道だった。加茂川に架かる旧土橋付近が昔の面影をとどめる。
59	横町（よこまち）小路	未指定	記念物	史跡	交通	不詳	法勝寺町		紺屋町との境沿いに、中筋から外堀に架かっていた横町橋（法勝寺町橋）まで続く小路。長さ38間。紺屋町側に、酒造業などを営む稲田家の屋敷が面し、外堀沿いに酒蔵が並んでいた。向いの法勝寺町側には、江戸時代から木綿業などで栄えた遠藤家の屋敷があった。
60	稲田小路	未指定	記念物	史跡	交通	不詳	紺屋町		酒造業の稲田家が、醸造場から加茂川端の「酒井戸」へ行くために使った小路。同家は因幡出身で稲葉屋（稲葉屋）と名乗っていたので、稲葉屋（稲葉屋）小路ともいう。
61	瑜伽堂小路	未指定	記念物	史跡	交通	不詳	紺屋町		加茂川に架かる瑜伽堂橋を渡った先に、瑜伽堂があることに因む。瑜伽堂は、文化年間に、同町内が備前の瑜伽大権現を勧請した。真言密教の祈祷で栄えたという。
62	紺屋町北裏小路	未指定	記念物	史跡	交通	不詳	紺屋町		中筋（本通り）に並行する北側の裏通り。市街地中心部でありながら、本通り裏側の小路には、昭和以前の時代を感じさせる佇まいがよく残っている。町の北東側は、江戸時代から職人、農業者の小住宅が混在していた。
63	四日市小路	未指定	記念物	史跡	交通	昭和20年以降	四日市町		戦後、災害時の避難路の確保や生活の利便性向上などのため作られた。小路の名は、町名に由来する。
64	善光院小路	未指定	記念物	史跡	交通	不詳	四日市町		加茂川に架かる善光院橋を渡った先に、当山派修験の善光院があったことに因む。長さ27間。善光院は、承応年間の創建、文化元年に当地に移されたが、明治3年の廃仏毀釈により同5年に廃絶した。
65	北海道の入口	未指定	記念物	史跡	交通	不詳	四日市町		加茂川に架かる善光院橋を渡った先から角盤町へ向かう通り。北側にある、称名寺繩手道へ向かう入口に当たる。かつて、本通り商店街から米子高島屋、やよいデパートに抜ける、米子で人通りの多い小路の一つだった。
66	稲田家庭園（紺屋町）	未指定	記念物	名勝	庭園	昭和10年頃	紺屋町	個人	弘化元年創業の稲田松太郎薬局の5代目が、昭和10年頃に視覚となる新座敷と一緒に作庭したものと伝わる。5代目夫人は裏千家茶道をよくされた。このため茶室（現存せず、待合のみ残る）に至る露地庭であり、枯山水の鑑賞、回遊式庭園。陽田石など趣のなる庭石を随所に配し、変化のある庭園。
67	観音寺山のアカマツ林	未指定	記念物	天然記念物	植物		長砂町（・観音寺）		優れた植生。特記植物：ヤマザクラ・カスミザクラ

就将地区

No.	名称	指定等	区分			年代	所在地	所有者	概要
			分類1	分類2	分類3				
指定等文化財									
1	米子城跡	国	記念物	史跡	城跡	江戸前期	久米町	米子市	山陰でほかに先駆けて築かれた本格的な近世初期の城郭。標高約90mの湊山を中心に、北の丸山、東の飯山を出丸として、内堀と中海で城山を取り囲み、さらに外角に武家屋敷を配し外堀を巡らせた典型的な平山城。
2	鉄茶釜	県	有形文化財	美術工芸品	工芸品		中町（米子市美術館）	米子市	鉄製で、器高14.2cm、口径16.3cm、胴回り83.6cm、重量6.15kg。背が低く、厚手で口径が大きいことが特色。製作者不詳だが、古い型式の窯と考えられ色調も良く工芸的に価値が高い。
3	山陰歴史館所蔵長田文書	県	保護文化財	美術工芸品	古文書	安土桃山時代（文禄4年、慶長4年）	中町（山陰歴史館）	米子市	2点。①文禄4年2月3日 椎木新次郎等田地売券。②慶長4年3月20日 難木新左衛門等田地売券。中世末期の伯耆国八橋郡向原村周辺の在地勢力の実像や、共同体的な秩序の実相をうかがわせるもの。

2. 米子市歴史文化遺産リスト (地区別)

4	伯州綿栽培用具	県	民俗文化財	有形民俗文化財	生産	明治～昭和期、平成	中町(山陰歴史館)	米子市	伯州綿の栽培に関する用具14点。砂畑で行われた綿作に使用された農具と肥料である中海の藻(海藻・海草)採取に利用された漁具など。砂地で行い、肥料に藻葉を使用する弓浜地域の綿栽培は全国的に類例がない。けた2点、綿の種蒔鉢3点、溝きり2点、溝きり鉢1点、藻葉取り鉢4点、さお1点(平成期)、綿干し棧1点。
5	旧小原家長屋門	市	有形文化財	建造物	建造物	江戸後期	久米町	米子市	木造瓦葺平屋建て入母屋造。桁行20.38m、梁間4.03m。市で唯一の武家屋敷の建物。西町から現在地に移築され、昭和59年まで約30年間山陰歴史館として利用された。
6	米子市役所旧館	市	有形文化財	建造物	建造物	昭和5年	中町	米子市	鉄筋コンクリート造3階建・陸屋根・塔屋付。設計:佐藤功一。近世ルネサンス様式。L字型の平面だが正面を左右対称とし、中央には塔屋と車寄を設け、装飾は少なく正面を強調したデザイン。外壁は、1階が人造石に目地をいれ、2、3階が赤レンガ色の硬質タイル張り。現:山陰歴史館。正面右側に天皇陛下行幸碑あり。
7	桃形兜	市	有形文化財	美術工芸品	工芸品	江戸前期	中町(山陰歴史館)	米子市	宗形神社にある吉川元春が奉納したと伝わる兜。よく鍛えた二枚の鉄板を中央で翳ぎ合、合わせ目を鋭い鑄を立てて、全体を桃型に仕上げる。漆と金箔を交互に塗りし、磨き上げている。頸部を保護する「しころ」は帯状の板札を五枚素懸に垂らし、伸縮自在に威している。
8	大谷家資料	市	有形文化財	美術工芸品	工芸品 古文書	江戸期	中町(山陰歴史館)	米子市	大谷家は灘町で江戸時代を通じ海運業と魚島問屋を営んだ大商人。主な資料は、竹島(現在の鬱陵島)渡海に関するもので、将軍秀忠より拝領の時服、竹島渡海船の葵紋入り船印など。我が国の外交上でも重要な意味を持つ。
9	米子城鯨	市	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	江戸期	中町(山陰歴史館)	米子市	指定された5基のうち2基。嘉永5年の解体修理前の米子城四重櫓に飾られていた2基のうち、藩の命令で全額費用を肩代わりした鹿島分家に下賜されたもの1基。四重櫓改築の試作品と伝わるもの1基は、「嘉永五壬子月日十代目松原仁左衛門作之」と刻まれている。
10	水管橋(加茂川橋)	市	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	大正15年	西倉吉町(・尾高町)	米子市水道局	米子町は市制施行を目指して、大正15年3月に上水道施設完成。創設時の水管橋(地上に設置された水道管の橋)14箇所の内、2箇所が残る。加茂川橋水管橋は長さ9.4m。現在給水していないが、市の水道の歴史において貴重。
11	目久美遺跡	市	記念物	史跡	集落跡	弥生時代	目久美町	米子市	縄文時代前期(6千年前)から弥生時代前期(2千3百年前)の低湿地遺跡。縄文時代には、このあたりまで海が入り込んでいたことを示し、弥生時代には、微高地に営まれた村跡と水田跡が発見されている。
12	中村一忠墓地 附中村一忠主従木像三体	市	記念物	史跡	墳墓	江戸時代	祇園町一丁目	感応寺	慶長14年米子藩主中村一忠の死後、殉死した2人の小姓とともに感応寺裏山に葬られ、御影堂を建立し、3人の木像が安置された。昭和35年の350年忌に大五輪塔を建立。
13	陰田1号墳	市	記念物	史跡	古墳	古墳時代	陰田町	個人	谷奥部の丘陵裾部に築造された古墳時代後期(7世紀)の首長級墳墓。日野川左岸最大級の横穴式石室を持ち、遺存状態も良好。
14	清洞寺跡	市	記念物	史跡	社寺跡	江戸時代	西町	米子市	2代米子城主加藤貞泰が、父の菩提を弔うため曹溪院を建て五輪塔を作った。3代城主池田由成が、父母の供養のため海禅寺を建て2基の五輪塔を作った。次に城主預りの藩家老荒尾成利は、善源寺と改名し菩提寺としたが、名を改め博労町に移る。宝暦年間に、荒尾氏の家老村河直好が江尾から清洞寺を移し菩提寺とした。明治以後廃寺となった。
15	潮止め松	市	記念物	天然記念物	植物	江戸時代	西町	鳥取大学医学部	江戸時代の初め、米子城築城の際に、クロマツを防潮林として植栽されたといわれる。胸高周囲2m以上、樹高20m以上と推定され、県内では、大山参道の並木松と並ぶ名松。10本残る。
16	D-51形蒸気機関車	市	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	昭和14年	西町	西日本旅客鉄道株式会社(米子市貸与)	日本国有鉄道の前身である鉄道省が設計、製造した単式2気筒で過熱式のテンダー式蒸気機関車。昭和14年製造の195号機で、昭和48年2月に米子市に配属され、同3月廃車。「デゴイチ」の愛称で親しまれた蒸気機関車の代名詞ともいえる車両。
未指定文化財									
1	賀茂神社・天満宮本殿	未指定	有形文化財	建造物	建造物	昭和36年(拝殿)	加茂町二丁目	賀茂神社・天満宮	大社造変形 1丈2尺四方。創立年代不詳。慶長3年「米子惣社賀茂皇大明神再建」の棟札あり。米子鎮守の神として代々の米子城主・中村、加藤、池田氏による社殿の建立、修復、社領の寄進があり、祈願所として崇敬を受けてきた。昭和36年に稲荷神社天満宮と合併して改称、拝殿再建。
2	賀茂神社・天満宮神門	未指定	有形文化財	建造物	建造物	未調査	加茂町二丁目	賀茂神社・天満宮	昭和36年に天神町にあった天満宮が賀茂神社と合併した際、天満宮の本殿を神門とした。木造神門未調査。
3	深浦神社本殿	未指定	有形文化財	建造物	建造物	昭和10年	祇園町一丁目	深浦神社	大社造変形 6尺5寸四方。天和2年、天明7年の建替え(棟札)。昭和10年再建。創立年代不詳。米子城の裏側の水軍の根拠地である深浦に江戸時代初めから祀られていた。木造社殿未調査
4	目久美神社本殿	未指定	有形文化財	建造物	建造物	未調査	目久美町	目久美神社	春日造変形向拝 唐破風付き。3尺5寸四方。創立年代不詳。木造社殿未調査
5	廣田神社本殿	未指定	有形文化財	建造物	建造物	明治12年	大谷町	廣田神社	春日造変形 5尺四方。遷宮明治12年。創立年代不詳。木造社殿未調査
6	犬田神社社殿	未指定	有形文化財	建造物	建造物	未調査	陰田町	犬田神社	切妻造妻入 7尺×6尺。創立年代不詳。木造社殿未調査
7	日御碕神社本殿(陰田町)	未指定	有形文化財	建造物	建造物	未調査	陰田町	日御碕神社	切妻造平入 千鳥破風付 6尺四方。創立年代不詳。嘉永3年の社帳に、天長年間中の勧請とある。木造社殿未調査
8	感応寺山門	未指定	有形文化財	建造物	建造物	未調査	祇園町一丁目	感応寺	米子城の用材で建てたものと伝えられ、火灯窓(華頭窓)を持つ趣のある門。木造山門未調査。
9	総泉寺本堂・山門	未指定	有形文化財	建造物	建造物	天保3年	愛宕町	総泉寺	本堂は天保3年再建。能登総持寺(曹洞宗)直末。代々の米子城主と関係が深い城下一の古刹。慶長12年、中村一忠が母の菩提寺として100石寄進。本堂:木造、瓦葺き。山門(楼門):木造、四客門。

2. 米子市歴史文化遺産リスト (地区別)

10	桂住寺本堂・山門	未指定	有形文化財	建造物	建造物	未調査	愛宕町	桂住寺	曹洞宗、総泉寺末寺。総泉寺開山の棟室賢梁が、慶長年間に中村一忠夫人の出家を機に、新山村より移建したのに始まると伝える。木造本堂未調査。木造楼門(薬医門)未調査。
11	金光教米子教会・教会堂	未指定	有形文化財	建造物	建造物	昭和7年	加茂町二丁目	金光教米子教会	教会堂(木造・入母屋造、銅板葺、正面唐破風玄関ポーチ付)。伝統的な寺院建築と教会建築の要素が折衷された建築。上面の外観は善光寺本堂の立面に通じ、妻入り・縦長の平面は昭和初期の和洋折衷のキリスト教会との共通性がある。
12	旧米村旅館別館(森家)	未指定	有形文化財	建造物	建造物	明治中期(推定)	西倉吉町	個人	料亭旅館を営んだ商家。間口2間×奥行18間と細長い、二階建て町家(看板建築)。表棟・中棟・奥棟の3棟、中央階段室型。
13	笑い庵(旧木下薬局)・茶室	未指定	有形文化財	建造物	建造物	明治初期	西倉吉町	個人	木造三階建。明治期に呉服商を営んだ後、長年薬店として活用されていた。現在は「笑い庵」として地域再生の拠点となっている。三階は建築当時のままで、裏千家住田半三郎(又友齋)の茶室(3畳)として使われていた。
14	旧まつや旅館	未指定	有形文化財	建造物	建造物	明治中期(推定)	西倉吉町	個人	市で現存する唯一の木造三階建て(表棟)の町家。細長い敷地に表棟・中棟・奥棟が並び、トオリニワは以前の外堀までつながる。旅館業を営んでいた。城下町に残る上質な町家の一つ。
15	持田金物店(旧桜井旅館)	未指定	有形文化財	建造物	建造物	明治9年(台帳)	東倉吉町	個人	木造二階建て看板建築。主屋の1階を帳場、2階の2室を客室。2階客室には床の間があり、丸窓や手すりがつくなど上質な座敷。天井が高い二階座敷の町家の最も早い事例。
16	旧住田呉服店(THE PARK)	未指定	有形文化財	建造物	建造物	明治16年(棟札)	東倉吉町	個人	木造つし二階建。間口8間×奥行8間半で現存する呉服屋では最も大きい。居住空間は広く、中の間・奥座敷・オオエ(御上)・三畳の間・新座敷がある。裏側の2階には明治期に煎茶室が設けられた。リノベーションで大改造された。
17	中住田家松月庵	未指定	有形文化財	建造物	建造物	明治30年代	東倉吉町	個人	明治30年代に住田又友齋が裏千家12代を招いた際に、又妙齋が指図した由緒ある茶室。間口3間ほどの長い町家の主屋のトオリニワは改造され床張りになっているが、中庭は路地風で、片方に茶室がある。茶室は3畳上座床。町家における伝統的な配置で茶の湯本来の伝統を残す。
18	林そば店	未指定	有形文化財	建造物	建造物	未調査	東倉吉町	個人	未調査
19	旧第一モデル館	未指定	有形文化財	建造物	建造物	大正7年	西倉吉町	個人	木造二階建、モダンな洋風看板建築の理髪店だった。建物正面は、1階の中央に門構えの入口があり、両サイドは上げ下げ窓で、2階の3連の開き窓は上部が半円形、頂部にデザインされた文字を取り付ける。米子初のモダンな看板建築。
20	深浦橋(国道9号)	未指定	有形文化財	建造物	構造物	昭和34年	久米町・祇園町一丁目	国	国道9号が新加茂川を跨ぐ橋。長さ65m、幅員13mのランガード工法による鋼構橋。国道9号改良事業の道路新設に伴い架設。彫刻ロードから見上げると朱塗りのアーチが川面に映り美しい。
21	刀(伯耆国住吉幸)	未指定	有形文化財	美術工芸品	工芸品	明治3年	中町(米子市立山陰歴史館)	米子市	刀一振り(登録番号:鳥取県第1505号)。長さ 2尺3寸5分、反り 4分。目くぎ穴 2個。銘文:表「伯耆国藤原吉幸」、裏「明治3年8月 日」
22	素鳳コレクション	未指定	有形文化財	美術工芸品	工芸品	江戸期以降	中町(米子市立山陰歴史館)	米子市	雛人形、御所人形、衣装人形など江戸時代の人形や、天神さん、西洋人形などの人形コレクションを中心に、絵絨等の染織品、櫛・かんざし等の装身具類、車筆筒・銭函等の調度品、面などで構成される。人形の歴史的変遷や形態の変遷などを知ることができる貴重なコレクション。人形1130点ほか合計1829点。
23	片山楊谷大山眺望絵図「中海からの大山眺望」	未指定	有形文化財	美術工芸品	絵画	寛政9年	中町(米子市立山陰歴史館)	米子市	鳥取藩の絵師「片山楊谷」の代表的な山水画。大山と米子の歴史研究の上で有益な絵画資料。
24	片山楊谷大山眺望絵図「福厳院からの大山眺望」	未指定	有形文化財	美術工芸品	絵画	寛政10年	中町(米子市立山陰歴史館)	米子市	鳥取藩の絵師「片山楊谷」の代表的な山水画。大山と米子の歴史研究の上で有益な絵画資料。
25	片山楊谷大山眺望絵図「戸上山からの大山眺望」	未指定	有形文化財	美術工芸品	絵画	寛政11年	中町(米子市立山陰歴史館)	米子市	鳥取藩の絵師「片山楊谷」の代表的な山水画。大山と米子の歴史研究の上で有益な絵画資料。
26	片山楊谷大山眺望絵図「大山寺山内からの大山眺望」	未指定	有形文化財	美術工芸品	絵画	寛政12年	中町(米子市立山陰歴史館)	米子市	鳥取藩の絵師「片山楊谷」の代表的な山水画。大山と米子の歴史研究の上で有益な絵画資料。
27	賀茂神社天満宮所蔵文書	未指定	有形文化財	美術工芸品	古文書	文政10年～天保5年	加茂町二丁目	賀茂神社天満宮	正一位稲荷大明神社御造営中日記。もと天神町にあった、天満宮境内の稲荷大明神の文政11年から天保5年にかけての遷宮の記録。伯耆一円への動化の様相や宮庄屋などの役割を具体的に知れる。
28	感応寺所蔵文書	未指定	有形文化財	美術工芸品	古文書	江戸中期ごろ?	祇園町一丁目	感応寺	「伯耆感応寺由来」:第8世観行院日教による。「常住山感応寺記」:漢文。成立年代不明、江戸中期ごろか。横田内膳正による、感応寺創建の由来を記す。
29	四重櫓御新建日記控	未指定	有形文化財	美術工芸品	古文書	嘉永5年、6年	大工町	個人	嘉永5年、6年、瓦師松原新平が四重櫓の瓦を葺き替えた時の記録。普請の工事日程や、瓦の原料、瓦代金の事など記す。
30	米子組士栗木家家筋書上並びに判物	未指定	有形文化財	美術工芸品	古文書	天保4年	東町	個人	天保4年、10代目栗木猶之丞による家筋書上げ。主な判物(慶長6年池田照政ほか)写しと、初代から10代までの略伝。
31	米子組士分限帳並二御禮席表(写)	未指定	有形文化財	美術工芸品	古文書	慶応4年ほか	中町(米子市立図書館)	米子市	筆写された手控え。その一(荒尾近江成熙の支配に属するもの)その二(慶応4年)。藤本文庫。
32	因伯御家人分限帳(荒尾氏家臣分限帳)	未指定	有形文化財	美術工芸品	古文書	慶応4年頃(推定)	中町(米子市立図書館)	米子市	慶応4年ごろと推定。総数255人。表紙は「因伯御家人分限帳」だが、荒尾氏のみ記載。藤本文庫。
33	やつれみの日記	未指定	有形文化財	美術工芸品	古文書	文政2年	中町(米子市立図書館)	米子市	衣川長秋著作。文政2年、鳥取から米子への150日間の道中記。大山博労座の牛馬市の描写は圧巻。藤本文庫。

2. 米子市歴史文化遺産リスト (地区別)

34	竹廬詩稿	未指定	有形文化財	美術工芸品	古文書	江戸後期	中町(米子市立図書館)	米子市	須山啓蔵(日吉津村の医家須山家7代目・号竹廬)の漢詩文。慶応4年に米子組藩医に召し抱えられる。大山寺学僧嗒然の晩年を知る詩作もある。須山文庫。
35	米子町孝行者書上写	未指定	有形文化財	美術工芸品	古文書	寛永5年	中町(米子市立図書館)	米子市	「庶民生活関係」(表彰)
36	復古振数難問	未指定	有形文化財	美術工芸品	古文書	安政6年	中町(米子市立図書館)	米子市	須山義行(日吉津村医家須山家6代目)は、家塾で数術を教えた。安政6年に、門人高橋一齋が難問を一冊に集大成した数術秘伝書。須山文庫。
37	宮本包則講主刀頼母子講帳	未指定	有形文化財	美術工芸品	古文書	文久2年	中町(米子市立図書館)	米子市	「土地売買・金融」関係のうち講に関するもの。藤本文庫
38	長州征伐記録 鳥取藩進発道中日記	未指定	有形文化財	美術工芸品	古文書	元治元年・2年	中町(米子市立図書館)	米子市	「治安・軍事」関係のうち長州征討に関するもの。元治元年11月～翌年正月の記録。藤本文庫。
39	米子西倉吉町宗門御改血判帳	未指定	有形文化財	美術工芸品	古文書	慶応3年	中町(米子市立図書館)	米子市	「町と町政」関係のうち戸口の関するもの。藤本文庫
40	米子町史編さん資料文書	未指定	有形文化財	美術工芸品	古文書	延宝年代～明治4年	中町(米子市立山陰歴史館)	米子市	戦前の米子町史・米子市史編さん資料。荒尾家来家・米子組士名簿。鹿島本家諸願書・御触・諸事覚書。米子両所御制札文言写。町年寄御用日記(3種)。大谷家漁鳥座株関係記録。村川市兵衛塩口銭取立株関係記録など。
41	松岡家文書	未指定	有形文化財	美術工芸品	古文書	天保15年	中町(米子市立山陰歴史館)	米子市	松岡家頼母志帳。米子魚鳥座を支配した大谷家の番頭格。天保15年のもので、魚鳥座の資金増を命じられて講を企画した。
42	稲田家文書	未指定	有形文化財	美術工芸品	古文書	天保11年ほか	中町(米子市立山陰歴史館)	米子市	「荒尾家からの借金の集金と支払の「米子諸商人御上様月送り取替帳」(天保11年)・荒尾家からの借金の集金と支払の明細書。「諸道具買入帳」(文政7年～明治13年)、米子の一豪商の家財形成の実態を伝える。
43	船越家文書(岡成)	未指定	有形文化財	美術工芸品	古文書	近世中期～幕末	中町(米子市立山陰歴史館)	米子市	嘉永7年から安政4年に口会見郡の大庄屋を、安政5年から中庄屋を勤めた家の文書。2近世中期から近代にわたる数千点を所蔵。幕末期の大庄屋・中庄屋の業務に関わる資料が多い。村政に関わる文書は近世中期から残る。
44	米府鬼話	未指定	有形文化財	美術工芸品	古文書	嘉永4年	中町(米子市立山陰歴史館)	米子市	鳥取藩米子組士・山内東園が、米子地方に伝わる奇談・怪談を集録した珍書。富山家旧蔵のもので、東園自筆本の可能性あり。
45	大山草山一件内済書付	未指定	有形文化財	美術工芸品	古文書	享和3年	中町(米子市立山陰歴史館)	米子市	享和3年、石州府村と大山領。
46	会見郡富益村根元記	未指定	有形文化財	美術工芸品	古文書	文化元年	中町(米子市立山陰歴史館)	米子市	富益村開村当初の記録(文化元年写し) ※「木村昭二家文書(富益)」は、安政7年写し
47	汗入郡血判残者書上帳	未指定	有形文化財	美術工芸品	古文書	文化4年	中町(米子市立山陰歴史館)	米子市	文化4年宗旨庄屋橋井弥三郎
48	汗入郡妻木川筋分水の儀につき勝大池下村々議定書控	未指定	有形文化財	美術工芸品	古文書	安政2年	中町(米子市立山陰歴史館)	米子市	安政2年。淀江地区など。
49	鹿島(恒勇)家資料	未指定	有形文化財	美術工芸品	古文書	安政5年ほか	中町(米子市立山陰歴史館)	米子市	米子鉄御役所(安政5年)、御為替座絵図面(万延元年)、本家鹿島屋敷図(文久2年)など。
50	米子御武器寄帳	未指定	有形文化財	美術工芸品	古文書	慶応4年(明治元年)	中町(米子市立山陰歴史館)	米子市	もと米子組士竹中家に伝わったもの。文中に「慶応4年10月」の記述あり。
51	旧大山寺文珠堂掛仏(裏面銘)	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	応永2年	中町(米子市立山陰歴史館)	米子市	応永2年の墨書年紀を持つ掛仏。胎内に「文珠童子御宝前」の銘あり。
52	伯耆米子絵図	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	寛永2年	中町(米子市立山陰歴史館)	米子市	米子の城と町の概略を書いた最古の絵図。寛永2年に模写したことを記す。佐々木謙資料
53	伯耆国絵図(寛永国絵図写)	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	寛永10年?	中町(米子市立山陰歴史館)	米子市	81.5x146cm。江戸時代初期の寛永年間に幕府の命により作成された国絵図の写しと考えられ、同種で最古の情報を与える。元禄郷村帳より村数は少なく、近世村成立以前の状況を示す。
54	米子御城石垣御修覆御願絵図	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	寛文7年	中町(米子市立山陰歴史館)	米子市	60cmx87cm。鳥取藩主初代池田光仲の時期のもの。米子城乾方外曲輪の石垣1ヶ所の修復に係る普請計画図。
55	米子城下古絵図	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	江戸前期(元禄3年ごろまで)	中町(米子市立山陰歴史館)	米子市	147.5cmx145cm。城、外堀の内側の侍町を中心に、堀の幅や深さ、寺院の位置、町人町に設置された木戸の位置などが示されている。元禄3年ごろまでに軍事的な目的で作成されたと考えられる。
56	ポーエン日本図	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	1747年ごろ	中町(米子市立山陰歴史館)	米子市	45cmx53cm。伯耆の国名を記し、日野、汗入り、八橋、河村の4郡を掲げ、会見郡、久米郡はない。美保湾と中海が一体として描かれ、弓浜半島や米子の記載はない。
57	湊山金城米子新府	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	天保2年	中町(米子市立山陰歴史館)	米子市	天保2年模写。享保5年10月の原図は、鳥取県立博物館蔵。
58	米子領地面全絵図	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	江戸末期(安政4年以降)	中町(米子市立山陰歴史館)	米子市	64.5cmx95cm。米子の町や道、水路、橋などをかなり詳しく描く。外堀に架かる橋、町人町の名や新土手、一里松なども記す。安政以降の幕末期に描かれた絵図に明治の初年に加筆したもの。
59	米子御城平面図	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	江戸末期	中町(米子市立山陰歴史館)	米子市	171cmx165cm。米子城内の施設をすべて平面図で描く。鈴門から深浦にかけて砲弾が3か所築かれている。
60	出雲街道絵図	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	天保年間	中町(米子市立山陰歴史館)	米子市	26.5cmx全長1063.5cm。松江藩の、江戸から松江までの参勤交代の道中を一巻にまとめたもの。伯耆国に入ると、陰田村から米子城下の大工町・日野町・砦町を通り、神田村・車尾村を経て日野川を渡った。
61	会見郡和田村田畑地続全図	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	天保13年	中町(米子市立山陰歴史館)	米子市	261.5cmx254.7cm。綿井戸が海岸線に直角な短冊形の地割に並行して分布。海岸に近いほど大きく、水利の困難性を表す。
62	会見郡夜見村田畑地続全図	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	天保14年	中町(米子市立山陰歴史館)	米子市	284.6cmx251.0cm。北東の海岸線を明確にしていない(前進する海岸線の変化に配慮か)。米子城下と境を結ぶ境往来を描く(川筋道と外浜街道の旧道)。
63	会見郡下郷村田畑地続全図	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	天保14年	中町(米子市立山陰歴史館)	米子市	141.5cmx333.5cm。川沿いにあったことを示す小字がつかがり、区割りの形状が乱れている箇所は、かつての佐陀川が流れていたと推測できる。
64	会見郡尾高村上市田畑地続全図	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	天保14年	中町(米子市立山陰歴史館)	米子市	346.0cmx280.6cm。尾高城があった地域で、「天神丸」、「中丸」、「本丸」という廓後の小字が読める。街道沿いに城下町時代の名残といえる小市場屋敷、上市屋敷などの小字が見える。
65	会見郡尾高村前市田畑地続全図	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	天保14年	中町(米子市立山陰歴史館)	米子市	312.4cmx288.5cm。江戸時代の日野往来を描き、往来沿いの集落は、北屋敷、清水屋敷などの小字に中世城下町の名残を伝える。

2. 米子市歴史文化遺産リスト（地区別）

66	会見郡福富村田畑地続全図	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	天保13年	中町(米子市立山陰歴史館)	米子市	140.2cm×84.0cm。北流する佐陀川に東南から精進川が合流する付近にあたる。日野往来が通り、精進川を渡って、尾高上り村と川岡村を結ぶ。明治11年に尾高村と合併。
67	会見郡泉村田畑地続全図	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	天保14年	中町(米子市立山陰歴史館)	米子市	171.5cm×289.2cm。日野往来が南北に横切る。小波村から尾高村へ繋がる。
68	会見郡岡成村田畑地続全図	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	天保14年	中町(米子市立山陰歴史館)	米子市	228.0cm×249.0cm。精進川と岡成池を描く。大山へ登る大山道の入り口である、尾高村から一の谷村(言:大山町赤松)に至る道筋がわかる。
69	会見郡観音寺村田畑地続全図	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	天保14年	中町(米子市立山陰歴史館)	米子市	202.3cm×198.1cm。法勝寺川と日野川の合流点付近に中州を掘削し、両川にまたがった堰(米川の取水口)がある。四日市の村名や藤内神社、慈眼庵の位置も分かる。
70	会見郡別所村田畑地続全図	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	弘化2年	中町(米子市立山陰歴史館)	米子市	198.0cm×280.0cm。長者原台地の中央部を占める丘陵地。
71	会見郡上安曇村田畑地続全図	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	弘化2年	中町(米子市立山陰歴史館)	米子市	170.0cm×244.3cm。長者原台地の西端を占める。
72	会見郡下安曇村田畑地続全図	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	弘化2年	中町(米子市立山陰歴史館)	米子市	141.6cm×163.7cm。長者原台地の西端を占める。小松谷側の旧道が明瞭。
73	会見郡大袋村田畑地続全図	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	弘化2年	中町(米子市立山陰歴史館)	米子市	169.3cm×164.7cm。法勝寺川と小松谷川にまたがる地域。法勝寺川右岸は洪水防備のため敷。中央部は整然とした方形の地割で、洪水から逃れた条理型土地割。
74	博労町・勝田村絵図	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	江戸末期	中町(米子市立山陰歴史館)	米子市	94cm×89.5cm。因幡街道沿いに人家が連なる。枳形と一里松のほか、新土手(勝田土手)が描かれる。
75	米子町全図	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	明治3年	中町(米子市立山陰歴史館)	米子市	122cm×192cm。明治3年11月作成。東は勝田村の新土手から西は安倍村まで、北は米原村まで描く。米子町の分限者の土地所有状況を表す。かなり正確な地図で、現在の生活道路に使われる小路も詳しく描く。欄外に、明治3年ごろの米子町を概観する事項を記す。
76	鷺見家短冊帖(鷺見慶明編)	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	昭和14年	中町(米子市立図書館)	米子市	米子詰め鳥取藩士であった鷺見慶明が編集。米子の学芸文化の興隆にも尽くしていた。加須屋武義:序、1939年。新聞文庫。
77	常夜燈(もと前地集落)	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	文政12年	久米町		東福原前地集落の前地荒神にかつてあった。2基の常夜燈のうち1基を移転。「願主 東福原村中」、「石工 源左衛門」と刻む。
78	博覧会記念燈(山陰鉄道開通記念)	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	明治45年	西町	米子市	明治45年山陰鉄道開通記念全国特産品博覧会の開催を記念する灯籠。左上が尖った片刃状の自然石に灯部長方形の割り窓(火袋の穴)を開けたユニークなもの。高さ120cm、台座高さ90cm。
79	京橋擬宝珠柱	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	大正7年	久米町(米子城跡)	米子市	金属製擬宝珠の円柱2本。どちらも園路脇の土中に一部埋もれる。右側の柱に「京」、左側の柱に「大正7年10月」の刻字が見える。
80	灘町橋親柱	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	不詳	久米町(米子城跡)	米子市	コンクリート造りの四角柱2柱。「灘町橋」の刻字。
81	道路改修記念碑	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	昭和3年	西町	米子市	米子電車軌道株式会社が、米子停車場前から、海岸通り、灘町・立町方面を迂回して角盤町二丁目まで、皆生温泉行き軌道と連絡する路線を敷設する際、同社の応分負担のもと米子町が道路改修及び道路新設(大正15年竣工)した。碑には、経過及び寄付者を含めた事業関係者の名を刻む。
82	元錦公園噴水池の噴水鯉口	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	昭和4年	西町	米子市	銅製、高さ95cm、奥行き65cm、胴回り25×33cm。米子市制実施記念として錦公園(現:湊山公園)に噴水池を設置し、昭和3年11月に通水式が行われた。その後、園地拡張整備により噴水は撤去され、現在、米子市児童文化センター前に「鯉口」を花崗岩製の台座に載せて保存されている。
83	鳥取県・島根県境碑	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	昭和15年	陰田町		昭和15年(皇紀2600)に設置された県境の石碑。正面右側に「鳥取縣」、左側に「島根縣」と浮彫り。
84	昭和天皇御野立の碑(明道公民館裏)	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	昭和22年以降	東町	米子市	天皇が昭和22年11月に米子市への巡幸で明道小学校の視察に訪れた(市内の小中学生の代表が迎えた)記念碑。表面・裏面とも摩耗が著しく、平成4年に隣に旧碑の内容を記す碑「昭和天皇御野立所」を再建。
85	石標(久米城外濠跡)	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	不詳	東町	米子市	米子の町の成り立ち、そこに暮らした人たちの生活を知るためにも重要な外濠の存在を示す石碑。
86	淑徳高等女学校跡碑	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	不詳	愛宕町		現在の米子市立湊山小学校の場所にあった。大正13年に開校した町立女子技芸学校は昭和2年に愛宕町に校舎を新築し、昭和3年に米子市立淑徳高等女学校として開校した。その後、市立女子商業学校と名称が変わった。
87	延命地藏(総泉寺)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	愛宕町	総泉寺	願かけ地藏で、大形地藏。
88	みそなめ地藏(総泉寺)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	愛宕町	総泉寺	願かけ地藏でかなうとみそを塗る庶民信仰の地藏である。いぼを直して下さる「いぼ地藏」ともいう。
89	藪根橋地藏(子育て地藏)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	東倉吉町		もとは土手住田の地藏だったが、昭和24年ごろの外堀の埋め立てに伴い藪根橋のたもとに祀られていた。その後、新しく作り変えられた後、現在、覚証院橋のたもとに移された。
90	咲い地藏(わらい)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	東倉吉町		御影石。清水洋一氏(安来市)が制作。昭和59年11月に、有志が地域の活性化と繁栄の願いを込めた、健康の源である笑い(咲い)の名をつけた地藏を建立。石彫家毎年8月23日に地藏盆に供養祭。笑い人生祈願。
91	出現地藏	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	西倉吉町		祠堂に安置。昭和10年3月に加茂川の川底から出現。個人の夢枕に出現し、掘り出された。立て直し祈願。
92	曲がりの地藏(川守り地藏)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	西倉吉町		4体の石仏、中央の地藏菩薩像は座高55cmで請花の台座に座し両手で宝珠を奉持。加茂川筋でも屈指の祠堂(約2m四方、格子造りの開き戸)に安置。祠堂は昭和57年に造営(嘉永4年の棟札あり)。児護祈願。
93	清洞寺岩地藏	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	西町		「清洞寺跡」の岩の前面に祀られる。平和祈願。この場所は、当地方の地藏信仰の一つ「札打ち供養止め」の聖地。

2. 米子市歴史文化遺産リスト（地区別）

94	城山大師と新四国霊場	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	大正14年	久米町		安達弁市が発起人となり、世話人、協力者約500名の浄財と所有者の協力で開設。霊場入口に高さ2.3mの城山大師像(昭和61年再建)。湊山(通称「城山」)の山麓に四国88ヶ所札所巡りを模して寺を勧請し、二仏一対(本尊と大師像)の石仏を祀るミニ遍路コース。
95	サイノカミ(もと米子城入口付近)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	中町(米子市立山陰歴史館)	米子市	双体像(並列立像、浮彫り)、46x43x21cm。切り石を神殿の形状に整え、その中に彫る。男神は手に笏を、女神は鈴を持つように見える。
96	サイノカミ(飯山登山道入り口)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	久米町		石祠(75x31x59cm)を登山道入り口手前の丘陵に、サイノカミとして祀る。飯山と湊山の境を「サイノカミ」と呼んだ。
97	サイノカミ(廣田神社)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	大谷町	廣田神社	ウラジロガシが、サイの神の依り代として祀られ、根元に木の祠が建つ。
98	サイノカミ(犬田神社)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	陰田町	犬田神社	カエデが、サイの神の依り代として祀られる。
99	サイノカミ(陰田:日御碕神社)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	陰田町	日御碕神社	ツバキが、サイの神の依り代として祀られる。
100	胞衣荒神(塩町大師堂)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	宝暦12年	塩町	塩町自治会	安産と子供の成長を祈願したもの。塩町に住んでいた修験者が信仰し、移築。厨子の底面に宝暦12年建立とある。5月28日の祭りは、旗ヶ崎神社の神主を迎えて自治会が行う。
101	蛇塚(飯山)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	久米町		当地に多い「くちなわ・竜神信仰」を伝えるもの。
102	薬師堂の祭り(大谷町)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	～現代	大谷町		毎年8月8日、小学生が「千灯」という灯りに火を入れて薬師堂の参道を照らす行事。100年以上続き、薬師堂の周りの草刈り、飾りつけ(灯は電灯)もすべて子供が行い、参道から堂まで子供が並んで参拝者を迎える。
103	米子城の人柱	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	伝説	～現代	久米町		城の普請に当たり、加茂小町と言われた美人の「お久米さん」が人柱となった。加茂神社の盆踊りの最中に連れ去られたという。
104	陰田地区の民話	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	民話	～現代	陰田町		「赤子岩」、「毘沙門天の出現(小天竺池)」、「金の鶏(天神山)」、「三餓鬼(魔ノ神山)」など当地の山や池に関わる民話がある。
105	大谷家墓所(総泉寺)	未指定	記念物	史跡	墳墓・碑	江戸期	愛宕町	総泉寺	大谷甚吉は、元和3年に越後からの帰途、竹島(現:鬱陵島)に漂着し、海陸産物の豊富であることを発見。その後、幕府の許可を得て町人の村川市兵衛と交代で渡海し、串鮑などの産物をもたらした。甚吉の大形五輪をはじめ一族の墓碑が並ぶ。
106	蘭台先生墓碑ほか(総泉寺)	未指定	記念物	史跡	墳墓・碑	江戸期	愛宕町	総泉寺	山内蘭台墓碑、山内厚徳墓碑銘、山内蘭洲墓碑、山内東園墓碑・沢九之平碯墓銘(稿)、柘植龍齋墓碑あり
107	兌山先生墓碑ほか(感応寺)	未指定	記念物	史跡	墳墓・碑	江戸期	祇園町一丁目	感応寺	岡野兌山墓碑(剣術兌山流祖)、西村大六墓碑(広瀬旭莊撰・書の西村君墓誌銘)あり。
108	横綱若島権四郎の墓	未指定	記念物	史跡	墳墓・碑	近代	愛宕町	感応寺	御幸座の経営のため米子に来て、明治末に町行政でも活躍した大阪相撲21代横綱の墓。
109	超勝寺跡	未指定	記念物	史跡	墳墓 社寺跡	江戸期	祇園町一丁目	個人	加藤光定(加藤貞泰の家老)が開基となって浄土宗の寺を開創。荒尾重臣村瀬氏が菩提所として中興開基し、明治まで続く。村瀬猶衛墓(墓誌銘あり)、荒尾無為一家墓(荒尾分家)、富次精齋などの墓がある。
110	愛宕山(愛宕神社)	未指定	記念物	史跡	社寺跡 祭祀信仰に関する遺跡	不詳	祇園町一丁目・祇園町二丁目・愛宕町		出雲街道沿いにあり、中腹に防火の神様の愛宕神社を祀り、町名の由来になった。天正2年に吉川氏により飯山に築壘される際、鎮守の神として勧請され、慶長12年に初代米子城主によって再建され、伯州一円護国鎮火城内火伏の祈願所として崇敬された。大正4年深浦神社に合祀。
111	榎神社跡と大手口跡	未指定	記念物	史跡	社寺跡 その他政治に関する遺跡	江戸期	東町		江戸時代の武士の家の屋敷神として祀られていた神社の跡。外堀の橋から城の表門へ道が続いていたので「大手口」と呼ばれていた場所で、道幅4間。現在はポケットパーク。
112	円応院(えんのういん)小路	未指定	記念物	史跡	交通	不詳	愛宕町・祇園町一丁目		外堀沿いに建てられていた円応院に因む。円応院は、明暦3年に当山派修験として開創し、宝暦12年に米子城預り家老荒尾氏の帰依を受けて祈願所として現在地に移り「大悲山明応院」と改号。明治5年以降も山伏寺院として唯一存続が許されていた。
113	明王院(みょうおういん)通り	未指定	記念物	史跡	交通	不詳	愛宕町・祇園町一丁目		出雲街道の裏道で、新加茂川左岸側から出雲街道に通じている。正面の愛宕山に向かう通りに「不動山明王院」の標柱が建つ。
114	茶町大工町裏通り	未指定	記念物	史跡	交通	不詳	茶町・塩町・大工町		出雲街道と並行する町並みの裏通りに当たる。
115	塩町橋東小路	未指定	記念物	史跡	交通	不詳	塩町・大工町		かつて、塩町橋という塩町と大工町との境にある橋があり、出雲街道を横切って直角に外堀に流れる水路に架かっていた。橋の東側の、水路に沿った通りで、長さ20間。
116	塩町橋西小路	未指定	記念物	史跡	交通	不詳	塩町・大工町		かつて、塩町橋という塩町と大工町との境にある橋があり、出雲街道を横切って直角に外堀に流れる水路に架かっていた。橋の西側の、水路に沿った通りで、長さ15間。
117	備後小路	未指定	記念物	史跡	交通	不詳	塩町・茶町		塩町と茶町の境にあり、法勝寺(伯耆町)を經由して備後に向かう起点となった小路。東方向に進み、現JR山陰線米子駅の南側を横切り、美吉方向に道があった。
118	牧野小路	未指定	記念物	史跡	交通	不詳	塩町・茶町		出雲街道から、外堀に架かっていた牧野橋に向かう小路。長さ24間。牧野橋を渡ると藩直属の米子組土牧野清左衛門の屋敷があったことに因む。
119	判屋小路	未指定	記念物	史跡	交通	不詳	東倉吉町		東倉吉町の中央部で、中筋から北へ加茂川の旭橋までの小路があった。長さ20間。現在、国道9号の一部。この区域は、大正初期から昭和初期にかけて順次道が拡幅され、昭和45年には国道9号の拡幅も行われた。
120	播磨屋小路	未指定	記念物	史跡	交通	不詳	東倉吉町・西倉吉町		東倉吉町の中央部で、中筋から南へもとの内堀までの小路があった。現在、国道9号の一部。小路沿いに播磨屋という呉服商があったことに因む。大正初期から昭和初期にかけて、この区域は、順次道が拡幅され、昭和45年には国道9号の拡幅も行われた。

2. 米子市歴史文化遺産リスト (地区別)

121	みどり小路	未指定	記念物	史跡	交通	不詳	東倉吉町・西倉吉町		東倉吉町裏の加茂川べりにある小路。大正時代に、長屋に朝日座などの活動写真の弁士が住んでいた。米子領地面全図(江戸時代)に「柳町」と記されている場所。
122	鉄砲小路	未指定	記念物	史跡	交通	不詳	東倉吉町・西倉吉町		東倉吉町と西倉吉町との境にある小路。長さ34間。外堀に架かる葦根橋(鉄砲小頭橋)を渡ると、米子荒尾氏の鉄砲足軽五十人組が居住する五十人鉄砲町があったことに因む。
123	覚証院小路	未指定	記念物	史跡	交通	不詳	東倉吉町・西倉吉町		東倉吉町と西倉吉町との境にある小路。加茂川に架かる覚証院橋を渡ると、真言宗の覚証院があったことに因む。覚証院は、当初、尾高地内に建立された後、米子城下内で度々移転し、享保5年西倉吉町の外堀北部に移転したと伝わる。
124	羽織屋小路	未指定	記念物	史跡	交通	不詳	西倉吉町		中筋から加茂川に架かる郵便局橋までの小路。小路の東側に呉服商羽織屋があったことに因む。羽織屋は、藩政時代には代々米子荒尾氏の仕立物御用商を営み、城内の呉服などを一手に取り扱っていた。
125	稲荷小路	未指定	記念物	史跡	交通	不詳	西倉吉町		郵便局橋から入り朝日町に向かう、森山小路までの小路。森山小路の手前にある「木野山神社」が赤い鳥居であったことに因む。
126	陰田番所跡	未指定	記念物	史跡	その他政治に関する遺跡	江戸期	陰田町	個人	伯耆・出雲の国境の番所跡。国境の警備と西伯耆の警察権を持つ重要な番所であった。制札場も置かれた。
127	鳳翔閣跡	未指定	記念物	史跡	その他政治に関する遺跡	明治37年	西町	米子市	明治40年、当時の皇太子(大正天皇)の山陰行啓の宿泊所。富次精斎建築の近代和風建築(入母屋造檜皮葺の平屋建、書院造風御殿)。鳳翔閣正面門柱や皇太子お手植松(クロマツ)が残る(移植)。
128	中江藤樹生育の屋敷跡	未指定	記念物	史跡	旧宅	江戸期	加茂町二丁目	個人	近江聖人といわれ、江戸初期に陽明学派を始めた学者が、9歳から約1年を過ごした屋敷があったとされる。本格的な学問を始めた出発点であり、昭和45年、屋敷跡(元就将小学校の跡地)とされる一角に「成長之地碑」が立てられた。
129	村河直方屋敷跡(村河直方公彰忠碑)	未指定	記念物	史跡	旧宅	江戸期	西町	国	荒尾氏筆頭家老の村河家の屋敷跡。直方は米子の監座、蟬座等の藩経営に手腕を發揮した。また、尊王派の中心人物として討幕運動に加わった。昭和12年に、顕彰碑が鳥取県知事らにより跡地に建立された。
130	湊山公園	未指定	記念物	名勝	公園	明治期以降	西町	米子市	明治期の錦公園から始まる公園施設。錦海と称される中海の眺望が素晴らしく、また、桜の名所としても市民に親しまれている憩いの場所。園内には猿が島、噴水の鯉、白井喬二文学碑、阿波野青畝句碑などがある。
131	宮井の井戸(賀茂神社)	未指定	記念物	名勝	井泉	江戸期以降	加茂町二丁目	賀茂神社	賀茂神社境内に湧く米子三名水の一つであった井戸。県道拡幅で井戸は境内地に移転した。
132	やないの井戸(桂住寺)	未指定	記念物	名勝	井泉	江戸期以降	愛宕町	桂住寺	出雲街道沿いにあり、米子城下に入る前の湧水場。道行く人々の御湯きをいやした。米子市に水道が普及する前の著名な井戸。
133	米子湊山の自然	未指定	記念物	天然記念物	植物動物		久米町	米子市	①1974年、中海鳥獣保護区設定。山地の鳥が豊富。②優れた植生。スダジイを優占する照葉樹林であるが、斜面にはタブノキ・カラスザンショウなど多くの樹種も加わり、多様な林相が見られる。自然林の周辺は、暖地要素のクロガネモチ・ヤマモモ、海岸要素のヒメズリハ・ヤブニツケイなどが見られる。
134	愛宕山のスダジイ・ヒメズリハ林	未指定	記念物	天然記念物	植物		愛宕町		優れた植生。市街地であって、比較的自然的な植生が残る。おおそはスダジイ林で、コナラ・クリ・ヤマザクラなどが混生し、常緑と落葉の調和のとれた自然林を形成。
135	ドウド山のアカマツ・コナラ林	未指定	記念物	天然記念物	植物		陰田町		優れた植生。特記植物:タカノツメ・ガンピ

義方地区

No.	名称	指定等	区分			年代	所在地	所有者	概要
			分類1	分類2	分類3				
指定等文化財									
1	後藤家住宅 主屋・一番蔵・二番蔵	国	有形文化財	建造物	建造物	江戸中期	内町	個人	主屋は正徳4年の建築と伝えられ、面積の半分近くを作業用の土間と板の間で占める。一番蔵、二番蔵も寛政期以前の建築と考えられる。道路に面した表側は格子が並び、屋根はこの地方では珍しい本瓦葺。後藤家は、江戸時代を通じて回船問屋業を営み、米子の海運業の中心であった。
2	心光寺庭園	県	記念物	名勝	庭園	江戸期	寺町	心光寺	庭園は庫裏の北側にある池庭で、池は湧き水によるもので、「心」の字の形につくられている。左右から伸びる岬はそれぞれ鶴と亀をかたどっており、来待石を用いた護岸の石組みは市内の深田氏庭園との共通性が感じられる。小規模だが、近世の寺院庭園の様子をよく伝えている。
3	龍虎図屏風	県	有形文化財	美術工芸品	絵画	江戸後期	灘町	個人	鳥取ゆかりの絵師として江戸時代後期に活躍した、片山楊谷の作品。楊谷の作例の中では珍しい、銀箔を全面に押しつけた総銀地屏風で、銀箔の上に薄く墨を刷いた大画面に、墨を用いて雲龍と竹虎を描いている。
4	横田内膳墓碑および遺品	市	記念物	史跡	墳墓	江戸期	寺町	妙興寺	横田内膳正村詮は初代米子城主中村一忠の家老で、米子城と城下18町と呼ばれる町並みを完成させ、伯耆一円の政策に腕を振った功労者。墓碑のほか、横田内膳正村詮の画像と遺品の木杯を所蔵。
5	米子城銃	市	有形文化財	美術工芸品	歴史資料		立町二丁目 義方町	個人 米子市	鹿島分家所蔵分:嘉永5年の解体修理前の米子城四重櫓に飾られていた2基の1つ。藩の命令で全額費用を肩代わりした鹿島本家と分家に下賜。義方小学校所蔵分:嘉永5年の四重櫓修理のために造られ、乗せられていたもの2基。明治維新後伊吹市太郎へ払い下げられ、創設当初の義方小学校校舎の屋根に飾られていた。
6	坂口家住宅主屋	国登録	有形文化財	建造物	建造物	明治25年	尾高町	個人	短冊型の敷地に、周囲に建物を建て、中央に庭を配したつくり。京都の職人によって建てられたと伝えられる主屋(切妻造2階建て)は、外観は伝統的な町家だが、屋内に通り庭ではなく畳廊下を持つ町家でない間取り。玄関屋敷の建具などに、明治期の上流商家の趣向をうかがうことができる。

2. 米子市歴史文化遺産リスト (地区別)

7	坂口家住宅離れ及び渡り廊下	国登録	有形文化財	建造物	建造物	明治25年	尾高町	個人	木造平屋建・入母屋造・棧瓦葺。離れは、主屋から渡り廊下を介してつながる。西面は外塀を兼ねており、伝統的なたたずまいを残している。
8	坂口家住宅土間倉	国登録	有形文化財	建造物	建造物	明治25年	尾高町	個人	敷地の中ほどに立つ。南半部に土間の納屋、北半部に床や竿縁天井を張る部屋を設ける。部屋の下に地下室がある。
9	坂口家住宅土蔵	国登録	有形文化財	建造物	建造物	明治25年	尾高町	個人	土蔵造り二階建。北側の正面は腰高の海鼠壁。外堀側に庇付きの窓を設け、土蔵が立ち並ぶ堀沿いの景観の一角をなす。
10	坂口家住宅門及び塀	国登録	有形文化財	建造物	建造物	明治25年	尾高町	個人	北側の道路に面して設けた。門の両脇には総延長6.9mの塀がある。
11	旧外江屋店舗(米子まちなか観光案内所)	国登録	有形文化財	建造物	建造物	慶応2年(棟札)	灘町一丁目	個人	木造つし2階建て。緩い屋根勾配、大黒柱なし。L字型の土間、土間の吹抜けに神棚あり。長さ4間の軒用材の大梁あり。外江屋は魚屋・問屋を営んでいた。米子の小規模町家の中では古い遺構で、米子の商家の変遷を知る上で貴重。
12	判屋船越家住宅主屋	国登録	有形文化財	建造物	建造物	明治後期(明治30年ごろ)	天神町二丁目	個人	米子城の外堀を兼ねていた加茂川に北面する船問屋。南北に長い敷地の北辺に通りに面して主屋を建て、南辺の東蔵と西蔵の間に裏門を開く。主屋は切妻造り平入り棧瓦葺き、東を土間、西を二列四室とし、ナカノマ上部を吹抜けとする。西に前庭を設けた一列三室の座敷を落棟で接続する。
13	判屋船越家住宅東蔵	国登録	有形文化財	建造物	建造物	江戸末期	天神町二丁目	個人	土蔵造り二階建て、切妻造り妻入り棧瓦葺き。いずれも外壁は軒裏まで塗込め漆喰塗仕上、腰を海鼠壁とし、敷地外郭の景観をつくる。
14	判屋船越家住宅西蔵	国登録	有形文化財	建造物	建造物	明治後期	天神町二丁目	個人	土蔵造り二階建て、切妻造り妻入り棧瓦葺き。いずれも外壁は軒裏まで塗込め漆喰塗仕上、腰を海鼠壁とし、敷地外郭の景観をつくる。
15	判屋船越家住宅裏門	国登録	有形文化財	建造物	建造物	明治後期	天神町二丁目	個人	敷地外郭の景観をつくる。
未指定文化財									
1	安国寺本堂	未指定	有形文化財	建造物	建造物	文化2年(棟札)	寺町	安国寺	桁行12.98m、梁間10.12m、入母屋造・向拝一間・棧瓦葺。元禄8年に大寺(現:伯耆町)から現在地に移され、再建されたと伝える。背面に位牌堂を増築し、天井を張替えた以外は当初のまま、損傷は少ない。江戸時代後期の山陰曹洞宗本堂の標準的な作例。
2	心光寺本堂	未指定	有形文化財	建造物	建造物	昭和45年頃	寺町	心光寺	鉄筋コンクリート造り、12本の柱で支えられた大屋根が四方に伸びる。島根県庁舎を設計した安田臣による設計で、山陰の現代モダニズム建築を代表するもの。宝暦6年に再建された本堂は昭和45年に焼失し、建替えた。
3	心光寺山門と観音堂と鐘楼	未指定	有形文化財	建造物	建造物	江戸期	寺町	心光寺	境内の伽藍配置は江戸期に再建された当時の古い配置のまま。鐘楼・観音堂などもある。木造山門・観音堂・鐘楼未調査。
4	本教寺本堂	未指定	有形文化財	建造物	建造物	未調査	岩倉町	本教寺	日蓮宗。天正年間に吉川広家の臣、古曳吉種が米子築城奉迎の際、湊山に造営したのが始まり。吉種の戦死後、吉川広家により灘町に移され、再度城下整備に伴い現地に移された。木造本堂未調査。
5	福蔵院本堂と山門	未指定	有形文化財	建造物	建造物	未調査	寺町	福蔵院	曹洞宗。寺伝によると、はじめ慶長15年に日野町に道場として創設された。延宝2年に寺町に移された。木造本堂・山門未調査。
6	瑞仙寺本堂と山門	未指定	有形文化財	建造物	建造物	未調査	寺町	瑞仙寺	曹洞宗。慶長15年、加藤貞泰の帰依により、日下瑞仙寺8世陽山祖全が建立して移住。木造本堂・山門未調査。
7	妙興寺本堂	未指定	有形文化財	建造物	建造物	未調査	寺町	妙興寺	日蓮宗。安房国三好出身の日暹聖人が永禄7年に米子に草庵を結び、富平山菩提院と称し、後、横田村詮が菩提寺とした。木造本堂未調査。
8	実成寺本堂と山門	未指定	有形文化財	建造物	建造物	未調査	寺町	実成寺	日蓮宗、京都妙顕寺の末であった。当初、玉泉院日実により倉吉に創設され、慶長年間に米子城下建設に伴い、日実により米子に移された。木造本堂・山門未調査。
9	吉祥院山門	未指定	有形文化財	建造物	建造物	未調査	灘町二丁目	吉祥院	真言宗御室派。初め、極楽寺と称し、創立年代不明だが、中世末には創設された。世には吉祥院と称し、勝田大明神の別当を勤めた。木造山門未調査。
10	宇気・川口神社本殿	未指定	有形文化財	建造物	建造物	不詳	内町	宇気・川口神社	流造 1間四方。近世初期に錦公園近くにあった弁財天を宇気神社に移したといわれる。享保21年、境港より伊勢両宮祭神を内町に移し河口社として祀った。明治5年に両社を合併し、改称。木造社殿未調査
11	旗崎神社本殿	未指定	有形文化財	建造物	建造物	未調査	灘町三丁目		大社造変形 6尺x9尺。創立年代不詳。木造本堂未調査
12	妙善寺本堂	未指定	有形文化財	建造物	建造物	未調査	寺町	妙善寺	日蓮宗。慶長元年日受商人の開基という。本堂に祀る日蓮像は日受の隋神仏で永禄4年の開眼という。境内左側の妙見堂には、清正講を守護神として妙見大菩薩を祀っている。木造本堂未調査。
13	鴨御祖神社本殿(糺さん)	未指定	有形文化財	建造物	建造物	未調査	立町	鴨御祖神社	高砂山上にあり、江戸時代には糺大明神と称した。初め博労町にあったが、火災によって宝暦7年に現在に移されたという。歴代米子城主の祈願所で、社領は4石7斗余。明治初年に鴨御祖神社と改称。流造木造本殿は平成17年再建。
14	旧角盤町郵便局	未指定	有形文化財	建造物	建造物	昭和10年(台帳)	角盤町三丁目	個人	木造瓦葺き2階建て洋館造り。昭和59年まで郵便局。局移転後、平成元年から一階前面部分を本屋「角盤文庫」として利用していた。同26年に当時の外装色に復元し、建物を修復した。
15	後藤駅駅舎	未指定	有形文化財	建造物	建造物	昭和13年	米原	西日本旅客鉄道株式会社	木造平屋建。改造されている。
16	坂口合名ビル	未指定	有形文化財	建造物	建造物	昭和6年(昭和39年改造)	尾高町	個人	本館(鉄筋コンクリート造・中二階付2階建て・陸屋根)設計:吉田善次郎、施工:宅和三郎。本社営業所として竣工(現在移転)。本格的な古典様式を取り入れた市唯一の建築。洋風商業事務所建築として顕著なものであり、建物の内外部に施された装飾も見事な商都米子の商業活動のシンボリック建物である。
17	坂口本家客殿	未指定	有形文化財	建造物	建造物	未調査	尾高町	個人	近代和風建築の傑作
18	坂口本家茶亭「静寂庵」	未指定	有形文化財	建造物	建造物	未調査	尾高町	個人	近代和風建築の傑作

2. 米子市歴史文化遺産リスト（地区別）

19	旧中村金物店	未指定	有形文化財	建造物	建造物	大正14年ごろ	内町	個人	本館（鉄筋コンクリート造2階建・陸屋根）設計：原八十吉、米子市では最初期の鉄筋コンクリート造の建物。もともと倉庫として建てられた倉庫建築で、1、2階とも階高が相当高く、階段の勾配もきつい。柱に浮彫や溝を施し、正面ファサード上部にも商標を添え、洋風スタイルを意識している。
20	後藤家分家長楽軒	未指定	有形文化財	建造物	建造物	明治後期	内町	個人	江戸時代の茶室「松風庵」を探りこんだ、主室8畳、自室6畳を中心とする数寄屋風の近代和風建築。明治40年の皇太子山陰行啓の際に随員同行した東郷平八郎を迎えるために建てた、後藤家の離れ座敷。曳家され移動しているが、間取り及び形態は建築当時のまま。
21	旧竹の屋旅館（吉川家住宅）	未指定	有形文化財	建造物	建造物	明治元年（台帳）：奥棟	灘町一丁目	個人	加茂川沿いの川座敷（離れ）。もとは、他の旅館と同じく、表棟、中棟、奥棟で構成されていた。昭和38年に表棟と中棟を合わせて建替えたが、2階建ての奥棟（客室）はそのまま残る。江戸後期建築の可能性あり。
22	津田家住宅	未指定	有形文化財	建造物	建造物	明治前期（推定）	灘町一丁目	個人	主屋・土蔵・裏門。もと綿業を営み、背後を流れる加茂川を水運として利用した典型的な商家。主屋の規模は間口4間×奥行7間、敷地の奥行約16間。正面2階の出格子や海鼠壁が特徴的。主屋の奥に加茂川に面して荷揚げ用の土蔵があり、水門と石段を設けている。
23	旧梅田楼・米子共立検番（安藤家住宅）	未指定	有形文化財	建造物	建造物	明治41年	灘町二丁目	個人	明治期に建てられた貸座敷「梅田楼」（後に、支店）の座敷棟の一部と事務所棟。大正11年に、米子共立検番となった。幾分改良されて現存。吉祥院前通りにある門は、往時の花街の様子を伝える。
24	岡本一銭屋	未指定	有形文化財	建造物	建造物	昭和9年（台帳）	立町一丁目	個人	一列奥行3室、2階建ての町家。中の間上部に天井はなく、屋根裏まで筒抜け、天窓も付く。店上部はつし2階で天井は低く、小屋梁も露わ。町屋の特色を維持している。1階庇の上に乗る「一銭屋」の銅製の看板（昭和25年）は目を引き、懐かしい風情を残す駄菓子屋。
25	飛田材木店	未指定	有形文化財	建造物	建造物	明治中期	立町一丁目	個人	主屋（2階建て）・材木蔵・離れ。間口7間×6間の3列3室の大規模な町家。ミセ部分はL字型の間で、東側の土間は展示用の長材を立てかけるため2階は吹抜けの特徴をもつ。主屋の奥に、材木保管のため棟が高い材木蔵（7間×2間）がある。
26	石田家住宅	未指定	有形文化財	建造物	建造物	明治6年（祈禱札）	立町二丁目	個人	もとの主屋は、明治6年に建てられ、間口が3間半の米子の典型的な町家。昭和に、隣の空き家を買取り改修して、主屋とつながる内廊下を設けて、実質2列3室の間取りの家屋とした。表通りからの外観は変わらないため、家屋が2軒あるように見える。加茂川沿いに蔵を持つ。
27	旧やおや（かねとく）店舗	未指定	有形文化財	建造物	建造物	明治25年（台帳）	立町二丁目	個人	吹抜けがなく総二階になった、明治中期の特徴が表れた木造瓦葺2階建ての町家。平成25年頃まで八百屋を営んでいた。その後、住居用に改修された。
28	鹿島茶舗	未指定	有形文化財	建造物	建造物	明治後半	立町二丁目	個人	主屋は、間口3間半、奥行12間の2階建て。1階はトオリニワのある一列奥行4室で、往来から、ミセ、中の間、仏間、奥の間と並ぶ。中の間は吹抜け。主屋の奥には、附属屋、土蔵などがあり、米子の伝統的な町家の屋敷構えを伝える。
29	日の出湯	未指定	有形文化財	建造物	建造物	大正14年	立町三丁目	個人	大正時代創業と伝わり、約100年の歴史を持つ銭湯。外観は奥行きが長く屋根は石州瓦葺き。入口にある手作りの扇形の看板と窓の格子が目目を引く。糺神社の通り沿いにあり、町なかの銭湯の趣を今に伝えていて、貴重。
30	小西本家住宅	未指定	有形文化財	建造物	建造物	大正年間（推定）	岩倉町	個人	町屋（総二階建て）素木造りの建物。主屋の間口は広く、間取りは2列3室。
31	中小西家住宅	未指定	有形文化財	建造物	建造物	明治20年頃	岩倉町	個人	小西家当主の親族が住む町家（二階建て）。主屋のトオリニワ中央上部には天井がなく、小屋組みの構造がむき出しになっていた。中庭に台所を作り、土間には隣家（本家）につながる勝手口があった。
32	小西紙分店	未指定	有形文化財	建造物	建造物	明治20年頃	岩倉町	個人	町家（つし2階建て）、主屋・土蔵・離れがある。主屋のミセ側にあるつし2階は、中の間を見通すことができる窓があり、1階の売り場の商品の保管場所兼従業員の休憩場所として使われた。
33	長田茶店本社事務所（旧こらぼしゃ）	未指定	有形文化財	建造物	建造物	明治時代末又は大正時代（推定）	岩倉町	個人	桁行2間、梁間7間の建物が2棟並んで立つ長屋風な木造2階建ての町家。2棟ともに2階に出格子が付く。平成11、12年に乾物屋、仏具屋などであった空き店舗をギャラリーや地元工芸作家の活動拠点として改装し、町家の新しい活用を試みた。
34	岩倉ふらっと	未指定	有形文化財	建造物	建造物	明治44年	岩倉町	個人	1列3室で総二階の町家（つし2階建て）。リノベーションして、シェアハウス、地域交流スペース年々利用している。中の間を吹抜けに改造。
35	ながた茶店（長田家）	未指定	有形文化財	建造物	建造物	江戸後期（推定）	岩倉町	個人	店は、主屋とその右の棟の低い附属屋の2棟からなる。主屋は2階が低く、白漆喰の大壁で窓に格子が入る。トオリニワ沿いの中の間上部は吹き抜けで、外観、内部とも米子の町家の特徴をよく留める。2階は、階段を上ったところが茶室で、その奥が床の間・棚・付書院の備わった客座敷（8畳）。
36	夢蔵（ゆめくら）	未指定	有形文化財	建造物	建造物	江戸時代（推定）	尾高町	個人	土蔵（2階建て）。1階の一部がくり抜かれて、加茂川へ降りるための階段が設けられ、川に面した入口から荷揚げされたことがわかる。平成12年の鳥取県西部地震により被災、同20年に白壁土蔵として修復、再生した。
37	レストラン皇（すめらぎ）	未指定	有形文化財	建造物	建造物	明治時代（推定）	尾高町	個人	倉庫と土蔵2棟。倉庫はレストランに、土蔵2棟は客室にリノベーションされている。平成元年に、道路に面する主屋部分は取壊した。
38	京橋	未指定	有形文化財	建造物	構造物	昭和34年（建替え）	灘町一丁目・内町	米子市	長さ約12.5m、幅約6m、欄干は御影石製の重厚な造り。米子城下町において外堀（加茂川）に架かる橋で最も古く由緒ある橋。江戸期に、たもとに制札場が置かれた。明治40年に皇太子（後の大正天皇）の行啓に際し欄干に擬宝珠をつけた美しい橋に架け替えた。水害の破損により昭和9年に付け替え、現在の橋は、昭和34年に架け替えた。
39	後藤朗知家文書	未指定	有形文化財	美術工芸品	古文書	享保以降	内町72	個人	後藤家は、江戸時代に、造船業から回船業に転じて財を成した。回船業関係、藩主等への融資関係、米子銀札場関係、新田開発関係、荒尾家勝手積り関係、田畑買得関係など。
40	鹿島恒勇家文書	未指定	有形文化財	美術工芸品	古文書	江戸期	立町二丁目	個人	近世日本の商家。店算用帳、藩や荒尾家氏等への公用金計算書、請願達書、文芸関係書など多岐多量。

2. 米子市歴史文化遺産リスト（地区別）

41	坂江和幸家文書	未指定	有形文化財	美術工芸品	古文書	安政年間	灘町一丁目	個人	坂江屋大福座上帳(商売掛売帳)。各種職業の町民220名と購入した65種を記録し、幕末安政年間の米子の消費生活の一端が知れる。
42	長田吉太郎家文書	未指定	有形文化財	美術工芸品	古文書	明治4年	岩倉町	個人	「米子総町船御改帳(明治4年: 廃藩置県後)」米子港での運輸関係船舶の町ごとの調査記録で、近世に遡って実態を推定しうる。「岩倉町諸商売書上帳(明治4年: 廃藩置県後)」
43	伊勢参宮道中記	未指定	有形文化財	美術工芸品	古文書	嘉永2年頃	内町	個人	江戸後期、大坂の近江屋市次郎が、発刊して、利用者へ無料配布した小型袖珍本。嘉永2年頃のものとして推定。米子を起点として、上方往来(出雲街道)を経て大阪に至り、さらに、伊勢参宮と京までの道順・里程を記す。
44	米子瑞仙寺関係文書	未指定	有形文化財	美術工芸品	古文書	安政6年～文久元年	寺町	瑞仙寺	「米子瑞仙寺由来」、「毘沙門天王上棟誌銘并序」、「金毘羅御社御造営諸事控」(瑞仙寺境内の金毘羅社の、安政6年から文久元年にかけての遷宮の記録)など。米子町とその周辺で広く信仰され、信仰の実態を知る上でも貴重。
45	涼善寺関係文書	未指定	有形文化財	美術工芸品	古文書	元禄年間(推定)、慶安4年(推定)	岩倉町	涼善寺	「涼善寺縁起」(涼善寺過去帳の慶長～元禄年間を記す。元禄年間の成立か)。「涅槃図施主連名(裏書)」(おそらく慶安4年に作られ、文政6年に補修された)と推定など。
46	実成寺涅槃図施主連名(裏書)	未指定	有形文化財	美術工芸品	古文書	寛文9年	寺町	実成寺	寛文9年。涅槃図作成当初の事情が知られる裏書があり、寺院の主な檀家を知ることができる。
47	浄土宗心光寺記	未指定	有形文化財	美術工芸品	古文書	享保18年など	寺町	心光寺	享保18年の第11世覚誓による由来記が中心
48	妙興寺請願書控	未指定	有形文化財	美術工芸品	古文書	宝暦2年、安永8年	寺町	妙興寺	主として、寺領に関する願書をまとめたもの
49	福蔵院諸記録写控帳	未指定	有形文化財	美術工芸品	古文書	享保2年ほか	寺町	福蔵院	土地寄進の実体を示す記録「当寺日牌畑施主覚牒(享保2年)」や棟札写しなど
50	吉祥院関係文書	未指定	有形文化財	美術工芸品	古文書	文政2年ほか	灘町二丁目	吉祥院	吉祥院由緒・略縁起、荒尾近江吉祥院参詣記(文政2年に荒尾氏が祈願所へ参詣した記録)
51	津田友三郎氏所蔵文書	未指定	有形文化財	美術工芸品	古文書	文久3年、明治4年	灘町一丁目	個人	木綿や古手などの商売した、江戸時代末期に米子の有力な仲買商。本家は散失、分家の保存分。古手買立帳(文久3年)と古手物中買免札規則書(明治4年)。
52	米子町魚宿株連中嘆願書控	未指定	有形文化財	美術工芸品	古文書	慶応元年	灘町一丁目	個人	外江屋治郎八ほか8名から魚座御役所への嘆願書
53	海潮庵祠堂の棟札	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	文化10年	旗ヶ崎一丁目		文化10年、妙見菩薩像霊殿修復の棟札あり。妙見菩薩像のほか、弘法大師立像、座像(木像、石像)などを安置。昭和5年大師堂再建。平成元年に祠堂新築。
54	旗ヶ崎一区荒神社の棟札	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	寛政元年	旗ヶ崎五丁目		寛政元年の荒神社の棟札に、当時の米子城代家老「村河与一右衛門」の名を記す。その他、安政6年の歳徳神を勧請した棟札あり。
55	弘法大師立像(新田完成記念寄進)	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	弘化3年	旗ヶ崎一丁目		新田完成記念に寄進した仏像の台座に新田施主12名(農民)を刻む。旗ヶ崎一区から二区にかけての地域は農民が協力して開発した土地とわかる。
56	灘町橋親柱	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	明治43年	天神町二丁目 公園内	米子市	四角柱2柱。右側に「なだまち(旧仮名)はし」、左側に「明治43年9月20日架設」と刻む。
57	京橋擬宝珠親柱	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	昭和9年	天神町二丁目 公園内	米子市	金属製の擬宝珠柱2柱。右側に「きやうはし」、左側に「昭和9年6月改架」と刻む。
58	社日塔(旗ヶ崎二区荒神社)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	天保11年	旗ヶ崎三丁目		石碑の高さ82cm、五角形の一边17.5cm。花崗岩製。五角形の石柱の各面に、天照大神五穀成就、埴安姫命、少彦名命、大己貴命、倉稲魂命の五神の名を刻む。
59	旗ヶ崎二区荒神社の石碑	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	弘化2年	旗ヶ崎三丁目		祭神である大歳神、金毘羅大権現・大山智明権現の石碑
60	千鉢地藏(涼善寺)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	天保年間～慶応年間	岩倉町	涼善寺	かつて、間口3間半×奥行3間の「千鉢地藏堂」があり、天保年間～慶応年間まで毎年7～80鉢の地藏が奉納され、いずれも亡き幼児を供養するものだった。約750鉢が残されており、円光大師堂に祀る。
61	法華塔(法華地藏)(旗ヶ崎地区)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	文化2年	旗ヶ崎二丁目		海の交通安全を祈って舟入に建てた「南無法蓮華経」の石碑。この場所に、昔の灘町新田(いまの旗ヶ崎一区から旗ヶ崎二区)の地区人用の「舟入」があった。案内看板あり。
62	延命地藏・子育て地藏・六地藏(涼善寺)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	平成27年	岩倉町	涼善寺	本堂の改築に伴い、新たに建立した。長寿祈願。花崗岩
63	寺町地藏(北向き地藏)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰		尾高町		建物1階の一部(寺町側)に小祠を設けて、安置。開運祈願
64	福蔵院六地藏	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	享保14年、延享元年ほか	寺町	福蔵院	六地藏は幸福祈願。脇に、享保14年、延享元年の地藏あり。
65	瑞仙寺六地藏	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	昭和53年	寺町	瑞仙寺	若返り祈願。花崗岩(白ミカゲ)製
66	安国寺六地藏	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	寺町	安国寺	平和祈願。
67	法蔵寺の地藏(みそなめ地藏ほか)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	大正2年など	寺町	法蔵寺	かなうとみそを塗る庶民信仰のみそなめ地藏は、イボ取り祈願。その他、大正2年などの古い地藏が集積している。
68	与太郎地藏	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	正徳元年	立町一丁目		木祠に安置。自然石の石仏の正面に「正徳元年卯五月廿八日 松永与太郎」と刻む。昭和9年9月の台風水害の際、民家前の承水路に流れてきたのを祀ったのが始まりという。新転祈願。
69	天神橋地藏	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	昭和47年	天神町一丁目		個人宅の地藏だったが、昭和47年新しく作り変えて祀る。付近には、かつて天満宮と稲荷社が並んでいた。学業成就祈願。
70	中ノ棚橋地藏(なかたなの橋番さん)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	天神町二丁目		自然石の石碑で、表面にかすかに刻字。行脚の尼僧の供養塔であったという。この周辺にかつては井戸があり、その脇に地藏が祀られていたという。商売繁盛祈願。
71	塚と橋地藏(五十人町の地藏)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	天神町二丁目		昭和55年頃に、天神町の裏町から鳥取大学医学部グラウンド拡張のため移転した。明治の中頃には、錦公園へ向かう畔にあったという。円満祈願。
72	橋守り地藏(京橋地藏、酒飲み地藏)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	内町		江戸期、米子湊に入港した船からの物資の保管、流通の運営にあたった業者の「永野屋」は、京橋の管理人である「橋守り」を代々務めた。この地藏の管理も務めた。京橋南詰のたもとにあり、交通安全祈願。

2. 米子市歴史文化遺産リスト（地区別）

73	橋番地蔵(京橋の地蔵)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	灘町一丁目		「南無阿弥陀仏」と刻まれ墓石と考えられる。京橋北詰のたもとにあり、お許し祈願。京橋のたもとには、かつて刑場があった。
74	みなと地蔵(児護地蔵)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	昭和25年	灘町二丁目		米子港敷地内に建つ。コンクリートブロック造ブリキ屋根の祠に安置。児護祈願
75	吉祥院地蔵(青石地蔵)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	嘉永年間	灘町二丁目	吉祥院	嘉永年間、米子城四重櫓石垣修理の際に陰田の石切り場から採取した青石を鹿島家が寄進し、地蔵に刻んだと伝わる。菅笠が印象的。健康祈願。
76	つなぎ地蔵(尾高町)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	平成以降	尾高町		彫刻家清水洋一(安来市)の製作。涼善寺などが寄贈した。良縁祈願。
77	七夕(宇気河口神社)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	寛政年間～現代	内町		寛政年間から、七夕祭の際に、七夕飾りを町中の人々が納めるようになった。現在も行われており、米子の夏の風物行事。
78	トンドさん行事(旗ヶ崎一区)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	～現代	旗ヶ崎一区		火渡し、くじ引き。火入れは、1番トウヤがする。神輿は公民館前に祀る。神輿は旗ヶ崎一区荒神宮に、お宮さんは道路向いの地区公民館に安置。トンド場:地区公民館。行列なし。
79	トンドさん行事(旗ヶ崎二区)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	～現代	旗ヶ崎二区		火入れは、1番トウヤがする。神輿はトンド場に祀る。神輿は旗ヶ崎一区荒神宮に安置。行列なし。
80	盆踊り(旗ヶ崎地区)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	民俗芸能	昭和45年(再復活)～現代	旗ヶ崎二丁目		富益村(宝永5年開拓)から習ったと伝わる。(戦前)大正初期～昭和初期、旗ヶ崎青年団の踊りは、美声の唄い手「塚沢芳太郎」を擁して近郊で優勝を重ね、興隆期が約20年あった。(戦後)昭和27年復活するも自然解散、同45年再復活し、「旗ヶ崎音頭」も復活継承。
81	古曳吉種の墓(本教寺)	未指定	記念物	史跡	墳墓・碑	不詳	寺町	本教寺	天正年間に吉川広家の家臣で、米子築城奉行となった古曳吉種の墓。
82	村川市兵衛の墓(万福寺)	未指定	記念物	史跡	墳墓・碑	江戸期	寺町	万福寺	米子の商人で、大谷基吉とともに幕府の許可の元、元和4年以来、隔年ごとに竹島渡海した。漁撈などに従事して海陸産物を持ち帰り、渡海は、元禄9年まで代々約80年間続いた。
83	田代霞嶽墓碑(吉祥院)	未指定	記念物	史跡	墳墓・碑	不詳	灘町二丁目	吉祥院	田代霞嶽先生之墓(墓誌銘)あり。
84	本小路	未指定	記念物	史跡	交通	不詳	尾高町(西倉吉町)		加茂川の流が尾高町で左側に直角に曲がる場所の角(曲がり地蔵がある。)から朝日町の森山小路までの小路
85	新小路	未指定	記念物	史跡	交通	不詳	尾高町・角盤町三丁目		江戸時代後期に、新設された米子藍製座に通うために新しくできた道。称名寺繩手道近くまでの、幅2間・長さ108間の道で、その後、米原津出、伝四郎道につながった。明治以降、角盤町方面の宅地開発に伴い人通りが増えて、道幅を拡張した。
86	宮本小路	未指定	記念物	史跡	交通	不詳	尾高町		尾高町の中筋裏を新小路から西倉吉町に抜ける通り。この一角に、有力商人宮本氏の広大な屋敷があったことに因む。宮本氏は米子城下町が形成された頃に日野郡俣野村から移住し、町年寄や藩の綿会所の銀札方などの要職を勤めた。
87	社園小路	未指定	記念物	史跡	交通	不詳	尾高町		中筋の裏通りである宮本小路から北側の朝日公園に向かう小路。米子町絵図(明治3年)にも載る古い道の一部。小路の奥には、蛭子社の元社地があったともいわれ、明治中期には米子製糸工場とその社宅もあった。
88	藍座小路	未指定	記念物	史跡	交通	不詳	尾高町		新小路から米子藍製座に向かう道。藩の藍玉製造所が、文化10年頃から元治元年にかけて、尾高町裏の現朝日公園から涼善寺裏の地域に設けられ、藍の製造販売の統制を図った。
89	小町香小路	未指定	記念物	史跡	交通	不詳	朝日町・角盤町二丁目		国道9号から鳥取銀行米子中央支店の横を通過して朝日町へ向かう通り。小町香は、以前朝日町表通りからの入口にあったことに因む。小町香は、鬢つけ油、香水、和装小物などの製造販売を行っていた。
90	長谷川小路	未指定	記念物	史跡	交通	不詳	角盤町二丁目		角盤町通の長谷川写真館から小町香小路につながる小路。明治38年に土地区画整理によりできた。長谷川写真館は、明治38年にここに開業。館主は9年間アメリカで修業し、明治40年の皇太子行啓写真を担当した。
91	涼善寺小路	未指定	記念物	史跡	交通	不詳	岩倉町		中筋から涼善寺まで23間半。小路の正面に涼善寺があることに因む。
92	涼善寺前小路	未指定	記念物	史跡	交通	不詳	岩倉町		涼善寺の正面から西に曲がり本教寺の前を通り中ノ棚まがりに抜ける小路
93	涼善寺横小路	未指定	記念物	史跡	交通	不詳	岩倉町		涼善寺と本教寺の間を通り、寺町方向(称名寺繩手道)に抜ける小路
94	瑞仙寺小路	未指定	記念物	史跡	交通	不詳	寺町・尾高町		瑞仙寺の前から朝日座前通(称名寺繩手道の一部)につながる道。尾高町から寺町に入る際の一般的な道だったが、その後、新小路ができた。
95	安国寺通り(安国寺参道)	未指定	記念物	史跡	交通	不詳	寺町・立町一丁目		安国寺の前から朝日座前通り(称名寺繩手道の一部)につながる小路
96	妙善寺小路	未指定	記念物	史跡	交通	不詳	寺町・立町一丁目		妙善寺山門に通じる道であることに因む。
97	妙興寺小路	未指定	記念物	史跡	交通	不詳	寺町・角盤町三丁目		寺町通から妙興寺墓地の東側に沿って角盤町に抜ける小路。この小路を作るため、妙興寺が土地を寄進したことに因む。
98	本教寺小路	未指定	記念物	史跡	交通	不詳	岩倉町・立町一丁目		立町一丁目と本教寺墓地の境にある小路で、中ノ棚まがりから称名寺繩手までをいう。長さ40間。小路の東側に本教寺があることに因む。
99	中ノ棚(なかんたな)小路	未指定	記念物	史跡	交通	不詳	岩倉町		加茂川に架かる中ノ棚橋と中筋をつなぐ小路。長さ25間。戦国時代まで、川尻が入り込み船を着けることができ、「中ノ棚」と呼ぶ魚の市が立っていたことに因む。北側の高砂方面から砂を流して埋め立て、市は移転し、地名だけ残った。
100	中ノ棚(なかんたな)まがり	未指定	記念物	史跡	交通	不詳	岩倉町・立町一丁目		法勝寺町から続く「中筋」の道は、岩倉町と立町一丁目の境で大きく右折している。「中ノ棚」辺りにある道であることに因む。初代城主中村氏時代に整備された近世城下町の町割りや吉川氏時代以前の中世城下町の町割りによって生じたずれを補うために造られた道筋と考えられる。
101	市兵衛はん小路	未指定	記念物	史跡	交通	不詳	立町一丁目・立町二丁目		中筋から称名寺繩手道まで。豪商村川市兵衛の広大な屋敷が外堀に面しており、屋敷前から寺町の万福寺に参るために用いたことに因む。

2. 米子市歴史文化遺産リスト（地区別）

102	鹿島馬場道(心光寺小路)	未指定	記念物	史跡	交通	不詳	立町一丁目・立町二丁目		鹿島家裏手にあり心光寺に行き着く小路で、称名寺繩手道から寺町通りまで。心光寺馬場道とも呼ばれる。
103	鹿島小路	未指定	記念物	史跡	交通	不詳	立町一丁目・立町二丁目		豪商鹿島本家と分家(下鹿)との屋敷の間にあったことに因む。
104	榎小路	未指定	記念物	史跡	交通	不詳	立町一丁目・立町二丁目		鹿島分家(下鹿)の北側にある小路で、突き当りに榎神社があったことに因む。
105	万福寺裏小路	未指定	記念物	史跡	交通	不詳	立町一丁目・立町二丁目		境往来から、万福寺の裏手(北側)に沿って造られた小路。
106	糺坂	未指定	記念物	史跡	交通	不詳	立町一丁目・立町二丁目		立町3丁目交差点辺りから鴨御祖神社(糺神社)前を抜ける道。京橋に始まる境往来の一部。このあたりは、米子町と弓浜部の村々との境界だった。
107	手島小路	未指定	記念物	史跡	交通	不詳	立町一丁目・立町二丁目		境往来から入り、かつて米子で一番と言われた百貨店「手島雑貨店」の横を通り、灘町の料亭やお茶屋に通じる小路。
108	西垣小路	未指定	記念物	史跡	交通	不詳	立町一丁目・立町二丁目		境往来から出口西裏通りに向かう小路。付近に西垣氏が住んでいたことに因む。
109	出口西裏(でくちにしうら)通り	未指定	記念物	史跡	交通	不詳	立町一丁目・立町二丁目		境往来の一部である「出口(でくち)」と並行する裏通りで、手島小路の中ほどから糺神社に向かう道。
110	吉祥院前通り	未指定	記念物	史跡	交通	不詳	立町一丁目・立町二丁目		吉祥院の正門前に沿って、東西に通じる小路。
111	吉祥院小路	未指定	記念物	史跡	交通	不詳	立町一丁目・立町二丁目		灘町一丁目から吉祥院前へ通じる小路であったことに因む。長さ43間半。
112	だるま小路	未指定	記念物	史跡	交通	不詳	立町一丁目・立町二丁目		この辺りは、かつて料亭などがひしめき合う区画だった。昭和初期、灘町1丁目にカフェ「ダルマ」があったことに由来するとも考えられる。
113	突抜小路	未指定	記念物	史跡	交通	不詳	立町一丁目・立町二丁目		境往来に並行して、内浜往来に抜ける小路。加茂川河口側の左角地には、灘町後藤家の旧宅(後に「好日荘」という料亭)があった。直進すると、旗崎(旗ヶ崎)神社に向かう。
114	三井小路	未指定	記念物	史跡	交通	不詳	立町一丁目・立町二丁目		吉祥院前通りを西に進み、突抜小路と交差する小路。明治期に三井家が住んでいたのが由来という。
115	川口筋通り	未指定	記念物	史跡	交通	不詳	立町一丁目・立町二丁目		江戸時代、ここに川口番所があったことに因む。川口番所は、船舶の出入りの管理・旅客・貨物の積み下ろし、風浪の際の救済などを行う役所だった。
116	為替小路	未指定	記念物	史跡	交通	不詳	立町一丁目・立町二丁目		内町の表通りから米子為替蔵に向かう小路。安政5年に創設された為替蔵は、米子湊から加茂川への入口に当たる。後藤家屋敷の西側裏手にあった。
117	成田小路	未指定	記念物	史跡	交通	不詳	天神町二丁目・内町		成田屋の分家成田氏の借家に沿って南に進む小路。成田屋は、江戸時代から続く商人で、明治以降は足袋の製造販売で財を成した。
118	山本小路	未指定	記念物	史跡	交通	不詳	天神町二丁目		山本煙草店と重松氏の間にある小路。かつては、町裏まで続いていた。
119	坂口本家庭園	未指定	記念物	名勝	庭園	明治時代	尾高町	個人	二代目が築いた林泉回遊式庭園。
120	坂口文祥家庭園	未指定	記念物	名勝	庭園	明治期以降	尾高町	個人	庭園未調査
121	後藤家分家長楽軒庭園	未指定	記念物	名勝	庭園	明治期以降	内町	個人	後藤快五郎が築いた離れ座敷「長楽軒」の庭園
122	判屋船越家庭園	未指定	記念物	名勝	庭園	明治期以降	天神町二丁目	個人	枯山水、奥の高台に屋敷神を祀る。
123	飛田氏庭園	未指定	記念物	名勝	庭園	不詳	立町一丁目	個人	庭園未調査
124	妙善寺庭園	未指定	記念物	名勝	庭園	江戸期	寺町	妙善寺	日蓮宗妙善寺は、米子城下町整備に伴い元和5年の開山と伝える寺院。かつては池から水が湧いていた池庭。視点場である庫裏拡張に伴ない、心字池と周辺部分に縮小された。池は島石の切り石を積んで丁寧に護岸されている。
125	福蔵院庭園	未指定	記念物	名勝	庭園	昭和58年改修	寺町	福蔵院	初め日野町にあって、延宝2年に寺町に移された曹洞宗瑞仙寺末。古くから池庭があったが、昭和58年に改修した。庫裏(書院)を視点場とする池泉鑑賞式、回遊式池庭で、石組が観察できる。庭園奥に客殿を新築し、こちらからの視点も確保する。
126	大谷氏庭園・薬医門	未指定	記念物	名勝	庭園	昭和16年江戸期(門)	尾高町	個人	昭和16年に離れ座敷(新建)とともに大山の石を用いて作庭。新建書院を視点場とする池泉鑑賞式、回遊式池庭。庭園に入る正門(薬医門)は、米子城の裏門を移築したと伝えられ、使用部材の風蝕が著しいことから、武家屋敷等の裏門等を移築した可能性は高い。
127	実成寺庭園	未指定	記念物	名勝	庭園	江戸期	寺町	実成寺	江戸時代からある池泉鑑賞式庭園。昭和56年以降に開山堂新築などで、手は入っているが島石を用いた池の護岸など基本的な部分は変わっていないと思われる。池奥の妙見堂は近年整備し、現在の庭園の景色となっている。庫裏書院、本堂と庫裏間の居間を視点場としている。
128	涼善寺庭園	未指定	記念物	名勝	庭園	江戸期	岩倉町	涼善寺	浄土宗涼善寺は天正年間に城山に創建されたと伝え、大寶院珠慶夫人が開基となり現岩倉町に1602年頃建立。平成6年に庫裏を改築した際に中庭整備を行った模様。庫裏書院を視点場とする鑑賞式、回遊式池庭で、水は湧水。寺町などと同じく寺院創建時からの古い庭園であると思われるが、石組などには近年改修が行われてよく管理されている。
129	寺町通り	未指定	伝統的建造物群			江戸期以降	寺町・尾高町		尾高町から灘町に抜ける約420mの通り。通りの北側に九つの寺の山門が整然と並ぶ。城下町の北側の小高い砂丘列に位置する。中央に位置する妙興寺が永禄7年に建ち、その後、城主中村氏、加藤氏の城下町づくりにより計画的に寺が各地から移転した。延宝2年に福蔵院が日野町から移り現在に至る。

2. 米子市歴史文化遺産リスト(地区別)

米子市歴史文化遺産リスト(車尾・福生・福米地域)

車尾地区

No.	名称	指定等	区分			年代	所在地	所有者	概要
			分類1	分類2	分類3				
指定等文化財									
1	深田氏庭園	国	記念物	名勝	庭園	江戸期	観音寺～車尾南二丁目～中島	個人	中世、伯耆の国浜中の里(車尾の古名)の開拓に関わった豪族、深田氏が住宅書院の南側に築いた庭園。庭園南西隅には築山が設けられ、後醍醐天皇を祀る小さな社がある。その前の三尊組石が庭園の中心で、池の中に作られた鶴と亀を模した島はきわめて写實的。
2	木造十一面観音坐像(慈眼庵)	県	有形文化財	美術工芸品	彫刻	室町時代初期(昭和62年修理)	観音寺	戸上・観音寺総合区	等身大の木造十一面観音坐像で、室町時代初期の製作。檜材の寄木造りで、漆箔仕上げの高さ106cmの仏像で、顔つきは端麗厳格で洗練された堂々たる像。もと安置されていた観音寺は応永22年建立と伝えられ、このころの製作と考えられる。京都系の相当な仏師の作といわれる。
3	朝比奈三郎、曾我五郎の草摺りを曳く図	市	有形文化財	美術工芸品	絵画	安政7年	車尾五丁目	貴布禰神社	貴布禰神社の奉納額。嗒然(江戸時代後期)作。歌舞伎の「曾我物語」の一場面を描き、力強い筆使いと気品のある色彩鮮やかな作品。裏に、嗒然自身の自叙伝を墨書。
4	石造唐獅子(貴布禰神社)	市	有形文化財	美術工芸品	彫刻	天明4年	車尾五丁目	貴布禰神社	天明4年に奉納された鳥取県内最古の狛犬。作者不詳。同型の狛犬は県内では他に確認されていない。
5	旧米子市水源地旧ポンプ室	国登録	有形文化財	建造物	建造物	大正15年	車尾南二丁目	米子市	上水道の開通時に建設。鉄筋コンクリート造平屋建で、ポンプ室を中心に、東側に入口を兼ねた塔屋を、西側に正六角形を半分に割った形の突出部がつく。塔屋部分は切妻の屋根に赤瓦を葺く。昭和45年ごろ現役引退、同62年に水道記念館として再生。
6	旧米子市水源地記念碑	国登録	有形文化財	建造物	構造物	大正15年	車尾南二丁目	米子市	上水道開通の記念碑。表面に花崗岩を貼合わせた鉄筋コンクリート造で、土台のアーチ部分には、当時の内閣総理大臣をはじめとする水道事業に携わった人々の名を刻む。
7	旧米子市水源地水神社	国登録	有形文化財	建造物	建造物	昭和17年	車尾南二丁目	米子市	(本殿)流造。(祭神)水神弥都波能売神、天水分神、国水分神。(由緒)導水15周年を記念して建築。丹生川上神社より昭和17年に祭神を勧請した。
8	旧日野橋	国登録	有形文化財	建造物	構造物	昭和4年	車尾六丁目	米子市	鋼鉄製の橋梁(全長365.8m×幅5.8m)。2本の円柱をつないだコンクリート橋脚5基に6連の三角形組合せの骨組みを曲弦材でつないで垂直の間柱をいれる構造(曲弦トラス)。道路橋・トラス橋としては県内最大最古。
未指定文化財									
1	梅翁寺本堂	未指定	有形文化財	建造物	建造物	天保4年(推定)	車尾五丁目	梅翁寺	入母屋造・向拝一間・棧瓦葺。桁行12.94m・間12.85m。寛政12年に堂宇を再建したと伝える。大型方丈形式。堂内の柱を省略し、軸・差鴨居で軸部を固めて、室中を中心に開放的な空間を持つ点に幕末期の特徴がある。
2	梅翁寺表門	未指定	有形文化財	建造物	建造物	元文年間(推定)	車尾五丁目	梅翁寺	四脚門・入母屋造・棧瓦葺。四脚門の入母屋造は珍しい。平成2年に本堂・山門の屋根瓦葺き替えを行ったが、全体に改造は少ない。
3	貴布禰神社本殿(車尾)	未指定	有形文化財	建造物	建造物	昭和58年	車尾五丁目	貴布禰神社	大社造変形。9尺×1丈3尺。明治31年建立。昭和58年遷宮。彫刻:向拝に2匹の波兔が彫られている。天文19年、元禄15年、明和元年と日野川の氾濫により社殿等流出した。明和3年現在地に再建遷宮された。
4	新宮神社本殿(観音寺地区)	未指定	有形文化財	建造物	建造物	明治29年	観音寺		大社造変形 4尺四方。明治29年造営。平成5年拝殿改築。応永22年に建立された記録あり。木造社殿未調査
5	慈眼庵	未指定	有形文化財	建造物	建造物	未調査	観音寺		室町時代に、伯耆国守護山名氏の庇護を受け繁栄していた観音寺が、天正年中に杉原盛重によって尾高城下へ移った後に、跡地の一角に置かれていた小庵。木造未調査
6	中島神社(荒神)の社	未指定	有形文化財	建造物	建造物	未調査	中島二丁目		古くは、八大荒神と呼ばれた。明治元年に改称。木造未調査
7	観音寺配水池	未指定	有形文化財	建造物	構造物	大正14年	観音寺	米子市の上水道給水を始めた配水池2基。大正14年12月完成、同15年4月給水開始。配水池(貯水池)東入口に「文明之恵澤」、西入口に「滾々不尽」の銘板が掲げられている。	
8	古池川橋りょう(線路下橋梁)	未指定	有形文化財	建造物	構造物	明治期	車尾南二丁目	西日本旅客鉄道株式会社	中世に遡る古地井手(古地井手用水路)を跨ぐJR山陰本線の橋梁で、古井手と赤レンガ積のアーチ形橋梁との組合せが面白い。明治期の鉄道建設当時の遺構と考えられる。現況:橋梁の前後はコンクリート造りで、中央がレンガ積み。通称「古地井手橋梁」。
9	十一面観音坐像脇侍(慈眼庵)	未指定	有形文化財	美術工芸品	彫刻	未調査	観音寺		県指定の木造十一面観音坐像毘沙門天のほかにも、不動明王、青面金剛(庚申)、帝釈天尊像があり、造形的にもすばらしい。
10	深田威美家文書	未指定	有形文化財	美術工芸品	古文書	文化初年～嘉永5年	車尾五丁目	個人	大庄屋勤務日誌など多数保存。文化初年から嘉永5年までの約50年間まで藩からの到来書約数千点載。弓浜部を中心とする綿作関係、日野川及び海岸地や口会見郡役所(車尾会所)の管理に関する資料もある。

2. 米子市歴史文化遺産リスト (地区別)

11	安田憲三家文書	未指定	有形文化財	美術工芸品	古文書	安政期～明治初年	観音寺	個人	会見郡観音寺村安田家諸証文
12	貴布禰神社棟札(車尾)	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	文禄4年ほか	車尾五丁目	貴布禰神社	100点余りの棟札が現存。文禄4年の棟札は、車尾村深田惣左衛門らが本願主となって建立したことを示す。明和3年遷宮の棟札は、同元年の日野川の氾濫によって流出した社殿を、現在地に再建したことを記す。
13	梅翁寺所蔵文書	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	享保11年ほか	車尾五丁目	梅翁寺	梅翁寺上梁記(享保11年)、梅翁寺略由来記(嘉永2年14世寛翁和尚)。
14	水道用具展示物(水道記念館)	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	近代	車尾南二丁目	米子市	昔の水道施設や工事写真、実際に使っていた古い機械器具(水位計や塩素滅菌機)などを展示する。
15	旧米橋の親柱	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	不詳	車尾二丁目		角柱型の石造物で、正面に「与(余)祢はし」の文字を刻む。米川に架かっていた旧米橋が現在の橋に架け替えられたときに撤去された。車尾公民館に移した。現「米橋」の竣工年月日は不詳。
16	旧日野橋(木橋)の親柱	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	明治21年	車尾六丁目		明治21年に架設された、日野川の最初の木造橋の親柱。湊山公園にあったものを平成10年に移設。
17	車尾の道標(米橋)	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	享保頃(推定)	車尾二丁目		高さ115cm、石面約29cmの四角柱に、東西南北各方面の行先と里程が刻まれ、この場所が交通の要衝だったことを示す。東面「淀江二りほか」、西面「米子入口、松江八りほか」、南面「山市場一天万ほか」、北面「境津五りほか」。
18	米川土手の供養塔(もと勝田村刑場)	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	明和7年	車尾		勝田村刑場にあった供養塔。由来を刻む。明和7年に日蓮宗本教寺の日蔵上人の発願によって建立された。
19	保食神社(藤内稲荷)の石祠	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	未調査	観音寺		藤内狐伝説で有名な神社
20	回国塔(梅翁寺墓地)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	天保10年	車尾五丁目		石塔、高さ(台座含む)184.0cm:「奉納大乘妙典六十六部日本回国満願供養塔」。天保10年、願主・当村の京屋宗次郎の回国記念、同行の行者の名も刻む。
21	地主塚(新宮神社)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	未調査	観音寺	観音寺地区	横穴式石室の被葬者を地主とあがめて祀っている。古代宗教を思わせる神秘性を供えている。
22	味噌なめ地蔵(梅翁寺)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	風俗習慣	享保ごろ	車尾五丁目		伊予から来た古市幻覚が日野川から拾い上げて祀るといふ。厄除け、子安、とげぬき、いぼとりなどの様々な願いをかなえる地蔵で、願開きに味噌を塗る。
23	藤内狐伝承(戸上山)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	伝説	～現代	観音寺(戸上地区)		伯耆三大化け狐の一つで有名。藤内神社の祭神(白い狐)として地域の人に親しまれて、昔話や世間話が藤内狐に結び付けられてその仕業として語られる。尻焼川由来を説いた話、御馳走を盗まれた話、狸と化けくらべをした話、田之久兵衛に負けた話など凡そ7種類。
24	日野橋落成の歌	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	歌謡	昭和4年	車尾地域		昭和4年、車尾小学校に入学したとき、新入生一同で木橋を渡り、落成の歌をうたった。(聞取り:歌のテープ録音あり)
25	戸上城跡(観音寺城)	未指定	記念物	史跡	中世城館跡	16世紀中期	観音寺(戸上地区)		標高64m、比高56mの丘陵。(遺構)廓、一部損壊。(城主)久代氏、福頼元秀、杉原盛重、古曳吉種。幅の狭い尾根上に小さな廓状平坦地が認められる。16世紀中に築城、廃城と伝える。日野・西伯・出雲への要所として重要な砦。
26	古地井手(用水路)	未指定	記念物	史跡	中世井手	天文19年以前	観音寺(戸上地区)から車尾四丁目まで		現在使用されている。天文19年以前に遡る井手。日野川が佐陀川方面を流れ箕蚊屋と福原が地続きであった頃に、まず「蚊屋井手」が開こうとされ、続いて「古地井手」が設けられた。米子平野の開拓史を知る上で極めて重要である。
27	深田土手	未指定	記念物	史跡	治水施設	江戸時代初期	観音寺(戸上地区)から車尾四丁目までの日野川沿い		江戸時代初期に、深田宗真が米子城下と浜の目(弓ヶ浜)一帯を水禍から守るため、日野川左岸の戸上村から皆生村まで築いた堤防。延宝4年に、民間人として特例で普請奉行に登用され、13年間で築いた。彼の功績を讃えて、「深田土手」と呼ぶ。
28	刑場跡(無縁墓地)	未指定	記念物	史跡	政治に関する遺跡	江戸期	車尾一丁目	法務省広島矯正管区(米子拘置支所)	江戸時代に重罪人の刑場があったといわれる場所。熊党の義民竹松も処刑されたという。人切り場と呼ばれていた。明治以後は刑務所の獄死者の墓地。昔、この付近は「勝田が浜」と言われたところで、勝田村の東際に当たった。明治39年に碑(納骨堂だったという)が建立され、平成8年に合葬の碑として再建された。

福生東地区

No.	名称	指定等	区分			年代	所在地	所有者	概要
			分類1	分類2	分類3				
未指定文化財									
1	皆生神社(八代荒神)の社殿	未指定	有形文化財	建造物	建造物	未調査	皆生一丁目		皆生村の荒神社。開発直後の慶長年間に出雲国仁多郡八代から勧請と伝わる。社地は日野川に近接し、何度も洪水にあった。神楽殿や鳥居・唐獅子、石灯笼を奉納。日野川の洪水から守り、五穀豊穡を願って、日野川の堤下に龍神を祀る。木造社殿未調査
2	双柳庵(中尾家)	未指定	有形文化財	建造物	建造物	明治16年頃	上福原三丁目(福生東6区)		木造平屋建、入母屋造、茅葺。昭和36、55年に改築。当初平入を妻入りに改変。古材を転用して建築と伝えられる。内部は指物を多く用いる。1次調査では、明治19年
3	堀安家住宅	未指定	有形文化財	建造物	建造物	江戸後期	上福原三丁目(福生東6区)		木造 商店
4	常夜燈(皆生神社)	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	文政5年	皆生一丁目(福生東1区)		地区内の因幡道沿線にあり、金毘羅大権現の文字を刻む灯笼。村人や旅人の安全を願うとともに旅の目印とした。
5	常夜燈(上福原神社)	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	文政5年	上福原一丁目(福生東3区)		地区内の因幡道沿線にあり、金毘羅大権現の文字を刻む灯笼。村人や旅人の安全を願うとともに旅の目印とした。
6	常夜燈(福生東4区)	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	文政7年(推定)	上福原一丁目(福生東4区トンド場)		高さ200cm、大幅105cmで、金毘羅大権現の文字を刻む大形灯笼。地区内の因幡道沿線にあり、村人や旅人の安全を願うとともに旅の目印とされていたが、道路改良のため移転した。

2. 米子市歴史文化遺産リスト (地区別)

7	常夜燈(福生東6区)	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	不詳	上福原三丁目(福生東6区)		地区内の因幡道沿線にある、「金」(金毘羅大権現)の文字を刻む自然石の灯籠。
8	西国三十三ヶ所観音像(上福原観音堂)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	文化4年	上福原二丁目(福生東4区)		金箔張り観音木造で札所番付の黒塗りの台座に安置された小型の立像・座像33体。金箔はよく残る。台座に寄進者名を記す。大坂相撲で出世して帰郷した松尾山文四郎が勧請を発願し、上福原地内その他の村々の協力により成就した。
9	木魚(上福原観音堂)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	元禄3年	上福原二丁目		上福原開発期に草庵創建の際につくられた木魚で、「梅翁寺現住無外之置 元禄三庚午歳」と記銘あり。長軸33cm、短軸29cmで、把手から胴にかけて魚鱗・雲形の彫刻を施す。
10	神前灯(上福原神社)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	宝暦10年	上福原一丁目		宝暦10年に、上福原村の守護神として三宝荒神社を建立し、村の大願成就を記念した寄進したもの。左右一対の神前灯で、竿に建立の縁起を刻む。
11	サイノカミ(皆生神社:皆生八大荒神社)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	皆生一丁目(福生東1区)	皆生神社	自然石(74x45x34cm)左右に、村中が奉納した、「佐斐神社」と「大山智明大権現」の幟が建つ。
12	くちなわさん(八代荒神社)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	昭和50年(復活)	福生東1区・福生東2区	福生東1区・福生東2区自治会	11月23日。収穫感謝と来年の五穀豊穡、合わせて日野川の洪水防止を祈念する行事。氏子は藁を持ち寄り、長さ30m余のくちなわさん(藁蛇)に、甲羅が1m余の亀を従わせたものを作る。神官を先頭に行列を作り参拝し、本殿周囲に回して奉納する。翌年の7月1日(虫送りの火)に焼却する。
13	トンドさん(上口)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	～現代	上口 上口組(福生東3区)		大歳(12月31日):大歳番が釣船神社納所から神輿を迎える。以降、当番が各家で祀る。当日:来年当番くじ決め。神輿行列(シャモジを持つ神主さん、スリコギを持つ神主さん、神輿、太鼓。愛宕舞や伊勢音頭も謡う)。汐水(ホンダワラ)での清め、火渡し。直会。トンド場:上福原神社。
14	トンドさん(中谷)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	～現代	中谷 中組(福生東4区・福生東5区)		当日:本番、添え番が三宝大荒神(上福原神社)に参拝。火渡し。中谷講中は、トンド場にトンドさん(トシガミさん)の祠を祀り、両地区の各幟が立つ。トウ渡し(くじ引き)はある。平成14年以降行列なし。
15	トンドさん(下口の大組)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	～現代	下口 大組(福生東6区)		当日:トンド立て～トンドさんを祀る祠の場所(境内)に、シンボコ(根付き)を立てる。木で作った輿に小さいお宮を載せて、祠の前に置く。役員くじ引き、火入れ～シンボコを少し離れた空地に移動し立てて燃やす。行列なし。
16	トンドさん(下口の小組)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	～現代	下口 小組(福生東6区)		かつては行列があり昭和30年代までにぎやかだった。本番は、カイゼル髭を描き烏帽子をかぶり歳徳神の衣装を着てメグリ(スリコギ)を持った。添え番は、ナマズ髭で杓子を持った。衣装はあるが、現在行列なし。
17	数珠繰り(上福原観音堂)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	～現代	上福原二丁目		8月23日。観音堂前広場の地蔵菩薩前で祭りが行われ、参加者はご馳走を持ち寄り供養する。祭りの終わりごろに、念仏を唱えながら数珠を百回ほど回す。
18	皆生本村(ホンムラ又はもとむら)盆踊り	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	民俗芸能	江戸後期～現代	福生東1区・福生東2区(本村(ほんむら)地区)		江戸後期頃が起源と思われる、海池村(現在の福生東1区・2区)に伝わる盆踊り。初盆の家を廻り、仏の供養をしていたのが、後に広場に集まり、村中での盆踊り大会となった。実施時期:8月17日、場所:地区内公民館。
19	八幡新兵衛の墓	未指定	記念物	史跡	墳墓	天正17年	皆生一丁目(福生東1区)		戦国時代末期の天正年代に皆生の開拓を始めたと伝わる、八幡新兵衛夫婦を祀る供養塔。自然石の一面を平坦に削り、上部には「海池村開先祖」と刻字。高さ137cm。幅40cm、奥行30cm。
20	皆生侍(海池浪人)の墓	未指定	記念物	史跡	墳墓		上福原一丁目(福生東4区)		八幡新兵衛の開拓から約50年後に皆生(海池村)に入植後、分かれて南西方向の十六軒屋敷(後の上福原分)を開拓した、江戸時代に主家を浪人した者達の墓群。荒木家、小杉家の墓。荒木家の墓の一つに、嗒然が撰文した碑文あり。
21	力士塚(松尾山文四郎)	未指定	記念物	史跡	墳墓	文化年間以降	上福原二丁目(福生東4区)		上福原の住人で、大坂相撲で出世して帰郷後、多くの村人の協力により、文化4年に、西国三十三ヶ所観音像を勧請した。近隣の個人宅で「観音菩薩勸化帳」や文四郎の位牌を伝える。
22	旧灘道(なだみち)(皆生地区)	未指定	記念物	史跡	交通	不詳	福生東4区から皆生温泉三条通方向		因幡道から北へ海へ続く道。村人の往来や地引網などの漁獲物を大八車に乗せて運搬した。大正時代に、車尾から皆生温泉入口の三条通りまで乗合自動車を通れるよう改修され、同12年に県道皆生車尾線となった。
23	荒神土手跡(皆生)	未指定	記念物	史跡	その他経済生産活動に関する遺跡	不詳	上福原一丁目・皆生一丁目		福生中学校と上福原荒神の間から八代荒神社まで続く土手があり、村への浸水を防いでいた。平成5年に道路整備された。
24	二重土手跡(日野川桜づつみ)	未指定	記念物	史跡	その他経済生産活動に関する遺跡	天保9年以後	上福原(日野川左岸堤防横)		天保9年の日野川洪水の際に本堤の外側へ築堤し、二重の備えとした土手跡。通称「二重土手(ふたえどて)」。旧車尾村と境界を接する場所で、雑木や竹がびっしり生えていたが、平成元年に緑地整備用された。
25	天神森(新田開拓)	未指定	記念物	史跡	その他経済生産活動に関する遺跡	天保10年以降	上福原四丁目		天保10年ごろ田地開拓に際し、用水路として新田川(別名:堀安川)の開削の際に砂土を盛り上げた場所で、開拓作業の名残。明治12年伊勢神宮より勧請した豊受大神(昭和50年再建)の石碑と菅原公の小社あり。
26	皆生海軍省通信隊通信壕(通称電波観測所跡地)	未指定	記念物	史跡	戦跡	昭和前期	皆生五丁目		鉄筋コンクリート製本体T字型で、高さ4.5m、長さ4.5m、北側に水槽が附属。昭和18年、美保海軍航空隊米子送信所を開設。東京の海軍省をはじめとした各基地との直接交信や九州方面の特攻基地及び発進した特攻機の誘導が主務。戦後、昭和22年に通信省米子電波観測所、その後同27年に中国電波管理局監視部となった。防空壕3基のうち1基が残る。

福生西地区

No.	名称	指定等	区分			年代	所在地	所有者	概要
			分類1	分類2	分類3				
指定等文化財									

2. 米子市歴史文化遺産リスト (地区別)

1	東光園本館	国登録	有形文化財	建造物	建造物	昭和39年	皆生温泉三丁目	ベネフィットホテル株式会社	昭和39年に建築されたモダンなホテル建築物。設計菊竹清訓、RC造8階建。現代庭園をもつ。
未指定文化財									
1	皆生温泉神社社殿	未指定	有形文化財	建造物	建造物	昭和初期	皆生温泉三丁目	皆生温泉神社	皆生温泉地区の氏神として祀られている神社。昭和8年に、大國主命と闇霧神・高麗神を祭神として勧請し、宮大工を伊勢から招き建立。稲荷の鳥居の柱に、寄進した温泉関係者の名を記す。「福生教育」昭和2年社殿建立、大鳥居が昭和8年。木造社殿未調査
2	新田神社(新田荒神)社殿	未指定	有形文化財	建造物	建造物	未調査	上福原六丁目	新田神社	天保9年に水路(新田川)を開いて上福原を開拓した集落のために、弘化3年に上福原神社の三宝荒神を北浜新田に勧請したと思われる。境内に、堀安新田開発の由来碑(昭和40年9月)あり。木造社殿未調査
3	旧皆生郵便局舎	未指定	有形文化財	建造物	建造物	大正13年	皆生温泉三丁目	個人	木造洋館造り二階建。市内に現存する最古の郵便局舎。大正11年以降、皆生温泉地区の市街地が形成され、同13年8月に特定郵便局として開局。初代局長は、有本松太郎。後日、別地に移転した。
4	海岸遊歩道	未指定	有形文化財	建造物	構造物	昭和34年	皆生温泉四丁目～皆生温泉三丁目		昭和34年度に防潮堤が完成し、内側を利用して約10m幅の遊歩道を約36m作った(幅3mのグリーンベルト、半円ロータリー2か所)。防潮堤の副産物として海岸浸食対策の歴史を物語る。昭和62年度以降に海岸遊歩道を再度整備し、全長560m、幅10m、自然石を使うなど工夫を凝らす。
5	皆生海岸離岸堤防潮堤	未指定	有形文化財	建造物	構造物	昭和57年	皆生海岸沖	国	皆生海岸浸食の根本的な防災・護岸対策として採用された「離岸堤」工法による工作物。防潮堤の沖約100mの海中にもう一つ築かれる堤防。昭和46年～57年で12基を築造。全護岸ともトンボロ現象が生じ、美しい砂浜がよみがえった。その後、12基のうち2基は、景観に配慮したクレスト型人工リーフに改良された。
6	生田春月文学碑「相寄る魂」(辻晋堂作)	未指定	有形文化財	美術工芸品	彫刻	昭和41年	皆生温泉四丁目	米子市	皆生海浜公園に設置された生田春月文学碑「相寄る魂」。小説「相寄る魂」の冒頭の詩を刻み、春月の心の内を表現している。辻晋堂作。
7	有本松太郎翁胸像(辻晋堂作)	未指定	有形文化財	美術工芸品	彫刻	昭和33年	皆生温泉三丁目		皆生温泉開発に尽力し、皆生温泉の生みの親と言われた功労者の有本氏のブロンズ胸像(高さ60cm)。辻晋堂作。台の裏に当時の市長「野坂寛治」揮毫の碑文を嵌めこむ。
8	素鳳ふるさと館素鳳コレクション	未指定	有形文化財	美術工芸品	工芸品	江戸期以降	皆生温泉三丁目	米子市(山陰歴史館)	全国的にも評価される坂口真佐子氏のコレクション。江戸時代を中心とした雛人形、御所人形、衣装人形、西洋人形、調度品、更紗などがあり、雛飾りは歴史的変遷や形態の変遷などを知ることができる貴重なコレクション。観光センターでは、雛飾りを中心に100点余りを常設展示。
9	手洗い鉢(皆生温泉神社)	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	昭和8年	皆生温泉三丁目	皆生温泉神社	「米子電車軌道株式会社」が昭和8年に寄進。会社の名と奉納日が刻まれる。
10	皆生温泉街の都市計画図(市街地設計図・同区画設計図)	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	大正9年・大正10年	皆生温泉一丁目	皆生温泉観光株式会社	有本松太郎氏が、当温泉街の開発構想を具体化するため折下吉延(公園計画の第一人者)に依頼した市街地設計図とこれを基にした市街地区画設計図(同10年3月完成)。この計画に基づき、現三条通りを中心に道路網を基盤の目状に整備し、旅館街、商店街、緑地などに区分し、都市機能が配置され、市街が形成されていった。
11	皆生海岸における浸食被害を伝える写真資料	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	昭和13年、15年、17年など	皆生温泉一丁目	皆生温泉観光株式会社など	波浪による皆生海岸砂浜の浸食に伴う旅館の倒壊や泉源等の消失などについて、その歴史を物語る資料。「倒壊した薬師堂と1号泉源」(昭和13年)など。
12	新開川土地改良開組記念碑(新開川開鑿記念碑)	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	昭和30年	上福原五丁目	新開川土地改良区	明治4年の開鑿開始と流域が開拓されたこと、その後の米川との頭首合併、分水割合などの経過について記す。分水普通水利組合から土地改良区への開組を記念して建立。正面「千里豊穰」は、当時の野坂市長の揮毫。
13	湯薬師さん	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	皆生温泉一丁目	皆生温泉観光株式会社	もともと皆生海岸に漂着した薬師像を、有本松太郎氏が温泉開発会社設立後の大正13年に、1号泉を引き上げて改修し薬師堂を建立。地元では、湯薬師として親しまれている。最初は三条通りの浜辺にあったが、昭和13年に大波浪で倒壊後に数度移転。平成20年6月に現在地へ。
14	サイノカミ(新田神社)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	上福原六丁目		自然石(45x42x36cm)。右に荒神が、左に歳徳神の社が建つ。
15	荒神行事(講開き)(新田神社)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	～現代	上福原六丁目		年4回、当屋(世話係当番)により行われる。本番・添え番・世話人と、5月、9月、11月で当屋が変わる。正月の初め講は新田開祖の堀安宅で講開き、籤引きにより当屋を定め、講中の家内安全・五穀豊穰を祈って祝宴となる。
16	皆生小唄	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	歌謡	昭和26年	皆生温泉地区		昭和26年に野口雨情作詞、佐香博美作曲で発表、同28年に神楽坂はん子の歌唱で、一躍全国に知れ渡り、皆生温泉のPRにつながった。旅館の再開、新規開業が増え、終戦直後7軒の旅館が、昭和29年末に17軒となった。
17	競馬場跡(皆生競馬場、草競馬)	未指定	記念物	史跡	その他経済生産活動に関する遺跡	大正末期～昭和23年	皆生温泉地区		①草競馬:もともと大正末期から、東側の浜辺(現在の皆生下水処理場沖の砂浜)で草競馬が催されていた。②皆生競馬場:昭和4年に、温泉街の西隣上福原北浜新田に競馬場が完成。第1回は同年5月に3日間。昭和12年頃まで毎年春秋2回各3日間開催。戦後は昭和22年・23年で廃止。昭和34～38年度に、上福原地内の跡地を整理して皆生温泉区画整理事業が行われた。
18	東光園庭園	未指定	記念物	名勝	庭園	昭和39年	皆生温泉三丁目	ベネフィットホテル株式会社	昭和39年に建設された本館(国登録有形文化財・菊竹清訓設計)のモダンな旅館建築に伴う庭園。作庭者は彫刻家でもある流政で、直線と曲線を組み合わせた大規模で、斬新なデザインが特徴。
19	皆生海水浴場	未指定	記念物	名勝	海浜	昭和53年(復活)～現代	皆生海岸		大正末期には海水浴が行われていた。相次ぐ海岸浸食で戦後に遊泳禁止となったが、離岸堤設置により砂浜が回復し、昭和53年に公認海水浴場として再開された。環境庁の「日本の水浴場55選」(平成10年)、環境省の「日本の水浴場88選」(平成13年)に選ばれた。

福米東地区

No.	名称	指定等	区分			年代	所在地	所有者	概要
			分類1	分類2	分類3				
未指定文化財									
1	上場谷の観音堂(上場谷善哉庵)	未指定	有形文化財	建造物	建造物	未調査	西福原一丁目		創建不詳、寛政6年以前か。弘化3年の棟札あり。木造観音堂未調査

2. 米子市歴史文化遺産リスト (地区別)

2	八幡神社本殿(上場谷)	未指定	有形文化財	建造物	建造物	未調査	西福原一丁目	創立不詳。松江市竹矢地区の平浜八幡宮と境内脇社の武内神社から勧請。昭和5年合殿を造営合祀した(棟札)。木造社殿未調査
3	井上普之家文書	未指定	有形文化財	美術工芸品	古文書	未調査	東福原四丁目	井上家は、近世中期に初代井上与左衛門が東福原地区(前地)の開拓に着手、米川を利用した水田経営のほかに綿作も行う。弘化年間には大庄屋を務めたこともある。高橋塾の経営に当たり、当時の和漢書も所蔵。
4	森田善太夫記念碑	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	文政4年	西福原一丁目	福米地区開拓の祖(尼子浪人)を祀る文政4年建立の石碑。「雲州富田浪人 森田善太夫」と刻む。尼子家の家臣で、永禄9年の富田城落城により家の滅亡後、四軒屋の地に土着し、その後、本格的に開拓を始めた(上場谷の発祥)。
5	高橋塾初代庄平先生墓誌銘	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	万延元年	東福原二丁目	嗒然撰。庄平の墓石に刻む、正面に戒名、側面に墓誌銘。寿塔(生前に作る墓)。初代庄平は、文政年間に東福原前地の井上本家の一隅(現原田家)に塾を開いて以来、明治30年まで、三代70年にわたって福原教育に尽した。
6	高橋塾学恩碑(高橋家教育碑・高橋塾顕彰碑)	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	明治29年 和51年	東福原二丁目	①高橋塾学恩碑(刻字:高橋家教育碑)旧碑:幕末~明治期、三代70年にわたって福原教育に尽した高橋家の教育に対する情熱を称える記念碑。明治29年に門人たちが建立した。凝灰岩質。②高橋塾顕彰碑:高橋家教育碑の表面が朽ちているため碑文の要旨を現代文に直して刻み、旧碑の横に、昭和51年3月新設した。黒御影石製。
7	大沢川改修記念碑	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	昭和38年	東福原六丁目	福米地域を中心とした福生、福米、加茂地区の耕地(約330ha)の幹線排水路「大沢川」の改修記念碑。当時の市長野坂寛治の碑文。県営事業で、昭和32年着工、同38年完成。起点から西に水路、途中からヒューム管を地下に埋設して中海まで排水する。碑は、起点付近に建ち、使用したヒューム管を転用している。
8	上場谷の法華塔	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	天保15年	米原六丁目(上場谷地区)	天保15年、米原村に悪疫流行したため、上場谷地区と米原地区との境界に、上場谷に蔓延しないよう祈願して建立と伝えられる。「南無妙法蓮華経南無日蓮大菩薩」と刻む。
9	上場谷の千部塔	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	嘉永6年	西福原一丁目(上場谷地区)	①「法華千部塔」嘉永6年の石塔で、「観光尼和尚 化主 台巻尼 祐学尼」の名を刻む。②「金剛經千部塔」観林慈光尼(寛政6年没)と法運哲明尼(嘉永6年没)の名を刻む。
10	薬師堂(前地)の地藏	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	宝暦13年	東福原三丁目(前地地区)	高さ2m余で、福米地区で最も大きく上品な石像美術品。宝暦13年作。
11	サイノカミ(米原神社)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	平成6年	米原七丁目(米原地区)	双体像(並立像、浮彫り)。平成6年制作、清水洋一彫刻。石材:中谷石(安来市広瀬町山佐)
12	トンドさん(歳徳神社)(山地の上口)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	東福原七丁目(山地地区・上口)	小祠があり、立派な獅子面神楽・太鼓、神輿が揃えられている。トンド場を持つ。道路際の松の大木がある。
13	トンドさん(歳徳神社)(山地の下口)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	東福原八丁目(山地地区・下口)	小祠があり、立派な獅子面神楽・太鼓、神輿が揃えられている。トンド場を持つ。安政6年銘の灯籠がある。
14	トンドさん燈籠(四軒屋)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	西福原三丁目(四軒屋地区)	正面(天照大神宮)右側面(智明大権現)左側面(勝田大明神)裏面(金毘羅大権現)。トンドさんの際、点灯。
15	トンドさん燈籠(前地)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	文政6年	東福原四丁目(前地地区)	正面(金毘羅大権現)文政6年建立。トンドさんの日に点灯。
16	トンドさん(小祠)(米原上組・下組)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	米原七丁目(米原地区)	上組の歳徳神:自然石に刻字し、コンクリート台に置く。下組のトンドさんは小祠に安置。下組は、境内でハヤす。
17	トンドさん(小祠)(米原中組)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	米原地区	米原上組・下組とは別に、独立して小祠があり、地区民(中組講中)に守られている。鳥居なし。
18	ジヌッさん(山地の荒神)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	昭和38年	東福原六丁目(山地地区)	本殿西側の小祠。昭和38年大沢川改修工事に際し、境内へ遷した。
19	ジヌッさんの大石(米原神社)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	米原七丁目(米原地区)	昭和38年の大沢川改修に伴い、小祠に祀られていた神霊とされる大きな石は、従前のジヌッさんの森(集落の北方、上三柳との境界辺りの水田の中)から遷し、荒神に合祀。
20	百遍廻し(米原観音堂)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	米原七丁目(米原地区)	盆の17日に、堂内で子どもたちが南無阿弥陀と唱えながら、長さ10mの大数珠を回す。その後、赤飯を呼ばれてお開きとなる。
21	亥の子石(米原観音堂)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	民俗	不詳	米原七丁目(米原地区)	長さ1.5m、幅50cm、厚さ60cmの御影石が半分埋まって横たわっている。「亥の子さん」の風習に因む石。亥の子さんの日に田畑で仕事をした家に村人たちがこの石を運び、置かれた家は翌日の朝までに元通りにしておかねばならなかった。
22	勝田神社の大しめ縄	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	不詳	東福原(山地地区)	勝田神社に奉納する大注連縄を10日から15日ばかりで作成し、本殿前の隋神門に奉納する行事。大注連縄は10年ごとに掛け替えられる。大注連縄は長さ6m・胴回り1.6m、重さ200kg。藁1,500~2,000束で、延べ200人で纏う。山地地区は勝田神社の氏子で、歳徳神社や申し上げ講の講中で纏う。
23	トンドさん(山地の上口)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	~現代	東福原(山地1区:上口)	当日:火入れ、神輿行列(太鼓、幟、天狗、獅子、神輿)。神輿~紅白の布をまき、鏡も前後に1枚ずつつける。来年の当番決め(こよりによるくじ引き)。経路:集落の街道を東西に通る(道は決まっている)。
24	トンドさん(山地の下口)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	~現代	東福原(山地1区:下口)	当日:火入れ、神輿行列(構成と役割あり)。来年の当番(トウヤ・3人)決め(くじ引き行事)。
25	山地の盆踊り	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	民俗芸能	~現代	東福原(山地地区)	8月18日。会場:レストランやまと(平成初期の調査当時)の駐車場
26	盆踊り(米原太鼓)の伝承	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	伝説	~現代	米原地区	①米川の水路工事が難工事のため人柱となって、若者は盆太鼓をたたきながら生き埋めになった。その後、盆踊りの頃に、米川の底から太鼓の音が響くという。②人一倍踊りの好きな娘が盆踊りの後で継母に殺され、その翌年から、盆が近づくと、地の底から太鼓の音が聞こえてくるという。
27	七尋女房(ななふろによば)の伝承	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	民話	~現代	東福原三丁目(前地地区)	かつて境内に松の大木があり、この木の上に七尋女房が居り、恐れられていたという伝説がある。屋は静かだが、夜遅く人が下を通ると、足を木の枝にかけて頭を下にしてぶら下がり、「エヘヘン、エヘヘン」と笑いかける。
28	原田徳兵衛の墓	未指定	記念物	史跡	墳墓	不詳	米原5区	米原の開拓者、原田徳兵衛の墓碑。原田家系譜伝記(西念寺蔵)によると、慶長年間に開発された。さらに、原田家は2代徳兵衛の弟、長左衛門が当時の下福原(現在:東福原前地)を、長左衛門の孫喜三郎が東福原山地の開発にあたった。

2. 米子市歴史文化遺産リスト（地区別）

29	小谷古蔭(こだにふるかげ)の墓	未指定	記念物	史跡	墳墓	不詳	東福原二丁目(前地区)		江戸末期から明治初期の国学者・歌人の墓。明治12年東福原村に転居し、六杉園と号し和歌の道に専念、同15年没。明治維新の神仏分離、神祠の統廃合に国学を駆使して手腕を振るう。現在、低いブロックで囲まれた中に、数個の石を積む。
30	神風特別攻撃隊原田嘉太男の墓	未指定	記念物	史跡	墳墓	昭和期	東福原二丁目(前地区)		戦争の記憶を伝える特攻隊員「海軍中尉勲六等原田嘉太男」の墓碑。昭和16年のハワイ真珠湾攻撃第一陣に参加、昭和20年硫黄島付近で特攻攻撃により散華。
31	じぬしさんの杜(もり)	未指定	記念物	史跡	信仰	不詳	西福原五丁目	個人	日野川の流路に当り、洪水を鎮める悲願を込めたと伝える場所で、「ジヌッさん、地主さん」とも呼ばれる森で、鳥居、小祠あり。かつて、上福原中谷・東福原山地・西福原上谷・米原・三柳の各部落ごとの福原田圃の真ん中に、東西に一直線に点在して森の中に水神さんと地主神を祀った。昭和38年の大沢川改修工事で遷され、そのまま残ったのは上谷地区だけ。
32	高橋塾跡	未指定	記念物	史跡	教育に関する遺跡	不詳	東福原四丁目(前地区)		文政年間に、高橋家初代庄平が東福原前地の井上本家の一隅(現原田家)に塾を開いて以来、明治30年まで、三代70年にわたって福原教育に尽した。二代俊造の前半が最盛期で、法勝寺、尾高、弓浜部などから学ぶ子弟のため、別棟に寄宿舎を立てるほどの盛況だったという。
33	井上氏庭園	未指定	記念物	名勝	庭園	不詳	東福原四丁目	個人	井上氏は尼子氏の家臣が近世に帰農したものとして東福原を開拓した豪農。屋敷は車尾からの境往來に面する。主屋南側の視点場である書院に面して庭園があるが、奥の立石を前方の石組が隠すなどの変遷が認められる。
34	浜の鶴松(もんやの松)	未指定	記念物	天然記念物	植物		西福原二丁目	個人	黒松。現在は、高い建物が多くなったが、昔は、上場谷(地名)の目印となっていた大きな松の樹である。よなごの宝88調査(平成20年):円錐形の庭木造り、高さ約13m、胴回り180cm、枝張り5m、樹齢約200年。松を生かして庭にしたという。

福米西地区

No.	名称	指定等	区分			年代	所在地	所有者	概要
			分類1	分類2	分類3				
未指定文化財									
1	西福原神社社殿	未指定	有形文化財	建造物	建造物	未調査	西福原八丁目(下谷地区)		文化4年、杵築大社を勧請(社殿棟札)。通称「下谷の荒神さん」。大社獅子宮(神楽殿)あり。木造社殿未調査
2	常夜燈(下谷)	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	文政5年	西福原八丁目(下谷地区)		通称「因幡道」(夜見から車尾への道)沿い。正面に金毘羅大権現を刻む。文政5年3月建立。正月に講中の各家から輪を供えるシキタリは今も続く。
3	久野姓元祖の菩提塔	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	文化7年	西福原七丁目(上谷地区)	個人	「久野姓元祖 代々菩提塔」とし、元禄15年と享保13年没の祖を刻む。(自然石に石板はめ込み)。上谷地区の開拓者の1家を祀る石塔。久野姓元祖とは、久全・福原両統之元祖。慶安のころ、開発を始めたとする。文化7年に一統が建立
4	福米平和記念道路の碑	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	昭和27年	新開六丁目(新開地区)		山地すじ(東福原山地・西福原上谷、下谷)から新開(美保湾側)間に初めて通じた自動車を通ることのできる道。それまでは、5本の難道があった。前身は、上谷から新開川までの小さな草道で、新開川に橋はなかった。昭和27年竣工記念碑。
5	サイノカミ(西福原神社)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	西福原八丁目(下谷地区)		自然石。本殿奥のコンクリートの玉垣内にあり。「下谷の荒神さん」と呼ばれる。
6	咳ばあさんの碑(上谷)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	昭和4年	西福原七丁目(上谷地区)		「咳ばあさん」の伝承に因む石碑(四角柱)で、正面に「南無地藏大菩薩」と刻む。縁石で区画を設けている。咳を鎮めた霊験あらたかな石のそばに、昭和4年に建立し、今も、百日咳の仏様として信仰を集めている。
7	馬頭観音塔	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	昭和13年	西福原七丁目(上谷地区)		上谷地区で飼育されていた馬のうち、昭和13年に北支で戦死した太刀風号を悼み、飼い主が碑を建てて供養した。「馬頭観音」と「馬の名」を刻む。
8	歳徳神(トンド)さん(上谷)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	西福原六丁目(上谷地区)		創建は、当地区に入植した慶安から元禄当初と推測される。正月のトンド行事と農作業祈願の神。他地区同様、トウヤ(禱屋)・添番と5人の当番を決めて、1年交代で一切の祭祀を司る。田植の日取りを決める神事は、いまでも引き継がれる(平成3年当時)。
9	力石(上谷薬師堂)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	生活	不詳	西福原七丁目(下谷地区)		若者たちが農作業を終えると吉氏洞広場に集まり、地藏を担いで己の力を競った。その次に、整形のつつの石(約130kg)で力を競ったという。
10	トンドさん行事(下谷)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	～現代	西福原(下谷地区)		準備:根付きの真竹を荒神鎌とする。1月7日朝、西福原神社(荒神さん)境内に集合しトンド場まで巡幸。行列(祭具を持つ2番当、宮居を奉持した頭屋、太鼓担ぎ)。トンド場で注連縄に点火。その後、公民館で講の総会、直会。頭屋くじで頭屋を選び、頭屋は1年間歳徳神の祠(宮居安置)を守る。
11	二十八日講	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	～現代	西福原(下谷地区)		毎月28日、美保湾の灘から汐水を汲み、海砂をフゴに入れて持ち帰り、神社に参拝する。採集した海藻で汐水を撒いて神殿を清め、砂は拝殿の前に供える。余った水は各家に撒いてお祓いをする。今でも継承(平成初年)。
12	下谷踊り	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	民俗芸能	～現代	西福原(下谷地区)		8月14日・15日。会場:かつては個人の邸の庭。

米子市歴史文化遺産リスト(弓浜)

住吉地区

No.	名称	指定等	区分			年代	所在地	所有者	概要
			分類1	分類2	分類3				
未指定文化財									
1	米子城御天守奉行御役心覚帳	未指定	有形文化財	美術工芸品	古文書	天保5年、14年	上後藤地区	個人	米子組士菅氏が奉行に任ぜられた時(天保5年)と、荒尾但馬が帰城して天守を見回った時(同14年)の記録。
2	鹿島昌之家文書	未指定	有形文化財	美術工芸品	古文書	慶応元年から明治2年まで	旗ヶ崎四丁目	個人	「町年寄鹿島重好御用日記」、「御老役御触書」(幕末・明治初年に町年寄りを務めた鹿島重好の公文書)。慶応元年から明治2年まで残り、当時の米子町民の生活の実相を詳細に知ることができる。
3	旗ヶ崎三区荒神社の棟札	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	明和4年	旗ヶ崎五丁目		明和4年に、旗ヶ崎神社の別荘を勧請し、下谷荒神宮として奉ると伝える。荒神社は、昭和37年再建。

2. 米子市歴史文化遺産リスト (地区別)

4	安倍荒神社の棟札	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	文化9年	旗ヶ崎八丁目		文化9年勧請奉納の棟札ほか、拜殿、神殿、歳徳神殿の再建の棟札多数あり。勧請の棟札は、江戸末期、新田を開発した荒尾氏家老村瀬家(米子城代家老の重臣)の武運長久を祈る。荒神社は昭和61年に移転造営(歳徳神と合祀)。
5	歳徳神社(安倍)の棟札	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	文化9年、嘉永2年、文久3年	安倍		文化9年の棟札があり、このとき創建と考えられる。嘉永2年と文久3年の再建の際の棟札に、寄進者として開発者村瀬氏の姓あり。社は、昭和48年に現在地に遷宮。
6	社日塔(旗ヶ崎三区)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	嘉永5年(推定)	旗ヶ崎五丁目		高さ71cm、1辺16.5cmの石碑が、五角形の台石に立つ。五角形の石柱の各面に、壇安姫命、倉稲魂命、少彦名命、大日貴命、天照大神の五神の名を刻む。「旗ヶ崎三区」は、旧安倍村。
7	回国塔(徳謙山安倍堂墓地)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	天保11年	旗ヶ崎八丁目		自然石、高さ(台座含む)121.0cm。「大乘妙典六十六部供養」。天保11年9月、回国を行っていた出羽国の行者のために同行していた因幡国の行者らが建立。
8	トンドさん(旗ヶ崎三区)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	～現代	旗ヶ崎三区		前日:トンド立て。シンボコの上に横竹を結び付け、十字にし、日の丸と鶴、松が描かれた扇を、上部と横竹の両端につける。当日:神事・神楽、火渡し、くじ上げ。神輿巡幸(大幣、獅子面、天狗面、子ども神・笛吹隊、神楽、大黒神輿、神輿)、直会。家形神輿は、総樺の神輿造り(安政6年作)。
9	トンドさん(安倍)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	戦後復活～現代	安倍地区		前日:神輿巡幸(大幣、参矢、大人神、天狗面、獅子面、大人神楽、神輿、子ども神・お供など。歌とハヤシが付く)、新年会。経路:集落内(灘荒神社、歳徳神社経由)。当日:トンド焼き入れ(歳徳神社と灘荒神社)。トンドは30mほどのミノグミ注連縄を巻く。戦後間もなく復活。
10	左義長(上後藤)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	昭和52年(復活)～現代	上後藤地区	上後藤左義長保存会	前日:トンド立て、当日:糺神社宮司によるお祓いと安全祈願祭、火入れ、保存会が、「左義長、左義長」と叫び、参加者が拍手。神輿巡幸(神輿、大幣、太鼓、天狗、獅子、金幣・銀幣、道中に伊勢音頭)、直会。経路:町内巡幸。昭和52年に再開。
11	盆踊り(安倍地区)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	民俗芸能	昭和49年頃(復活)～現代	安倍地区		河崎村(元禄10年開拓)から習ったと伝わり、昭和初期には、河崎と交流が盛ん。会場:マルイ(旧ユニサン)安倍店駐車場広場。唄「関の五本松」、「炭坑節」など。昭和49年ごろ復活
12	米子赤かぶ(地域特産物)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	伝統食	明治中期～昭和前期	旗ヶ崎地区		明治初期から昭和18年頃まで、当地区を中心に盛んに栽培された特産品。見た目が美しく、肉質がなめらかで柔らかく、甘味があつて漬物にして大変人気があつた。戦後ほとんど栽培されなくなったが、品種は維持されて商品化が試みられている。
13	新田師墓地	未指定	記念物	史跡	墳墓	江戸後期	旗ヶ崎七丁目		天保15年から約30年間行われた流し新田工事における熟練した指導者の墓。米川の水を流す水路を深さ3～6mも掘り、土砂崩れや生き埋めの危険も大きい工事だった。第2次新田工事の時期に亡くなったと推定。旗ヶ崎六丁目から移設。

加茂地区

No.	名称	指定等	区分			年代	所在地	所有者	概要
			分類1	分類2	分類3				
未指定文化財									
1	荒神谷荒神の社殿	未指定	有形文化財	建造物	建造物	未調査	両三柳(上三柳・加茂三区)		加茂村の開発にあたって、部落ごとに荒神社を勧請した。木造社殿未調査
2	木彫「天籟(てんらい)像」	未指定	有形文化財	美術工芸品	彫刻	明治45年	両三柳(米子市立加茂小学校)	米子市(加茂小学校)	鬼才の彫刻家戸田海笛の『山陰鉄道全通記念全国特産品博覧会』(明治45年)出品作品で、高さ75cm。明治21年両三柳村の生まれ。加茂小学校には、ほかに、ブロンズ像の「工夫(こうふ)」(高さ65cm)を所蔵。
3	市庵観音堂の棟札	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	元文3年	両三柳(上三柳・三区上)		市庵観音堂の本尊は観世音大士尊像で、出雲国から2体のうち1体を勧請して遷した。元文3年岸本家3代寄進の棟札あり。その後、移転。昭和60年に観音堂を再建。
4	米子航空機乗員養成所之碑	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	昭和51年	両三柳	国	昭和13年から20年まで、米子飛行場にあった通信省の航空機乗員養成所の記念碑。全国で2か所、米子と仙台に開設された。95式型三型練習機は「赤トンボ」と呼ばれた。黒御影製、中央:幅70cm、高さ172cm、奥行51cm。台座2段に基壇あり。
5	下三柳荒神の木祠(下三柳天満宮)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	両三柳(下三柳・五区中地区)		下三柳高木家の南にある、三柳を開拓した高木家の屋敷神として三荒神が祀られた神社。慶安2年に高木作左衛門の母が出雲神門郡菅原から小松1本をもらい受け、天満宮を勧請したとの記録あり。
6	妻神(さへのかみ)(下三柳)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	両三柳		石造りの切妻造神様に鎮座。場所は、「妻神」の小字が残る場所で、上三柳との境である加茂新川の川縁にあり、昔から下柳の村を守ってきた。現地に移転。「石に刻まれた祈り」:石祠(雲あるいは波の装飾を彫り出す屋根付き)、木製の御神体。
7	下谷トンド山(とんどさん)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	両三柳(下谷・両三柳一区)		小高い山の上にトンドさんのお宮(小祠)がある。5月第一日曜日に、トンド講(夜、山に集まり、穴を掘り、火を焚き、囲んで飲食)。11月の亥の子の日に、糺神社宮司に祝詞を挙げてもらう。
8	トンドさん(加茂・上谷)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	～現代	両三柳(上谷・両三柳一区)		前々日:幟、飾り付け(竹、神鈴…根付き孟宗竹等切り出し)。当日:火渡し。幟片付け。講開き。くじ引き。お宮渡し(行列)～オハラ(清めの役)、フナグルマ(大小の太鼓を載せる)、笛、お宮など。トウヤは烏帽子に千早・袴。墨で化粧。トウヤ(2人)は1年間お宮を預かる。トンド二つ、お宮二つ。
9	トンドさん(加茂・下谷)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	～現代	両三柳(下谷・両三柳一区)		トンド立て、飾り付け、幟立て。直会、トウヤくじ引き。火渡し。ワタリ(行列):ヘイゴシ(小さな幣)、フナグルマ(太鼓が載る)、お宮。トンド～シンボコ1本(根付き)、飾り1本(12、3本の竹を芯に、ミノグミ巻き、日の丸の扇子)。トウヤは烏帽子にのぼりが衣装。顔にひげを描き、口にツバキの葉をくわえる。トンド場二つ。
10	歳徳大神宮講(加茂・中谷)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	～現代	両三柳(中谷・両三柳二区)		当日:火渡し(トンド山)。次回の宿(世話人)くじ引き。シンボコさん(竹1本だけ)とトンドさん(正月の注連縄などを積む。)と一緒に燃やす。小祠は、平日は糺神社に安置。行列なし。
11	トンドさん(加茂・オクノタニ)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	～現代	両三柳(オクノタニ・両三柳三区)		トンド立て、飾り付け。講開き(トウヤ宅)、くじ引き、火渡し。ワタリ(行列)トウヤ宅から新トウヤ宅まで。

2. 米子市歴史文化遺産リスト (地区別)

12	トンドさん(加茂・前谷)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	～現代	両三柳(前谷・両三柳三区)		竹立てと鳥居立て。火渡し。当家で直会。トウ渡し。行列あり(当家から次の当家へ。太鼓(フナグルマに載せる)、お宮、神具等)。トウヤが1年間、お宮を預かる。トンド場: 田
13	トンドさん(加茂・荒神谷)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	～現代	両三柳(荒神谷・両三柳三区)		トンド立て(根付きの真竹)、飾り付け。講開き(宴会の始めと終わりに愛宕舞を謡う)、くじ引き、火渡し。行列(太鼓を載せた船、笛、宮)、トウヤ宅から新トウヤ宅まで。トウヤが1年間、お宮を預かる。
14	隠居谷歳徳神(トンドさん)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	～現代	両三柳(隠居谷・両三柳三区)		トンド飾り(根付きの真竹)、火渡し、祝賀会、当かくじ引き。行列: 当家から新当家へ。構成～お宮、太鼓、笛。お宮は自治会館で預かる。子ども組: 神楽で各家庭を訪ね、無病息災と家の繁栄を祈念。トンド場: 農地。
15	トンドさん(加茂・前谷)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	～現代	両三柳(前谷・両三柳四区)		前々日: トンド立て(根付きの真竹)。当日: 火渡し、宴会(花札をする)。お宮は1年間トウヤが床の間で預かる。行列なし。
16	トンドさん(加茂・後谷)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	～現代	両三柳(後谷・両三柳四区)		トンド立て(根付きの真竹、シンボコさんと燃やすトンドさん)。火渡し。行列(講全員で新トウヤにお宮を送る。)。お宮は1年間トウヤが床の間で預かる。
17	トンドさん(加茂・五区上)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	～現代	両三柳(両三柳五区上)		前日: トンド立て(シンボコさんとトンドさん、根付きの真竹取り、飾りつけ)。当日: お宮行列(自治会館から、集落の中を回り、トンド場まで。神輿を担ぐのは子ども会及び青年部で太鼓をたたきながら進む。)、火渡し、お宮行列(自治会館に安置。)、直会。
18	トンドさん(加茂・五区中)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	～現代	両三柳(両三柳五区中)		前日: トンド立て。当日: 行列(トウヤ～トンド場。露払い(塩まき)、米、太鼓、榊、酒、お宮)、火渡し、飲食。行列(トンド場～新トウヤ、祝い唄を謡う)。トンド飾り: 横に添え竹を付けて、藁や縁起物をつける。トンド場: 下三柳荒神社の境内。
19	トンドさん(加茂・五区西)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	～現代	両三柳(両三柳五区西)		トンド立て、火渡し、直会、宮送り(頭屋班を回って自治会館に安置。露払い、酒、お宮)。トンド飾り: 横に添え竹を付けて、藁や縁起物をつける。
20	御歳徳神講(トンドさん)(加茂・六区)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	～現代	両三柳(両三柳六区)		前日: 飾りつけ。当日: 火渡し。当家で講開き(各人がトンドさん(お宮: 小祠)にお詣りし、宴会)、小祠行列(新当家に小祠を送る。大太鼓、小太鼓、小祠)。当家で小祠を安置。トンド場: 田。
21	トンドさん(加茂・六区)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	～現代	両三柳(勝田屋谷・両三柳六区)		トンド場(田)で、当家が小さい竹を10本ほど置く(立てない)。当家が火入れ。その場で次の当家にトンドさん(小祠)を渡す。行列なし。小祠棟札(文政8年)
22	荒神講(上谷・前谷)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	～現代	両三柳(上谷地区・前谷地区)		両地区の17戸で構成。①12月5日が祭日、湯立が行われる。古代の「くがだち」(盟神探湯)と同じ流れの儀式。②水神幣(すいじんべい)を作って集落の全部に配り、川筋や、田の水口、井戸の周りに立てて水神を祀る。
23	三柳村元祖之塔(墓碑)	未指定	記念物	史跡	墳墓	正徳2年	両三柳(下三柳・加茂五区)		三柳開拓の元祖、高木作左衛門夫婦を祀る墓碑。下三柳地区は、出雲国意宇郡出身の高木氏により江戸時代初期に開かれた。その後、代々庄屋や大庄屋を務めた。
24	小松荒神(古松荒神)さんの境内地	未指定	記念物	史跡	信仰	不詳	両三柳(上谷・両三柳一区)		高木家の招きで、寛永の終わりごろ、出雲の同じ村から上三柳(上谷)に来住し開拓した「宮平氏」ゆかりの地。現在、玉垣と叢林のみ、松樹がご神体。下三柳開拓の祖の「鯨池荒神(高木家屋敷神)」とは、出雲から勧請した姉妹の神との伝承が残る。かつては、水田の中の塚が下柳の鯨池荒神と対峙していた。
25	大潮庵跡(現: 阿弥陀堂)	未指定	記念物	史跡	信仰	明和元年、寛政6年	両三柳(下三柳・加茂五区)		庵寺「大潮庵」があったが、現在、阿弥陀堂のみ。三柳開祖塔と並んで、大潮庵開基義門の墓碑(寛政6年)と舟形光背を持つ地藏尊(明和元年)が祀られている。義門は、宝暦10年から寛政6年まで33年間、虚無僧改役として役所を開いた。

河崎地区

No.	名称	指定等	区分			年代	所在地	所有者	概要
			分類1	分類2	分類3				
未指定文化財									
1	塔婆堂(四軒屋)	未指定	有形文化財	建造物	建造物	未調査	河崎(四軒屋地区)		享保14年現在地に辻堂建立。地元の豪農矢倉家が宝永元年(1704)に流れ着いた塔婆木供養をした祀堂を創建とする。木造塔婆堂未調査
2	木野山神社の社殿(河崎)	未指定	有形文化財	建造物	建造物	明治12年	河崎(伯母山地区)		明治12年コレラが流行し、備中高梁木野山神社から疫病退散のため小祠を勧請した。古い棟札によると、当初、天明元年(1781年)建立して恵美須神を奉祀した。木造社殿未調査
3	河崎荒神宮の社殿(河崎神社)	未指定	有形文化財	建造物	建造物	未調査	河崎(四軒屋地区)		正徳元年(1711)粟嶋神社から勧請して祀る。開発の中心となった矢倉平左衛門が、大庄屋から命ぜられたと記録。四軒屋・御建・伯母山・芝谷地区の氏神として崇敬されている。木造社殿未調査
4	浜橋荒神宮の社殿	未指定	有形文化財	建造物	建造物	明治40年	両三柳(浜橋地区)		明治40年に糺神社より勧請して建立。木造社殿未調査
5	矢倉幸子文書	未指定	有形文化財	美術工芸品	古文書	享保12年など	河崎	個人	「河崎村由来記」(元禄元年、享保12年に写す)、「河崎村山名寄改帳」、「口会見郡河崎村締合儀定書」(安政2年)。
6	常夜燈(浜橋)	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	安政2年	両三柳(浜橋地区)		浜橋は、藩政期に、境方面からは米子に通じるほか、米川を通り車尾から因幡・日野方面に通じる道の分岐点で、交通の要衝にあった。「因伯太守公」などの刻字あり。南西手前にあったが、道路拡張に伴い現在地へ移された。
7	亀川記念碑	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	未調査	河崎		米川用水を分水利用するための600mほどの用水路「亀川」を作った記念の石碑。受益面積約10ha。
8	芝谷由来記	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	不詳	河崎(芝谷地区)	個人	足芝家蔵。芝谷地区のトンドに関係する古文書を含む。
9	あごなし地藏(御建地藏)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	河崎(御建地区)		小野篁と娘阿古奈との恋物語がある、隠岐西郷町の「阿古奈地藏」を勧請した(年代不詳)。歯痛のご利益があるとされ、顎が削られる。小祠に祀る。

2. 米子市歴史文化遺産リスト (地区別)

10	トンドさん(浜橋)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	～現代	両三柳(浜橋地区)	当日:火渡し。後町内行列。行列(太鼓引き(子どもたち)、太鼓・小太鼓、大幣、小幣、榊、神輿、天狗、獅子)、直会、トウ渡し(くじ引き)、蔵納め。当屋が歳徳神になり、全戸を回る。トンド(シンボコ):竹を中心に黒松と梅を飾る。ミノグミで巻く。
11	トンドさん(御建)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	～現代	河崎(御建地区)	火渡し。大宮(神輿)を三番当の家で、4つの小宮(小祠)を載せて、巡幸。行列(神楽は、太鼓大小、片面打ち。笛、チャンガラ、手拍子(竹ササラ)など使う。)。4つの小祠のうち3つを宿宮と呼び、1番当から3番頭がそれぞれ預り、1年間祀る。
12	トシクジンジンジ(伯母山)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	～現代	河崎(伯母山地区)	1月1日:1～3番のトウヤが祠から宿宮(ヤドミヤ)をお迎えし、太鼓と笛で集落を回る。5日:トウヤの選定(くじ引き)。当日:火渡し(火入れで太鼓をたたく)。神輿行列(サカキ、天狗、獅子、大幣、本宮担ぎ(コシカキ)、大太鼓、小太鼓、笛、子ども会)、本宮(ホンミヤ)。
13	トンドさん(芝谷)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	～現代	河崎(芝谷地区)	1日目:トンド立て～ミノグミを編んで巻き付け円錐形にする。2日目:火入れ、神輿行列、榊をトンド場で燃やし、直会。行列(榊、御幣、太鼓引き、横笛、神輿。経路:歳徳神社～トンド場～公民館～寄進をされた家～歳徳神社)。
14	日御碕神社夏祭り・神社籠り	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	～現代	河崎(河崎新田)	夏祭り:6月7日。疫病や外注のお祓いや家内安全を祈願。お祓いを受けた上札を地区の東西南北の四隅に青竹に挟んで立てる。神社籠り(講):講中が神社に集まってお祓いを受けたのち、農作業の慰労をする。講中30数軒(平成11年当時)
15	河崎の盆踊り	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	民俗芸能	昭和初期(全盛期)平成8年～現代	河崎(伯母山、御建、芝谷各地区)	昭和初期から全盛期を迎え、昭和9～11年に全山陰農村芸能大会に連続優勝。小唄調の26音形式で、「ヤーハトナー」、「ヨーイヤナ」、「ドッコイシヨ」のハヤシ言葉を踊り子が唄い、二拍子で太鼓、三味線、笛の伴奏で構成。歌詞が独創的、派手な河崎花笠踊りは昭和9年ごろから踊り、平成8年に復活。
16	河崎新兵衛の碑(河崎元祖碑)	未指定	記念物	史跡	墓碑	不詳	河崎(四軒屋地区)	河崎村開村の功労者の碑。元禄6年、米子組土河崎新兵衛が、当時三柳村の山林などを買い受けて自ら移住し新田を切り開いた。
17	浜橋(米川)	未指定	記念物	史跡	交通施設	不詳	両三柳(浜橋地区)	浜橋は米子城下町と「浜の目」(弓浜部)の境にあり、米川堤道を通って車尾(淀江)方面からの往来も交わる要所。浜の目の街道は、米子の「出口」(現在の立町4丁目)から上後藤を経て浜橋に、浜橋から大水落川筋を経て夜見に至る。橋柱銘板:米川上流右岸側「昭和6年3月」

彦名地区

No.	名称	指定等	区分			年代	所在地	所有者	概要
			分類1	分類2	分類3				
指定文化財									
1	粟嶋神社社叢	県	記念物	天然記念物	植物		彦名町	粟嶋神社	粟嶋は標高約36mの小山で、現在陸続き、山の周囲は急峻な崖地が多く、約1.6haの全山が手つかずで、この地方で数少ない天然の照葉樹林。植生は、スダジイ、ヤブツバキ、ネズミモチ、ベニシダなどの樹種に富む。中海側に高木が少なく、東側に大木が分布し、小山でこのように植物分布状態が異なるのは珍しい。
2	粟嶋	市	記念物	名勝	島嶼	江戸期	彦名町	粟嶋神社	中海に面し、標高約36mの小山で、現在陸続き。古代から神の宿る山として信仰がある。山頂に粟嶋神社の社殿があり、ここからの眺望は素晴らしい。江戸時代の米子八景にも「粟嶋秋月」「粟嶋晴風」として採り上げられる。
未指定文化財									
1	粟嶋神社本殿	未指定	有形文化財	建造物	建造物	昭和11年	彦名町	粟嶋神社	大社造変形。創建年代不詳。古代より神の宿る山としての信仰がある。山のふもとにあって戦火に焼かれた社殿を、尼子氏が山頂に遷し造営。慶長6年中村一忠が社を修理し、寄進。昭和11年正遷宮。
2	粟嶋神社由来書ほか古文書	未指定	有形文化財	美術工芸品	古文書	江戸期	彦名町	粟嶋神社	由来書、神職神道裁許状(安永10年、文化3年、嘉永2年)、御勅使西園寺公粟嶋神社御社参控(参拝、休憩の模様、諸費用を記す)、下付諸証文(慶長6年～安政8年の諸証文。慶長8年中村一忠による土地寄進状)など
3	荒尾家家臣村河氏判物並びに家筋書上	未指定	有形文化財	美術工芸品	古文書	江戸期	彦名町	個人	鳥取藩の陪臣である村河家の文書。11代与一右衛門直純によって書かれ、9代目直方の横死についても触れている。
4	粟嶋神社大灯笼	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	嘉永2年	彦名町	粟嶋神社	市内最大級。嘉永2年建立、後藤家が奉納。
5	戦勝碑・忠魂碑(粟嶋神社)	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	昭和9年ほか	彦名町		①日清戦争戦勝記念碑:侯爵池田仲博揮毫。②忠魂碑:彦名地区戦没者96名を祀る大モニュメント。陸軍大将鈴木六六揮毫。昭和9年建立、同43年合祀、平成12年修理。
6	渡米者寄進灯笼(粟嶋神社)	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	昭和15年	彦名町	粟嶋神社	昭和15年に渡米者30名が皇紀2600年を記念して寄進した春日灯笼。粟嶋神社忠魂碑前に一対2基。「よなごの宝八十八」では29名とも。
7	後藤文哉先生記念碑	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	明治24年	彦名町(彦名七区)		明治の教育者後藤文哉の遺徳を讃える記念碑(石碑)。医業を継ぐ傍ら、私塾を開き地元の教育に当たった。2代彦名小学校長。門下生に、初代米子町長遠藤春彦、初代米子市長西尾常彦など。東福原の高橋塾初代高橋正平の二男。
8	船入道新設記念碑	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	大正9年	彦名町(彦名九区)		「舟入り移設記念碑」があり、舟入と集落を結ぶ道の建設が、中海漁業、モバ(藻葉)の運搬に必要であったことを物語る。
9	伯州綿栽培用具	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	生産	明治期～昭和期	彦名町2850番地2(米子市立彦名公民館)	米子市	伯州綿の栽培に関する用具。砂地でを行い、肥料に中海で採れる藻場を使用する弓浜地域の綿栽培は全国的に珍しい。
10	社日塔(粟嶋神社)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	天保14年	彦名町		天照大神、倉稲魂命、大己貴命、少彦名命、埴安姫命の五神名に「素戔嗚命・保食命・稚産霊命・猿田彦命」の四神を加えて、九神を彫る五角形の石柱。
11	上講中トンドさん	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	信仰	～現代	彦名町(彦名一区・彦名二区)		前日:トンド立て。シンボコ20～30mほど。当日:火渡し。粟嶋神社でお祓いを受け、神輿行列(当番長、榊、胴(大太鼓)、神輿など)、各公民館で直会。経路:地区内。トンド場:粟嶋神社より南東方向の海側

2. 米子市歴史文化遺産リスト (地区別)

12	流田講中トンドさん	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	信仰	～現代	彦名町(彦名三区・彦名四区)		準備:掃除、お祓い、次年度の抽選、トンド立て。当日:火渡し(旧舟道トンド場)、神輿行列(天狗、宮、神輿、奥垣、胴・小太鼓・胴曳き、笛)。経路:地区内。
13	高瀬講中トンドさん	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	信仰	～現代	彦名町(彦名五区)		前日:トンド立て。神木とミノグミ。当日:火渡し。講開き(当家決め、直会)。1番～3番の当家は、旗を家の前に1年間出し、お宮を12月31日から当日まで順に預かる。トンド場:トンド山横、高専横。行列なし。
14	トンドさん(第6区講中)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	信仰	～現代	彦名町(彦名六区・藪中地区)		前日:コーセン山(高専近く)の傍らにトンド立て(龍神宮近くの孟宗竹で)。シンボコの傍に TENT を設け、お宮さん(小さい祠)と胴を据える。当日:火渡し。講開き(くじ引き、直会)。行列なし。
15	左義長(中村講)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	信仰	～現代	彦名町(彦名七区・彦名八区)		当日:トンド場に講員が集合し、開講祈願し、火渡し。トンド場:安置所(神輿、小祠)境内。行列なし。歳徳神神輿(家型)は、明治22年に納める。
16	トンドさん(大下)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	信仰	～現代	彦名町(彦名九区・彦名九一区・彦名十区)		準備:トンド立て(シンボコさんの先に扇を3本付け、胴回りにミノグミを巻く)。当日:火渡し。行列なし。
17	トンドさん(八反場)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	信仰	～現代	彦名町十一区	彦名八反場トンド講	前日:トンド立て(大小2本立てる。各竹2本と松1本。ミノグミで化粧締め宮さん飾り)。当日:火渡し(小、大の順)。講開き。神輿行列(天狗、幣ゴシ、獅子、胴引(太鼓)、神輿)。経路:地区内。
18	八百比丘尼の伝説	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	伝説	～現代	彦名町		粟島近くの漁師の娘が、誤って人魚の肉を食べて年を取らず、尼になって粟島山裾の洞窟に入り、百歳まで生きた。村人たちは「八百比丘尼」として祀った。800歳まで長生きしたともいう。
19	静の岩屋(志津の石屋)	未指定	記念物	史跡	信仰	不詳	彦名町	粟嶋神社	粟島にある八百比丘尼伝説を持つ岩陰洞窟。入口幅70cm、高さ180cm、奥行8.3m。粟島さん近くの漁師の娘で、誤って人魚の肉を食べて年を取らず、尼になって入った洞窟といわれる。「八百姫宮」(鳥居)として祀られる。入ると災いがあると言われ、長生きを願う人がお参りする。
20	お岩さん(お岩宮祠)	未指定	記念物	史跡	信仰	不詳	彦名町	粟嶋神社	岩を「神の依代」とする原始信仰の名残と思われる。このような岩は、山陰海岸一帯にある。その昔、神様が海からたどり着いたと真っ先に抱き疲れた岩とする。
21	ラムサール条約登録湿地(米子水鳥公園)	未指定	記念物	天然記念物	動物	平成7年	彦名新田	米子市	敷地面積約30ha。野鳥を観察できるネイチャーセンターや水鳥の楽園「つばさ池」などがある。ガン、カモ類を中心に、年間100種、10万羽以上の野鳥が飛来する、西日本屈指の水鳥の越冬地。コハクチョウの世界での集団越冬地の南限。ラムサール条約に登録。平成7年「米子水鳥公園」完成。昭和49年、中海は「国設鳥獣保護区」に指定。

夜見地区

No.	名称	指定等	区分			年代	所在地	所有者	概要
			分類1	分類2	分類3				
指定文化財									
1	芋代官碑	市	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	江戸期	夜見町	迎接院	石見国大森銀山領代官・井戸平左衛門正明が農民にサツマイモ作りを奨励したことにより、食糧危機を脱した功績を讃えて、「芋代官」と崇めた顕彰碑。弓浜半島には、安永9年ごろに伝わるという。毎年迎接院で、供養が行われている。夜見の碑は墓石型で年代不詳だが、万延元年とも伝え、刻まれている世話人の過去帳とも矛盾しない
未指定文化財									
1	迎接院(コウショウイン)本堂	未指定	有形文化財	建造物	建造物	未調査	夜見町	迎接院	浄土宗。創立は元禄年間で、始めはお堂。明治6年に「夜見学校」が院内に開校。昭和22年、知恩院の末寺として開山。木造本堂未調査
2	夜見神社本殿	未指定	有形文化財	建造物	建造物	昭和8年	夜見町	夜見神社	大社造変形 4尺x5尺 昭和8年再建。貞享元年、当地の開祖、森六良右衛門守連が、余子神社(境村)の荒神宮を勧請し、奉斎。保13年夜見新田が形成されて、明和年間に現在地に移った。木造社殿未調査
3	倉吉屋喜和助家之記録	未指定	有形文化財	美術工芸品	古文書	文政10年	夜見町	個人	享保10年に、喜和助が海中から引き揚げた阿弥陀如来が当村の辻堂の本尊に安置された次第を記録。「喜和助」は江戸中期に船の水主(かこ)を業とした。
4	「夜見神社略記」(夜見村開拓資料)	未指定	有形文化財	美術工芸品	古文書	江戸期	夜見町	夜見神社	夜見村始祖森家10代目忠知が、「余子神社由緒」と「伯州夜見村荒神記」をもとに書いた。開拓を始めた森右衛門守祥と次男六郎右衛門源守連の親子が、官許を得て延宝7年に入植を始めてから、明治元年までの間の夜見地区開拓の歴史を記す。
5	鳥取県伯耆国会見郡夜見村全図	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	明治22年前後	夜見町	個人	町村制発足(明治22年)前後の絵図。地番と通称字地名が書かれ、新開川の設計水路と旧県道を書き込み、貴重。明治期に海岸線が海側に著しく後退していることがわかる。
6	境往來の道標(夜見)	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	文化年間	夜見町	個人	米子から境に通じる外浜往來において、夜見から因幡へ向かう道(「因幡道」)との交点にあった道標。「右米子口 左淀江口 因幡口」,「境江三里 三保関五里」などと刻む。外浜往來(旧道)が夜見町上谷で市道東福原樋口線と合流するところ(茶店脇)にあったが、現在は個人宅に保管。通称「力石」。
7	常夜燈(夜見神社参道)	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	天保14年	夜見町	夜見神社	外浜往來である旧道沿いに、2基。天保14年の刻字がある巨大な灯籠。
8	蟬丸の面(夜見神社)	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	未調査	夜見町	夜見神社	平安前期の和歌・琵琶に秀でて、盲目の最高位・蟬丸検校を祀る。旅の途中、米子の地で生涯を閉じ、博労町に蟬丸神社を建立し祀ったが、祀る人が途絶え、明治3年、天満宮の神官が当社に転勤の折、御神体の一部の能面を、移して祀った。
9	軍人記念碑(夜見神社)	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	明治28年	夜見町	夜見神社	明治28年、西南の役(日清戦争)の戦死者1名、日清戦争の戦没者2名の追悼碑(追記:日露戦争の戦没者3名)。当初は村役場前庭に建立、第2次大戦後に迎接院敷地に移した。その後、再度神社境内に再建した。
10	延命地藏さん(夜見1区)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	文化12年	夜見町(上谷地区)		海から引き揚げられたとも、九州から持ち帰ったともいわれている。大正3年ごろ、陸軍のラッパ兵だった人が祀り断食・水垢離したところ、のどの病気が全快したといわれる。昭和63年から「月と地藏まつり」と称し、中秋の名月のころ、花やダンゴを供え、お経をあげて礼拝した後、歌や踊りで慰霊する。

2. 米子市歴史文化遺産リスト (地区別)

11	芋代官まつり(迎接院)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	～現代	夜見町(1区)	自治会	毎年6月、芋の収穫時期に、迎接院の芋代官碑の前で供養が行われ、その他、講話、芋粥のふるまいなどが行われる。
12	トンドさん(夜見・古地)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	～現代	夜見町(上谷地区・中谷地区・樋口地区)		前3日間:神楽(祝宮祭)、当番区の集会所。前日:トンド立て～夜見神社境内広場。当日:火渡し～宮司のお祓い後、火打石で点火。神輿行列(禰神楽、鼓引き、天狗、当神主、獅子、唐団扇、神輿、小幣、ヒョットコ、オカメ、大幣)。トウ渡し行事。トンド月当番がお宮を迎える。
13	トンドさん(夜見新田)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	平成10年(復活)～現代	夜見町(夜見新田(夜見四区・夜見五区))		前日:準備。トンド立て～夜見神社境内。当日:神輿行列(太鼓、トウガンヌシ、神輿)が夜見神社、夜見四区、五区を回る。その後、火渡し。トンド～注連縄などの正月飾りの上にミノグミを被せた。トンド神輿は、昭和33年から中断、平成10年復活。
14	観音講(出雲三十三観音画像)(夜見)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	～現代	夜見町	観音講	出雲霊場の33か寺の本尊を描いた画像を、33戸の篤信家が祀り、観音さんの日(旧暦3月17日)に、当屋がそれぞれ画像を持ち帰り、札所として講開きをする。かつて、夜見村だけで札所が33番までできるほどだった。
15	鳥追い行事(夜見公民館)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	平成18年(復活)～現代	夜見町		7日正月に行う。途絶えていたが、平成18年に復活、夜見公民館主催。春の七草をまな板に並べ、シャモジとスリコギを両手にして、害鳥を追い払う歌を歌いながら、まな板の七草をたたく。その後、正月の餅を入れて作った「七草がゆ」をいただく。子供たちが行う。
16	湯立てまつり(夜見一区)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	昭和59年(復活)～現代	夜見町(上谷地区・中谷地区)	自治会	毎年11月に、大きな松の前で大釜に湯を沸かし、宮司による笹でのお祓い後これを飲む。慶応年間の当地での伝染病流行の際、疫病除けに行われた風習が地主講としてあった。昭和59年に「地主さんの松」の周りに玉垣を再建すると同時に、行事を自治会が22年ぶりに復活させた。
17	御禱祭(おとうまつり・マイタマイタ)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	平成15年(復活)～現代	夜見町		1月11日。夜見開村の祖先を祀り、その偉業を偲んで感謝するとともに、豊作と村の繁栄を祈る行事。宝暦末か明和初期に始まったと推定。平成5年に途絶え、同14年に復活。糞をなつて大蛇(おろち)を作り、夜見公民館の松に巻き付けて展示した後、夜見神社に奉納。戦前までは、大蛇は夜見神社の大松に「マイタマイタ」と掛け声をかけながら天に昇るように巻き付けていた。
18	盆踊り(夜見)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	民俗芸能	～現代	夜見町		毎年8月15日、夜見町民グラウンド。「茶町踊り」、「かんど踊り」が主流。昭和62年に、オリジナルの「夜見音頭」ができた。(由来)天保年間に大根島から渡(境港市)へ移り、さらに夜見町へ移住してきたと伝えられる吉岡(モツ)を中心に行われてきた。
19	夜見開祖森六郎右衛門夫妻墓	未指定	記念物	史跡	墳墓	江戸期	夜見町	迎接院	夜見地区開祖、森六郎衛門守連氏の墓碑。石碑の正面に当村開基とあり、夫妻の戒名を記す。境村の余子神社神官森守祥の次男「森六郎衛門守連」は、寛文9年に夜見を開墾し始め、延宝7年に森家ほか4家が移住し開墾する。
20	渡辺長節(柏壽軒先生)の墓	未指定	記念物	史跡	墳墓	不詳	夜見町		「柏壽軒先生之墓」(墓誌あり)
21	立て石(一里塚)(夜見町)	未指定	記念物	史跡	政治に関する遺跡	不詳	夜見町(上谷地区)		「鳥取まで30里」、「こちら三柳」と刻む石柱1本。「立て石」と呼ぶ。かつて、3本の立て石があり、村の若者が力比べをしたという。

富益地区

No.	名称	指定等	区分			年代	所在地	所有者	概要
			分類1	分類2	分類3				
指定文化財									
1	芋代官碑	市	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	明治41年	富益町	富益神社	井戸正明大人碑。享保16年に、石見国大森銀山領代官・井戸平左衛門正明が農民にサツマイモ作りを奨励した。その後、住民が食糧危機を脱した功績を讃えて、「芋代官」と崇め、建てた顕彰碑。弓浜半島には、安永9年ごろに出雲国から伝わるという。
未指定文化財									
1	富益神社本殿	未指定	有形文化財	建造物	建造物	明治19年	富益町	富益神社	春日造変形 5尺x7尺。安政5年伊勢大神宮の御分霊を勧請し、小祠を建立。万延元年、明治11年に社殿を建立した。県道外浜線が境内を通ることとなり、同19年現在地に奉遷。木造社殿未調査
2	富楽寺本堂	未指定	有形文化財	建造物	建造物	昭和33年	富益町	富楽寺	お堂として天保初年ころ創建し、明治6年、富益小学校開校の際、堂の建物を使って授業したと伝えられる。昭和25年、医王山富楽寺、龍泉寺末寺として発足した後、本堂、霊牌堂を再建。木造本堂未調査
3	元弓ヶ浜農産物集荷場	未指定	有形文化財	建造物	建造物	昭和24・25年頃	富益町		白ネギの県外向けの集荷・出荷のため、産地の中心のJR境線弓ヶ浜駅前に2階建て倉庫付きの集荷場が設置された。30年代前半まで、富益・夜見両町が主産地。現在は建材店倉庫。建物未調査
4	養蚕場(ようさんば)(富益)	未指定	有形文化財	建造物	建造物	未調査	富益町	松下行	明治30年代末期から大正にかけて弓ヶ浜の養蚕熱は急速に高まり、1戸当たりの養蚕規模も急増した。桑園の増反、家屋の増改築、養蚕場の新築などが相次いだ。建物未調査
5	木村昭二家文書	未指定	有形文化財	美術工芸品	古文書	安政7年ほか	富益町	個人	安政7年2月写し「会見郡富益村根元記」ほか。当村開村当時の記録で、所蔵する木村家は富益村第1次入植者17軒の一つ。
6	永見寛邦家文書	未指定	有形文化財	美術工芸品	古文書	近世	富益町	個人	富益村の宝永年間の開拓者で、綿作を中心にして発展した地主。藩政時代、たびたび庄屋を務めた。各年代の万日記などに地主の農業経営の一端を知りうる。綿作に関する文書あり。
7	富益邨元元祖塔(もとがんそ)	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	文化元年	富益町	富益神社	富益元祖についての顕彰碑。文化元年9月建立(開村95年後)、当村の医師平岡子善(等庵)撰文。宝永5年に17人が入植し、耕地の開墾に当たり、富益の名が与えられたこととその名(宝永と享保の入植者)を記す。
8	日清戦争戦没者顕彰碑(富益)	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	明治29年	富益町(上中地区)		故陸軍近衛歩兵二等卒足立君之碑。略歴と殉職の経緯を書いたのが、山村勉斎(江戸～明治の漢学者)。
9	牛頭天社の石祠(北口地区)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	明治25年～27年頃	富益町(北口地区)		明治25年～27年頃の創建(神社文書)。祭神は、牛頭天王で、疫病退散、家内安全、子孫繁栄などのご利益あり。例祭は、「トンド祭り」と並行して行われ、南口、西中、北口自治会の持ち回り。

2. 米子市歴史文化遺産リスト (地区別)

10	祇園神社の石祠(中村地区)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	明治35年	富益町(中村地区)		祭神は、牛頭天王。明治35年、祇園神社(現安来神社)からの勧請。当初25~26軒で現在10軒程の講。例祭10月体育の日、3自治会(上中・中村・下中)の持ち回り
11	火峯大明神の石祠(ヒノミヤさん)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	嘉永2年	富益町(西中地区)	西中足立モット	「柄さん」を祀る小祠。「柄さん」は小さな柄(つか)で、本家に疫病人が出た際の拜みでサワリがあるとして屋敷の西端を掘り出したものという。五輪塔とあわせて、一族の守護神として祀る。嘉永2年の祠の棟札あり。
12	住吉大明神(内田モット)の木祠	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	弘化3年以前	富益町(北口地区)	内田モット本家	本家屋敷の東端にあるモミジの古木を背に祀られている。地主神の役割を一族で祀る住吉大明神が担い、元旦に、簡単なお膳をつくりタライの葉に載せ、ウツギの箸を添える。勧請年不明。弘化3年再建遷宮の棟札あり。
13	杉谷荒神の木祠	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	昭和4年	富益町(新田地区)	下新田自治会	荒神は中島本家の勧請と伝える。嘉永4年の荒神講の記録あり。地区の上下で講を組んだが大正3年で閉じて、同7年に下新田地区のみで再講。石積みの祠から昭和4年に来待石の台石にお宮(肥松)を置き祀る。平成21年で講を閉じ、自治会に移管。
14	トンドさん(富益:上口)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	~現代	富益町(上口地区)	講	当日:くじによる本頭屋決め、直会、小祠(歳徳神)行列、火渡し、頭渡し。行列:幟、山車(小祠、太鼓)、富益神社を經由。トンド:根付きの真竹1本、小竹2本などで門を作る。火入れ時、小祠を祀り賽銭箱を置き、祭壇を設ける。トンド場:海岸。
15	トンド(富益:中村)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	~現代	富益町(中村地区)	自治会	前日:地区内を神輿が顔見世で回る。当日:講開き、次年度禰番の決定、神輿行列、火渡し。行列:棒付き(総指揮)、青木の枝で飾った山車(若手の担ぎ手)、神輿(子どもたち)。家の中までサンヤエを担ぎこみ歌って祝う。富益神社を經由。
16	トンド(富益:北口)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	~現代	富益町(北口地区)	自治会	前日:地区内を神輿が顔見世で回る。当日:講開き、次年度禰番の決定、神輿行列、火渡し。行列:棒付き、青木の枝で飾った山車(若手の担ぎ手)、神輿(子どもたち)。四家の中まで山車を担ぎこみ歌って祝う。経路:禰番宅~本家にあたる各家(四家)~富益神社~次年度禰番宅~トンド場。
17	ミタマ祀り(ジヌシ祀り)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	~現代	富益町(北口地区・西中地区)		米粉団子がミタマ。足立モット・内田モット:本家の屋敷の東隅に地主を祀り、分家がそれぞれ詣る。大晦日、各分家が米粉ダンゴを持って詣り、すぐに下げて持ち帰り家族と食す。永見モット:各戸で家の鬼門に地主を祀り、米粉ダンゴを供えた。、本家と分家1軒で続く。各モットで相違あり。
18	モットによる伊勢講(富益:北口)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	~現代	富益町(北口地区)	松下モット、内田モット	北口地区の手島、松下、内田各モットで行われる。禰番が小宮を1年間預り自宅で祀り、講開きは毎年正月のよき日を選んで行われ、この日に禰渡しがある。
19	盆踊り(富益)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	民俗芸能	~現代	富益町 富楽寺		8月15~16日。富楽寺。和田に近い地区は「口説(くどき)」が、夜見に近い地区は「神門(かんど)」がそれぞれ踊られる。茶町踊りはどちらでも踊り、大正の初めごろに河崎、両三柳を通じて入ってきたという。
20	角政治郎(しこ名 葵山)の石碑	未指定	記念物	史跡	墓碑	文化15年以降	富益町(上部地区)		相撲取り(しこ名 葵山)の墓。大坂相撲で十両、後に出雲藩主の雇い力士となり、活躍した力士。文化15年(1817年)没。鷲見氏管理の墓地にある。
21	竹生嶋瀧藏(しこ名 竹生嶋)の石碑	未指定	記念物	史跡	墓碑	不詳	富益町(川上地区)		相撲取り(しこ名 竹生嶋)の墓と思われる。年号不明瞭。佐々木墓地にある。

崎津地区

No.	名称	指定等	区分			年代	所在地	所有者	概要
			分類1	分類2	分類3				
指定文化財									
1	芋代官碑	有形民俗文化財	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	明治24年	葭津	任宗寺檀中	井戸正明大人碑。高さ約3m。享保16年に、石見国大森銀山領代官・井戸平左衛門正明が農民にサツマイモ作りを奨励した。その後、住民が食糧危機を脱した功績を讃えて、「芋代官」と崇め、建てた顕彰碑。弓浜半島には、安永9年ごろに出雲国から伝わるといふ。
未指定文化財									
1	大崎神社本殿	未指定	有形文化財	建造物	建造物	昭和8年	大崎	大崎神社	大社造変形 6尺x1丈。元禄年間に豪農角喜右衛門が勧請した。享保元年に移住し、開墾して大崎の名をつけ、同13年小祠を建立し氏神(大崎荒神)としたと伝えられる。木造社殿未調査
2	渡米者寄進隋神門(大崎神社)	未指定	有形文化財	建造物	建造物	昭和11年	大崎	大崎神社	昭和11年11月建築。
3	葭津神社本殿	未指定	有形文化財	建造物	建造物	明治期	葭津	葭津神社	大社造変形 1間四方。創立年代不詳。砂丘景勝地を社地と定め、松樹を神木として5坪の籠殿を建立、荒神宮として奉祀した。
4	浄蓮寺本堂	未指定	有形文化財	建造物	建造物	明治27年	大崎	浄蓮寺	日蓮宗。明治27年に日通承認上人が信者ととも岡山市の浄蓮院を現在地に移し、寺号改称した。木造本堂未調査
5	一の宮さん(歳徳神社)	未指定	有形文化財	建造物	建造物	未調査	葭津		不詳
6	崎津干拓完工記念碑	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	昭和41年	大崎		崎津地区干拓工事(昭和26年~40年)を記念した碑。台座を含めて高さ約4.2m。「国土造成」と刻む。干拓造成事業:弓浜地域の中海側中央部の葭津、大崎、彦名地区農地面積97.8haが完成。
7	渡米者寄進大灯笼(大崎神社)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	明治40年	大崎	大崎神社	大崎開拓の歴史を刻む。明治40年10月建立、高さ4.8mの大灯笼。基壇部に大崎渡米者とあり、大崎42名、大篠津村2名、大崎軍人2名の名を刻む。来待石裂、火袋を失う。
8	渡米者寄進鳥居(葭津神社)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	明治44年	葭津	葭津神社	明治44年11月建立。最初の渡米者13名による寄進で、「米州移民」の文字に続けて名を刻む。花崗岩製。
9	大崎の岩屋	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	大崎	個人	火成岩の岩盤から地表5か所に大小の岩(岩盤)が露出して、中央に祠がある。この岩は、美保の関のゴゼングリと安来の亀島との筋に当たるといふ伝説あり。古墳の石室の一部(大崎岩屋遺跡)か古代祭祀と関係あるものと考えられる。

2. 米子市歴史文化遺産リスト (地区別)

10	トンドさん(崎津・大崎1区)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	～現代	大崎1区		火渡し。トウヤの14軒目の宿のものが点火。オオミヤに掛鯛(目下尺3寸。1週間干したもの。)を飾る。トウヤは14軒で構成、家の配置順、コミヤを回す。行列なし。
11	歳徳神中村講中(崎津)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	～現代	崎津:2区		準備:オオミヤ・コミヤの迎え、マユダマの飾りつけ。当日:講中巡り(行列～天狗、太鼓、榊、宮さん)、火入れ(天狗が行う)、宴会。トンド場～シンボコの前に竹で門を作り門松を立てて、その前にオオミヤを置く。
12	歳徳神講中(崎津:小山口)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	～現代	崎津:2区と3区		準備:オオミヤ、コミヤの迎え、飾り付け。家型オオミヤに大きな鯛と、1尺のしめ縄、マユダマを飾る。当日:神輿行列(天狗、サカキ、太太鼓、ミコシ、獅子舞)。その後、火渡し。トンド場:大崎神社近く。
13	トンドさん(崎津:4区)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	～現代	崎津:4区		トンド立て。神輿(オオミヤ)とホンミヤ(コミヤ)の飾りつけ。神輿行列(テング、オオミヤ、タイコ、シシ)。火渡し。トンド～シンボコ型の先端に扇をつける。トンド場:かつて入江だったところ(昭和37年埋め立て)。
14	トンドさん(崎津:5区)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	～現代	崎津:5区		神輿行列(天狗、榊・太鼓、神輿)。火渡し。ミヤオサメ。反省会。トンド～シンボコ2本(エビス、大黒)に竹を渡し、飾り物の鯛と小判、大根を飾る。南東に松の玄關を作る。トンド場:河口近くの土地。
15	トンドさん(崎津:6区)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	～現代	崎津:6区		準備:オオミヤ(神輿)、コミヤの飾りつけ。コミヤにモチバナを飾る。トンド立て。シンボコに、小判、大根、鯛を飾り付けた。当日:神輿行列(榊、子ども、神輿(鯛と餅を供える)、御幣、神楽。葭津神社を経由。)、火渡し。神楽保存会あり。
16	芋塚さんまつり(葭津)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	～現代	葭津		芋神(芋束)さん(井戸平左衛門正明の頌徳碑)に、毎年、葭津食生活改善推進委員会のメンバーが秋の収穫時期に開く芋煮会において、正明をしのんでサツマイモと芋汁を供え、感謝する。その後、公民館で地区民に振舞う。
17	大注連縄の奉納(大崎1区)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	～現代	大崎(崎津1区)	大注連縄保存会	1月2日～5日。長さ5.8m・胴回り1.5m・重さ300kgの大注連縄を作成。大注連縄保存会が、大崎神社に4年ごとに奉納。
18	年神飾り(マユダング)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	～現代	葭津		山口モットでは、正月の準備として、餅花の代わりに14日に「マユダング」と称して蚕の生育を願って同じようなものを作る。
19	盆踊り(葭津)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	民俗芸能	～現代	葭津		近隣の地区へも出かけて踊った。盆の14、15、16日の大篠津の雲龍寺から始まり、18日は小篠津の龍泉寺、19日が葭津の庵で踊り納めて「笠破り」といった。
20	旧海軍美保航空隊飛行機用掩体(葭津)	未指定	記念物	史跡	戦跡	昭和前期	葭津	米子市・個人	市内に現存する5基のうち、葭津の2基。太平洋戦争末期に、敵機の爆撃などから飛行機を隠し格納する施設。鉄筋コンクリート造り。2号(市有地の掩体)は、正面:幅約21m、開口部:幅約14m、全長約16.5m、高さ約4.5m。航空機格納部は、中央の高さ(現状の床面で)4m以上。
21	旧海軍美保航空隊葭津弾薬庫(葭津)	未指定	記念物	史跡	戦跡	昭和前期	葭津	個人	旧海軍美保航空隊の弾薬庫。かつて前方に爆風除けのコンクリート壁があったが、市道整備のため撤去。

大篠津地区

No.	名称	指定等	区分			年代	所在地	所有者	概要
			分類1	分類2	分類3				
指定文化財									
1	革工芸(保持者・本池秀夫)	県	無形文化財	工芸技術		～現代	大篠津町		昭和26年大篠津生まれ。「皮の人形」という新しいジャンルを始める。1981年帰郷し、アトリエを当地に移し、その後活動を続ける。
2	和田御崎神社元宮社叢	天然記念物	記念物	天然記念物	植物		大篠津町	和田御崎神社	弓浜半島の沖積(砂地)地帯に現存する照葉樹の自然林として貴重。御崎川の源となる古い泉を有し、郷土の古代信仰と近世の弓浜開発の歴史背景を持つ。弓浜半島に類を見ない多種類の植物が生育している。
3	旧海軍美保航空隊飛行機用掩体	史跡	記念物	史跡	戦跡	昭和前期	大篠津町	米子市	鉄筋コンクリート造り、奥行約11m、前面に幅約14mの開口部がある。市内に現存する5基のうち、大篠津の市有地内の1基(1号掩体)が指定文化財。戦争の記憶を伝える近代化遺産。
未指定文化財									
1	和田御崎神社本殿	未指定	有形文化財	建造物	建造物	安政5年	大篠津町	和田御崎神社	春日造変形、6尺x8尺。安政5年建立。装飾は江戸時代末期の建築の特色をよく表わす。平成2年基礎改修、屋根を銅板に改替。拝殿同年建替え。万治2年、出雲国日御碕神社の分霊を勧請し、延宝7年に現在地に移転(いずれも棟札現存)。
2	豊受大神宮の祠(御崎の森)	未指定	有形文化財	建造物	建造物	明治24年	大篠津町	和田御崎神社	明治24年、養蚕の守護神として、伊勢豊受大神宮の分霊を和田御崎神社の聖地(元の社地:御崎の森)に勧請して祠を立てて祀った。和田御崎神社は、万治2年勧請し、延宝7年に現在地に移転した。
3	昭和橋(米川)	未指定	有形文化財	建造物	構造物	昭和15年	大篠津町		美保飛行場新設工事のために、設置された。
4	アジア博物館所蔵品	未指定	有形文化財	美術工芸品	工芸品	平成5年	大篠津町		前身:浜かすり民芸館。染料繊維植物園、染織工房棟、絣館、ベルシャ錦館、モンゴル館。中国館からなる。弓浜部の産業文化を伝える。ベルシャ錦は、世界3代コレクションの17・18世紀のライム・アナビアン氏の蒐集品。井上靖の記念館も併設。
5	村瀬久美雄絣コレクション	未指定	有形文化財	美術工芸品	工芸品	不詳	大篠津町	個人	当地の人で、絣の調査研究と収集を始め、収集した絣は質、量ともに日本屈指といわれる。
6	大篠津諏訪神社所蔵文書	未指定	有形文化財	美術工芸品	古文書	元和2年ほか	大篠津町	諏訪神社	①大篠津諏訪神社神主神道裁許状(元和2年～文久3年)6通。元和2年は、出雲国造千家元勝(出雲大社宮司)から出されている。②和田日御崎神社遷宮行列次第(天明元年)。
7	和田御崎神社遷宮行列次第	未指定	有形文化財	美術工芸品	古文書	天明元年	大篠津町	和田御崎神社	遷宮行列式の次第を記す。
8	三條西季知御代参関係資料(稲荷神社)	未指定	有形文化財	美術工芸品	古文書	嘉永5年	大篠津町	和田御崎神社	天保12年、京の三條西季知卿が邸内の稲荷神社を当地内に創建し勧請した。嘉永5年に幕と提灯の寄付があり、縄田采女が代参した。詳細記録「御代参由来記」と寄進の書面2通。

2. 米子市歴史文化遺産リスト（地区別）

9	大灯笼(和田御崎神社)	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	安政5年	大篠津町	和田御崎神社	安政5年3月、鯛大漁のお礼に「此年大漁有」と記した来待石の大灯笼を、富益・和田・大篠津・佐斐神の4か村の網持ちが奉納。台石には、33の網元(富益村6網・和田村11網・大篠津村8網・佐斐神8網)を刻む。
10	灯笼(勝衛網奉納)(和田御崎神社)	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	昭和11年	大篠津町	和田御崎神社	昭和11年のマグロ(シビ)の大漁を記念した灯笼一对。和田の矢倉勝衛網が奉納。巨大なクロマグロを2千本もひと網で漁獲したという。
11	和田御崎神社社号碑	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	平成12年(元の鳥居:安政5年)	大篠津町	和田御崎神社	平成12年10月16日に発生した鳥取県西部地震で、米子市では震度5強を記録し、市内では負傷者16名、全壊住家103棟等の被害が発生した。この地震を後世に伝えるため、地震で倒壊した「二の鳥居」(和田村寄進)の笠石を用いて社号碑が作られた。国土地理院自然災害伝承碑。
12	奉納俳句の献額(はまなす会)	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	昭和12年~平成2年	大篠津町	和田御崎神社	弓浜部を中心とした句会が、昭和12年から平成2年までに額を6種類奉納し、拝殿内外の壁面に掲げられている。納めた短冊は200を超える。
13	念仏缸(雲龍寺)	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	天保2年	大篠津町	雲龍寺	天保2年と彫られた、葬儀の際、使用される缸。平成10年頃は使用。
14	皮の行李(諏訪神社)	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	慶安2年(推定)	大篠津町	諏訪神社	井田家六代久左衛門(初代信州住人)が信州諏訪神社の御分霊を納めて信州から背負って帰ったものと伝わる。
15	安田亀吉記念碑	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	明治30年	大篠津町		明治30年建立。安田亀吉は明治中期に地引網で活躍した漁師。通称「千倍網」と言われる網の形態を考案し、漁獲の増強に大きく貢献した。
16	明治期の書家の遺墨(大篠津)	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	明治期	大篠津町	個人	幕末期以降の大篠津にゆかりの書家の遺墨が安本家などに数多く残る。内村鱸香、藤澤南岳、寺西易堂など。
17	明治六酉年暴動記	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	明治6年	大篠津町	個人	明治6年血税一揆における、第2次として弓浜部北部に波及した騒動を伝える記録帳が、安本明功家に小冊子として残る。
18	大石狐(和田御崎神社)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	安政5年	大篠津町	和田御崎神社	安政5年に遷宮に、佐斐神、當成、中原の若連中が奉納した。近在の村々を含めた大規模な遷宮であったことがわかる。
19	トンドさん(大篠津地区)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	~現代	大篠津町	大篠津町自治連合会	準備:浜灘でトンド立て(シンボコは竹を十字架のようにする)。当日:神輿行列(子どもが太鼓や笛を鳴らしてトンド場近くまで神輿を曳き、次に若衆が担ぎ、シンボコの周りを右に3回回る)、火渡し。
20	節分祭(諏訪神社)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	昭和43年~現代	大篠津町		小学校3年生から各世代の男女が昇殿する。弓による鬼やらい(追い払う)のあとに、豆まき。例年最高齢は85歳。
21	イガワの神さん詣り(サイの神さん行事)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	~現代	大篠津町		旧12月25日の朝、米の粉団子を持って井戸の傍らのイガワの神さん(サイノカミさん)へ詣り、椿の葉を敷いて少しつまみとって供える。残りを持ち帰り焙烙で焼いて食べる。井戸神がサイの神とも考えられている。
22	盆踊り(大篠津町)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	民俗芸能	~現代	大篠津町		8月16日か17日の1日だけ踊る。雲龍寺の広場。「神門踊り」には、太鼓のほかに三味線も入り、調子よく、テンポも早い。当地の「茶町踊り」は他地区の「くどき踊り」。
23	佐々木全斎の墓碑	未指定	記念物	史跡	墓碑	未調査	大篠津町		幕末の漢詩人(没年元治元年)で、越後国新発田の生まれ。儒学と医術の才にも恵まれ、能筆家としても知られる。鳥取市の「尚徳館記」碑の書を認めたと伝える。
24	旧海軍美保航空隊大篠津通信機材格納庫	未指定	記念物	史跡	戦跡	昭和19年頃	大篠津町	米子市	通信機材格納庫は、鉄筋コンクリート造り、高さ約6m、長さ約28m、最大幅約12m。内部は、いくつかの区画に区切られている。自家発電の施設、基地司令部などと言われるが、医務室として使われ、その後通信機材庫として使用。で、壕の入口に、「甲種予科練習生練武之地」(予科練習養成所跡の記念碑)のプレート掲げる。
25	旧海軍美保航空隊飛行機用掩体(航空自衛隊美保基地内)	未指定	記念物	史跡	戦跡	昭和前期	大篠津町	国	太平洋戦争末期に、敵機の爆撃などから飛行機を隠し格納する施設。鉄筋コンクリート造り。
26	旧安田家表門(明治6年血税一揆の痕跡)	未指定	記念物	史跡	政治に関する遺跡	明治6年	大篠津町	個人	明治6年6月22日に起こった、血税一揆第2次暴動で当時の戸長宅を襲撃した際の鎌の刃傷や突き傷が残る。

和田地区

No.	名称	指定等	区分			年代	所在地	所有者	概要
			分類1	分類2	分類3				
指定文化財									
1	芋代官碑	有形民俗文化財	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	天保3年	和田町	雲泉寺護持会	享保16年に、石見国大森銀山領代官・井戸平左衛門正明が農民にサツマイモ作りを奨励したことにより、その後、住民が食糧危機を脱した功績を讃えて、「芋代官」と崇め、建てた顕彰碑。弓浜半島には、安永9年ごろに石見国から伝わるという。代官死亡年からちょうど百年目の同月に建立。
未指定文化財									
1	雲泉寺お堂(俗称堂)	未指定	有形文化財	建造物	建造物	昭和7年	和田町(下和田地区)	雲泉寺	曹洞宗の庵寺、龍巖山雲泉寺。小篠津の雲巖山龍泉寺の分寺。正徳5年に本尊安置し堂宇建立と考えられる(棟札)。現堂宇は昭和7年建立。木造本堂未調査
2	和田神社本殿	未指定	有形文化財	建造物	建造物	明治9年	和田町	和田神社	大社造変形、1間四方。明治9年建立。延享2年に建立の棟札があり、村民移住の時期と一致する。木造社殿未調査
3	釣船神社本殿(和田町)	未指定	有形文化財	建造物	建造物	昭和15年	和田町	釣船神社	創立・勧請年不詳、文化年間までに勧請か。慶応元年3月、社殿造営(棟札)。力士「山嵐源吾」が釣船大明神の掛け軸を村民に与え、信仰したところ悪疫が止み、社殿を建てたとの伝承あり。木造社殿未調査
4	下札(年貢割付状)	未指定	有形文化財	美術工芸品	古文書	元禄8年以降万延元年まで	和田町	米子市(和田公民館)	17通。元禄8年以降万延元年まで。中浜村より開発により分村し、当初和田新田村と称し、その後和田村と改めたことがわかる。
5	荒菰と文書(後鳥羽院御遺骨還幸)	未指定	有形文化財	美術工芸品	古文書 歴史資料	明治6年	和田町	個人	明治6年、隠岐から京都へ後鳥羽院御遺骨が還幸の節、佐々木家で使者の昼食の際、御遺骨の台に敷かれた荒菰と、黄紙(その接待の記録)。

2. 米子市歴史文化遺産リスト (地区別)

6	雷神切丸(和田神社)	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	江戸末期	和田町	和田神社	江戸時代末期、山市場(現、福市地区)の綱島幸次郎正勝が当時の世相を慨歎し覚醒させるために、米子在住の名匠藤四郎こと横山左近将監祐信に依頼し製作させた太刀。この太刀で藩主池田侯の御前で居合術を行った。
7	勝衛網漁の記録資料	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	昭和初期	和田町		弓浜部唯一の大綱を持つ網元であったのが、矢倉勝衛。昭和7年から11年までマグロの大量が続き、その中心的役割を担った。当時の写真、掛け軸が残る。
8	村上勝芳(浜がすり伝統工芸士)	未指定	無形文化財	工芸技術			和田町		浜がすり伝統工芸士
9	亀神社の石祠(和田町)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	大正9年	和田町	個人	大正9年の創祀で、網に掛かった亀を供養した石の祠。旧暦7月26日、神職を招き、お祓いと直会をし、海上安全・大漁満足。家内安全を祈願した。竜宮さんの使いとして大切に扱った。
10	トンド(新屋分)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	～現代	和田町(上和田地区)		準備:トンド場の海岸に、神木(竹)立て、幣串立て。当日:くじ引き。神輿行列(神輿、縮太鼓(大・小)、三方に載せた祝餅)。トンド場を汐水を浸したホンダワラで清めた後、当番が火入れ。経路:集落内各戸と釣船神社を経由。
11	トンド(小篠津分)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	～現代	和田町(中和田地区)		前々日:神木(シンボコ)立て。前日:トンドの準備、幣串作り。当日:くじ引き。神輿行列(大鏡餅、神輿、トンド番(幟旗、幣串)、太鼓など)。トンド場(浜灘の海岸)を汐水を浸したホンダワラで清めた後、当番が火入れ。
12	トンド(佐斐神分)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	～現代	和田町(下和田地区)		大晦日:お宮迎え。歳徳神の幟立て(下和田集会所とトンド道に各1基)。お宮は、当番が各家で祀る。前々日まで:トンド場(砂浜)の準備。当日:神輿行列(お祓い役、神輿(歳徳神)、鍾馭(荒神さん)など)。火渡し。経路:和田神社を経由。
13	盆踊り(和田町)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	民俗芸能	～現代	和田町		8月14日・15日。かつては初盆宅。
14	平石七太夫(ひらいわしちだゆう)墓碑	未指定	記念物	史跡	墓碑	不詳	和田町(1区)		自然石の半面を削ったもので高さは等身大の185cmの墓碑。寛政、享和、文化時代の江戸・大坂相撲の大関として活躍した力士。文化6年没。
15	山嵐源吾(やまおろしげんご)墓碑	未指定	記念物	史跡	墓碑	不詳	和田町(3区)		自然石の半面を削ったもので高さ2m弱の墓碑。平石七太夫の従兄。寛政、享和、文化時代の江戸・大坂相撲の関脇として活躍した力士。文化10年没。江戸相撲の大横綱雷電が右衛門に奇策により勝ったとの言い伝えあり。
16	俗称堂の松	未指定	記念物	天然記念物	植物		和田町(下和田地区)	雲泉寺	境内西隅に大きな松があり、推定300年以上で当村開村当時から松といわれている。

米子市歴史文化遺産リスト(南部地区)

五千石地区

No.	名称	指定等	区分			年代	所在地	所有者	概要
			分類1	分類2	分類3				
指定文化財									
1	福市遺跡	国	記念物	史跡	集落跡・古墳	弥生・古墳時代	福市	米子市	弥生時代後期(3世紀)から古墳時代後期(6世紀)にかけての竪穴住居跡90棟、土壇墓26基、古墳1基などを確認。土器、石器、鉄器、玉類など、当時の暮らしを物語る遺物を大量に出土。村と墓の関係が明らかであること、村の移り変わりがよくわかることが特色。
2	相見家文書	県	有形文化財	美術工芸品	古文書	中世(南北朝期)	福市	個人	巨勢宗国に対する後醍醐天皇の繪旨(元弘3年の天皇自筆ほか)、山名時氏(建武5年)の寄進状など8通。元弘3年の船上山合戦以降の貴重な中世文書で、後醍醐天皇の動向や相見氏(相見庄八幡宮)の南北朝から室町期の動向をうかがえる。
3	安養寺資料	市	有形文化財	美術工芸品	古文書	江戸期	福市	安養寺	制札(元和10年正月朔日)、勅願再興繪旨(安永5年12月1日)、有栖川宮令旨(文化14丁丑年6月)、安養寺縁起絵巻が指定されている。元弘2年後醍醐天皇の隠岐配流に随行した瓊子内親王が渡海を許されず、時宗に入信出家し、天皇が都へ還幸後に阿弥陀仏を授けて安養寺を建立させたと伝わる。
4	長砂経塚出土品	市	有形文化財	美術工芸品	考古資料	平安時代～鎌倉時代前期	福市(米子市埋蔵文化財センター)	米子市	経巻、経筒、外容器。法華経の経巻8巻は朱墨で写経され第6巻を開くことができる。小型の宝珠つまみを持つ蓋付経筒、銅鑄製経筒、須臾器の肩を張った甕のほか、鉄刀片も出土。
5	中山経塚出土品	市	有形文化財	美術工芸品	考古資料	鎌倉時代末期～室町時代初期	福市(米子市埋蔵文化財センター)	米子市	蓋付経筒と外容器片(甕)。経筒は銅製、筒身の口縁から中ほどにかけて割れて欠損し、亀裂もある(令和元年保存処理)。蓋は鉄製の宝珠系つまみを持つ。外容器は常滑系の甕片。古墳の墳頂に重複した経塚から出土。
未指定文化財									
1	安養寺本堂	未指定	有形文化財	建造物	建造物	未調査	福市	安養寺	時宗。延元4年開山。後醍醐天皇の隠岐配流に随行したが渡海を許されなかった瓊子内親王が、時宗の六代一鎮に帰依出家して開いたとされる。木造本堂未調査
2	要玄寺本堂	未指定	有形文化財	建造物	建造物	文政9年(再建)	八幡	要玄寺	臨濟宗慧照山要玄寺。文政9年再建、以後瓦屋根に葺き替え。承応3年、黙定和尚開山。須山孫右衛門の寄進による開基。明治初期に、八幡小学校として本堂の一部が教室となり開校。竜の彫刻は富次精斎作。木造本堂未調査
3	諏訪神社本殿	未指定	有形文化財	建造物	建造物	未調査	諏訪	諏訪神社	切妻造妻入 1間四方。創立年代不詳。往古より八幡宮(郷社八幡神社)の摂社で諏訪大明神と称した。寛永5年(五千石井手が開削されたと思われる時代)の棟札あり。木造社殿未調査
4	旧御車酒造(深田家)	未指定	有形文化財	建造物	建造物	明治10年代(主屋)	福市	個人	木造平屋建一部二階建・和小屋・切妻造、棧瓦葺。明治10年代建築、昭和10年代増改築。
5	緒方堤	未指定	有形文化財	建造物	構造物	嘉永6年、明治29年(改修)	福市(四日市地区)		日野郡黒坂の緒方氏が寛政年間に開墾した当初の土手を、水害を防ぐために補強した堤。嘉永6年、戸上山から石を採掘し、四日市の丘陵を削って、戸上山から日野川と法勝寺川との合流地点まで土盛り、石垣を築き護岸とした。明治29年にも兼久堤防強化対策として補修強化された。
6	同慶寺大五輪塔	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	中世	福市	同慶寺	同慶寺墓地に残る大五輪塔。保存状態がよく、室町時代前期頃と考えられる。福万・高田の石柱があり、高田家が墓壇等を整備したものと思われる。

2. 米子市歴史文化遺産リスト (地区別)

7	淀江町誌編さん資料	未指定	有形文化財	美術工芸品	古文書 歴史資料	江戸前期～ 昭和20年代	福市(米子市 埋蔵文化財 センター)	米子市	昭和60年刊行用収集資料。江戸前期から昭和20年代にかけて村や地区で作成した文書も含む。近世資料はほとんど土地関係。
8	道標(八幡)	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	不詳	八幡	個人	「左 八幡大仙道 右 野通り二部谷」の自然石の道標が、福市の四塚に立っていた。現在、本田医院の庭の置き石。かつて「お倉通」として四塚の尾根を樋口裏手から兼久に抜ける往還だったが、国道ができて裏道となった。
9	道標(諏訪)	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	不詳	諏訪	個人	「右 大てららしみち、左 やはた大せんみち。当村久兵衛」と村庄屋の名を刻む。家の前の里道は、殿河内に向かう昔の街道。昭和44年当時、湯原孝夫氏宅の庭にある。
10	米川紀功之碑	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	明治25年	福市		高さ2.8m(台座を含む)、幅1mの石碑。米川築造に功績のあった、米村所平を顕彰する碑文が刻まれる(末松謙澄撰文)。明治24年に「米川普通水利組合」の設立を認可され、翌年に米橋西詰に建立。平成5年に県の事業に伴い移設された。
11	米川頭首工紀功碑	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	昭和7年	福市		全長5.8m、幅1.2mのコンクリート製。観音寺の戸上地区の日野川と法勝寺川にえん堤を築造し、米川に農業用水を取り入れる工事の完成記念。この完成で別々だった米川と新開川の取水口が1つになり、当時の18市町村、計4300ha余の田畑を潤した。
12	うすさま明王(福市:同慶寺)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	大正期	福市	同慶寺	石像。大山寺の佐々木高綱等身像作者で、佐野川用水も担当した橋本出身の名工乗本房蔵作。うすさま明王は不浄を払う仏で、大山寺の河床道にあるのが有名。
13	石灯籠(福市1区)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	福市(福市1区)		「天照皇大神宮」、「八幡大明神」、「春日大明神」、「智明大権現」、「金毘羅大権現」の名を刻む。村人や旅人の安全を願うとともに旅の目印とした。
14	常夜燈(安養寺参道)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	文化14年	福市	安養寺	「奉献」、「文化十四年丑三月日」、「戸上石工武助」を刻む。
15	回国塔(福市)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	正徳6年	福市		地蔵(高さ91.0cm)の台座に、「奉納大乘妙典六十六部日本回国供養塔」、「正徳6年3月、願主2名(摩滅)」と刻む。
16	回国塔(福市3区)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	天保12年	福市(福市3区)		石塔、高さ(台座含む)112.0cm。「奉納大乘妙典六十六部供養」天保12年、観音堂再建の世話人と、回国成就した当地の壺平その他の名を併記。
17	サイノカミ(福市4区)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	福市(福市4区)		2体。①自然石(82x84x40cm)②双体像(並立立像、線彫り)、自然石(56x84x32cm)。
18	サイノカミ(福市6区)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	昭和16年	福市(福市6区)		双体像(猿田彦命・天女命、並立立像、浮彫り)、神殿状の駒形の切石(40x28x12cm)。木の祠(昭和16年新築、同39年修繕)に祀られる。
19	サイノカミ(巨勢神社)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	慶応2年	八幡		双体像(猿田彦命・天女命、並立立像、線彫り)、自然石(73x107x50cm)の中央を薄く削る。
20	サイノカミ(諏訪神社)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	諏訪 諏訪神社		自然石(58x90x35cm)が祀られ、手前に小さな木製の鳥居と祠を置く。
21	歯形栗(安養寺)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	伝説	～現代	福市	安養寺	後醍醐天皇の無事を祈った瓊子内親王が、食べかけた栗の実を土に埋めた。翌年栗は芽を吹き、天皇も無事に隠岐島から京に戻り政権を取り戻した。成長したこの栗の木の実にほども、内親王が食べようとした際の歯形がくつきりとついていたという。
22	瓊子内親王墓所	未指定	記念物	史跡	墳墓	(南北朝期)	福市	安養寺	瓊子内親王が時宗の六代一鎮に帰依出家して開いたとされる。暦応2年に没する。ご陵墓横にある「瓊子内親王御廟」の尚徳碑(大正10年、西伯教育界建設)には、瓊子内親王と安養寺の歴史を記す。
23	陶山由記の墓	未指定	記念物	史跡	墳墓	不詳	八幡	要玄寺	「見徳院文岳靈章居士」(号: 籛南、墓誌あり)
24	「八幡の渡し場」跡	未指定	記念物	史跡	交通施設	～昭和16年	八幡(、東八幡)		かつて、米子から日野郡に入り、津山方面、京阪に通じる道に当たった。八幡村で、日野川を渡って馬場(現在の東八幡)に出た。昭和16年に木橋ができるまで渡し船があり、南部と箕蚊屋とを結ぶ重要な交通路として利用されていた。松江藩・広瀬藩の参勤交代の道でもあった。
25	常楽院跡	未指定	記念物	史跡	社寺跡	～明治39年	福市		安養寺周辺の山市場は天領で、寺の維持費用のため芝居興行などが盛んであり、これら芸人の埋葬寺。文化14年の興行許可の文書あり。和尚の石碑、万霊塔(宝暦2年)あり。明治39年に安養寺に合併。
26	太鼓山(旗ヶ谷山)	未指定	記念物	史跡	文化に関する遺跡	江戸後期	福市		文化年間以後、山市場での芝居興行開宴を、太鼓を打ち鳴らし米子町を含め近くの村に知らせた場所。芝居見物人のために和尚が発起で、この山のふもとに法勝寺川(尻焼川)に橋をかけ、サンク橋と呼んでいた。
27	山市場砦跡	未指定	記念物	史跡	中世城館跡	不詳	福市	東堀神社	標高20m。(遺構)土塁、横堀。一部損壊。(文献)伯耆志。東堀神社境内に土塁らしきものが残っている。
28	防空壕(諏訪)	未指定	記念物	史跡	戦跡	昭和前期	諏訪(樋口地区)	個人	3基、第2次世界大戦時に作られた。1か所はもともと洞窟があり湧水が出ていた。現在は、穀物の保管用に使われているものもある。
29	同慶寺・安養寺のシラカシ林	未指定	記念物	天然記念物	植物		福市	同慶寺・安養寺	優れた植生。安養寺と同慶寺の両寺が接する社寺林は、シラカシが優占するすっきりした照葉樹林。平地の森でのシラカシの純林は稀。林床に映える植物も極めて少なく、小木のみ。

尚徳地区

No.	名称	指定等	区分			年代	所在地	所有者	概要
			分類1	分類2	分類3				
指定文化財									
1	青木神社社叢	市	記念物	天然記念物	植物		青木	青木神社	神社は、法勝寺川の西に面して立地。樹木の神ククチノミコトを主祭神とする。植生は、胸高囲2m以上のスダジイの巨木11本を主体に、スギ、モミなどの常緑針葉樹とタブ、サカキなどの常緑広葉樹、落葉高木のイチヨウ、アオハダなど種類が豊富。
未指定文化財									
1	正雲寺本堂	未指定	有形文化財	建造物	建造物	未調査	大袋	正雲寺	曹洞宗。寺伝では、開基は尼子氏初代の尼子持久と6代勝久の弟道久、開山は仁庵栄賢。かつて、別所村にあり、寛永年中に総泉寺10世栄賢和尚が開祖。延享元年に大袋村へ宅地替え移転する(棟札)。木造本堂未調査

2. 米子市歴史文化遺産リスト (地区別)

2	青木神社本殿	未指定	有形文化財	建造物	建造物	未調査	青木	青木神社	大社造変形 9尺x7寸四方。創立年代不詳。寛文元年藩主より榎原郷の大社(武運長久の祈願所)と定められ、造営のつど米銭等を寄進された。木造社殿未調査
3	高良神社本殿	未指定	有形文化財	建造物	建造物	未調査	兼久	高良神社	切妻造妻入 4尺四方。創立年代不詳。もとは、宇宮田に鎮座していたが、享保3年の法勝寺川大洪水にあったため、同20年に現地に神殿を造営、奉遷する。木造社殿未調査
4	楽々福祉本殿(上安曇)	未指定	有形文化財	建造物	建造物	未調査	上安曇	楽々福祉社	孝霊天皇や皇后細媛命を祭るタタラ製鉄との関係を示す神社。笹福大明神を祀っていたが、大正年間の神社整理により、天萬神社(旧西伯町)に合祀された。木造社殿未調査
5	稲荷神社本殿(別所)	未指定	有形文化財	建造物	建造物	昭和46年	別所	稲荷神社	大社造変形 3尺8寸x4尺。昭和46年建立。創立年代不詳。往古より郷社八万神社(馬場村)の摂社で、稲荷大明神と称した。宝永の頃創建か。木造社殿未調査
6	寛久神社本殿	未指定	有形文化財	建造物	建造物	未調査	榎原	寛久神社	流造 3尺四方。棟札によれば永禄3年に大坪基兵衛一正が創立し、八幡宮と称した。木造社殿未調査
7	北平神社本殿(下安曇)	未指定	有形文化財	建造物	建造物	未調査	下安曇	北平神社	木造社殿。大正年間の神社整理により、現宇賀神社(現南部町:旧境村)に合祀された。木造社殿未調査
8	兼久土堤(法勝寺川)	未指定	有形文化財	建造物	構築物	明治29年	兼久		長さ約2kmの法勝寺川の氾濫を防ぐ堤防。兼久堤防の原形が明治29年2月完成。堤防の竣工を記念して、堤上に桜木と楓が植えられた。明治末年から昭和戦前にかけて、桜並木は名所だった。
9	尚徳公民館文書	未指定	有形文化財	美術工芸品	古文書	明治2年ほか	榎原	米子市(尚徳公民館)	①「会見郡宗像村田畑地続字限絵図」(明治2年)。宗像土堤部分を緑色で表記。②会見郡兼久村田畑地続全図(年代不明)。条里制施行区域(兼久地区)、字名「壱ノ坪」から「五ノ坪」まで連続した地割、法勝寺川も川道変遷の跡が鮮やかに残る。
10	福光巡査殉職慰霊塔	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	昭和10年	榎原	米子市	高さ(台座を含む)3.15mの石塔。昭和9年9月の室戸台風により法勝寺川が増水し、小松谷川との合流点の中州に一家が孤立した。一家を助けるために命綱をつけて川に飛び込み、濁流にのまれ28歳の若さで殉職した米子水上派出所巡査を慰霊する塔。
11	兼久堤修築碑	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	明治29年	兼久	米子市	高さ(台座を含む)2.67mの石碑。明治時代の3回の洪水の状況を記録し、江戸初期の宗像堤、天保4年の兼久土手の築堤などにも触れ、法勝寺川水害記録として、もっとも古い。尚徳村は明治時代の3回大洪水を受けて兼久堤防の大改修が行なわれ、同29年に完成。
12	兼久堤防改修記念碑	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	大正10年	兼久	米子市	高さ(台座を含む)4.4mの石碑。洪水被害の状況も記録。明治29年に兼久堤を大規模改修したが、大正7年に、台風による暴風雨で決壊して米子町約4千戸が浸水の被害を受けた。県は、抜本的な改修(堤の高さ90cmかさ上げしたと副堤の新築)と、下流部右岸堤防の改築と川底の浚渫も行って、大正10年に完成。
13	常夜燈(茶屋地区)	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	不詳	尚徳		松江藩主の参勤交代の通路(正徳元年の普請)のための常夜燈。出雲地方から京阪に至る公道にあたり、官民の往来が絶えることはなかった。当地区は、兼久、青木から移住した人たちが茶屋を営むもの、荷物問屋を営むものなど大変繁盛した。
14	穴太寺観音堂(あなうんじさん)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	上安曇		観音霊場第21番「丹波国穴太寺」の観音を祀る安産祈願の祀堂(石製)。「あなうんじさん」と親しみを込めて呼んでいる。
15	回国塔(正雲寺)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	天明3年	大袋	正雲寺	石塔、高さ71.0cm:「奉納大乘妙典六十六部日本回国」天明3年、回国を行っていた四国の行者の供養塔。
16	サイノカミ(別所:稲荷神社)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	別所		自然石(64x42x42cm)に「幸神」を刻む文字碑。元は自然石がサイノカミだったが、後世に伝えるために平成9年に文字を刻む。
17	サイノカミ(上安曇)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	上安曇		2体。①双体像(並列、浮彫り肉厚)、自然石(52x71x30cm)の中を宝珠型に深く彫り込む。②双体像(並列立像、浮彫り)、切石(24x26.5x16.5cm)を四角く深く彫り込む。
18	サイノカミ(下安曇)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	下安曇		石祠(屋根付き)40x25.5x24cmの正面に、「幸神」の文字が入る文字碑。
19	サイノカミ(青木神社)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	青木		大樹のタブノキが、サイノカミの依り代。
20	サイノカミ(青木:木野山神社)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	青木		双体像(並列座像、浮彫り)、切石(44x34x21cm)の中央を深く彫り込む。昭和47年に青木団地造成のため移転。
21	サイノカミ(大袋)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	大袋		双体像(並列座像、浮彫り)、神殿の形に整えられた切石(33x55x26cm)に彫る。並びは、正面左に男神、右に女神で、男神は酌を、女神は木綿(由布)を持つ。
22	サイノカミ(寛久神社)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	榎原(実久地区)		石祠(38x22x29cm)
23	サイノカミ(高良神社)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	兼久		木祠、双体像(並列立像、浮彫り)、自然石(30x25x8cm)の小ぶり。中央を円形に深く彫りくぼめる。肩組み手握り型。木の祠に祀られる。
24	大日如来像(青木)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	青木		石仏を小堂に安置。年2回大日講があり飲み会をする。講の世話は上組のみ。中組、下組はそれぞれ荒神社と青木神社の祭りの世話をする。
25	地主さん(実久地区)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	榎原(実久地区)		石造物。尼子合戦の際に戦死した武士の墓と伝えられる。
26	セントロマントロ(千灯万灯)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	～現代	上安曇、大袋		兼久堤防の夏の火祭り行事:2系統あり(秋葉権現社、愛宕明神)。点々と立てた竹の先に麦藁を差し込んだり、ポロ布を詰めて灯油を浸み込ませて火をつける。法勝寺川の堤におよそ1m間隔で燃える様子は、道程が長いほど火の帯が連なり圧巻である。防災、防疫の行事として継承されている。
27	トンド(兼久)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	～現代	別所・上安曇・下安曇・青木・青木谷・兼久・大袋		兼久の場合。前日:トンド場の河川敷で、トンドを立て入口に鳥居を作る。高良神社から宮を添番が本番宅に迎える。当日:宮の飾りつけ。本番宅を巡幸(天狗、禰の舞、剣の舞、幣の舞など)で村中を通り、トンド場で火渡し、くじ引き。
28	大袋の地名由来	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	伝説	～現代	大袋		大国主命が因幡の国からの帰途、この地で過ごされ背負っていた袋を置かれたことに由来する。「袋河原」と呼ぶ地が残る。

2. 米子市歴史文化遺産リスト (地区別)

29	古曳養節の墓	未指定	記念物	史跡	墳墓	不詳	榎原		「東室養節居士古曳先生之墓」(墓誌あり)
30	力士塚(千田川善太郎塚)	未指定	記念物	史跡	墓碑	不詳	尚徳		伯耆荒岩と称し、幕内に入り、大関になった。
31	榎原の瓦窯跡(大谷遺跡)	未指定	記念物	史跡	その他経済生産活動に関する遺跡	飛鳥～奈良期	榎原		白鳳期から奈良時代にかけての会見郡における窯跡で、古代寺院「大寺廃寺」の瓦を焼いたと推定されている。昭和33年、八葉蓮弁の軒丸瓦の破片が多数発見された。
32	兼久堤防決壊跡の池(榎原)	未指定	記念物	史跡	その他経済生産活動に関する遺跡	明治19年	榎原(茶屋地区)	三ヶ堰土地改良区	明治19年、法勝寺川の氾濫で兼久堤防が決壊した際の痕跡。通称「ふち」と呼ばれ、近距離に2か所ある。今でも水利として利用され、土地改良区が管理。昭和の初めごろまで、子どもの絶好の水泳場であったという。
33	辻堂跡(堂屋敷)	未指定	記念物	史跡	社寺跡	不詳	別所		紀成盛長者の建立によるという辻堂の跡で、高さ3尺余りの自然石の碑が、半分ほど埋もれている。一字を立て、京都より観世音菩薩を勧請し、加護冥福を祈った。この堂の観世音菩薩は、同慶寺(福市)の開基の際、同寺の本尊になったと伝わる。
34	キサイ原(喜才原)・きさい地蔵	未指定	記念物	史跡	社寺跡・信仰	安永5年ほか	別所	別所村協同管理地	田の中に、縦19m、横16mの長方形で、高さ1mの土壇あり。榎の大樹の下に1mくらいの石地蔵と安永5年寄進の灯籠がある。きさい地蔵は、長者原開拓の祖・紀成盛の墓の伝承をもつ地蔵で、毎年地蔵祭をする。長者原からほど近い。
35	修徳舎跡(山川家住宅)	未指定	記念物	史跡	その他教育に関する遺跡	江戸期	青木	個人	青木神社宮司家で、県内最古の私塾「修徳舎」があった。元禄年間に青木村の山川秀親が寺子屋を始め、以来300年に渡り連続と、当村はもとより近郷の教学の中心的指導者として山川家は続き、多くの人材を輩出。

永江地区

No.	名称	指定等	区分			年代	所在地	所有者	概要
			分類1	分類2	分類3				
指定文化財									
1	青木遺跡	国	記念物	史跡	集落跡・古墳	弥生時代～奈良時代	永江	米子市	30mの前方後円墳2基を含む古墳17基、弥生時代から奈良時代の竪穴住居跡23棟、掘建て柱跡9棟などが残されている。古代の人々の暮らしや生活の移り変わりを知る貴重な遺跡。指定区域4万㎡

成実地区

No.	名称	指定等	区分			年代	所在地	所有者	概要
			分類1	分類2	分類3				
指定文化財									
1	古曳盤谷筆 龍之図天井画	市	有形文化財	美術工芸品	絵画	天保8年	橋本	阿陀萱神社	阿陀萱神社拜殿天井に描かれた墨画で、縦3.87m、横2.76m。天空から水面際に浮遊する龍が、幸福を掴む宝珠(朱を入れている)を握り、眼光鋭く未来を臨む。榎原出身で南画家として長野県松本地域で活躍し多くの門人を育てた古曳盤谷の、天保8年郷里を立出する前の貴重な、かつ、気概に溢れた作品で、初期の傑作。
未指定文化財									
1	宗形神社本殿	未指定	有形文化財	建造物	建造物	寛保3年	宗像	宗形神社	大社造変形こけら葺き。寛保3年建立。享和3年幣殿、拝殿を建築。創立年代不詳。宗像三女神を奉じて九州からこの地に到着し、奉祀したのが起源。延喜式神名帳に記載される旧社。戦国時代には武將の崇敬篤く、尼子晴久が弘治2年に現在地に遷して社殿を建立。
2	阿陀萱神社本殿(橋本)	未指定	有形文化財	建造物	建造物	未調査	橋本	阿陀萱神社	切妻造妻入 8尺四方。創立年代不詳。社記によれば、大永元年、宝石山城主の生松源太兵衛が城山の鎮守として社殿を改修。天文2年、尼子経久が社殿を再造営。落城後、寛永16年に再造営。木造社殿未調査
3	白山神社本殿	未指定	有形文化財	建造物	建造物	慶長2年	新山	白山神社	大社造変形 4尺四方。創立年代不詳。正保元年に社殿宝物消失し、慶長2年に現在地に社殿を建立。木造社殿未調査
4	奈喜良神社本殿	未指定	有形文化財	建造物	建造物	昭和10年	奈喜良	奈喜良神社	切妻造妻入 3尺5寸四方。創立年代不詳。昭和10年現在地に移転再建。木造社殿未調査
5	妙喜寺本堂	未指定	有形文化財	建造物	建造物	未調査	石井	妙喜寺	曹洞宗石井山妙喜寺。開祖・窓窓妙喜大姉(伯耆志)。石井城主片山氏の息女が出家し草庵を結び、没した天正19年に円福寺の花庵文栄により開山し、寛文年間に独立寺となった(寺縁起)。木造本堂未調査
6	瀬尾悠平氏住宅	未指定	有形文化財	建造物	建造物	幕末～明治初期(推定)	美吉	個人	主屋(木造平屋建・入母屋造・茅葺) 主屋の下手に二階の離れ・土蔵・納屋・風呂を並べ、北側に土蔵。上級の農家建築の構えをよく残す。
7	地蔵菩薩立像	未指定	有形文化財	美術工芸品	彫刻 歴史資料	寛政8年	石井		台座、基礎、路盤、蓮華座、舟形背付地蔵。寛政8年(台座刻印)、奥谷村の政藤太兵衛掃介と当地の地主、生田前蔵が施主となり先祖供養のために建立した。戸上石工久衛門(大神山神社石灯籠等制作)による。台座と石仏は石質が異なるため、石仏は後世の代替品の可能性もある。
8	成実公民館文書	未指定	有形文化財	美術工芸品	古文書	近世	石井	米子市(成実公民館)	200点余り、近世の村方の区有文書の一つの典型を示す。検地帳ほか藩政時代の会見郡の農村(長砂・石井・大谷・奥陰田・口陰田・陽田・目大谷・古市・日原・奥谷)の土地関係の資料が多い。
9	宗形神社棟札写ほか諸記録	未指定	有形文化財	美術工芸品	古文書	江戸期	宗像	宗形神社	①元禄8年の棟札写しに「木造 渡辺伊兵衛正家」とある。②万治4年～天保3年の棟札の写しは、氏子圏である各時代の村役人や宮大工の氏名などを知ることができる。③簡単な由緒、制札(正徳5年、嘉永2年)など。
10	道標(橋本)	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	不詳	橋本	個人	53cmx23cmx22cm、「右よなご道 左ふだ道」、橋本村の願主3人の名を刻む(年号なし)。ふだ道とは、安来市安田関の長台寺(出雲札所20番)への道案内と考えられる。
11	常夜燈(橋本)	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	不詳	橋本		不詳
12	阿陀萱神社の宝石岩(橋本)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	橋本	阿陀萱神社	天から落ちてきた宝石伝説の岩として祀られている。降った3宝石のうち神社に1つ、残り2つは村中にある。

2. 米子市歴史文化遺産リスト (地区別)

13	ウスサマ明王(橋本大日堂)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	橋本		石像。うすさま明王は不浄を払う仏で、大山寺の河床道にあるのが有名。大山寺の佐々木高綱等身像作者で、佐野川用水のトンネル工事も担当した橋本出身の名工兼本房蔵作。
14	大日如来像(橋本大日堂)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	橋本		大山寺の佐々木高綱等身地蔵の作者で、佐野川用水のトンネル工事も担当した橋本出身の名工兼本房蔵の作。佐野川竣工記念碑に石工大兵として名を刻む。
15	伝:城主幸松源太兵衛の五輪	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	橋本		橋本城主の墓と伝えられる五輪。
16	庚申堂(日原)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	貞享元年	日原		貞享元年の石碑(庚申塔)を本尊とする小堂
17	回国塔(日原:庚申堂)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	天明6年	日原		石塔、高さ(台座含む)127.0cm。「奉納大乘妙典六十六部日本回国」天明6年、日原の行者2名の回国成就記念。
18	サイノカミ(宗形神社道路沿い)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	宗像		双体像(並列立像・肩組み手握り型、しっかりした浮彫り)
19	サイノカミ(宗像公民館裏山)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	宗像		双体像(並列立像、浮彫り)、一部破損。単体地蔵と三体地蔵も祀る。
20	サイノカミ(阿陀萱神社)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	橋本		文字碑・自然石(39x53x28cm)、「幸神」と彫る。
21	サイノカミ(新山)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	新山		自然石(63x84x40cm)。双体像(並列座像、浮彫り)、願主:氏子中。
22	マントロ(美吉)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	～現代	美吉		8月15日。竹の筒(1m程度)に麦わらやぼろ布を入れ、灯油をしませる。200本ほどを間隔を置いて新加茂川右岸に立て、点火する。点火は夕方7時から9時頃まで。その火を見ながら、大人は酒を、子供はジュースを飲んだりする。
23	トンド行事(石井)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	～現代	石井		当日:トンド立て～真竹2本を繋ぎシンボコにし、竹の頂点に扇、ひも飾りなし。くじ引き。火入れ。
24	盆踊り(石井)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	民俗芸能	～現代	石井		8月14日。会場:妙喜寺境内。
25	猿土手(猿が土手)の由来	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	伝説	～現代	美吉		かつて、美吉北部の旧山王社があった山の端から目久美神社まで土手があった。伝説:「大きな池の土手が大雨が降るたびに崩れるため、村人が朝一番に来たものを入柱とする相談をし、やってきた猿回しを入柱にした。それ以来土手は崩れない。」
26	橋本三石の伝承	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	伝説	～現代	橋本		天より3石が天下り、阿陀萱神社前に納まるものが「赤岩様」、橋本集落の東北隅にあるものが「白岩」、東南隅にあるものが「黒岩」という。
27	新山の小豆とぎ(民話)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	民話	～現代	新山		神社入口近くの小さな川の橋の下で、夕方のうす暗くなったとき、小豆を研ぐような「シャラツシャラ、シャラツシャラ」という音がするという。「小豆とぎが出るから、子どもは遅くなったら絶対あそこの方へ行くな」と教えられたという。
28	宗像古墳群	未指定	記念物	史跡	古墳等	古墳時代後期	宗像		戦後、米子で最初に発掘調査された記念すべき古墳群。古墳時代後期の群集墳で、1号墳は前方後円墳で2つの横穴式石室を持つ盟主墳である。
29	文次郎ロード(お爺さんの道)	未指定	記念物	史跡	交通	昭和25年頃	奥谷～日原		渡米30年を経て帰国した橋谷翁が、博愛奉仕の精神で子どもたちの通学のために整備した峠道。昭和20～25年。延長約500m、道幅1～1.5m。自宅裏の入口には、自作の英文の4つの願いを刻んだ自然石の碑もある。
30	宗像土手跡	未指定	記念物	史跡	治水	江戸初期	宗像		残存部の高さ3.5m、幅7.5m、長さ12m。米子城主中村一忠が在任中に築いた。法勝寺川・加茂川が氾濫したとき米子の町へ洪水が入るのを防いだ堤防であり、米子城下町の防災計画を物語る貴重な遺構である。
31	奈喜良の祭祀遺跡	未指定	記念物	史跡	信仰	古代	奈喜良		古代に、祭祀を行っていた跡。5m四方の場所で、中心に、厚さ6cm、幅12cm、長さ25cmくらいの御影石が置かれ、傍に2個の石を配した。前面に、高坏、盃(さら)埴(つぼ)、器台が多数重なり合って埋もれていた。
32	七尾城跡(橋本跡城、橋本要害跡)	未指定	記念物	史跡	中世城館跡	中世	橋本		橋本山又は宝石山と呼ばれる、法勝寺川下流域の標高約100mの独立丘陵。丘陵全体に廓の平地や土塁がそのまま残る。山頂は3、4段の平削地があり要害の名残を留める。北の山の中に井戸、石垣の一部あり。城主は行松源太兵衛といわれる(阿陀萱神社社伝)。
33	石井要害(石井岩)跡	未指定	記念物	史跡	中世城館跡	中世	石井		標高29.4m。丘陵。(遺構)廓、横堀。一部損壊。(城主)片山小四郎、古曳吉種。(文献)石井村田畑地続字限絵図・要害図(明治2年)では、平野の中に孤立した楕円形の丘陵がほぼ三段に削られ、周囲を掘跡とみられる水田が円形に囲まれていた。昭和44年に住宅団地が造成され、その後の治山事業でほぼ全周の擁壁工事により大きく削平され現状を留めていない。
34	新山要害跡(長台寺城跡)	未指定	記念物	史跡	中世城館跡	中世	新山		伯耆・出雲国境にあった中世の城郭跡。標高281m。天万要害、橋本要害、尾高城などへ向かう街道筋を守る要。陶磁器などの遺物から16世紀戦国時代後半に属するとされる。「よなごの宝八十八」:永禄年間に尼子氏の拠点の1つとなり、毛利方との戦いの激戦地。
35	吉谷所在城跡	未指定	記念物	史跡	中世城館跡	中世	吉谷	変電所敷地	標高22m。(遺構)廓、土塁、横堀。一部損壊。二段の廓上平坦地が続き、空堀らしき落ち込みあり。
36	防空壕(奈喜良)	未指定	記念物	史跡	戦跡	昭和19～20年	奈喜良	個人	横穴内部コンクリート造りの防空壕。コンクリート仕上げで、奥行33m、幅3.1mの壕が並行して2本、これに直結する2本の壕(長さ20m、幅3.6m)。旧美保海軍航空隊の工場として、昭和19～20年に建設。弾薬庫と工場の郷が彫られ、約80人が働いた。
37	未完成防空壕(奈喜良)	未指定	記念物	史跡	戦跡	昭和19～20年	奈喜良	個人	横穴内部鉄筋コンクリート造り
38	瀬尾悠平氏庭園	未指定	記念物	名勝	庭園	江戸時代末期～明治時代初頭	美吉	個人	庭門を入れて路地を通り、主屋南東側の裏山に接して「オモチ」を視点場とした庭園がある。明治9年に亡くなった10代幸重の時の作庭と伝える。庭園は築山が迫り広々とした印象はないが、陽田石三尊石などの石組を大胆に配している。作庭時の姿をよくとどめ、近世大規模農家としての屋敷の佇まいも整っている。

2. 米子市歴史文化遺産リスト (地区別)

39	東玉の井戸	未指定	記念物	名勝	井泉	不詳	美吉	個人	個人宅の名水。明治40年、皇太子山陰行啓の際、錦公園の宿所で用いられたという。かつて「久米桜」の特級酒醸造にも使われていた。
40	宝石山のスダジイ・アベマキ林	未指定	記念物	天然記念物	植物		橋本		優れた植生。東側にアカマツ林、北側にアベマキ林、山麓の用水池の周りはクスギ林。ヒノキ、杉の林床にシダ植物が豊富で、低地の湿地帯や林縁にゴウソウ・サワヒヨドリなどが見られる。ヒシ・タヌキモの群落も特記。
41	宗形神社社叢	未指定	記念物	天然記念物	植物		宗像	宗形神社	優れた植生。特記植物(スダジイ・イロハカエデ)。「とつとりの名木100選」のクスノキは、幹周4.2m、樹高18mで、弘治2年の社殿造営を記念し、境内の前方に植えたといわれる。樹齢推定400年。
42	古市奥地の湿原と落葉樹林	未指定	記念物	天然記念物	植物		古市		優れた植生。特記植物:ノグルミ・クスギ・カササゲ
43	高尾山のアカマツ・コナラ林	未指定	記念物	天然記念物	植物		宗像・奥谷		優れた植生。特記植物:ザイフリボク・ウラジロノキ・ナナカマド

米子市歴史文化遺産リスト(箕蚊屋地区)

巖地区

No.	名称	指定等	区分			年代	所在地	所有者	概要
			分類1	分類2	分類3				
未指定文化財									
1	両足院本堂	未指定	有形文化財	建造物	建造物	未調査	蚊屋	両足院	曹洞宗、円福寺の末寺であった。箕蚊屋に拠点のあった内河氏(内河長祐)は、名和長年の妻となっていた妹の菩提を弔うために興国2年8月に建立したという。円福寺9世により再建されたという。木造本堂未調査
2	大岩神社本殿	未指定	有形文化財	建造物	建造物	未調査	二本木	大岩神社	流造 2尺四方。創立年代不詳。木造社殿未調査
3	茶畑神社本殿	未指定	有形文化財	建造物	建造物	未調査	二本木	茶畑神社	切妻造妻入 2尺四方。創立年代不詳。木造社殿未調査
4	大畑神社本殿	未指定	有形文化財	建造物	建造物	明治10年	二本木	大畑神社	流造 2尺四方。)創立年代不詳。元はヒノキの神木を祀っていたが、明治10年社殿を新築(県神社誌)。木造社殿未調査
5	高砂神社本殿	未指定	有形文化財	建造物	建造物	未調査	熊党	高砂神社	切妻造妻入 3尺6寸四方。)創立年代不詳。蚊屋島神社の摂社で祇園牛頭天王と称した。元文4年の棟札が最古。木造社殿未調査
6	高畑神社本殿	未指定	有形文化財	建造物	建造物	未調査	蚊屋	高畑神社	大社造変形 2尺四方。創立年代不詳。木造社殿未調査
7	中島神社本殿(蚊屋)	未指定	有形文化財	建造物	建造物	未調査	蚊屋	中島神社	流造2尺。創立年代不詳。現在地に再建した安永9年の棟札が残る。木造社殿未調査
8	上部神社の木祠	未指定	有形文化財	建造物	建造物	未調査	蚊屋	上部神社	切妻造妻入 2尺四方。創立年代不詳。「三野御厨」に関わる、蚊屋島神社の元宮とする伝説あり。未調査
9	稲荷神社本殿(今在家)	未指定	有形文化財	建造物	建造物	未調査	今在家	稲荷神社	大社造変形 5尺四方。(創立年代不詳。宝永元年以降の棟札が残る。木造社殿未調査
10	浦木神社本殿	未指定	有形文化財	建造物	建造物	未調査	浦津	浦木神社	切妻造妻入向拝 唐破風付 2尺7寸四方。創立年代不詳。木造社殿未調査
11	蚊屋行者堂	未指定	有形文化財	建造物	建造物	未調査	蚊屋		大峰信仰における木造役行者像を納める。木造社殿未調査
12	二本木観音堂	未指定	有形文化財	建造物	建造物	未調査	二本木		延享3年、妹尾氏が行者の常念と力を合わせて浄財を募り再建(棟札)。
13	谷村家文書	未指定	有形文化財	美術工芸品	古文書	寛永12年、正徳3年、享保4年	浦津	個人	①蚊屋之内津末村田畑御水帳(寛永12年):江戸藩政初期の検地(場所、生産高、田畑)や開発初期の様子がよくわかる。②蚊屋之内浦木村絵図面(正徳3年作成):集落の配置、道、土地の利用状況など当地開発の様子がわかる。
14	進照氏所蔵文書	未指定	有形文化財	美術工芸品	古文書	天保5年?	二本木(箕地区)	個人	進屋敷図面
15	島崎壽夫氏所蔵文書	未指定	有形文化財	美術工芸品	古文書	天保年間	蚊屋	個人	天保絵図面
16	常夜燈(吉岡)	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	文政12年	吉岡		大智明権現」と刻字する大型常夜燈。同じ大山路(尾高道)の一の谷にある、常夜燈と同じデザインの手の込んだもの。このあたりから、春から秋までは車尾へ向かって(日野川から米子城下へ)土橋が架けられ、一人四文の渡賃で渡ったという。
17	一石三十三観音(吉岡観音堂)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	嘉永2年	吉岡		1つの石に33体の観音像が刻まれている。嘉永2年に祠堂建立。観音札所のひとつだが、板石(一枚岩)に彫った、7段33体の仏は珍しい。もとは川の石橋だったの言い伝えがある。ほかに、文政8年の石灯籠1基、小地藏(後背)1体がある。
18	回国塔(二本木)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	宝暦5年	二本木		石塔、高さ(台座含む)114.5cm。「奉納大乘妙典六十六部」宝暦5年、施主箕村儀左衛門。
19	サイノカミ(箕)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	嘉永7年	二本木(箕地区)		双体像(並立立像、浮彫り)、自然石(62x58x43cm)に神殿を割りぬく。嘉永7年制作。
20	サイノカミ(大畑神社)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	明治17年	二本木		双体像(並立立像、浮彫り)、自然石(76x76x40cm)に線刻で神殿を描き、本殿は彫り込み。明治17年制作。
21	サイノカミ(高畑神社)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	大正11年	蚊屋(絹屋地区)		双体像(並立立像、線彫り)、自然石(63x85x52cm)に線彫りで、神殿と立像。大正11年制作。
22	サイノカミ(高砂神社)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	熊党		自然石(68x60x38cm)。大山路沿いにあったものを昭和43年の国道9号改修で現地に移転(聞き取り)。
23	サイノカミ(吉岡)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	吉岡		2体。①双体像(並立立像、浮彫り)、自然石(52x122x30cm)に、神殿と像を浮彫り。②文字碑:三角形をした自然石(80x43x32cm)に「幸神」を刻む。
24	サイノカミ(津末神社)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	浦津		自然石(60x64x50cm)
25	稚児獅子神楽(浦木神社)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	~現代	浦津(浦木地区)		10月28日の秋祭りに、五穀豊穡、家内安全を祈り、悪魔を祓うため、子供たちが獅子神楽で家々を拝んで回る。古老によると100年以上続くという。
26	盆踊り	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	民俗芸能	~現代	今在家		現在、今在家自治会と公民館主催のもののみ。かつて、村々で行われた。浦津には昭和30年代頃まで盆踊りグループがあり、河崎地区と双壁の花笠踊りで、県西部から島根県東部辺りまで遠征する、優秀な踊り連だった。

2. 米子市歴史文化遺産リスト（地区別）

27	熊党伝説	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	伝説	～現代	熊党		熊党は、古名を「熊ノ藤」といい、能登国の出身「熊ノ藤」家が、各地をめぐる、山市場の四塚で滅亡し、残党17名がこの地に土着したという。
28	巖村の数え歌	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	歌謡	～現代	巖地域		西伯郡巖尋常小学校で作り、児童に詠わせていた、当地の地理を題材にした歌。日野川、米子町、境町、安養寺、名和の宮、大山などが詠い込まれていた。
29	内河氏墓地(両足院)	未指定	記念物	史跡	墳墓	不詳	蚊屋	両足院	本堂前左手の墓地には、名和長年の母(内河氏の出)と伝わる五輪塔(全高155cm、高さ46cm、安山岩製)がある。
30	極楽寺跡(熊党薬師堂)	未指定	記念物	史跡	信仰	不詳	熊党		薬師如来を祀る堂のほか、寺の礎石1個、宝篋印塔の屋蓋、五輪塔などが残る。この地に壽慧山極楽寺があったが慶長の頃焼けたという。後に惣持庵が建ったが明治19年の大洪水で流出し、その跡に薬師堂が建てられた。
31	日野川河川敷カワラハハコ群落	未指定	記念物	天然記念物	植物		吉岡		優れた植生。特記植物:カワラハハコ・カワラヨモギ

春日地区

No.	名称	指定等	区分			年代	所在地	所有者	概要
			分類1	分類2	分類3				
指定文化財									
1	神像 附神像3軀	県	有形文化財	美術工芸品	彫刻	平安時代	東八幡	八幡神社	計7軀。女神像4、男神像2、僧形神像1とバラエティーに富み、いずれも平安時代の作。女神神像1軀は10世紀後半から末ごろに制作されたと考えられ、山陰最古の神像。神像は広葉樹の一本を彫り出し、髪や衣紋は墨で表現し、朱などで彩色。
2	木造狛犬	市	有形文化財	美術工芸品	彫刻	安土桃山時代～江戸時代初期	東八幡	八幡神社	安土桃山～江戸時代初期の製作と推定。造形的にも製作時期の特徴をよく表す。阿形は前足をやや前後に構え、顔を少し左側に向けて、大きく胸を張った動きのある姿を、吽形は顔を少し右下に向け、腰を落とした静かな姿を表す。
未指定文化財									
1	八幡神社本殿	未指定	有形文化財	建造物	建造物	未調査	東八幡	八幡神社	3間社流造 2丈x3尺四方。藩政時代、寛永11年以降の造営には藩より作事奉行、大工棟梁が差し向けられるなどした。昭和41年に日野川の河川改修に伴い、移転した。本殿の彫刻や拝殿外の蛙殿は、室町、安土桃山期の様式を持つといわれる。
2	貴布禰(きぶね)神社本殿 (一部)	未指定	有形文化財	建造物	建造物	未調査	一部	貴布禰神社	大社造変形 4尺四方。創立年代不詳。鳥居は安永9年建立。貞享元年の棟札あり(郷土史)。木造社殿未調査
3	多賀神社本殿	未指定	有形文化財	建造物	建造物	未調査	上新印	多賀神社	大社造変形 5尺5寸。創立年代不詳。中世以前に近江国多賀大社を当地に勧請したと思われる。延宝元年日野川の洪水で社殿損壊し、元禄7年現社地に仮殿を設けた。後年、社殿を新築。鳥居は享和3年建立。木造社殿未調査
4	新印神社本殿	未指定	有形文化財	建造物	建造物	未調査	下新印	新印神社	大社造変形 5尺5寸x6尺9寸。創立年代不詳。往古は上新印字王子原に「王子権現」として鎮座。日野川洪水で流出し、下新印の現社地に社殿を新築した。木造社殿未調査
5	新宮神社本殿(豊田)	未指定	有形文化財	建造物	建造物	昭和初期	古豊千(豊田地区)	新宮神社	大社造変形 4尺2寸四方。創立年代不詳。往古よりあった。古豊千内の(明治初年の豊田神社と古川神社)を、昭和初年に合併して設立した。木造社殿未調査
6	北野神社本殿	未指定	有形文化財	建造物	建造物	未調査	赤井手	北野神社	大社造変形 5尺四方。創立年代不詳。正徳4年以降の棟札が残る。木造社殿未調査
7	水浜神社の木祠	未指定	有形文化財	建造物	建造物	明治以降	水浜	水浜神社	創立年代不詳、貞享4年以前か(古文書)。字名「畑田」にあったが、明治19年の日野川の洪水で流出し、現在地(国交省の河川敷)に移された。新堤防は昭和40年代に完成。未調査
8	円福寺本堂	未指定	有形文化財	建造物	建造物	明治以降	上新印	円福寺	曹洞宗。寺伝では、応永31年、能登総持寺の僧が日下村に建立。慶長年間に上新印に移り宝樹庵(法寿庵)と称し、後に円福寺と改めた。明治15年失火により全焼(郷土史)。木造本堂未調査
9	泉龍寺本堂	未指定	有形文化財	建造物	建造物	未調査	赤井手	泉龍寺	曹洞宗。天保10年再建(開山堂)昭和12年新築。15世紀末に円福寺4世貞勲和尚により日下に「泉龍庵」を開基(伯耆志)。万治2年に、当地に移る。木造本堂未調査
10	長徳寺本堂	未指定	有形文化財	建造物	建造物	未調査	下新印	長徳寺	曹洞宗上新印円福寺の末寺。縁起によると、寛政元年、開山は円福寺3世賢春大和尚。寛政5年の本堂棟札が残る。木造本堂未調査
11	上新印観音堂	未指定	有形文化財	建造物	建造物	未調査	上新印		安産と育児の信仰から穴太寺の本尊聖観音を勧請。木造本堂未調査
12	下口観音堂(下新印)	未指定	有形文化財	建造物	建造物	未調査	下新印		会見三十三番札所の30番札所。文化10年の会見札御詠歌の奉納額あり。木造本堂未調査
13	奥田昭一家文書	未指定	有形文化財	美術工芸品	古文書	文政6年ほか	上新印	個人	会見郡三部村御年貢米落し帳(文政6年)。明治初年の奥田家屋敷図(家相図)。奥田氏は、三部村(上新印村の枝村(現和田地区))の開発者の一人。
14	塚田真一郎家文書	未指定	有形文化財	美術工芸品	古文書	弘化2年ほか	一部	個人	「御宮造営入用詰算用帳」(弘化2年)など。箕蚊屋部日野川左岸、一部村の地主が記録した、貴布禰神社(村産土神)の遷宮関係資料。
15	四季発句集(春鳥舎選)	未指定	有形文化財	美術工芸品	古文書	寛政11年	古豊千	個人	松尾芭蕉百回忌の六年後の寛政11年、粟嶋村の祥雲庵薬師如来に奉納するための俳書。巻軸200句、額200句を一冊に納める。米子の俳人の集まり「春鳥舎」による選、刊行。米子地方の江戸後期の俳諧の広がりを知るうえで貴重。
16	八幡神社文書(神主内藤家文書)	未指定	有形文化財	美術工芸品	古文書	文禄、慶長年間など	東八幡	八幡神社	南北朝の論旨や將軍御教書の写しが含まれるほか、慶長年間の神道裁許状や社領に関する文書。「伯州会見郡大社八幡宮御由緒」4種(宝暦～文政)、「八幡宮社領井日記録写差出控(文政11年)」(観応2年の記録あり)など。
17	八幡神社所蔵経櫃(河岡山城守寄進)	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	永禄10年	東八幡	八幡神社	永禄10年、河岡山城守久貞が大般若経を相見八幡宮(現八幡神社)に寄進し、唐櫃はこれを収めたものと考えられる。河岡久貞は、永禄5～9年の毛利・尼子戦争下で毛利支配下として西伯耆の戦いで活躍した。

2. 米子市歴史文化遺産リスト (地区別)

18	八幡神社所蔵棟札類	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	天正12年、17年ほか	東八幡	八幡神社	天正12年(杉原景盛が旦那として建立)と同17年(吉川広家の建立)の棟札のほか、『棟札書出』(享保12年筆写)により天永2年と明応7年にも再建されたことが知られる。
19	八幡神社能面ほか所蔵品	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料		東八幡	八幡神社	養老4年創建と伝える古大社で、中世からの所蔵がある。秀吉能面(豊臣秀吉が奉納したと伝える「三番叟翁面」2面)、三十六歌仙の絵馬(米子城主中村一忠奉納)など。
20	「馬心村」銘手水鉢(八幡神社)	未指定	民俗文化財	美術工芸品	歴史資料	貞享3年	東八幡	八幡神社	かつて「馬心村」といった伯耆町吉定の氏子が奉納したもの。「馬心」の村名は、日野川の濁流の中に取り残された馬と無事を祈る村民との息詰まる伝承を伝える。
21	道標を兼ねた巡拝塔(水浜)	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	寛政元年	水浜		高さ151cm。正面に「右くけみち 左 上方みち大山」。巡拝塔に道標の役目を添えて、寺社参詣の道としての繁栄をしのばせる。馬場村(現東八幡)の田川藤左衛門が四国八十八か所の遍路を終えた記念。
22	ゴボリジンナイの墓(五輪塔)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	上新印	円福寺	五輪塔。「ゴボリジンナイ(小堀陣内か)」という土豪が当地に住んでいた(口伝)。円福寺は、慶長年間に日下からこの土豪の屋敷跡に建てられた(当初「宝樹庵」と考えられる。
23	回国塔(地蔵) (一部:堂前)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	元文2年	一部		地蔵、高さ(台座含む)156.5cm。「六十六部供養塔」元文2年、施主林原伝右衛門
24	回国塔(地蔵) (一部:出口)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	宝暦14年	一部		地蔵、高さ(台座含む)112.0cm。「天下太平 大乗妙典六十六部日本回国供養塔」宝暦14年、伯耆国会見郡市部(一部)村全村で建立奉納。
25	回国塔(赤井手)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	文化7年	赤井手		自然石、高さ(台座含む)121.0cm。「奉納大乗妙典六十六部日本回国供養塔」文化7年施主尾高村赤松屋喜兵衛が、文化2年から7年までかけて回国を終えた記念に建立。
26	回国塔(上新印:三部堂)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	上新印		自然石、高さ(台座含む)130.0cm。「奉納大乗妙典六十六部供養塔」、林原伝右衛門が回国成就を記念して建立。
27	サイノカミ(新印神社)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	明和6年、文政4年	下新印		石祠(屋根付き)(113x22x66cm)。猿田彦?(単体神立像、浮彫り)、祠の台石(文政4年)制作。祠の前の置き石に明和6年と刻む。再建される以前の社に奉納されたものか。
28	サイノカミ(北野神社)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	赤井手		石祠(屋根付き)(67x49x35cm)。猿田彦命と天命細女命が祀られると推測(神社改め帳:安政2年)
29	サイノカミ(古豊千:新宮神社)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	安政4年、明治2年など	古豊千		3体。①双体像(並列座像、浮彫り)、宝珠型に石(58x55x35cm)を整えて浮き彫り。男神は笏を持ち、片膝立ち。安政4年。②双体像(並列座像、浮彫り)、自然石(93x85x60cm)に宝珠型を彫り込み。明治2年。③双体像(並列立像、浮彫り)、自然石(47x42x27cm)に宝珠型を彫り込み。明治口年。
30	サイノカミ(島田神社)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	高島		双体像(並列座像、浮彫り)、自然石(48.5x45x35cm)の中に神殿状の方形を彫り込む。
31	サイノカミ(東千田神社)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	古豊千		双体像(並列立像、浮彫り・線彫り)。五角形の自然石(42x43x28cm)の中を彫り込む。男神の顔と女神は削り取られている。
32	サイノカミ(多賀神社)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	上新印		石祠(66x40x40cm)
33	サイノカミ(円福寺横)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	上新印		自然石(102x75x56cm)
34	サイノカミ(一部堂前)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	安政4年ほか	一部		2体。①自然石(60x56x50cm)、②自然石(55x59x50cm)に「幸神」と彫る文字碑、安政4年。
35	サイノカミ(水浜公民館横)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	安政4年	水浜		双体像(並列立像、浮彫り)安政4年、自然石(84x64x55cm)の中央を削り、さらに神殿状に彫り込む。雲に乗った立像。いずれの神像も剃髪で、男神は長い杖を持ち、女神は指を挿している様子。雲の部分を中心に赤色彩色が残る。このような形態は珍しく、米子市では、このみ。
36	堂守り組織(下新印)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	信仰	~現代	下新印		村人の信仰拠点としての「堂」を古い形で維持する。地域ごとに4組織(東組・中組・西組・下口組)に分かれ、それぞれ毘沙門堂(東組毘沙門堂)・阿弥陀堂(中組御堂)・西組観音堂(西組御堂)・下口観音堂(下口御堂)を守る。
37	トンドさん(下新印)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	~現代	下新印		当日:お宮(小祠)を本番宅の門に据える。トンド飾り後、お宮をトンド場の脇に祀る。火入れ(宮司)。行列なし。小祠は1年交代の頭屋が自宅(または神社)で祀る。トンド~神木の両脇に大根を飾る。1本大根は男、二股大根は女を象徴。
38	トンドさん(東八幡)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	~現代	東八幡		前日:お宮(小祠:八幡さんの分霊)を神楽殿から公民館に遷し、飾る。当日:八幡さんの巡幸(天狗面、神輿(お宮)、太鼓叩き、太鼓担ぎ。村中回り)、火入れ(宮司が祝詞)。トンドの飾り~松の木で男性のシンボルを作る。「おこし」:松12本を藁で大根を干すように絡んでシンボコの前に飾る。
39	古豊千の洪水と城蛇の伝説	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	伝説	~現代	古豊千		昔、日野川が大洪水になり、古豊千の辺りが広い海のようになると、1匹の大きな白蛇が村に流れ込んだ川の水を飲み干して日野川に去った。白蛇が水を飲みながら通った跡が今でも残り、豊田と十日市の間の広い平野となった。

大高地区

No.	名称	指定等	区分			年代	所在地	所有者	概要
			分類1	分類2	分類3				
指定文化財									
1	短刀銘備州長船住兼光 附金熨斗付合口拵	国	有形文化財	美術工芸品	工芸品	鎌倉末期	尾高(東京国立博物館寄託)	大神山神社	短刀:長さ24.8cm、幅2.3cmの。拵:鍔の無い合口で柄と鞘に金の延べ板を巻き付けた金熨斗造り。鎌倉末期の備前長船の作風をよく伝える。津和野城主亀井恭政が大神山神社に奉納したもの。
2	刀無銘伝古伯耆物 附銀造糸巻太刀拵	県	有形文化財	美術工芸品	工芸品	平安末期、安土桃山~江戸時代初期	尾高(米子市美術館寄託)	大神山神社	太刀:長さ69.9cm、反りが2.5cm。平安時代末期に伯耆の鍛冶によって作刀された古伯耆物。太刀拵:総金具で銀磨地、目貫の法輪は三双銀容彫り、柄は紺糸平巻で、鍔は木瓜形太刀四方猪目透。安土桃山~江戸時代初期の物。

2. 米子市歴史文化遺産リスト（地区別）

3	太刀 銘安綱	市	有形文化財	美術工芸品	工芸品	平安期	尾高(米子市美術館寄託)	大神山神社	長さ79.99cm、反り2.7cm。大神山神社に宝物として伝わる太刀で、名に安綱と刻まれ、安綱の作と推定される。安綱は平安時代の刀工で、反りのある日本刀の創始者といわれ、伯耆古鍛冶の始祖。
4	尾高城跡	市	記念物	史跡	城跡	戦国期	尾高	米子市・鳥取県	標高46m、比高20m。戦国時代、西伯耆の拠点として山陰の中でも数多の攻防戦が繰り広げられた中世城郭。南北約400m、東西約200mの範囲に、北から二の丸、本丸、中の丸、天神丸などを前面に、背後に越ノ前、城主館、南大首などの8つの廓を配する。
未指定文化財									
1	大神山神社本殿	未指定	有形文化財	建造物	建造物	文化5年	尾高	大神山神社	大社造変形 1丈5尺四方。「延喜式神名帳」に伯耆国の古社として知られている。丸山地区(現:伯耆町)に冬宮を造って奉斎し、福万原を経て、吉川広家が大本坊の地(尾高)に社殿を再建した。荒廃したため承応2年、近くの現在地に諸社殿を遷宮した。現本殿は文化5年に造営、天保6年修復し、幣拝殿を新築した。沿革は別説あり。
2	岡成神社本殿	未指定	有形文化財	建造物	建造物	未調査	岡成	岡成神社	春日造変形 1間四方。創立年代不詳。伝えによると、この地(もと新宮村)に新宮大明神を建てた。木造社殿未調査
3	泉神社本殿	未指定	有形文化財	建造物	建造物	未調査	泉(上泉地区)	泉神社	切妻造妻入向拝 唐破風付 4尺四方。創立年代不詳。木造社殿未調査
4	下郷神社本殿	未指定	有形文化財	建造物	建造物	未調査	下郷	下郷神社	流造 2尺四方。創立年代不詳。木造社殿未調査
5	小鷹山観音寺本堂	未指定	有形文化財	建造物	建造物	未調査	尾高	観音寺	曹洞宗。寺伝では、尾高城主杉原盛重により市内観音寺から当地へ移された。木造本堂未調査
6	西福寺山門	未指定	有形文化財	建造物	建造物	未調査	尾高(前市地区)	西福寺	曹洞宗。曹洞宗、円福寺末。開基は真野氏。寛正元年円福寺3世を開山とする。山門未調査
7	源光寺本堂	未指定	有形文化財	建造物	建造物	未調査	尾高(上市地区)	源光寺	浄土宗。寺伝によると、開基は尾高城主杉原盛重に仕えた大谷玄蕃の父和田瀬兵衛栄順。木造本堂未調査
8	東照寺本堂	未指定	有形文化財	建造物	建造物	未調査	下郷	東照寺	曹洞宗。享禄年間の開山と伝える。木造本堂未調査
9	一心院(一心堂)本堂	未指定	有形文化財	建造物	建造物	未調査	尾高		日蓮宗。創立年代不詳。木造本堂未調査
10	十王堂(ジオドウ)本堂	未指定	有形文化財	建造物	建造物	昭和15年	尾高(南井手地区)		もと、大神山神社裏参道の辺りにあったが、昭和15年7月に紀元2600年事業としての神苑大拡張に着手し、現地に移転改築。同44年大改築。木造本堂未調査
11	円通堂本堂(上泉)	未指定	有形文化財	建造物	建造物	明治31年	泉(上泉地区)		赤瓦葺の方2間の堂。明治31年再建。33体の観音像(木造彫刻)をまつていたが、現在22体。木造本堂未調査
12	黒住教尾高集会所(旧箕蚊屋集会所)	未指定	有形文化財	建造物	建造物	大正10年	尾高(上市地区)	黒住教	大正10年改築。設計:富次精齋。
13	大神山神社の舶来狛犬	未指定	有形文化財	美術工芸品	彫刻	不詳	尾高	大神山神社	吉川広家が朝鮮から持ち帰ったものといわれ、形態が面白く、石の質も異なる。隋神門にある。福万原の旧社地から掘り出されたと伝わる。
14	宝鏡受賞記念の石灯笼(大神山神社)	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	昭和8年~17年	尾高	大神山神社	昭和8年~17年までの石灯笼10基。箕蚊屋地域(日吉津、大和、巖、大高、春日、県、大幡)の小学校6年生の成績優秀な生徒1名に宝鏡が授与されていた。
15	道標(尾高の常夜燈)	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	文政8年	尾高(上市地区)		高さ(台座含む)235cm。文政8年に造立された常夜燈「金毘羅大権現・大山智明大権現」の台石に刻む。「東大山路 南ミソロ 北よなご道 西さくはみち」。かつて、米子から大山へ向かう旧大山路の上市の十字路にあったが、明治35年の大山路の改修などで現在地に移した。
16	道標(尾高・大山路因幡道)	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	安政5年	尾高(上市地区)		安政5年建立。高さ80cm。「右大山路 左因幡道」。因幡道は、観音寺左の坂を登り、泉・小波を経て淀江に抜けて、因幡に至る旧山陰道。もとは道の反対側の石灯笼の横にあった。大山詣りの賑わいを偲ばせる。江戸時代に尾高上市(うわち)村は、米子・大山寺・日野・鳥取方面への三叉路にあっていた。
17	道標(石田上)	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	不詳	尾高(石田地区)		自然石の台座に「右まる山道 左大山路」と刻む(高さ100cm)。石田は、米子から八幡からの道が合流し、丸山にも通じる交通の分岐点だった。丸山へは石田山の大道へ向かう。近世の大山路は石田を過ぎ、一の谷(大山町)に向かった。
18	道標(石田入口)	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	不詳	尾高(石田地区)		高さ62cm。「右よなご 左やわた」と刻む。石田西入口を少し進んだ道で、大山から下ってV字型に左右に分かれる角。東向き小さな道標で、大山からの帰途案内。
19	常夜燈(尾高 上森地区)	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	文化11年	尾高(上森地区)		文化11年、森善兵衛寄進。この地区に、江戸時代初期から明治初期まで森氏一族が住んでいた。
20	常夜燈(尾高:上市)	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	文政9年	尾高(上市地区)		文政9年。「大山智明(以下欠落)」、「金毘羅(以下欠落)」の文字を竿に刻む。大山詣りのためのもの。
21	大高村地図・字限図	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	明治25年	尾高(大高公民館)		明治25年10月調製後、1世紀以上に及んで広く使用され、郷土住民の便益を助けるなじみ深いもの。尾高の羽場一定の製図。
22	里道改修記念碑(尾高)	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	明治26年	尾高		明治期に里道が改修され、尾高と岡成が通じる新道ができた記念碑。「明治26年」の告字あり。
23	里道改修記念碑(岡成新道)	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	明治36年	岡成		明治36年に、尾高城跡の「天神丸」と「大首」の間の空堀跡が掘られて「岡成新道(しんどう)」が通じた記念。大きな土手堤の道を作って、尾高、岡成、赤松、博労座と続く新しい大山路が出来た。
24	教育勅語煥発30年記念の植樹記念碑	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	大正10年	尾高		自然石。大正10年に日進農事改良組合が桜を植えた記念碑。桜は上市から大高小学校に至る道の両側に一時並木を作っていた。
25	木野山神社の狼狽犬(岡成)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	明治中期	尾高		岡成神社境内に狼狽犬がある。明治中期に地方にコレラが大流行し、備中木野山神社本社より勧請した。
26	杉原盛重元盛親子五輪塔	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	尾高	観音寺	裏山に墓と伝わる五輪塔が2基あり、寺に初代・2代城主盛重元盛親子の位牌がある。
27	大神山神社の大燈籠	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	明治9年	尾高	大神山神社	明治9年建立の石の大燈籠。高さ2丈2尺6寸。前年、大山寺の大山大智明権現社は分離されて、当社を里宮とする大神山神社が定められた。寄進者名が刻まれ、明治以降も会見郡一円に及ぶ信仰を集め、多くの寄進者の名が刻まれる。

2. 米子市歴史文化遺産リスト (地区別)

28	大神山神社の社号(扁額)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	明治期	尾高	大神山神社	御影石製。揮毫は、最後の鳥取藩主で初代鳥取県知事の池田慶徳。
29	回国塔(岡成堂)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	宝暦13年	岡成		自然石、高さ74.0cm。「奉納日本六十六部供養塔」宝暦13年、施主市坂三口。
30	回国塔(尾高:観音寺)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	正徳2年、寛政4年	尾高		2基。①地蔵:高さ71.5cm。「大乘妙典六十六部日本回国供養」正徳2年、施主月峯円志。②石塔:高さ(台座含む)169.0cm。「奉納大乘妙典六十六部」寛政4年、行者真応良伝庵主。
31	回国塔(石田道端)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	元文2年	尾高(石田地区)		自然石、高さ(台座含む)118.0cm。「南無阿弥陀仏(法名)六部回国」、元文2年村中建立。奥州(福島県)の行者が回国の途中死亡したので供養塔を立てた。
32	さいの神(下泉神社)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	文久2年	泉(下泉地区)		双体像(並列立像、線彫り)、自然石(82x96x44cm)の中に神殿を彫り込み、像と注連縄が線彫り。文久2年。
33	さいの神(上泉神社)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	文久2年	泉(上泉地区)		双体像(並列立像、線彫り)、自然石(92x90x56cm)。
34	さいの神(下郷神社)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	明治32年	下郷		2体。①双体像(猿田彦命・天鈿女命、並列立像、浮彫り)、大きな自然石(110x81x62cm)の表面を整え、壺型の浅い彫り込みの中に、注連縄と像。明治32年、②自然石(50x47x15cm)に、神殿を線彫り。
35	さいの神(尾高前市:御崎神社)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	慶応3年	尾高(前市地区)		2体。①双体像(並列立像、浮彫り)、自然石(36x41x14cm)を整え、神殿の屋根を線彫り、本殿を彫り込む。②双体像(並列立像、浮彫り)、大きな自然石(123x117x70cm)の中に2段の彫り。外側に注連縄を彫り、内側に像を肉厚に深堀り。
36	さいの神(尾高上市:木野山神社)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	安永5年、慶応3年	尾高(上市地区)		3体。①双体像(並列立像、浮彫り)、自然石(51x63x30cm)の中に神殿、懸魚、天幕を彫る。②双体像(浮彫り肉厚)、切石(32x27x12cm)の中を深く彫りこむ。安永5年。③双体像(並列立像、浮彫り)、自然石(110x112x87cm)の中ほどから下を薄く削り取って表面を整える。慶応3年。
37	さいの神(岡成神社)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	慶応3年	岡成		双体像(並列立像、浮彫り)、自然石(68x120x83cm)の中央に、屋根、本殿、間に雲と竜の頭を画く。
38	さいの神(尾高石田:石田神社)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	安政6年	尾高(石田地区)		双体像(並列立像、浮彫り)、横長の自然石(57x128x59cm)の中央に神殿の屋根を太く線彫り。
39	青面金剛像(地蔵)(尾高:観音寺)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	尾高	観音寺	高さ78cm、幅36cmの砂岩製。正面金剛の横に、三猿(見ざる、聞かざる、言わざる)が彫ってある。
40	鯉鮒大明神(ちりゅう)石塔(尾高:観音寺)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	文化6年	尾高		文化6年建立、高さ推定90cm(88調査:70cm、頭部の宝珠なし)の変形五輪塔。かつて、村人達がマムシ封じにご利益があると知立神社(愛知県)の砂を頂き、代わりに清浄な砂をお供えた。
41	唐王御前(石柱)(尾高:石田神社)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	尾高(石田地区)		唐王神社(大山町)の祭神「須勢理毘売命」(唐王御前ともいう)は、マムシ除けや毒虫除けに効くとの信仰があり、分霊を勧請したもの。御前の「五」に因み、五本のモッコクを神木として、「唐王御前」の石柱が立つ。
42	三徳さん(毘沙門天)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	昭和3年	尾高		尾高城跡天神丸(元大高小学校跡)に鎮座していたが、2度遷座。昭和3年に大高養蚕の振興を企図し、養蚕の守護神毘沙門天を三徳山より勧請した。
43	秋葉大権現(尾高:前田)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	尾高(前田地区)		コンクリート造の小さな祠に、石造で円筒状。棟札は昭和6年あり。お宮の傍に近くから出土した五輪塔も祀る。
44	秋葉大権現(尾高:上市)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	昭和46年	尾高(上市地区)		天明8年、願主上市村青木幸七郎が勧請(棟札)。数度再建。昭和46年、庫裡を立てるため現地に移転。
45	七薬師八荒神(薬師)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	尾高一円		薬師:観音寺、西福寺、源光寺の薬師、上市の「もだれ薬師」、大首薬師、吹上薬師、石田の薬師(お堂)。荒神:前市(御崎神社、榊の木)、石田(お宮)、上市(お宮)、門田(榊の木)以上4体(天保14年地図は8体)。米子灘町の荒神は、尾高から移された殿伝承がある。
46	十字紋の摩利支天(一心院)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	尾高	一心院	「能勢の妙見さん」という仏像(高さ20cm)の台座に、「矢筈十字架」(長さ20cm)が金色の塗料で描かれている。潜伏キリシタンが礼拝したものと考えられる。
47	力石(尾高:石田お堂)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	娯楽	不詳	尾高(石田地区)		石田のお堂前に、23貫1個、30貫2個、35貫1個残る。村の休日などに、若者が堂の前荒神さんの広場にある石を高く持ち上げてその回数を競った。
48	荒神のお参り(年間行事)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	～現代	尾高地区		荒神さんはスサノオノミコトを祀り、牛馬の守護神として農家が崇敬し、祠がある。月の28日が祭日。前日27日に、日本海に竹筒を持って塩水を汲み帰り、当日に、海水を荒神に供える。現在はお参りする人が少なくなった(昭和59年)。
49	平四郎の墓	未指定	記念物	史跡	墓	明治40年	尾高		自然石に「源光庵西福観音禪定門」と刻む碑。江戸中期、田畑、山林を村に寄付し諸国巡礼に出た者の墓碑。源光寺、西福寺、観音寺三寺の名を探る戒名。3寺交替で供養。享保11年岡成堤決壊後の元文3年に前市村を去り、岡山に移住との伝承(「尾高の里八」)。
50	ヤマモモ(岡成)	未指定	記念物	天然記念物	植物		岡成	個人	「とつとりの名木100選」。幹周り3.0m、樹高12m、樹齢推定300年。雌木で暗赤色の実がなる。庭の敷地を造成した後に現在の位置に植栽されたと思われる。海岸地帯に分布し、山陰地方には少ない。大樹は県内に珍しい。

県地区

No.	名称	指定等	区分			年代	所在地	所有者	概要
			分類1	分類2	分類3				
指定文化財									
1	高田家住宅附家相図	県	有形文化財	建造物	建造物	江戸中期	福万	個人	家相図1枚。豪農の家構えをよく伝えている。主屋は寛政期の建築と考えられる。寄棟造の茅葺屋根は軒下で1mの厚さ。大棟の直下に煙出しをもつ特徴的な屋根。主屋は鍵の手に「奥の間」のできている九間取形式。主屋を取り巻いて、長屋門、味噌蔵、衣裳蔵、離れなどの附属建物が整然と立ち並び、よく管理されている。
2	瑞仙寺文書	県	有形文化財	美術工芸品	古文書	中世(永享11年ほか)	日下	瑞仙寺	中世文書31通。寺への税を免除する旨の命令を書いた永享11年の「山名教之書下」以降、山名氏代々の文書のほか、尼子晴久、勝久の安堵状や杉原盛重寄進状などが伝わる。郷土の中世史(15世紀～17世紀)の一時期を凝縮させた古文書群。

2. 米子市歴史文化遺産リスト (地区別)

3	石州府1号墳	市	記念物	史跡	古墳	古墳時代	石州府	米子市	直径40m、高さ6mを誇る西伯耆最大級の円墳で、全長8.2mの巨大な横穴式石室を持つ。古墳時代後期の日野川右岸流域の有力者の墓。
未指定文化財									
1	瑞仙寺本堂	未指定	有形文化財	建造物	建造物	明治36年	日下	瑞仙寺	久坂山瑞仙寺。15世紀に山名教之により能登総持寺から竺翁仲仙が迎えられ、曹洞宗として再建したと伝える。富次精斎は、明治36年に瑞仙寺の本堂を再建した際の工匠の一人。本堂入口向拝の上の虹梁と木鼻の彫り物がある。「県(公民館50周年)」本堂再建、明治35年
2	瑞仙寺山門	未指定	有形文化財	建造物	建造物	昭和33年(改築)	日下	瑞仙寺	11世住職(宝暦12年遷化)の頃、大山寺にあった総赤門の山門を、当地の大庄屋福万村加藤氏が移築し寄進した(棟札)。昭和33年4月改築。寛政2年10月造立の不動明王像、毘沙門天が祀られる(回国満願のお札に勧請された)。
3	日下神社本殿	未指定	有形文化財	建造物	建造物	未調査	日下	日下神社	大社造変形 5尺x5尺4寸。創立年代不詳。寛文12年以降33枚の棟札残る。木造社殿未調査
4	御崎神社本殿(河岡)	未指定	有形文化財	建造物	建造物	平成3年	河岡	御崎神社	流造 1間四方。平成3年遷宮。創立年代不詳。元文2年の棟札あり。木造社殿未調査
5	北原神社本殿	未指定	有形文化財	建造物	建造物	明治29年	福万	北原神社	流造 5尺x4尺。明治29年建立。創立年代不詳。木造社殿未調査
6	妙本寺本堂	未指定	有形文化財	建造物	建造物	未調査	河岡	妙本寺	元の名は、妙春寺。開山日像上人(「県(公民館50周年)」マップ:大覚妙実聖人)により、正慶2年(「県(公民館50周年)」マップ:正慶3年)に開山。木造本堂未調査
7	妙本寺山門	未指定	有形文化財	建造物	建造物	未調査	河岡	妙本寺	富次精斎作の唐獅子・ボタンの彫物、臺股や木鼻がある。未調査
8	山神社の祠(日下神社)	未指定	有形文化財	建造物	建造物	明治12年	日下		祭神は、大山祇神で山の神を祀る。文化8年建立の棟札あり。明治12年造営。建物未調査
9	山崎喬家住宅	未指定	有形文化財	建造物	建造物	昭和5年(登記6年)	河岡		木造二階建て一部RC造り、入母屋造り、棧瓦葺(黒)。長屋門、土蔵。設計者田中隆。大所部は当初からRC造、半地下の倉庫有り。
10	高田允克家文書	未指定	有形文化財	美術工芸品	古文書	近世中期以降	福万	個人	村庄屋を数代務め、近世中期以後の村庄屋関係の文書を約100部近く保有し、近世の庄屋文書では、最もまとまったもの。地区に、「万日記覚書帳」が多いのが特徴。
11	天保大絵図(県地区)	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	天保13年・14年	河岡(県公民館)	県公民館	田畑地続全絵図(天保13年:会見郡石州府村、同14年:会見郡川岡村、日下村、福万・下河原両村)
12	日下村所有古文書	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	寛文4年ほか	日下		最古は寛文4年文書、藩政11通、県政23通、多数の下札(年貢の割当状)など。農協の金庫に所蔵されている。
13	記念時計(県村発足・役場庁舎落成)	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	明治23年	河岡	米子市(県公民館)	明治22年に日下・福万・石州府・河岡の4か村が合併し、県村が誕生した。同23年、村民有志20名が記念してアメリカ製の時計を寄贈。修理されて公民館で稼働している。
14	道標(日下)A	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	不詳	日下	個人	「右大せん道」。出雲方面からの大山詣りによく利用した道。
15	道標(日下)B	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	不詳	日下	個人	自然石の上部に指さす形を線彫りし、その下に刻字。「指の右指示絵 右大せん」
16	道標を兼ねた題目塔(妙本寺)	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	享保3年	河岡	妙本寺	御題目板碑。高さ2m以上。正面題目の右側「右大せん道前上加た道」、左側「左よなご道 後いなば道」。享保3年、石工泉州中谷清兵衛、四日市村(現福市)宗順日了建立。
17	常夜燈(河岡)	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	文政7年	河岡		文政7年造立の金毘羅大権現と智明大権現への献燈。火袋を欠く。
18	阪路改修記念碑(山道改修碑)	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	昭和13年	日下		阪(坂)の前の道は、ハラ山から薪や刈草を運び出すために利用度が高く、大山詣りの道でもあった。大八車や馬車が通行できるようになったのは、大正末期だった。その後、昭和20年代に改修されて勾配が緩くなり、さらに拡幅舗装された。
19	一石五輪(妙本寺)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	文禄期、慶長期	河岡		一石五輪は安土桃山期に畿内に多い。文禄、慶長の紀年銘もある貴重品である。
20	線彫り地蔵(石碑)(妙本寺)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	安永年間	河岡		安永年間の作である。
21	古鍛冶の供養塔(三界萬霊塔)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	宝暦10年	日下		宝暦10年に子孫の松本多佐衛門の建立。台座を含めて高さ150cmの石碑。『古鍛冶大原実森の子孫「松本三郎」という鍛冶が天正13年に瑞仙寺に釣鐘を奉納したこと』を刻む。
22	不動明王像(回国塔)(日下:瑞仙寺)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	寛政2年	日下	瑞仙寺	不動明王像、高さ(台座含む)203.5cm。「奉納大乘妙典日本回国」寛政2年。摂州(大阪)の回国行者3名が、回国中、当地周辺の村々が水害に遭ったことを聞き、災害の除去を願い、当寺15代住職とともに建立。台座に由来を刻む。
23	回国塔(上福万)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	明和4年	福万(上福万)		石塔、高さ(台座含む)149.0cm。「日本回国六十六部供養塔」明和4年、願主小原八左衛門、施主伯耆町金屋谷長昌寺。
24	回国塔(中福万)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	安永2年	福万(中福万)		自然石、高さ(台座含む)165.0cm。「奉納大乘妙典六十六部回国供養塔」安永2年、江戸京橋町の行者盛真の死を弔うため、施主当村茂平。
25	灯籠ほか境内石造物(日下神社)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	弘化3年ほか	日下	日下神社	灯籠2対(明和5年と文政5年)のほか、手水鉢(弘化3年)、狛犬(明和5年)、鳥居(昭和3年再建)など
26	関の明神さん(日下神社)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	日下		本殿後ろ「コガの木」の根元の注連縄を巻いた自然石(80x40x40cm)。美保関神社の方向を向き、「恵比寿さん」の選擇所と言われていた。
27	サイノカミ(日下神社)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	安政5年	日下		自然石(80x80x53cm)の中央を深く彫りこみ、肉厚の双体神立像を浮彫りにする。安政5年建立。
28	サイノカミ(河岡:御崎神社)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	慶応3年	河岡		双体像(並列立像、浮彫り)、大きな自然石(83x85x80cm)を薄く削り取、浮彫り。慶応3年。

2. 米子市歴史文化遺産リスト（地区別）

29	サイノカミ(下河原神社)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	福万(中福万)		自然石(68x65x50cm)がサイの神
30	サイノカミ(中原神社)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	石州府		双体像(猿田彦命・天鈿女命、並列立像、線彫り) 石碑サイズ(99x66x56cm)
31	サイノカミ(上福万)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	福万(上福万)		双体像(並列立像、線彫り)、石碑サイズ(73x130x55cm)
32	「頭屋」(牛の神を祀る行事)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	信仰	不詳	石州府		胸に抱えられるほどの小さな社に、牛の神様が祀られている。それを拝み囲んで住民が集い、くじで当たった当番が酒などを用意し、皆で食しながら、思いつきなどを語り、一時を過ごす。江戸時代前期に、当地に入植したころから続くという。当初は毎月、現在年2回。
33	ことまつり(日下)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	～現代	日下		3月16日。朝食時に家族全員が枯れすすきの端で食膳の上に物を一箸ずつ取り集め、藁苞に入れて庭木に吊るしておく。ゲゲス(鳥)にやるもので、ゲゲスが田畑を荒らさないようにするためという。
34	イノコサン(県地区)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	～現代	県地区		10月の亥の日。田畑を見巡っていた男神さんがこの日から家に帰られる。糶俵を2つ並べ置き、歳神さんの棚を載せて台として神膳を置く。神膳の箸は栗の枝の二つ割で新しく作る。イノコサンの晩には必ず餅を搗く。
35	日下鍛冶屋跡	未指定	記念物	史跡	その他経済生産活動に関する遺跡	江戸中期～後期	日下		伯耆鍛冶の元祖と伝えられる日下の鍛冶遺跡。個人宅竹林から、多数の砂鉄系鍛錬鍛冶滓のほか、木炭、ふいごの破り片など出土し、江戸時代中～後期には盛んに鍛冶が行われていたと判明した。鍛冶屋に関する地名がある。
36	福万原(大神山神社跡)	未指定	記念物	史跡	社寺跡	天正～慶長年間	福万		社地跡。大神山の神事(祭祀)の場を丸山(現在の狼谷または大神谷)に遷し大神山神社冬宮としたが、雪が深く狭いため、領主吉川氏の意向からか天正～慶長年間に福万原(福万山)に遷された。東西170～180間、南北300間の広さで、土囲い、仁王門や隋神門の礎石があったといわれる。
37	河岡城(川岡城・河岡陣小屋)跡	未指定	記念物	史跡	中世城館跡	戦国期	河岡		標高24m。比高0m。水田、境内。(遺構)不明。(城主)甲賀(河岡)山城守久貞。(文献)萩藩閩録、伯耆志。戦国時代の毛利氏の尼子氏との戦の重要拠点となった城で、毛利氏の戦略物資の集積・中継地だった。毛利家文書などから永禄9年(1566)頃まで存続し、その後尾高城に機能を吸収されたことがうかがえる。
38	日下城跡(真野隠岐守城跡・久坂城跡)	未指定	記念物	史跡	中世城館跡	不詳	日下		標高48m。(遺構)不明。(城主)真野隠岐守。(文献)伯耆志ほか。ほ場整備等により改変され、旧状を留めない。15世紀中に築城され、廃城したと伝える。「真野隠岐守城跡」は、ほ場整備した田の中に残る、7m四方のブロックで囲んだ小高い土盛り(平成30年ごろ)。
39	真野氏館跡	未指定	記念物	史跡	中世城館跡	15世紀	日下	瑞仙寺	標高57m。(遺構)土塁。一部損壊。瑞仙寺の周囲に土塁らしきものがある。(城主)真野隠岐守。(文献)伯耆志。15世紀中に築城され、廃城したと伝える。東西60間南北40間の方形区画が確認されている。
40	瑞仙寺庭園	未指定	記念物	名勝	庭園	不詳	日下	瑞仙寺	庫裏書院を視点場とする鑑賞式、回遊式池庭で、水は川から引く。中島など石の配置が大胆。主要部は良く保たれているが、昭和初期に位牌堂、平成25年の庫裏拡張により、庭園が狭まっている。上位の位牌堂からも鑑賞することができるよう工夫されている。
41	ムクノキ(妙本寺)	未指定	記念物	天然記念物	植物		河岡	妙本寺	「とつとりの名木100選」。幹周3.5m、樹高18m、樹齢不明。寺屋敷はこの一帯を治めていた河岡山城守久貞の土居の中にあり、広大な境内にイチヨウ、ツバキ、カリンなどの庭木や用材・薪炭材としてコガ、ムクノキ、ケヤキなど多くの樹種が植えられていたが、現存するものは少ない。
42	石州府崖地の植生とカジノキ林	未指定	記念物	天然記念物	植物		石州府		優れた植生。河岸段丘が残る崖地に、マダケの竹林が形成され、藪の中にケヤキ・クスギ・エノキなど古い巨木が点在。がけ下で野生状態にあるカジノキ林は貴重な群生地。
43	野本川の水生植物群落	未指定	記念物	天然記念物	植物		河岡		優れた植生。特記植物:オランダガラシ・オオカナダモ
44	上福万の湿原とアカマツ林	未指定	記念物	天然記念物	植物		福万(上福万)		優れた植生。特記植物:サギソウほか湿原植物・コブシ

米子市歴史文化遺産リスト(淀江)

淀江地区

No.	名称	指定等	区分			年代	所在地	所有者	概要
			分類1	分類2	分類3				
指定文化財									
1	鳥取藩台場跡(淀江台場跡)	国	記念物	史跡	政治に関する遺跡	江戸時代	淀江町今津	米子市	文久3年に、外国船の来襲に備えて築かれた砲台の跡。現在、長さ約65m、高さ約5mの土塁が残る。当時、六尾反射炉鑄造の大砲3門が備えられていた。土地提供者、設計者、守備する兵隊などすべてが、松波宏年(後:徹翁)をはじめとする地元淀江の人であることが特徴。
2	松南農兵隊関係遺品	市	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	江戸時代	淀江町西原	日吉神社・個人	胴よろいと陣太鼓が残る。松波家(後:松南、元:田中)は汗入郡の大庄屋をつとめた豪農で、松波徹翁は海岸防備のために私費を投じて、近辺の農民を組織化し農兵隊を結成。農兵隊は、淀江台場の築構と守備に大きな役割を果たし、軍事的に藩でも大きな存在であった。戊辰戦争の際も、政府軍として秋田方面に転戦した。
3	淀江傘製造技術	市	無形文化財	工芸技術		文政4年～現代	淀江町淀江	淀江傘伝承の会	文政4年が起り。明治期に飛躍的に発展し、大正時代に西日本一帯に出荷し(製造業者71軒、年間生産量17万本)、淀江を代表する産業となる。昭和26年ピークに衰退し、昭和59年に途絶。その後、淀江傘伝承の会で技術継承。
4	淀江さんこ節	市	民俗文化財	無形民俗文化財	民俗芸能	～現代	淀江町地域	淀江さんこ節保存会	安来節の元唄といわれ、七七七五調の歌詞で、三弦、太鼓、鳴り物の調べに合わせて歌われる。淀江町は江戸時代後期からの北前船による日本海沿岸、九州、京阪神との盛んに交流しており、九州や北陸から伝わってきた民謡と、淀江に古くから伝わる「さんこ節」が溶け合い、独特の節回しとリズム感あふれるものが生まれた。

2. 米子市歴史文化遺産リスト（地区別）

5	日吉神社神幸神事	市	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗慣習	寛永年間～現代	淀江町西原	日吉神社神幸神事保存会	毎年5月3日、春の例祭に行われる御幸神事(別名「ヨイマカセ」)。神社での神事後、山車、神輿を中心に、氏子約200人余りの行列が町内を練り歩く。行列の掛声が「エンヨーイヤナ」。人々の健康、安全、作物の豊作を祈って、寛永年間から360年以上伝えられてきた。西伯耆最大規模の御幸神事。
未指定文化財									
1	旧吹野合名会社醸造場	未指定	有形文化財	建造物	建造物	明治後期	淀江町淀江	個人	主屋・釜屋(木造一部二階建て・棧瓦葺)、醸造棟2棟(土蔵造二階建て・和小屋・切妻造・棧瓦葺)いずれも明治後期の建築。母屋は、富次精齋設計施工。現在屋内駐車場だが、窯場、醸造蔵は残る。
2	旧石原酒造所	未指定	有形文化財	建造物	建造物	明治25年	淀江町淀江	個人	主屋・現在の住居は、木造二階建て・切妻造・棧瓦葺。通りに面し、ミセとして利用した主屋と車庫に改造した町家、現在の住居が並び、奥に、造酒用の大規模な蔵(困蔵と仕込蔵)が立ち並び、主屋は明治期中規模な町家。一列型平面の家、数寄屋風の意匠を持つ。
3	日吉神社本殿	未指定	有形文化財	建造物	建造物	大正15年	淀江町西原	日吉神社	大社造変形 2間x3間、大正15年境内を拡張し、建立。(由緒)創立年代不詳。大永4年兵火により社殿、宝物類を消失し、隋神門に安置の木造神像1体は現存。同年社殿を造営し、近江の日吉大社より山王宮を勧請した。
4	精明寺本堂	未指定	有形文化財	建造物	建造物	大正3年	淀江町淀江	精明寺	もと壺瓶山麓にあり、元和2年、吹野惣左衛門が現地に精明寺として再興。明治24年金毘羅堂(大正11年新建)を残し本堂、山門、禅堂などを焼失後、逐次復興。明治2年鳥取藩の軍隊「新国隊」の宿陣地になる。木造本堂未調査
5	吉祥院本堂(淀江)	未指定	有形文化財	建造物	建造物	明治35年、36年	淀江町淀江	吉祥院	汗入山吉祥院。本堂(明治36年新築)、開山堂(明治35年新築)、妙見大士・最上稲荷合祀堂(昭和49年建立)。木造本堂未調査。
6	稲荷神社の社(淀江六区)	未指定	民俗文化財	建造物	建造物	未調査	淀江町淀江(淀江六区)	稲荷神社	小祠。古くから祀られていたが、寛政6年に、伏見稲荷を勧請。明治24年焼失、大正5年に日吉神社に合祀され、戦前に再び旧地に勧請された。
7	田山家住宅	未指定	有形文化財	建造物	建造物	大正3年	淀江町西原	個人	主屋、離れ、土蔵他の附属屋。主屋は二階建ての町屋造で間口6間、右側1間は路地。表側上手に道路に沿う板塀がたつ「仕舞屋」構え。淀江町の旧街道沿いの街並みの一軒、裏側が水路で船便にも利用されていた。
8	旧淀江小学校校舎	未指定	有形文化財	建造物	建造物	明治44年	淀江町淀江	米子市	教室4室のうち2室現存し、淀江傘の「和傘伝承館」として活用。明治44年竣工時、教室4室。
9	旧淀江町農協倉庫	未指定	有形文化財	建造物	建造物	明治45年頃	淀江町淀江		木造倉庫。
10	淀江大橋(宇田川)	未指定	有形文化財	建造物	建造物	昭和6年(改築)	淀江町西原・淀江		鋼鉄製・RC橋脚。昭和6年に改築された(年月日不詳)。淀江地域と西原地域を結ぶため、宇田川に架けられた橋(元禄年間には橋が架かっていた。)
11	今津橋(妻木川)	未指定	有形文化財	建造物	建造物	昭和9年	淀江町今津		昭和9年5月竣工の永久橋(鉄筋コンクリート造り)は、同年9月の洪水にびくともしなかった。昭和38年に現国道が新設されるまでは国道であった。欄干は改修。
12	日吉神社古文書(社領安堵状ほか)	未指定	有形文化財	美術工芸品	古文書	慶長6年ほか	淀江町西原	日吉神社	中村一忠の家老・横田内膳正村詮が発給した、慶長6年9月6日付け佐奈咩宮社領安堵状1点ほか免許状2点
13	日吉神社棟札	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	大永4年、慶長5年	淀江町西原	日吉神社	願主・旦那・神主・大工・宮奉行の名が記されている。慶長5年の願主は吉川元春で、2点とも「祈願所」とあり、戦国時代に武士たちの祈願所であったことがわかる。
14	常夜燈(日吉神社)	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	文政12年	淀江町西原	日吉神社	「大山智明権現、金毘羅大権現」と刻む、日吉神社の御神燈。もとは、五軒屋地区の西の入り口にあり、講の盛んな頃に村の守り神として寄進された。昭和59年に地元にて再建し、元の灯籠を神社に奉納。
15	常夜燈(今津橋付近)	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	天保5年、慶応3年	淀江町今津		自然石2基。3m近い高さ。「金毘羅大権現」(天保5年建立)と「秋葉大権現」(慶応3年)。
16	「新渠紀」碑	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	明治9年	淀江町今津		柄川彦右衛門氏の尽力によって開鑿された井手の顕彰碑。明和年間に稲吉川の水を引き瓶山の下を通って今津へ抜ける、田圃を潤す新井手(新渠)を開いた。碑は明治9年上淀村瓶山に建立、同45年今津に移設、昭和に現在地に再移設。
17	道標(淀江)	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	大正7年	淀江町淀江		「右石馬、左大山」と彫られた石標。大山道(坊領道)のうち、淀江宿から北尾を経由して長田(大山町)から坊領へ続く道沿いにある。
18	村田晋先生頌徳碑	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	昭和15年	淀江町淀江		幕末、大坂の華岡塾で蘭方医学を学び、帰郷後、明治初年に淀江に私塾「村田塾」を開き、教育の先駆者として知られる。淀江小学校初代以降を断続的に5回校長を務める。昭和15年に淀江小学校に頌徳碑が建つ(現淀江公民館前庭)。
19	「養良小学」の額	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	明治21年	淀江町西原	米子市(淀江小学校)	明治21年、芳川顕正内務次官が養老小学校に臨校した際、額を揮毫した。
20	川向の大地蔵(等身地蔵)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	明和6年	淀江町西原		明和6年に建立された、淀江町内随一の高い地蔵。基礎の高さ168cm、本体を合わせるとおよそ3.5m。孝霊山を背に、西に向かって立つ。台石に刻む由来から広範な地域の人々の思いが伝わる。
21	淀江山三十三番札所	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	慶応2年	淀江町西原		慶応2年造立、小型の出雲三十三番観音霊場。壺瓶山東麓(淀江小学校の横手の淀江山を中心)から精明寺に続く治道に石仏が設けられた。精明寺山門前に3体の観音石仏(1、2、33番)と石碑(由来記)を設置。札打ちは行われていない。
22	縄久利さん(淀江)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	明治33年以降	淀江町淀江		石の祠。牛馬の守護神で、牛市場(小字新地畑)に、島根県広瀬町東比田から勧請。淀江町から西の地方は、主として縄久利さんへお札をもらいに行く。山陰の縄久利信仰の東限点。牛市場の廃止などで、現在地に移転。
23	唐王さん(西原)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	明治33年	淀江町西原		石の小祠。蝮や毒虫から身を守る神様を、明治33年浜地区の人々が大山町の唐王神社から分霊。今も田植の終わったシロミテと一緒に、唐王さんの籠りをする(昭和54年頃)。
24	回国塔(東外が浜新墓地)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	安永6年	淀江町西原		石塔、高さ約93cm、正面の幅約30cm。石塔の頂きが方形造り、中央で尖る。「阿扶桑回国供養口」。安永6年に「浄土行者欣求」が建立。東外が浜新墓地は昭和37年に造成。

2. 米子市歴史文化遺産リスト (地区別)

25	七字題目塔(西原)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	宝永7年	淀江町西原		宝永7年建立、「南無法蓮華経」の題目を刻む、万霊供養塔。台石の上に立つ、厚さ32cm、幅77cm、高さ170cmの1枚岩。独特の書風(ヒゲ題目)が印象的。
26	地主さん(今津)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	淀江町今津	個人	3体。①畑の一隅に新しい「地主供養」の文字碑。横に五輪の空風輪が残る。②個人屋敷内にある。①②とも水神を祭る。③個人宅の庭にある。火輪、水輪が残る。
27	三界万霊塔(西原:五軒屋墓地入口)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	天保14年	淀江町西原		天保14年に建立。高さ90cmの自然石。ほかに安永5年に村中で建てた「法界含霊位」塔と六地藏もある。延宝年間に大垣地区から、五軒で開拓に来たという。
28	サイノカミ(淀江:吉祥院)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	淀江町淀江	吉祥院	双体像(並列立像、線彫り)、自然石(74x69x40cm)に刻む。
29	サイノカミ(淀江一区)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	淀江町淀江(淀江一区)		双体像(立像、線刻)、変形立石型自然石に円形彫込み。
30	サイノカミ(淀江二区)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	淀江町淀江(淀江二区)		4体。①双体像(座像、肉付け浮彫り)、駒型切石に駒形彫込み。②上に笠石、下に台石を付けた切石に、中央は半球状の全面が欠損して双体神の存在など不明。③双体像(立像、肉付け浮彫り)、変形駒型状自然石に四角彫込み。④双体像(立像、浮彫り線刻)、お結び三角型自然石の全面を削込み。
31	サイノカミ(淀江四区)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	淀江町淀江(淀江四区)		双体像(立像、浮彫り線刻)変形五角型の自然石に彫出し。「淀村」と書かれており、もとは、上淀村にあったという。サイノカミ祭りを戦後再開、自治会を中心に毎年2月の初め頃に行う。復活後、サイノカミをチョークで青と赤などに彩色。
32	サイノカミ(淀江五区)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	淀江町淀江(淀江五区)		双体像(立像、肉付け浮彫り)で青と赤に彩色、摩耗し、像の形を留めない。駒型切石に円形彫込み。
33	サイノカミ(淀江六区)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	淀江町淀江(淀江六区)		2体。①双体像(立像、浮彫り線刻)、不定形の角ばった自然石にやや駒型に彫込み。②双体像(立像、肉付け浮彫り)、もと半円型切石と思われ欠損あり、駒型彫込み。
34	サイノカミ(淀江七区)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	淀江町淀江(淀江七区)		双体像(立像、浮彫り線刻)、角ばった塊状自然石に社様駒型彫込み。
35	サイノカミ(淀江八区:馬頭観音横)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	淀江町淀江(淀江七区)		双体像。風化が著しくほとんど判別できない。
36	サイノカミ(淀江九区:淀江大橋横)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	淀江町西原(淀江九区)		双体像(立像、浮彫り線刻)、三角錐状で角ばった自然石に円型に彫込み。
37	サイノカミ(淀江九区:墓の下)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	淀江町西原(淀江九区)		社の中に、双体像(立像、浮彫り線刻)。角ばった三角型の自然石の前面を彫出し。
38	サイノカミ(淀江九区:公民館前)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	淀江町西原(淀江九区)		双体像(肉付け浮彫り)、駒自然石に四角に彫込み。
39	サイノカミ(淀江十区)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	淀江町西原(淀江十区)		2体。双体像(線刻)、三角錐状立石型自然石。田倉東町と彫られている。祭祀されていない。
40	サイノカミ(淀江十一区)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	淀江町西原(淀江十一区)		双体像(立像、線刻)、半円型に近い駒型自然石に屋根の形を彫り、方形彫込み。小波上村お刻まれている。
41	サイノカミ(今津:荒神社)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	淀江町今津		2体。①双体像(立像、肉付け浮彫り)、塊状の自然石に彫出し、一部線刻の社殿の中を四角く彫込み。②双体像(立像、線刻)、不定型自然石に円形の彫込み。
42	力石(今津)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	娯楽	昭和12年	淀江町今津		「精 昭和12年 200メ」と刻む。大きさ(53x33x30cm)。同地に精米所があったため、精の文字を彫る。12年に1度亥年に綱引きをし、夜荒神で相撲や目方石(力石)で力自慢をした。
43	くちなわさん(申上げ講)(西原)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	～現代	淀江町西原	農業実行組合	申し上げ(モシアゲ)のとき(11月下旬～12月上旬)、日吉神社東西の隣り合った地区で雌雄一対のクチナワを作り、日吉神社境内の荒神宮に供える際、神木モミジ(カエデ)に巻き付ける競争をする。浜地区はオスを、五軒屋地区はメスを作る。メスには、シンボルとして卵が二つ胴に入れられ、子宝に恵まれるようあやかる風習あり。
44	恵比寿さん祭り(淀江港)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	～現代	淀江町淀江		7月21日実施。恵比寿大明神の神前祈願祭の後、会場で盛大なパレードを挙げる。漁船およそ70艘(平成18年当時)。漁業従事者により古くから行われており、見物人も多く、賑やか。
45	御神灯(淀江:風呂屋小路)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	～現代	淀江町淀江		大山信仰として、今でも「下山大明神」の御神灯をとます。
46	大山詣り(西原)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	～現代	淀江町西原(浜地区)	農事実行組合	夏に「瓜大山」と称し白瓜、ウドン等夏の産物を、秋に「いも大山」と称し収穫した新芋類を持参して、大山の法雲院(お不動様)へ参っていた。平成15年頃に法雲院が閉じられて不動尊が宝物館(霊宝閣)に移されたため、現在、ここに参っている。
47	淀江小唄	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	歌謡	昭和11年	淀江町淀江		昭和11年、抒情詩人野口雨情が不老園に投宿し、淀江小唄を作る。作曲者:中山晋平と伝わる。
48	丸尾のおさん狐(淀江山)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	伝説	～現代	淀江町西原		上万の「おさい狐」、戸上の「藤内狐」とともに、地方三狐と称されていた。里に出て、「おさい」、「藤内」には小祠があるのにと所望し、精明寺境内に小祠が建てられた。鷲大明神とも言う。
49	佐奈咩(サナメ)塚(お経塚)	未指定	記念物	史跡	墳墓	不詳	淀江町西原	日吉神社	日吉神社境内丘陵にある方形墳墓。かつては佐奈咩宮と号し『三代実録』にも記される。末社天乃佐奈咩神社は小丘古墳(お経塚)に鎮座。古代の佐奈咩神の神跡として今も畏敬され、付近に佐奈咩田、佐奈咩池の名があり、由緒を秘めた歴史空間を形成している。
50	川向墓地	未指定	記念物	史跡	墳墓	元和8年ほか	淀江町西原		古い五輪塔をはじめ江戸初期以降の墓石が見られ、淀江の文化に貢献した人々の墓も多い。刻年号で最古は、吹野氏先祖の墓石で元和8年。文学的な墓石(辞世を刻む)3基や湯浅治郎兵衛、村田藤左衛門の墓などがある。
51	牛市場跡(淀江)	未指定	記念物	史跡	その他経済生産活動に関する遺跡	明治33年	淀江町淀江		明治4年に当初「中道」に作られたが一時休止。同33年建設、当地にセリ場、厩舎等敷地4800㎡で同35年に定期市も開かれ、盛況だった。市場統合により昭和42年廃止。
52	旧淀江小学校(旧養老小学校)跡	未指定	記念物	史跡	学校	明治16年	淀江町淀江	米子市	明治6年に精明寺に創立した淀江学校が、明治13年に養老小学校に改称。同16年6月、旧藩倉のあった場所に3階建ての新校舎完成。明治30年には再び小学校名を「淀江」に改称した。昭和46年、淀江小学校を現在地(西原)に移転した。

2. 米子市歴史文化遺産リスト (地区別)

53	淀江城跡(薬師山跡)	未指定	記念物	史跡	中世城館跡	不詳	淀江町淀江		現住宅地のため、遺構を確認できない。(城主)山名守行、谷若狭守、淀江福寿。(文献)日吉山王宮縁起など。南側に山陰道が通る平野部に位置。城があったことは唯一伝承によって知られる。駅前通りにかつてあった小高い山(薬師山跡)が城跡ともいわれる。
54	一里松跡(一里塚跡)(西原)	未指定	記念物	史跡	政治に関する遺跡	不詳	淀江町西原		かつて、道の両側に1本ずつ松が植えられ、「汗入郡淀江村西原分田畑地続全図(天保13年)」に記載されている。米子から2里、日吉津から1里の目印だった。
55	旧番所跡(壺瓶山登り口)	未指定	記念物	史跡	政治に関する遺跡	不詳	淀江町西原(小波との境)		古くからの伯耆往来(壺瓶山を越える道)の汗入郡と会見郡の境にあたり、小波浜から壺瓶山への登り口に番所があった。番所があったとされる場所の吹野家に、番所の木戸締の鍵(落し金)が伝わる。場所は、汗入郡に位置する。
56	船手番所跡(淀江)	未指定	記念物	史跡	政治に関する遺跡	文久3年	淀江町淀江		文久3年秋から、藩の船手番所が米子の深浦から移された。専用の着船場を持ち建物に役人が常駐して、明治初年までの短期間だが汗入郡の海事行政の中心だった。台場跡に近い八軒屋灘にあったといわれる。
57	柄川家屋敷跡	未指定	記念物	史跡	政治に関する遺跡	江戸期	淀江町淀江(淀江三区)		住宅跡碑が立つ。享保から天明期に、当年初代から3代は、初代(一世彦右衛門):日野、会見2郡の農民一揆(宝暦元年)を収め、2代(五兵衛):藩の淀江お蔵を建設、3代(二世彦右衛門):新井手を開墾して、宇田川平野の実りを豊かにした。
58	御蔵跡(淀江)	未指定	記念物	史跡	政治に関する遺跡	宝暦年間	淀江町淀江	米子市ほか	宝暦年間に、柄川五兵衛の尽力で設立。淀江周辺33ヶ所の年貢米を搬入。1500坪の敷地内に、倉庫5棟、量り小屋1棟、定番奉行住宅1棟、目付住宅1棟が建っていた。
59	松南翁屋敷跡	未指定	記念物	史跡	政治に関する遺跡	江戸期	淀江町今津		松波農兵衛生みの親、松波翁の屋敷跡。わずかに区画の一部を示す石垣のみ残る。慶応4年、松波農兵衛は、山陰道鎮撫使の護衛と戊辰の役に参加するために当屋敷から出発した。
60	血判場跡(西原)	未指定	記念物	史跡	政治に関する遺跡	寛文4年	淀江町西原		寛文4年から毎年郡奉行が出張して宗門改めをし、村人が異宗徒でないことを誓い血判を押しした場所。当初の米出場(字淀江)から移された。文久3年に淀江台場が築かれて以降、黒船の来襲に備えて近村の者の集結場所に指定された。
61	佐奈咩(サナメ)の泉	未指定	記念物	名勝	涌泉	不詳	淀江町西原	米子市	日吉神社に祀られている佐奈咩神に因む。巨木の根元から地下水が湧き出ている。
62	淀江町の町並	未指定	伝統的建造物群			明治・大正期	淀江町淀江		近世山陰道(伯耆往来)沿いの町並(淀江宿)を現代に伝える貴重な町並。「中道線」は、伯耆往来の海側にある通りで、安政年間から整備され市が立つてにぎわった。小路も多く、「お蔵小路」、「風呂屋小路」、「鹿島屋小路」などと呼ばれる。家並は明治24年大火後の姿。

宇田川地区

No.	名称	指定等	区分			年代	所在地	所有者	概要
			分類1	分類2	分類3				
指定文化財									
1	石馬	国重要文化財	有形文化財	美術工芸品	考古資料	古墳時代後期中頃～後半	淀江町福岡	天神垣神社	一石から全体を削り出した石製の馬。体長約150cm、高さ約90cm。石馬大明神として、古くから祀られてきた。石馬の前足は失われているが、鞍、手綱、鎧などの馬具が装着された状態を細かく写実的に表現。同じ石材を使用して作られた石人の下半身部分と考えられる石製品もある。
2	向山古墳群	国	記念物	史跡	古墳	古墳時代	淀江町福岡	米子市	5世紀後半から6世紀後半に造営。大型の前方後円墳を含む西伯耆を代表する古墳群。岩屋古墳～全長52.0mの前方後円墳。後円部に天井と各壁が一枚の巨石で作られた横穴式石室が開く。向山4号墳～古墳群で最大規模の全長64.5mの前方後円墳のほか、石馬谷古墳など。
3	上淀廃寺跡	国	記念物	史跡	社寺跡	飛鳥・奈良・平安時代	淀江町福岡	米子市、個人	「菩薩」、「神将」などの彩色壁画や塑像の破片を大量に出土。金堂内に、如来、菩薩などが安置され、周囲は彩色壁画で荘厳に飾られていたと考えられる。寺院の伽藍配置は、塔(中塔)の南北に2塔を配し、3塔が南北に並ぶ特異なもの。
4	妻木晩田遺跡	国	記念物	史跡	集落跡	弥生・古墳時代	淀江町福岡	鳥取県・米子市ほか	弥生時代後半を中心とする400棟以上の竪穴式住居跡及び500棟以上の墳墓などを確認。指定面積152ha。弥生時代後期の四隅突出型墳丘墓、同前半の環濠も発見。弥生時代の集落の全体の姿と集落構造の移り変わりを知ることができる貴重な遺跡。
5	絵画土器(角田遺跡出土)	県	有形文化財	美術工芸品	考古資料	弥生時代	淀江町福岡(上淀白鳳の丘展示館)	米子市	クビの部分に絵が描かれた、高さ約150cm、口の直径約50cmの大型の壺型土器。六重の同心円、鳥の羽をつけて舟をこぐ人物、2棟の建物、木にぶら下げられた物体、動物などが一周するように描かれている。
6	上淀廃寺跡出土壁画・塑像 附瓦・土器類	県	有形文化財	美術工芸品	考古資料	飛鳥・奈良時代	淀江町福岡(上淀白鳳の丘展示館)	米子市	発掘された約6000点の壁画、壁土のうち約1/4に彩色が認められ、「神将」、「菩薩」などのモチーフがある。塑像の破片により、金堂に本尊の如来座像ほかの安置が考えられる。また、「癸未年」の文字を刻んだ瓦が発見され、創建時の瓦と推定される瓦は、独特の文様を持つ。
7	井手挾3号墳出土埴輪一括	県	有形文化財	美術工芸品	考古資料	古墳時代	淀江町福岡(上淀白鳳の丘展示館)	米子市	古墳時代中期に築かれた円墳から出土。円筒形の埴輪のほか、家や人物、鹿、水鳥などの動物を模した多くの埴輪が出土。盾を持つ武人を表す埴輪4体。大きな盾に幾何学文様が表現され、2体は冠を被り、顔に入れ墨が彫られている。
8	上淀の八朔行事	市	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	～現代	淀江町福岡(上淀地区)	上淀自治会	旧暦の8月1日に、天神垣神社において稲わらで長さ50m以上の大蛇を編上げる。境内の荒神さん(ご神木の神に玉垣をめぐらした)を三周する。9月第1日曜日に、頭部は荒神さんの灯ろうに架け、路上で集落の上手と下手に分かれて、胴部を担いで綱引きをする。農作物の豊凶を占う。
9	石馬顕彰碑	市	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	明治36年	淀江町福岡	天神垣神社	石馬保存会により明治36年に天神垣神社境内に建立された石碑。径90cm之遠景で、表面に石馬の由来と覆屋建設の経緯について、足立正による撰文を刻む。裏面には、「石馬保存會寄付金人名」として、石馬の学術的価値を発見した坪井将吾郎を筆頭に48名の名前と金額を記す。

2. 米子市歴史文化遺産リスト (地区別)

10	上淀の八朔綱引き	国 記録選択	民俗文化財	無形民俗 文化財	風俗習慣	～現代	淀江町福岡 (上淀地区)	淀江町福岡	旧暦の8月1日に、天神垣神社において稲わらで長さ50m以上の大蛇を編上げる。境内の荒神さん(ご神木の榊に玉垣をめぐらした)を三周する。9月第1日曜日に、頭部は荒神さんの灯ろうに架け、路上で集落の上手と下手に分かれて、胴部を担いで綱引きをする。農作物の豊凶を占う。
未指定文化財									
1	宇田川神社本殿	未指定	有形文化財	建造物	建造物	未調査	淀江町中西尾	宇田川神社	大社造変形 8尺6寸四方。永正2年出雲国主尼子経久の武運長久を祈るために造営。天文18年米子城主古曳長門守永綱が再建し、永禄10年領主毛利輝元が祈願所として造営。木造社殿未調査
2	天神垣神社本殿	未指定	有形文化財	建造物	建造物	未調査	淀江町福岡	天神垣神社	大社造変形 6尺四方。天正13年、吉川元長により再興。木造社殿未調査
3	上津守神社本殿	未指定	有形文化財	建造物	建造物	未調査	淀江町稲吉	上津守神社	流造、1間四方。航海信仰の神社として知られ、豊臣秀吉の朝鮮出兵の際に、幣帛祈願があったと伝えられる。木造社殿未調査
4	武崎神社本殿	未指定	有形文化財	建造物	建造物	未調査	淀江町福岡	武崎神社	切妻造妻入、4尺四方。木造社殿未調査
5	本宮神社本殿	未指定	有形文化財	建造物	建造物	未調査	淀江町本宮		切妻造妻入、4尺四方。永正3年には社殿建立(棟札)。石の鳥居は弘化4年の建立。木造社殿未調査
6	周禅寺本堂	未指定	有形文化財	建造物	建造物	昭和期	淀江町稲吉	周禅寺	昭和期に再建。木造本堂未調査
7	毘沙門堂(高井谷)	未指定	有形文化財	建造物	建造物	大正12年	淀江町高井谷		2間四方の小堂。毘沙門天と薬師如来を祀る。弘法大師像もある。大正12年再建。当地では、1月3日の朝暗い中で毘沙門さんに詣り福を授かる風習がある。木造毘沙門堂未調査
8	観音堂(本宮)	未指定	有形文化財	建造物	建造物	未調査	淀江町本宮		2間四方の観音堂。観音信仰が残り、毎年7月17日に婦人たちが中心でお籠りをし、御馳走もいただく。札打ちの習慣が残る。木造観音堂未調査
9	泉家住宅	未指定	有形文化財	建造物	建造物	明治41年	淀江町西尾原		主屋(木造厨子二階建、切妻造、棧瓦葺(赤)、二階は大壁造)、長屋門、蔵。
10	森田家住宅	未指定	有形文化財	建造物	建造物	天保元年再建	淀江町中西尾		主屋(木造平屋建、切妻造、瓦葺、越屋根付)、路地門、茶室、土蔵2棟あり。増築されているが、再建当時の整形六間取の形式を残す。再建当初に茅葺屋根から瓦葺に変えたことが知られる。
11	宇田川神社棟札	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	永正13年、天文18年ほか	淀江町中西尾		永正13年の棟札:永正年間の伯耆国内の動乱により、同社殿が破損したことや在地土豪の家督相続などがわかる。天文18年:古曳永綱が本願主と示す。大永4年の棟札もある。
12	天神垣神社棟札	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	天正13年	淀江町福岡		天正13年、吉川元長が願主となり武運長久を願って同社を再建したことを示す。棟札銘は、内容を簡略化して後年に記されたと考えられる。「宇田川村史」(1912年刊)掲載の銘文では「合戦により神社が焼失したための再建」とし、裏面に神像が描かれていたとある。「板天神」とも呼ぶ(淀江風土記)。
13	生田春月文学碑(故郷の唄)	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	昭和49年	淀江町福岡	米子市	淀江の街並を懐かしく綴る詩「故郷の唄」の第2節を刻む。昭和49年5月19日の命日に除幕式(淀江中央公民館前)。デザイン:入江甲。
14	一字一石塔(富繁城跡)	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	天明3年	淀江町富繁		安永2年「戸構」から「富繁」に改名した10年後の天明3年に建立。側面に、命名した医師・福島翫水の「富繁の文字に叶えよ若緑」の句を彫り、句碑でもある。天明の飢饉の苦しさを乗り越える、村民の繁栄の願いが込められている。
15	昭和用水之碑	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	昭和30年	淀江町福岡		昭和用水完成記念碑。昭和14年の大干ばつを憂慮し、満4年の歳月をかけて昭和19年4月完成。食料増産の基礎を築く。用水路延長約4km。
16	天井川改修記念碑	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	昭和36年	淀江町稲吉		昭和9年9月の大水害により堤防が決壊し、農地の被害は甚大だったため、改修。同11年起工、同28年に約2000mの改修を完了した。裏面に秀徳(森田虎蔵)の歌を刻む。
17	道標(北尾)	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	不詳	淀江町福岡		「右石馬、左北尾」と彫られた石標。大山道(坊領道)のうち、淀江宿から北尾を経由して長田(大山町)から坊領へ続く道沿いにある。県調査報告書では、「新しい」と記述されている。
18	逆修(ぎゃくしゅ)さん(上淀)	未指定	民俗文化財	有形民俗 文化財	信仰	不詳	淀江町福岡 (上淀地区)		伝福頼左衛門の墓碑。生前に逆(あらかじ)め死後の冥福を修めるために建てた供養塔(逆修塔)と伝える。総高93cmの来待石製、基礎から相輪まで完全に揃う。
19	宝篋印塔(福平)	未指定	民俗文化財	有形民俗 文化財	信仰	不詳	淀江町福平		石厨子(宝殿)の中に3基。福頼左衛門の墓碑と伝わる、逆修塔である。150年前は邸宅跡があり土塁もあったというが今はない。
20	宝篋印塔・五輪塔(稲吉)	未指定	民俗文化財	有形民俗 文化財	信仰	不詳	淀江町稲吉		現在の配置は新しいものだが、野口家に関するもので、当地における中世からの存続を伝えるもの。五輪塔14基、宝篋印塔6基のうち4基はほとんど原形に近い。
21	役の行者像ほか石造物(周禅寺墓地)	未指定	民俗文化財	有形民俗 文化財	信仰	享和3年、寛延元年、享保7年	淀江町稲吉	周禅寺	①役の行者像(高さ約60cm)。台石に享和3年、先達ほか講中の名を刻んでおり、江戸時代に、大峰信仰が盛んであったことがわかる。②三界万霊塔:享保7年建立。台石に菩提を弔った五輪を使う。③六地藏:寛延元年建立、施主の名を刻む。
22	「山の神」の石殿(高麗山)	未指定	民俗文化財	有形民俗 文化財	信仰	慶応3年	淀江町宇田川地区(稲吉)		明和4年に石碑、慶応3年に石殿(小祠)を建てた(棟札)。斜面に石垣を築き平地を作り、二抱えもある常緑の巨木の下に、山で働く人たちの守護神を祀る。稲吉から登る。境内は約5反歩(4.950㎡)、社叢には、ムクノキ、サカキ等の大木と自然林・巨石がたくさんある。沿岸の漁師の信仰が厚かった。
23	回国塔(上淀)	未指定	民俗文化財	有形民俗 文化財	信仰	宝暦10年	淀江町福岡 (上淀地区)		自然石、高さ(台座含む)191.0cm。「奉納大乘妙典六十六部扶桑回国供養塔」宝暦10年、行者治良兵衛が建立。この区画は「法界さん」と呼ばれ、回国塔のほか名号塔、三界万霊塔、鶴都墓がある。
24	回国塔(北尾墓地)	未指定	民俗文化財	有形民俗 文化財	信仰	明和8年、天明5年	淀江町福岡 (北尾地区)		2基。①石塔、高さ(台座含む)116.0cm:「扶桑回国供養塔」明和8年、北尾の行者田牧権三郎が建立。②石塔、高さ(台座含む)155.0cm:「日本回国塔」天明5年、当村の行者田中定四郎が建立。

2. 米子市歴史文化遺産リスト（地区別）

25	三界万霊塔(福井)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	延享5年	淀江町福井		高さ約1mの自然石。延享5年に田井村を福井村に改名した。改名を記念した諸霊の供養塔。
26	名号塔(西尾原)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	享保19年	淀江町西尾原		享保19年建立、淀江町内で最も古い名号塔。高さ150cmの大石。「南無阿弥陀仏」の6文字を刻む。
27	サイノカミ(天神垣神社)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	淀江町福岡(上淀地区)		双体像(立像、肉付け浮彫り)、ややおむすび型に近い駒型自然石に駒型彫込み。
28	サイノカミ(北尾・阿弥陀堂)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	淀江町福岡(北尾地区)		双体像(立像、劇画風線刻)、不定形自然石に円型彫込み。伏見小路中と刻字。
29	サイノカミ(本宮神社)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	万延元年	淀江町本宮	本宮神社	双体像(立像、肉付け浮彫り)、卵円型の自然石に立石状にして、社の屋根、しめ縄を簡単に線刻し、その下に円方形彫込み。万延元年と刻字。
30	サイノカミ(上津守神社)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	淀江町稲吉		双体像(立像、肉付け浮彫り)、変形大径台形の自然石に円型彫込み。
31	サイノカミ(湯口の泉)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	淀江町稲吉		4体。①双体像(立像、肉付け浮彫り)、駒型切石に駒型彫込み。②双体像(立像、浮彫り)、変形駒形風の自然石に駒型彫込み。③双体像(立像、肉付け浮彫り)、四角型切石に円型彫込み。④双体像(猿田彦命・天鈿女命、立像)、不定形の角ばった自然石に社殿風線刻の下に円型彫込み。
32	サイノカミ(稲吉道端)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	慶応3年	淀江町稲吉	個人	2体。①双体像(立像、肉付け浮彫り)、駒型切石に駒型彫込み。欠損摩耗甚だしい。②双体像(立像、線刻)、三角おむすび型に近い駒型自然石に駒型彫込み。慶応3年と刻字、村名は削られて不明。
33	サイノカミ(高井谷)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	淀江町高井谷	集落	双体像。持ち回りのサイノカミ。良縁を願って、未婚の男女の家の前にサイノカミを持って行き、婚約が決まると次の家に持ち運ばれる。
34	サイノカミ(真名井の泉)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	元治元年	淀江町高井谷		2体。①双体像(檀に立つ並立立像、浮彫り)、自然石(47x88x20cm)の中に円形の彫りこみ。元治元年。②双体像(並立立像、線彫りで浮彫り)、自然石(95x67x60cm)の中に円形の彫りこみ。
35	サイノカミ(富繁公民館)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	淀江町富繁		「幸神」の文字と双体像(立像、線刻)、下に「富」の字の線刻。ほぼ三角錐状の自然石に円型彫込み。
36	サイノカミ(富繁・個人宅)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	淀江町富繁	個人	双体像(並立立像、線彫り)、自然石(52x53x32cm)。
37	サイノカミ(中西尾公民館)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	淀江町中西尾		双体像(立像、劇画風線刻)、大きな三角錐状の自然石に円型彫込み。
38	サイノカミ(福平荒神社)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	淀江町福平	福平荒神社	4体。福頼地区:2体①双体像(立像、半丸彫りに浮彫り)、四角型の角切石を四角に彫込み。②双体神線刻立像(一部欠損)、もと変形三角型自然石。平岡地区:2体①双体像(立像、半丸彫りに浮彫り)、四角型の角切石を四角に彫込み。②併行する双体神線刻立像、半円錐状の自然石。
39	サイノカミ(西尾原荒神社)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	淀江町西尾原	西尾原荒神社	6体。①双体像(立像、肉付け浮彫り)、半円立石型の自然石に、彫出し一部線刻の社殿の中を駒型に深く彫込み。②双体像(内裏雛様の立像、肉付け浮彫り)、駒型自然石に彫出し浮彫り社殿の中にある。邑中と書かれ村名は消えている。④双体像(立像、劇画風線彫り)、不定形の自然石(79x62x40cm)の正面を整えて神の屋根のみを線彫り。その他2体(双体神立像(削り出し):双体神座像(肉付け浮彫り))。
40	サイノカミ(福井)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	淀江町福井	個人	双体像(猿田彦命・天鈿女命、立像)、自然石に線刻の屋根の下に刻む。石壁(石垣)の中に封じ込められている。
41	クチナワさん(中西尾)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	不詳	淀江町中西尾	宇田川神社	社殿後方に、城主の姫を祀る姫宮があり、荒神も祀る。荒神の祭りは当地方稀にみる盛大なもの。旧暦の閏年2月、各家から糞を持って集落中で大きなクチナワさん(菌・目を付ける)を作り、担いで中西尾の集落を一軒ずつ回り、最後に荒神の前に供える。
42	クチナワさん(富繁)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	不詳	淀江町富繁		閏年2月1日に作る。富繁城に関係あると思われる霊と同時に村を守護する八幡さんに、くちなわを奉納する行事。現在は、公民館前の青木に祀る。頭部・胴部・男根部それぞれに分担して製作。各戸を清めて回り、最後に青木に巻き付ける。
43	クチナワさん(福井)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	不詳	淀江町福井		閏年2月に、わらで男(オス)の大蛇を作って荒神社の社殿(壺瓶山中腹)の大木に懸けて奉納する。
44	水神さん(高井谷)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	不詳	淀江町高井谷		①湧水池「天の真名井」(「堂の前川」とも)手前と、②村中を流れる用水路(殿前川)とに御幣を飾って、清らかな水を神として祀り、汚さないようにする。正月に御幣を飾って祀る。
45	縄久利講(宇田川)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	不詳	淀江町高井谷、中西尾		高井谷:「縄久利宮」と呼ぶ小祠があり、くじで巡回する。4月24日に公民館に集まり、祀る。中西尾:4月24日、本社にお参りし、笹を持ち帰り、牛に食べさせる。
46	石馬の伝説	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	伝説	～現代	淀江町福岡		福頼左衛門の乗り馬の形をかたどったもの。など
47	田井の沼(かま)の伝説	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	伝説	～現代	淀江町福井		かつて周囲一帯は沼地で「底なしの沼」といわれた。底は、①壺瓶山の下をくぐって北端の岩の鼻の池に通じている。②小波の塩川に通じている。③孝霊山の中腹にあるくぼみ「アナガタワ」にも通じている。などの伝承が残る。
48	富繁城跡	未指定	記念物	史跡	中世城館跡	不詳	淀江町富繁		標高30m。(遺構)土塁、堀切、一部損壊。(城主)山名澄之、(文献)伯耆志ほか。低丘陵上に南北方向に連なる廓が3箇所。現在は、一部畑になるなど残存状況は悪い。
49	北尾城跡	未指定	記念物	史跡	中世城館跡	不詳	淀江町福岡(北尾地区)		標高118.3m、比高84m。(遺構)廓、堀切。保存状態良好。(城主)福頼左衛門、福頼藤兵衛、行次郎四郎。(文献)萩藩閩閩録ほか。伯州香原山合戦(陰徳太平記)で、天正13年7月福頼藤兵衛の守備していた城(香原山城)と推察される。山頂部に造られた郭群は、ほぼ南北方向に広がり、主郭南側には長径約50mにも及ぶ長方形の郭を配置。
50	稲吉城跡	未指定	記念物	史跡	中世城館跡	不詳	淀江町稲吉		標高56.9m。現状山林。(遺構)不明。(城主)稲井頼五郎三郎弘義、(文献)名和紀事など。北西約1kmに山陰道を望む丘陵部に位置する。付近に古墳もあり、城の一部として利用されたことも想像できる。

2. 米子市歴史文化遺産リスト (地区別)

51	寺内城跡	未指定	記念物	史跡	中世城館跡	不詳	淀江町福岡		標高24.6m。現状公園。(遺構)廊。保存状態良好。(文献)萩藩閩閩録。北西約1kmの丘陵上に位置。湿地帯に囲まれた丘陵として、重要視された。北東方向に郭が3か所、主廓の南東側には腰郭が2か所。また、場内に古墳が3基。この古墳による地形を利用した城と考えられる。
52	福頼城跡	未指定	記念物	史跡	中世城館跡	不詳	淀江町福頼		土豪福頼氏と深く結びつくと推察される。
53	幻の庖炊所跡(子号演習)	未指定	記念物	史跡	戦跡	昭和20年	淀江町宇田川地区		昭和20年の子号演習により、中西尾山中腹に掘られた壕。米軍の侵攻に供えて、山腹で生活するため、昔からの水飲み場を大改良して昼夜炊事が可能となるよう計画された。600m離れた中西尾村から電気を送り、井戸もかなり掘り進めて終戦となった。
54	条里制の跡(宇田川平野)	未指定	記念物	史跡	政治に関する遺跡	古代	淀江町宇田川地区		条境、里境として区画された道と考えられるものが今も一部残り、町境、大字境として生きている。向山の南東(福岡)に、「市の坪」の古字名がある。古代山陰道は、平野部では条里線を通っていたと推定される。
55	湯口(ユグイ)の泉	未指定	記念物	名勝	湧泉	不詳	淀江町稲吉		流れ込む泉の水源が「湯口の泉」と呼ばれ、隣接する民家の裏庭のワサビ田から湧き出ている。清浄な湧水で水場に梅花藻(バイカモ)が群生。夏に白い小さな花を咲かせ、水中を漂う。集落では牛の洗場など生活に使用されていた。
56	本宮の泉(湧泉・クリハラン)	未指定	記念物	名勝	湧泉植物	不詳	淀江町本宮		①県指定の因伯の名水50選。日量3万立方メートルが湧き出るといわれ、県内でも随一の湧水量を誇る。本宮の泉の水源近くに②クリハランが自生する群落があり、西部ではこのみの貴重なもの。
57	天の真名井(湧泉・カシの木)	未指定	記念物	名勝	湧泉植物	不詳	淀江町高井谷		①環境庁指定名水100選(昭和60年)。日量2,500㎡の湧水を誇る、山陰を代表する名水の一つ。「天の真名井」の呼称は、古事記や日本書紀に神々が誕生する際に使われた清冽な水として記され、湧水の中でも最高位の敬称。②カシの木は、淀江町の名木で、神聖な木として植えられている。
58	大蓋(おおふた)原の梨畑(孝霊山)	未指定	記念物	天然記念物	植物		淀江町稲吉		明治41年に、県西部で最初に梨栽培をした。鳥取県の二十世紀梨の歴史上、特筆すべき事項。宇田川地区は、孝霊山麓の標高130m~240mの台地で梨栽培が盛ん。
59	シイの木(天神垣神社)	未指定	記念物	天然記念物	植物		淀江町福岡		裏山の「荒神さん」付近に生い茂るシイの大木は、淀江の名木である。
60	コガの木(西尾原の守り木)	未指定	記念物	天然記念物	植物		淀江町西尾原		守り木として、共同墓地にあり、この下に、相撲取りの墓がある。
61	ゴブ(北尾)	未指定	記念物	天然記念物	植物		淀江町福岡(北尾地区)		つる性常緑低木「つるぐみ」の木。見上げる高さの松の枝に巧妙に垂れ下がる。胸高直径約12cm、根元近くは空洞ができる。開花、結実の頃はみごと。

大和地区

No.	名称	指定等	区分			年代	所在地	所有者	概要
			分類1	分類2	分類3				
指定文化財									
1	石像、亀甲神社の道祖神神体	市	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	江戸期~現代	淀江町中間(亀甲地区)	亀甲神社	道祖神は、幸福の神、塞神、同陸神ともいわれる民間信仰で、西伯爺では「サイの神さん」と呼び、良縁や子どもの成長を祈願する神様として親しまれている。自然石に男女の神様を刻んだ御神体が多い。当境内には、男女の神様を浮彫りや線彫りしたものをはじめ、和歌を刻んだものや男根状のものなど9体が指定を受ける。米子市内で一番数が多く、種類も豊富。
未指定文化財									
1	三輪神社本殿	未指定	有形文化財	建造物	建造物	未調査	淀江町小波	三輪神社	大社造変形、1間四方。(由緒)「三代実録」貞観15年12月の条に従5位下の神階を受けると記載された国史現在社。社伝によれば、崇神天皇の御代に大和国大神神社の分霊を勧請した。元の三輪神社は三輪山の丘陵に鎮座して、社殿が建ち並び、三重の塔を持つ神宮寺であったとされる。中古には、東は阿弥陀川より西は日野川に至る51ヶ村の総氏神であった。正保2年に現在地に奉遷。木造社殿未調査
2	中間神社本殿	未指定	有形文化財	建造物	建造物	未調査	淀江町中間	中間神社	(本殿)~大社造変形、1間四方。(祭神)須佐之男命、綿津見命、事代主命。(由緒)創立年代不詳。古来、素戔嗚尊は三宝荒神、綿津見命は龍王権現、事代主神は恵美寿神と称し、ともに中間の産土神であった。中間地区の氏神。木造社殿未調査
3	佐陀神社本殿	未指定	有形文化財	建造物	建造物	未調査	淀江町佐陀	佐陀神社	大社造変形 2間四方。(由緒)創立年代不詳。日野郡楽々福神社旧記に、孝霊天皇との所縁を記す。木造社殿未調査
4	亀甲神社本殿	未指定	有形文化財	建造物	建造物	未調査	淀江町中間	亀甲神社	流造、半間四方。(由緒)創立年代不詳。往古は神木をもって荒神宮と称した。大神山神社の撰社。明治元年に廃社後、同12年に再興し亀甲神社と改称。木造社殿未調査
5	浄福寺本堂	未指定	有形文化財	建造物	建造物	19世紀中期	淀江町小波	浄福寺	桁行16.13m、梁間12.22m・入母屋造・向拝一間・南側面および背面庇・棧瓦葺。寛文6年創建。平面形式は典型的な浄土真宗のもの。本堂建設工事関係文書を所蔵。本堂などは開壇以来3度改築。木造本堂未調査
6	小波行者堂(龍王講第4号分社)	未指定	有形文化財	建造物	建造物	未調査	淀江町小波(小波浜地区)	個人	間口15尺、奥行27尺、妻入り庇付きの木造建物。明治16年開設、真言宗大峰山龍泉寺が本社、役行者などを祀る。木造行者堂未調査
7	塩川の観音堂(小波のお堂)	未指定	有形文化財	建造物	建造物	大正9年(昭和30年改築)	淀江町小波		大正9年新築、昭和30年改築。木造観音堂未調査
8	林原寛家住宅	未指定	有形文化財	建造物	建造物	明治38年	淀江町小波	個人	木造平屋建、切妻造、棧瓦葺(黒)。内部は玄関を除き、当初の様子と比較的残されている。指物が多用され、漆喰型の間取を示す。土蔵1棟。
9	関誠司家住宅	未指定	有形文化財	建造物	建造物	不詳	淀江町中間	個人	木造二階建、寄棟造、茅葺(金属板葺)。長屋門とともに、外壁の大部分は漆喰で塗り込め、腰板張、扱首構造。長屋門、土蔵1棟。
10	村上家住宅	未指定	有形文化財	建造物	建造物	江戸末期	淀江町中間	個人	木造平屋建、寄棟造、茅葺。
11	松井快之家住宅	未指定	有形文化財	建造物	建造物	不詳	淀江町佐陀	個人	佐陀地区の松井家は、大庄屋を務めていた。

2. 米子市歴史文化遺産リスト (地区別)

12	木造狛犬(三輪神社)	未指定	有形文化財	美術工芸品	彫刻	鎌倉～室町	淀江町小波	三輪神社	畔形:高さ63.0cm、幅30.5cm、奥行44.5cm。阿形:高さ63.5cm、幅30.5cm、奥行38.0cm。いずれも、一木造りで、前足はしっかりと地面につき座し、上向きに伸びる体躯、胸部は張りを持ち躍動的、腰回りの絞りはしっかりとしている。ともに、風化が激しく、顔面の残りがよくない。
13	三輪神社棟札	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	中世(永正15年ほか)	淀江町小波	三輪神社	近世まで「三輪大明神」と称した。永正15年のものは、山名弥次郎幸松が「当社大破」により建立したとし、当時の西伯耆の動乱を示す。本願主として、淀江周辺の有力国人村上氏一族と考えられる名が見えるものもある。
14	道標(小波浜)	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	不詳	淀江町小波		因幡街道(因幡往来)と日野往来の分岐道標。自然石に正面「右よなこ道 左ひの道」、左側面に「豊吉」と刻む。高さ63cmのうち、下部は埋もれている。江戸期(元禄期以降)の日野往来の起点。
15	道標(現:大和公民館)	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	天保5年	淀江町中間	米子市	全長102cm、28cm角の石柱(花崗岩)、「右よなこ 左ひのミ」。天保5年再立。伯耆街道と日野往来の分岐点に位置し、当初、小波小字東浜畑にあった。明治期に中間新道の分岐点に移され、さらに淀江岸本線工事等で大和公民館に移設。
16	佐陀地区の常夜燈(現大和公民館)	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	文政4年	淀江町中間		「金毘羅大権現」と刻む大型。佐陀集落の東側入口、十字路角(淀江町農協佐陀支所の傍)にあったものを道路拡張のため、昭和56年頃に移す。
17	常夜燈(三輪神社)	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	文政11年	淀江町小波	三輪神社	3面に「金毘羅大権現」、「大山智明大権現」、「出雲大社」と刻字する。小波小字上前田の旧日野往来の道端にあった石灯籠。ここから、中間小字浜田の下で米子往来に通ずる里道があり、道標の役割も果たした。神名を刻む淀江地方の石造物の代表。
18	常夜燈(中間)	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	天保3年	淀江町中間		金毘羅大権現を祭る大きな石灯籠
19	師匠日野嘉重之塔	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	明治31年	淀江町佐陀		佐陀村最初の寺子屋を開かれた先生。明治6年に大和小学校開設の際、同氏宅を仮校舎とした。明治31年に門弟が建てる。
20	忠魂碑(もと亀甲新道)	未指定	有形文化財	美術工芸品	歴史資料	大正5年	淀江町中間		当初亀甲新道に建立し、昭和49年現地に移転。
21	境目地藏(塩川)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	天保7年	淀江町小波(小波浜地区)		汗入・会見の郡境の岩の上に立てられていた地藏。台石・蓮座の上に立つ高さ111cmの石像。天保7年に、小波、淀江の両村により建立。台石に由来を刻む。平成8年基礎(波たたき石)に立ったまま、馬頭観音とともに5mほど移動。
22	馬頭観音(塩川)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	弘化5年	淀江町小波(小波浜地区)		三面八臂牛馬の馬頭観音石像。高さ65cm。かつては三面の彫りが美しかったが、今は二面が剥脱して正面のみ残る。弘化5年、淀江宿の馬方たちが馬の安全と供養を祈って祀った。宿場町として栄えた淀江の面影を偲ぶ。
23	回国塔(六十六部供養塔)(中間)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	文化元年	淀江町中間		自然石、高さ(台座含む)169.0cm。「奉納大乘妙典六十六部日本回国」文化元年、豊後国の行者が途中で死亡し、村中で建立。
24	大峰三十三度供養塔(中間)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	明治28年	淀江町中間		開設者の遠藤卯平と小友次郎は、明治期以降県西部の大峰信仰に大きな影響力を与えた。淀江地方から旧岸本町辺りに分布する大峰登山供養塔の大部分に、父子の名を刻む。
25	伝小波城由来の宝篋印塔・五輪塔	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	淀江町小波(小波上地区)	三輪神社	薬師堂の傍らに小波城跡付近出土と推定される、宝篋印塔、五輪塔などの集積。
26	原田の唐仏(トーボトケ)・五輪塔群	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	淀江町小波(小波上地区)		竹藪の中、8m四方の小高い場所にある自然石の碑。高さ1.3m。元弘3年の小波城合戦で城主の子が戦死した場所とも伝わる。南側にコガの巨木が茂り、周囲には、宝篋印塔の笠2基、五輪の部分32基が円を描くよう並ぶ。
27	的場の白衣観音(的場五輪)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	元弘ごろ	淀江町小波(小波上地区)		高さ78cmの五輪1基。ただし、火輪は、宝篋印塔の一部が代用。元弘の頃、小波城の付近で弓馬など訓練中に落命した勇士を供養したという。昭和54年、地元により小祠を建立し、案内柱立つ。
28	小波山(坪上山)三十三番札所	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	文久2年	淀江町小波(小波浜地区)		文久2年に、小波区として壺瓶山西麓に石仏が設けられた。小型の西国三十三観音札所。現在、5月5日に小波浜自治会の行事で札打ちが行われ、子ども会も加わる。石仏の寄進者は八幡村・三村辺りまで広範囲。1番札所:小波墓地入口の堂の前～33番札所小波塩川の観音堂の前。
29	心字池の十字架紋(心字が池)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	淀江町中間	個人	「心」の字をかたどった池の底にある長方形の魚道に見える穴で、切支丹灯籠の竿にことよせ、左右に袖があり、十字架を象徴した形となる。長さ2.7cm、幅50～70cm、深さ60cm。
30	毘沙門天像(小波浜)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	淀江町小波(小波浜地区)		福神として祀る。村落で大岩を二つ割にしてサイノカミを作った。その片方を台石として毘沙門天を祀った。
31	サイノカミ(三輪神社)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	淀江町小波(小波上地区)	三輪神社	4体。①自然石で大きな変形海石で「波たたき石」という。②双体像(立像、肉付け浮彫り)、変形駒型自然石に変形駒型社風彫込み。③双体像(立像、肉付け浮彫り)、駒型切石に宝珠型彫込み。④加工舟型の女陰石で、台は角切石が使われる。
32	サイノカミ(中間公民館前)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	天保6年	淀江町中間		2体。①双体像(立像、肉付け浮彫り)、不定形立石型の自然石にやや方型の彫込み。天保6年建立。②自然石。表面を削ったのみで、線刻は認めがたい。
33	サイノカミ(佐陀神社)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	淀江町佐陀	佐陀神社	長い四角型石柱に「二柱神、村中、松井惣」と刻字。寛政8年の神社改帳によれば、小祠があったと思われる。
34	サイノカミ(小波浜公民館前)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	明治32年、34	淀江町小波(小波浜地区)		3体。①双体像(並立立像、浮彫り)、自然石(33・5x44x29cm)を神殿型に整え、天幕を線彫りと浮彫り。②双体像(猿田彦命・天鈿女命、並立立像、浮彫り)、大きな自然石(100x115x82cm)の中央に神殿、懸魚、注連縄を置く。明治32年。③双体像(並立立像、線彫り)、自然石(44x55x37cm)の表面を整える。明治34年。
35	「四季発句集」奉納額(中間庚申堂)	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	娯楽	明治4年、5年	淀江町中間		明治初期の淀江の俳人国頭祖文(求古堂)選の「四季発句集」の奉納額(明治4年・5年)があり、夜を徹した句会の盛況と、庚申参りの民俗を伝える。
36	サイノカミダマ(サイノカミ峠)の石積み(壺瓶山)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	～現代	淀江町小波(小波浜地区)		壺瓶山山中にある古道(汗入と会見の郡境)の峠に、おおよそ直径20mばかりの範囲に累々と形の良い自然石(丸い小石)が積み上げられている。未婚の男女は、自分が望む相手の顔に似た小石をサイノカミに供えて縁結びを祈る風習がある。

2. 米子市歴史文化遺産リスト（地区別）

37	塩川さん(行事)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	～現代	淀江町小波		7月27日、過去1年間に亡くなられた新仏の施餓鬼供養と流れ瀧頂を行い、夜10時に、船に精霊を移し塩川(しおかわ、又は、しょうがわ)に流す。元禄の頃から続く行事。近郷近在から縁者の人たちがより集い、今もにぎわう。「塩川(しょうがわ)大祭」ともいう。
38	小波の七不思議	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	～現代	淀江町小波		三輪神社の氏子に限る風習として伝え、今でも旧家は守る(昭和59年ごろ)。①正月のしめ縄を張らぬ。②門松をたてない。③やくざをしない(便所に垂れごもをしない。)④鬼の豆を打たない。⑤トンドをしないで内で燃やす。⑥正月15日朝、竹のくだに小豆を入れて粥を炊く。⑦窯に額石をしない。
39	水神さん(佐陀三部)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	～現代	淀江町佐陀(佐陀三部地区)		自然石を彫り、御幣を立てて祀る祀っている(個人の屋敷、昭和60年頃)。かつて、生活や農作業に欠くことのできない水を守る神「水神」を祀る風習があり、井戸、洗い場、種池などに祀った。
40	白亀上陸伝説	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	伝説	～現代	淀江町佐陀(亀甲地区)、小波(小波浜地区)		壺瓶山の麓の亀甲神社辺りに、海から白い亀が現れた。長寿のめでたいものとして国司は喜び、国の名を白亀にちなんで「伯耆」と改めたという。地名の「亀甲」もこの由来による。
41	小波番所跡(番所屋敷)	未指定	記念物	史跡	交通	慶応元年	淀江町小波(小波浜地区)		慶応元年5月に、壺瓶山の北麓沿いに西原から小波浜を通る伯耆往来(宝暦の頃から)のため、日野郡・会見郡の12か所の番所と21か所の木戸締を統轄する「重要番所」が会見郡小波村に置かれた。藩が長州戦争など情勢を反映して新設し、領内の産物の流出や旅行者を取り締まった。明治2年7月に廃止された。
42	小波城跡	未指定	記念物	史跡	中世城館跡	南北朝～戦国期	淀江町小波(小波上地区)		標高16m。(遺構)土塁、堀切、一部損壊。元弘、建武の騒乱を伝える中世城郭跡。元弘3年(1333)名和長年軍に敗れた佐々木清高軍は小波城に逃れ、追撃してきた名和軍と激戦を展開したが落城したという(太平記など)。
43	佐陀館跡	未指定	記念物	史跡	中世城館跡	不詳	淀江町佐陀		標高8.2m。現状水田。(遺構)不明。一部損壊。(文献)伯耆志ほか。西に約200mの位置に佐陀川が流れる平野部に造られた城、現在遺構を確認できない。尾高城主杉原盛重の次子景盛が構築、後に毛利氏により滅亡という。天正12年ごろ佐陀神社付近に佐陀城があったと伝わる。
44	三輪神社旧社地	未指定	記念物	史跡	信仰	不詳	淀江町小波(小波上地区)		「三輪」の付く字名が残り、旧社地と伝わる。付近に宮広峰、鳥居峰、堂の峰と呼ばれた峰があり、本殿、鳥居、薬師堂があり、中峰の先端に神主邸があったといわれる。現状は開発が進み、大部分が削平されたと考えられる。
45	日御碕神社旧社地(御崎さんの原始林)	未指定	記念物	史跡	信仰	不詳	淀江町小波(小波浜地区)		壺瓶山の西端の小谷山に、コガの巨木やツバキの常緑樹が茂り、その中に巨石に囲まれた空間があり、昭和49年地元民が石の宝殿を奉納。日御碕神社は大正5年に日吉神社に合祀されたが、今でも敬われている。
46	三輪山の清水(小波上の湧水)	未指定	記念物	名勝	湧泉	不詳	淀江町小波(小波上地区)		山陰自動車道を挟んで東側の丘陵は三輪神社の元宮があり、「鳥居峰」の山裾に「宮井筒」という湧泉があった。三輪山周辺では、最近はその湧水が知られる。
47	コガの木(灘村跡)	未指定	記念物	天然記念物	植物		淀江町佐陀		胸高周囲約3m、樹高約8m。かつて辺りに灘村があったことを物語る木として、地元で大切にしている。享和年間ごろから開発され、天保年間には佐陀新田と呼ばれていた。「流れ荒神」とも呼ばれ、佐陀川洪水の水難者を供養する伝承もあり、かつては、木の下に小祠があり付近は竹藪だったという。

米子市歴史文化遺産リスト(複数区域・広域区域)

No.	名称	指定等	区分			年代	所在地	所有者	概要
			分類1	分類2	分類3				
指定文化財									
1	弓浜緋	県	無形文化財	工芸技術		～現代	米子市・境港市	弓浜緋保存会	弓ヶ浜半島周辺に伝わる特産品。綿の栽培、製糸、染色、織上げとすべての工程が指定の対象。農業や漁業などの生活状況に適した着物が作られ、天然の藍を利用した様々な文様が施され、幾何学模様、松竹梅、鶴亀など高度な技法が用いられた。明治時代以降、衰退の道をたどり、保存会により技術伝承が行われている。昭和55年に国の伝統工芸品に指定。
2	弓浜半島及び近隣地域のトンド	県	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	～現代	鳥取県・島根県	地元自治会等	弓浜半島を中心に、米子市、境港市、西伯郡の一部に広く分布。地域ごとにあるトンド講を中心として、1年交代の頭屋(トウヤ)が祭りを執り行い、歳徳神を神輿や屋台に乗せたり、頭屋が奉持して地域内を練り歩く。最後にトンドに火を入れる。古い祭りの形を残し、豊作や1年の豊作を願う、歳徳神信仰のあり方を考えるうえで大変興味深く、貴重。
3	出雲・伯耆の荒神祭	国記録選択	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	～現代	鳥取県・島根県	鳥取県・島根県	農耕の神、牛の神である荒神(三方荒神の略称)にその年の収穫に感謝する行事。主に、収穫後の11月から12月を中心に行われる。巨大な藁蛇と大量の幣束を製作して、荒神を祀った木に藁蛇を巻き付けたり、石などに藁蛇を供える。「コウジンマツリ」、「申し上げ」、「くちなわさん」、「マイタマイタ」などと呼ばれる。
4	弓浜半島のトンド	県記録選択	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	～現代	米子市・境港市・南部町及び伯耆町	米子市・境港市・南部町及び伯耆町	全国的に行われている、小正月の火祭り行事で、正月のしめ縄飾りなどを各戸から集めて焼くのが、一般的。弓浜半島を中心に、米子市、境港市、西伯郡の一部に広く分布。地域ごとにあるトンド講を中心として、1年交代のトウヤが祭りを執り行い、歳徳神を神輿や屋台に乗せたり、トウヤが奉持して地域内を練り歩く。古い祭りの形を残し、豊作や1年の豊作を願う、歳徳神信仰のあり方を考えるうえで大変興味深い。
未指定文化財									
1	舟入り	未指定	有形文化財	建造物	構造物	不詳	中海側沿岸部(住吉、彦名、崎津)		かつては道路が未整備で集落への往来は海上交通が必要なため、海岸部には、舟を集落近くまで引き入れる水路(入江)が多数あった。今でも残る。多くは付近に「龍宮(りんごん)さん」を祀っていた。戦後も肥料の藻葉(モンバ)などを満載し乗り付けたという。中海で暮らす人々の生産と交流の拠点でもあった。
2	米子彫刻シンポジウムによる彫刻群	未指定	有形文化財	美術工芸品	彫刻	昭和63年～平成18年	明道、義方、就将、車尾、福生東		米子彫刻シンポジウムで作られた彫刻を配置した、回遊ロードコース「彫刻ロード」のほか、皆生温泉周辺、東山運動公園などに40基が配置されている。シンポジウム:1988年から2006年までの間、隔年で計10回、国内外の作家4名がそれぞれ制作。

2. 米子市歴史文化遺産リスト（地区別）

3	龍宮(りんごん)さん	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	弓浜部の海岸部(住吉、彦名、崎津、和田、富益、夜見、福米西)	弓ヶ浜の海岸やもと船溜まりにある、古くから漁師が海上安全と大漁を祈って海の神である龍宮を祀る祠。かつて多数あった。後藤川尻(彦名町)、喜衛門川尻(安倍)、崎津漁港などにある。旧暦10月15日が龍宮さんの祭日で、苞に入れたミカンを供える。
4	汗入三十三番観音札所	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	淀江、宇田川	汗入郡内の33番札所の一つで、聖観音を祀る観音堂。元禄の頃には既に盛んであった。
5	新四国八十八番札所	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	不詳	米子から弓浜地区(義方、就将、尚徳、宇田川、福生東、福米東、和田、崎津)	享和元年ごろから、紺屋町因幡屋七左衛門(稲田本家2代目)が、米子から弓浜部の村々の寺院やお堂に弘法大師の石像を献納して、札所を作ったといわれる。弓浜部は、旧道の内浜往来から外浜往来にまたがる。その後も弘法大師に帰依し、施主(再願主)4代喜右衛門、再願主5代喜右衛門(改名:喜重郎)の寄進した大師像も見られる。
6	箕蚊屋平和観音	未指定	民俗文化財	有形民俗文化財	信仰	昭和31年	旧箕蚊屋8か村(巖、春日、大高、県、大和)	昭和31年に、泉龍寺(赤井手)住職が発起人で旧箕蚊屋8か村の仏教会と遺族会を中心とし、戦没者供養と第2次大戦後に平和な世になることを祈念して建立された観音石仏。泉龍寺を1番に旧箕蚊屋8か村を回り、最後33番は今吉の(現日吉津村)お堂。番外が、尾高の観音寺。
7	お大師さんの札打ち(大師講)(弓浜部)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	～現代	夜見、富益、和田	3月21日がお大師さんの日で、月遅れの4月21日又は旧暦の3月21日に行う。多くの大師講があり、講ごとにトウヤを決め、各戸から持ち寄った大師像を並べて札所とする。札所には、赤い旗が立てられ、「南無大師遍照金剛」と書いたお札や、賽銭・オコギ米を供えて拝み、お菓子の接待を受ける。
8	サイノカミ行事	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	～現代	五千石、尚徳、成実、淀江、宇田川、大和、加茂、福米西、福生西、福生東	民俗信仰行事として、伯耆では子供の神・縁結び等、心あたたまる信仰である。例祭:旧暦12月15日。前日夜、各家で子供の数だけ小さなワラ馬を作り、柱に繋いでおく。15日早朝、子供たちが米の団子をワラざつに入れて馬の背の左右に背負わせて、馬を抱いて神社に参った。境内の焚火で馬の尻尾を焼き、神前に供えたり、近くの樹木に吊るして奉納した。
9	地藏さんまつり(地藏盆)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	～現代	啓成、明道、義方、就将	8月23日夜。子どもの無事成長を祈るための祭りで、小学校高学年の子供を中心に行う。地藏の多くは、旧市内の加茂川沿いに町内ごとに橋のたもとや小路沿いあるいは寺に祀られている。地藏の付近を飾り付け、お菓子などを供える。夕方に提灯に火を入れ、子供たちがお地藏さんに手を合わせる。
10	地藏の札打ち	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	～現代	明道、義方、就将	米子地方独特の風習。七日法事を済ませ、49日までの間、7日ごとに供養の札打ちをする。「南無地藏大菩薩」の札(縦15cm、横5cm)に「為 戒名」と書いてお地藏さんに貼って歩く。む七日までは白い札を、しち七日を前に、7回目に赤い札を貼り札打ちを終える。米子の町なかや近郊の何か所もの地藏を廻る。
11	申し上げ	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	～現代	義方、五千石、成実、車尾、福米東	稲の収穫が終わった10月から12月にかけて、各地で荒神祭が行われる。28日が多く、収穫祭だといわれる。申し上げと呼ぶのは、西伯耆のみ。
12	日織りさん	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	～現代	箕蚊屋地域から弓浜東部地域(大和、大高、巖、福生東、福生西)	箕蚊屋から弓浜東部で、厄除けとして行われる行事。地区の全集落で、年の始めに村中の安全を祈願して主に婦人により行われている行事。昔は早朝より綿花から糸を紡ぎ「ハタ」を織って幟を作り、村の端に立て、疫病除け、村中安全を願った。現在は、公民館に集合し、あらかじめ用意した白い木綿布から幟旗を作成し、荒神さんやトンドさんに奉納する。
13	お日待ちさん	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	～現代	福生東、車尾、五千石、春日	正月に行われる、太陽を拝む行事がもとという。氏神さんに皆寄って、祈願をしてもらう。あるいは、トンドまでに神主が家々を回って邪気を祓うお祓いをしていく。天照皇大神宮の神札と産土神の神札を飾ったりする。
14	水無月祓い(茅の輪くぐり)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	～現代	五千石、淀江、彦名、夜見、富益、崎津、大篠津、車尾	六月の朔日に、神社で邪気を払う神事がある。あらかじめ神社から配られた神で作った人形を体で撫で、穢れを人形に託して持って神社に参る。鳥居の大きな茅の輪をくぐってお祓いを受ける。
15	オヤマズミ(大山信仰)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	～現代	弓浜部外浜(富益、和田、大篠津)、内浜(崎津)	弓浜部では、屋敷の東南(辰巳)の隅に井戸を掘っている場合が多い。井戸は、必ず「オヤマ隅」に掘らねばならないとの考え方による。辰巳の隅の別名はオヤマ隅で、オヤマとは大山のこと。
16	同族祭祀(弓浜部)	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	～現代	弓浜部(富益、崎津、和田)	「モット」など呼ぶ同族意識が高い集団で行う同族祭祀。例:葭津～各モットの本家に屋敷の東寄りの一隅に地主が祀られており、その地主を本家と分家が共同で祀る。輪番でトウヤを決めて行う。彦名「同苗(どうみょう)」や和田「カブ」は、戦後に先祖祀りを始めた。
17	餅花	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	風俗習慣	～現代	弓浜部(住吉、夜見ほか)	正月の準備として、柳の枝に餅をちぎって付けて餅花とし、年神や恵比寿さんに飾る。(住吉)餅花の風習:柳の枝に小さな白い正月餅をつけて、神棚に飾る。正月行事。綿花を模したもので、色は白一色、やや大型で、綿に感謝の気持ちを表わす。綿花栽培が盛んだったことを物語る。
18	米子歌舞伎久米座	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	民俗芸能	昭和23年	広域(不特定)	昭和23年朝日座で上演した者が中心に座を結成した。米子市を中心に、鳥取市、境港市、安来市などで上演。本格的な舞台を指向しつつ、手作りの温かみのある舞台である。
19	イタダキ	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	伝統食	～現代	弓浜部ほか	弓浜部で広く珍重される郷土料理。ノノコ飯ともいい、ノノコは綿入れの当地方の方言。油揚げの中に、米のほかゴボウや人参を詰めて炊いたもの。元来は大山寺の精進料理に由来する。当地方では、普段の御馳走や運動会の時には必ず作ったという。
20	サツマイモの調理法	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	伝統食	～現代	弓浜部ほか	弓浜部は、ほとんど畑作で、サツマイモや麦が作られ、サツマイモは年中様々に加工して食べた。ねぼし(サツマイモの生切干し)、ねぼし団子(粉にした「ねぼし粉」を団子にした)、いもぼた、かしんなどの名がつく。
21	高麗山(から山)の伝承	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	伝説	～現代	淀江、宇田川、大和	大山との高さ比べやムカデ岩、孝靈天皇伝説などを伝える。

2. 米子市歴史文化遺産リスト（地区別）

22	壺瓶山の伝承	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	伝説	～現代	淀江、宇田川、大和	昔、倉吉の伯耆守護山名伊豆守の娘が亀の子を産んだ。姫は恥じて池に入水したが、亀は壺に入れ、箱に入れて海に流した。その箱が当地の浜に流れ着き、村人が壺に入った亀を見つけて埋めた。埋めた場所のある山。
23	長者道	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	伝説	～現代	五千石、春日、巖	福市地区から、春日地区、巖地区を通って蚊屋島神社（現：日吉津村）に参った道と伝わる。かつて進の長者（紀成盛か？）も長者原（伯耆町）から日参したという、古い時代の主要道路。高島から下新印を結び、熊兜の南北を通る道。浦木村絵図面（正徳3年）に「長者大神宮参拝道」とある。
24	黄金の雄鶏伝説（円福寺関連）	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	伝説	～現代	春日、県	日下村のタカチブラ山にあった円福寺に関わる昔話。寺の開けてはならない石の唐櫃を小僧たちが開け、雄鶏が飛び出し、日下村を経由して岸本長者原へ飛んで行方不明となった話（日下）。金の鶏は、上新印の小堀陣内の屋敷跡（今の円福寺の地）に降りた。和尚は、寺を移転し、鶏を大石に入れたという（上新印）。
25	三笠（さんかさ又はさんか）狐	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	伝説	～現代	大高、県	昔話に出てくる狐。戸上の藤内狐、上万の橋姫狐とともに地方の三狐として有名で、昔、森（通称：森田圃）にいたという。狐塚と呼ぶ円墳があり三笠狐を葬ったといわれていたが、整地されて今はない。日下の堂平山にいたともいう。
26	タコと皆生海岸（民話）	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	民話	～現代	福生西・福生東	皆生海岸に遊びに来たサルが、タコと一緒に遊んでいた。タコにうっかり握り飯を取られたサルが、屋敷の真似をして油断させて、タコの足を2本食いちぎった。それから、タコの足は8本になったという話。
27	方言（浜弁ほか）	未指定	民俗文化財	無形民俗文化財	方言	～現代	弓浜部ほか	弓浜部の方言の浜弁ほか
28	綿井戸	未指定	記念物	史跡	その他経済生産活動に関する施設	不詳	弓浜部（河崎、夜見、富益）	畑1枚又は2枚ごとに直径2～4mの綿井戸（ため池）を作り、朝夕、水汲み桶を担いで灌水しなければならなかった。当時の畑の一边は、一往復するとちょうど水汲み桶の水がなくなるように区分されていた。今でも名残がある。
29	法勝寺電車遺構（軌道敷跡、プラットフォーム跡、コンクリート擁壁、法勝寺川橋梁の橋台）	未指定	記念物	史跡	交通施設	大正13年	明道、成実、尚徳	山陰で初めて運行された電車の遺構。大正13年7月米子町駅一大袋間、同8月大袋一法勝寺間運行開始、全長12.4km。昭和42年5月廃止。長い期間、沿線住民の足として、乗客をはじめ、手荷物、貨車、郵便に至るまで利用された。
30	古い因幡道	未指定	記念物	史跡	交通	不詳	啓成、車尾	江戸期に因幡往来が完成する前の道ではないかといわれる。民家裏、住之江公園、市立車尾小学校校地内、梅翁寺裏などを通る。因幡街道（出雲街道と重なる）と並行するように続く幅1mほどの側道。
31	出雲街道（出雲往来）	未指定	記念物	史跡	交通	不詳	就将、明道、啓成、車尾、五千石、巖、春日、	出雲から陰田町を通り米子城下へ。その後、米子城下から勝田町を経由し、車尾や八幡で日野川を渡り、溝口に向かう。江戸時代に整備された上方、因幡地方への道。松江・広瀬の藩主の参勤交代路、出雲大社などへの信仰の道でもあった。
32	新出雲街道	未指定	記念物	史跡	交通	文久2年	明道、成実、尚徳	松江、広瀬の藩主の参勤交代路で米子から天万（現：南部町）を経て二部宿（現：伯耆町）へ向かう道。文久2年7月以降経路を一部変更した。米子城下の道笑町から右折して長砂町へ向かい、宗像・日原を経て青木で法勝寺川を渡り、天万から池野を通って二部へ向かった。
33	法勝寺往来	未指定	記念物	史跡	交通	不詳	就将、明道、成実	米子から法勝寺（南部町）へ向かう道。法勝寺を経由する道は、その先日野郡内の各方面に分かれた。奥日野の印賀地域から米子・安来へ通ずる最短距離の道で、鉄の集荷など物資輸送の道として重要だった。江戸期当初：道笑町の小路から目久美神社辺りを經由して奥谷に、後期：米子から長砂、宗像、日原、奥谷と進み、以後、石井・奈喜良などを經由し法勝寺に向かう。
34	因幡街道（因幡往来）又は鳥取往来	未指定	記念物	史跡	交通	不詳	淀江、大和、巖、車尾	因幡の鳥取と伯耆の米子を結ぶ往来。因幡方面から、小波で日野往来を分岐し、佐陀、日吉津（日吉津村）を経て吉岡で日野川を渡って車尾地内に入り、出雲街道と重なる。
35	外浜往来（境往来）—車尾経由	未指定	記念物	史跡	交通	不詳	車尾、福米東	弓浜部を縦断して、米子と境を結ぶ道で、江戸時代には境へ向かう主要道。弓浜部の村々が成立するたびに延長され連続していった道。車尾—中島—前地—四軒屋—米原—三柳—大篠津の順路だった。旧道は、耕地整理事業が進み、米子北高等学校の手前で途切れている（平成5年度）。
36	外浜往来（境往来）—京橋からの道	未指定	記念物	史跡	交通	不詳	義方、住吉、河崎、加茂、夜見、富益、和田、大篠津	弓浜部を縦断して米子と境を結ぶ道（境往来）のうち、最も一般的な道筋。京橋から通称「出口」と呼ばれる糺神社を通り、夜見を経由して、外浜沿いに境に通じる道。
37	内浜往来（境往来）	未指定	記念物	史跡	交通	不詳	義方、住吉、彦名、崎津	弓浜部の村々が成立するたびに延長され連続していった道。京橋から灘町筋を進み荒神社（現：旗ヶ崎神社）の横を抜けて、内浜（中海）沿いに粟嶋—大崎—霞津—渡—外江を通して境に通じる道。中海海域は古くから海運が盛んで往来の整備が遅れ、幕末に至るまで幅1.8m弱の曲折の著しい里道が通るのみだった。
38	川筋道（境往来）	未指定	記念物	史跡	交通	不詳	車尾、啓成、義方、住吉、福米東、加茂、河崎、夜見、富益、和田、崎津、大篠津	車尾から米川土手を通って境に向かう米川沿いの道。弓浜部に和田、富益などの新しい集落ができ、それまでの外浜往来に変わって新しい道ができた。浜橋辺りから車尾を経由して淀江へ向かうための道としても広く利用された。
39	因幡道（境往来）	未指定	記念物	史跡	交通	不詳	夜見、河崎、加茂、福米西、福生東、車尾	夜見から両三柳、西福原、東福原、上福原、車尾を通り、日野川を渡る。弓浜部から因幡（淀江経由）に向かう道。地元の人は、「因幡道」と呼び、夜見の茶店の角に道標があった。ここから境港に通じる道が一般的な境往来である「外浜往来」。
40	灘道（境往来）	未指定	記念物	史跡	交通	不詳	和田、大篠津	和田町から境へ向かう外浜往来の東（美保湾側）に、外浜往来と並行して走る往来。和田新川を渡って、海岸より外浜往来と別れて北進し、和田と境をほぼ直線で結ぶ。江戸末期には、外浜往来よりも往來の主流になったともいう。

2. 米子市歴史文化遺産リスト（地区別）

41	日野往来	未指定	記念物	史跡	交通	不詳	大和・大高・ 県		伯耆と備中・備後を結ぶ最短コースにあたる。日野川東岸を遡り、日野郡内を南西に縦断し、多里を経て備後に通じていた。江戸期には、因幡街道（因幡往来）から小波で分かれて、泉―尾高一河岡を通過して遠藤（現伯耆町）に向かうルートがあった。
42	大山道（尾高道）	未指定	記念物	史跡	交通	不詳	巖、大高		出雲・米子方面から尾高を経由する、大山道の一つ。当地域の中世の要衝であった尾高城と大山寺を結んだ古くからの参詣道。江戸時代には旧会見郡や米子城下町の商人などが多く行き交う主要参詣道だった。米子から尾高へは、車尾で日野川を渡り一吉岡―熊党―蚊屋（両足院）を東進し、佐陀川を渡る。日本遺産「地蔵信仰が育んだ日本最大の牛馬市」の構成文化財。
43	大山道（坊領道） 淀江ルート	未指定	記念物	史跡	交通	不詳	淀江、宇田川		旧汗入郡北部の日本海沿岸から坊領を経由する、大山寺への参詣道「大山道」の一つ。淀江から福岡（北尾地区）を通り、長田（大山町）を経て坊領に至る。鳥取藩領の淀江港、淀江宿などの地域と、大山寺・大山北麓の大山寺領の村々を結んだ。日本遺産「地蔵信仰が育んだ日本最大の牛馬市」の構成文化財。
44	米子城下町カギ型路	未指定	記念物	史跡	歴史の道	不詳	就将、義方		城下町において、意図的に街路を小さくカギ型に曲げて繋げている。敵が攻めてきた際、遠くから堀の内側を見られないようにした工夫。城下町の名残を留める貴重な道。
45	称名寺縄手道	未指定	記念物	史跡	歴史の道	不詳	啓成、義方		博労町1丁目の光西寺横付近から角盤町2丁目の公会堂横を抜けて、朝日町通り、新小路を抜け、灘町まで伸びる道。光西寺横に浄土宗称名寺（廃寺）があったことに因む。道筋は途切れているが、光西寺付近と朝日町、灘町に掛けて、当時の道筋をなぞることができる。
46	米子の古道（津出し道）	未指定	記念物	史跡	交通	不詳	福米東、福米西、加茂、義方		江戸時代に東福原村や西福原村、三柳村から米子へ年貢米を運んだ道。米子領地面全図に記載された道：「東福原村津出し道＝堂畷」、「四軒屋道」、「西福原村道」、「米原村津出し道＝治左衛門道」、「伝四郎道」、「吉左衛門道」、「三柳村津出し道＝市庵道」など。
47	横穴陣地跡（子号演習）	未指定	記念物	史跡	戦跡	昭和20年	宇田川、県		昭和20年、「子号演習」により掘られた無数の横穴。美保湾からの米軍上陸作戦に備えて、島根半島や淀江一帯の丘陵地から伯耆町の越敷山にかけて沿岸陣地が掘られた。
48	高射砲陣地跡	未指定	記念物	史跡	戦跡	昭和20年	大篠津、富益		米軍機襲来に対し高射砲で防戦した陣地があった。高角砲4門、口径15cm。日本で最新式の砲だといわれた。富益では、昭和20年7月、地内の砂山に陣地ができた。指揮所は、円形のコンクリートづくり。弾薬庫は、山裾入口にあった。
49	弓ヶ浜の白砂青松と砂丘植生	未指定	記念物	名勝	緑樹		弓浜部外浜沿（福生東、福生西、福米西、加茂、夜見、富益、和田、大篠津）		日本海、島根半島の眺望も素晴らしく白砂青松の海岸が続いている。海岸の植物～コウボウムギ、ハマヒルガオ、ハマボウフウなど。植栽されたクロマツの海岸林は、防風、防砂の役割とともに、弓ヶ浜の景観を特徴づけている。昭和62年に「日本の白砂青松百選」に選ばれた。
50	中海	未指定	記念物	名勝	湖沼		中海沿岸部（就将、住吉、彦名、崎津）		中海は、「錦海」と称される美しい景観が随所に広がる。江戸期文化・文政ごろの米子の文人「福島林仙」が「米子八景」の詩を作り、これをもとに大正初めごろに「錦海八景」が選定された。
51	日野川	未指定	記念物	名勝	河川		五千石、春日、車尾、巖、福生東		県西部の根幹である。水はもとより、大山と共に母なる存在でもあり、大江賢次や生田春月なども作品に記している。
52	壺瓶山（坪上山）	未指定	記念物	名勝	その他複合		淀江、大和		標高113mの丘陵状の小山。汗入郡と会見郡の分水嶺であり、海岸の山裾は交通の要所であった。ここを境に風土気風も違いを見せ、眺望の山である。農民一揆の集結地として知られている山。山頂一帯は、茶・柿などの広大な畑地。
53	孝霊山（高麗山）	未指定	記念物	名勝	その他複合		淀江、宇田川、大和		山容は見る位置で変化し、里山として懐深く様々な関わりを示す母性の山。大山との高さ比べ、孝霊天皇、韓国との関わりも伝える。孝霊山一帯の山見を西方から望む美しい姿は「観音様の寝姿」に見える。
54	母塚山―新山要害山尾根の植生	未指定	記念物	天然記念物	植物		就将、成実		優れた植生。市域で最も標高の高いところ。延々とアカマツ・コナラ林が続く。林内にはホオノキ・リョウブなどが混生し、低木のダイセンミツバツツジの群落は注目される。春から夏にかけて花の回廊が出現する。
55	行者山稜線のヤマモモ林	未指定	記念物	天然記念物	植物		就将、成実		優れた植生。広範囲にアカマツ林が分布、一部山麓の突出した稜線には、巨木を混じえたヤマモモの群生があり、見事なトンネル状の純林。アオダモハヤシは広い範囲で群落が散在し、愛宕、祇園町まで広がっている。
56	南部地区水路の水生物	未指定	記念物	天然記念物	植物		成実、尚徳		優れた植生。特記植物：ナガエミクリ・ミズアオイ
57	白ネギ（弓浜部の商品作物）	未指定	記念物	天然記念物	植物		弓浜部ほか		弓浜部を代表する主力作物で、主に関西地方へ多く集荷される。昭和初期、県西部で品種改良を行い、太くて分けつしない品種の育成に成功した。昭和42年に、弓ヶ浜の白ネギ（秋冬）は国の産地指定を受けた後、生産が飛躍的に増加し、弓ヶ浜は静岡、愛知に次いで日本三大産地に数えられるまでになった。
58	オオサンショウウオ	未指定	記念物	天然記念物	動物		日野川水系、法勝寺川水系		日野川などの、主に本流の中・上流部に生息するほか、それらに続く用水路や小川にも生息する。近年、河川改修工事や圃場整備事業などで生息地が壊され減少している。
59	加茂川沿いの土蔵群	未指定	伝統的建造物群			江戸～近代	義方、明道		加茂川、外堀（現在は埋め立てて道路）の水路沿いに建てられた土蔵群。江戸期、明治期に米子が商人の町として発展したことを物語る。加茂川は商家の品物を運搬する水路であり、川に面した商家の裏口に土蔵が立ち並んでいた。今でも当時の風景をうかがい知ることができる。
60	加茂川に架かる橋の連なる風景	未指定	文化的景観			江戸期～	明道		米子市民の生活に切っても切れない存在。加茂川左岸（糺町～西倉吉町）では、小さな「橋」が商店街に連なる各店の裏口の役を果たし、多くの橋が架けられて全国的に見ても珍しい独特の風景である。

2. 米子市歴史文化遺産リスト（地区別）

61	米川	未指定	文化的景観	江戸期	車尾、啓成、 義方、住吉、 福米東、加 茂、河崎、夜 見、富益、和 田、崎津、大 篠津	米子市観音寺字戸上の法勝寺川と日野川から取水し、境港市弥生町まで約20kmの弓ヶ浜を縦貫する農業用水路。弓浜の開拓のため江戸時代に開削された。
----	----	-----	-------	-----	---	---